

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

A Study of the Special Exhibition of Latin American Music and Musical Instruments in the National Museum of Ethnology

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 紀夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00008959

国立民族学博物館 調査報告

145

展覧会の研究

「ラテンアメリカの音楽と楽器」展
アンケート調査を中心として

山本紀夫 著

国立民族学博物館

2018

目 次

まえがき	1
1. はじめに	3
2. 問題の所在とその解決策	5
(1) 入館者数の減少とその原因	5
(2) 「ガラクタ」の展覧会へ	15
(3) 実験的な展示とアンケート調査	18
3. 楽器展への道	24
(1) 展示の趣旨	24
(2) 展示の構想	24
(3) 「楽器展」の概要	25
(4) さまざまな広報活動	34
4. アンケート調査の方法と結果	36
5. アンケート調査を終えて	89
6. 今後に向けて	92
(1) 展示と研究の関係	92
(2) 報告書の刊行を	95
(3) 「モノばなれ」のすすむ民族学	97
(4) 共催のすすめ	101
付録	
資料1 楽器展組織一覧	107
資料2 展示品リスト	108
資料3 アンケートに寄せられた声	120

まえがき

博物館において、民族資料の展示はどうあるべきなのだろうか？こんな疑問をもったのは、1989年に国立民族学博物館で実施された第一回特別展「大アンデス文明展」の最中であつた。私はこの展覧会の実行委員のひとりであつたが、入館者の動向が大変気になった。展示の中心になっていたのは、ペルー各地から借用した考古資料であり、これには人だかりがするほど人気があつた。一方、民博で収蔵されていた民族資料を展示したコーナーは人影が少なく、閑散としていた。しかも、これらの民族資料の展示を主として担当していたのは、ほかならぬ私だったのである。

それだけに私は責任を感じた。展示資料に問題があつたのか、それとも展示方法が悪かつたのか、と考えた。たしかに、当時の私には展示経験がほとんどなく、展示方法は常設展示を真似たものであつた。また、展示のかかなりの部分も展示業者まかせであつた。つまり、これまでの展示方法に対する反省もなく、工夫も足りなかつたのである。

では、博物館において、とくに展覧会において展示はどうあるべきなのか。この問いに答えるために、1995年に私は民博において実験的な展覧会を実施した。それが、「ラテンアメリカの音楽と楽器」展であつた。それから20年あまりの年月を経ているにもかかわらず、なぜ、今さら、はるか過去の展覧会をとりあげようとするのか。その最大の理由は、民博の入館者数の低迷状態に歯止めがかからないからである。実際、民博の展示場がオープンした当時の年間の入場者数は約60万人であつたが、それが今では20万人前後と3分の1にまで減少しているのである。

では、このような変化はなぜ生まれたのであろうか。入館者数の低迷状態を食い止める方法はないのであろうか。それを知る上で、有効な方法が入館者の意見や感想に率直に耳を傾けることではないのだろうか。本稿は、このような視点にたち、企画展「ラテンアメリカの音楽と楽器」におけるアンケート調査の結果を報告するとともに、分析するものである。さらに、この展覧会とともに、民博の常設展示場にも目をむけ、入館者数の低迷の原因などについても考察する。これは民博としても初めての試みであり、民博の展示はもとより、一般の博物館にとっても民族資料を展示するうえで貴重な資料になるであろう。入館者数の低迷は、民博だけに限ったことなく、全国各地の博物館が悩んでいる問題だからである。

1. はじめに

本稿は、1995年、国立民族学博物館（以下では民博と略す）において実施された企画展「ラテンアメリカの音楽と楽器」（以下では楽器展と略す）のアンケート調査の結果を報告するとともに分析したものである。1995年といえば、今から20年あまりも前のことであり、まずもって、なぜ、今さら、はるか過去の展覧会をとりあげるのか、それについて述べておくべきであろう。

その最大の理由は、民博の入館者数の減少に歯止めがかからないからである。実際、民博の展示場がオープンした当時の年間の入館者数は約60万人であったが、それが今では20万人前後と3分の1ほどまで減少している。この入館者数の減少に対して、大きな期待がかけられたのが特別展示であった。常設展示だけでは、入館者の増加が期待できなかったからである。

そして、これはたしかに大きな効果があった。第1回の特別展「大アンデス文明」展は12万人に近い入館者を迎え、減少しつづけていた民博の入場者数に歯止めをかけた。その後も、しばらくは特別展のおかげで、入館者数の減少はおさえられていた。しかし、近年、この特別展の入館者も減少し、2万～4万人前後と低迷している。かつて入館者の増加に大きな期待がかけられていた特別展であるが、今ではその効果は小さいと言わざるを得ない。

では、このような変化はなぜ生まれたのだろうか。入館者の減少をくいとめる方法はないのだろうか。その方法を知るうえで、有効な方法が入館者の意見や感想に耳を傾けることではないだろうか。そのため、これまで何度か特別展でアンケート調査がおこなわれているようだが、公になったものはほとんどない。私を知るかぎり、アンケート調査の結果が公開されたのは、第1回の企画展「赤道アフリカの仮面」（1990年）だけである。

この「アンケート調査報告」は入館者の生の声が多数記載されており、展覧会を実施しようとする者にとって貴重な指針となるものであった。しかし、この「アンケート調査報告」は1991年に民博情報管理施設によって刊行された内部資料的なものであり、民博の大半のスタッフにとって、その存在さえ知られていないかもしれない。また、1回だけのアンケート調査では入館者の意見や感想を知るには十分ではない。展覧会の内容によって、入館者の意見や感想も大きく異なると判断されるからである。

これが、20年あまりも前の展覧会のアンケート調査を掘りおこし、いまあらためて分析、検討しようとする最大の理由である。それというのも、この楽器展はさまざまな新しい試みをし、それに対して入館者から賛否両論の多数の意見がよせられたからである。また、楽器展は異常な状態のなかで準備が進められ、それが展覧会にも大きな影響を及ぼしたことも言及しておかなければならない。

それは、1995年 1月17日に神戸を中心として起こった阪神・淡路大震災である。この大震災は、民博だけでなく、展覧会を準備中の楽器展にも大きな影響を及ぼした。この大震災は20年以上も前のことなので、当時の状況をよく知らない方もおられるかもしれない。そこで、大震災後の阪神地域における博物館等の被災状況を伝える新聞記事の見出しを記しておこう。いずれも、大震災の4日後の1995年 1月21日付けの新聞である(宇野 1995: 103)。

兵庫県南部地震 文化・芸術にもツメ跡 危機管理の必要性浮き彫り
神戸・大阪の美術館・博物館 会の中止や一時休館など相次ぐ

ここに記されているように、民博も設備の破損などのために45日間の臨時休館を余儀なくされた。さいわい、3月中旬から開催にむけて会場での準備に入っていた展示資料はほとんど被害がなかったが、このような状況のなかで楽器展も中止せざるを得ないかどうか打診された時期があった。これが展覧会の準備に大幅な遅れを生じさせ、それは展示の準備や図録の作成にも大きな影響を及ぼしたのである。

楽器展は予定どおり、1995年 3月15日に開催することが決まったものの、展示作業の遅れを取り戻すために、開催期日が迫ると実行委員はほとんど毎日のように不眠不休の作業を強いられた。後述するように、楽器展の会場には約1,000点の楽器や衣装などが展示されたが、1,000本以上のドラム缶を積みあげて演出した展示構成は、地震後のこともあり、何度も補強安全対策が練られたのである。

それでも一部の作業は開催までに終わらず、最終的に展示が完成したのは開催後の約2週間あとの3月末のことであった。また、展覧会開幕後も、大震災や、その後に起こった地下鉄サリン事件等の影響による入館者の少なさに対応を迫られた。これらは民博始まって以来の出来事であり、それへの対応の方法も貴重な記録になるはずである。これも本報告を刊行しようとする、もうひとつの理由である。

それでも、やはり「なぜ、20年も前の展覧会をとりあげようとするのか」と違和感をもたれる方がおられるかもしれない。なかには、「なぜ、もっと早く報告しなかったのか」という疑問をもたれる方もおられるかもしれない。たしかに、当時館長であった梅棹忠夫も、「展示をチームによる共同研究の成果であると位置づけ、展示が完成するまでのプロセスを論文に残しておく必要性」を主張した(梅棹 1978: 53)。また、梅棹は民博の『研究報告』1巻1号に、同誌がとりあつかうべき事項のひとつに「展示技術の研究」、すなわち効果的な展示設計技術にもとづく表現について研究することをあげている。

しかし、民博の『研究報告』が刊行されてから40年の間、同誌に展示や展覧会に関する論文が発表されたことはほとんどない。それは、なぜなのか。おそらく、これは個人の問題ではなく、民博に構造的な問題があることを物語っているのだろう。そこで、こ

の点については終章であらためて述べることにしよう。

ただ、開館前から長く民博を見てきたからこそ、わかることもある。実際に、私は第1回の特別展および企画展からほとんどの展覧会を見てきたので、近年になって民博に着任してきたスタッフが気づかない問題点にも気づくようになっていく。そこで、本稿では民博の開館当時のこともふりかえりながら、楽器展に焦点をあてて、「民族資料の展示はどうあるべきか」、「展覧会はどうあるべきか」、また民博の入館者数の低迷問題などについても論じてゆきたい。

2. 問題の所在とその解決策

(1) 入館者数の減少とその原因

楽器展について述べる前に、民博および民博の特別展の入館者数の推移についてみておこう。楽器展の実施を決意させた最大の要因が、民博及び民博の特別展への入館者数の減少だったからである。

まず、図1を参照していただきたい。これは、民博の開館から2015年までの過去35年間の民博の入館者の推移を示したものである。この図を全体として見れば、開館翌年の1978年度の約58万人をピークとして、後はずっと減少傾向にあることがわかる。この数年間はやや持ちなおし、20万人前後で入館者は上下しているが、それでさえピーク時の3分の1ほどと少ないのである。

今（2017年4月）では開館当時のことを知るスタッフはひとりもいないので、すこし当時のことをふりかえってみよう。つぎの文章は、開館2年目をむかえた1978年1月に、当時の館長であった梅棹忠夫が読売新聞に寄稿した記事である。

大阪千里の万博記念公園のなかに建設中であった国立民族学博物館は、その第1期工事が完成して、昨年の11月17日から公開された。民族「学」の博物館というので、一般市民からは敬遠されはしまいかと心配していたが、開館してみると、予想をはるかにうわまわる人気で、日曜祝日には、入館者1万人をこえる日が何日あった。交通の便のわるいところにもかかわらず、平日でも、1,000、2,000の観覧客をむかえている。国民が、いかにこの種の文化施設の開設をまちのぞんでいたかが、この数字によってもわかる。ことしの3月、4月、あたたかくなるころには、どれほどの入館者をむかえることになろうかと、いささか心配でさえある。（梅棹 1990: 351）

やや長い引用をしたのは、ほかでもない、これが当時の民博の雰囲気伝える貴重な資料だと判断したからである。この文章からは、梅棹の驚きとともに、行間からは喜びも伝わってくるものとなっている。

開館3年目の1980年にも梅棹は次のように述べている。

3年間をふりかえてみておどろくのは、入館者の数です。この交通不便にもかかわらず、すでに150万人をこえています。開館したころは、「そのうち閑古鳥がなくなろう」などというひともありましたが、じっさいにはこの3年間でほとんど変動がありません。また、小・中学生ばかりだろうと予想するひともありましたが、これもじっさいは過半数はおとなのひとです。この博物館がひろく市民一般に確実にうけとめられた証拠と、わたしどもはよろこんでおります。(梅棹 1990: 427)

しかし、この喜びは長くはつづかなかったようだ。図1に示されているように、民博の入館者数は開館3年目から急激に減少していったからである。このころ、民博における入館者の減少を心配する声が、館の内外からあがるようになっていた。次の声は、そのうちのひとつである。

民族学博物館に関心をもつジャーナリストの一人として、少し気がかりなことがある。年々訪れる人が減っていることだ。開館2年目の観客が、1年目と比べて減少するのはやむを得ないとしても、3年目でさらに少なくなったのは寂しい。今年1、2月の入館者から考えると、4年目はもっと悪くなるのではと心配だ。(高橋 1981: 1)

この予想は間違っていなかった。そして、開館10年目くらいで、入館者数はピーク時の2分の1の30万人まで減少し、民博のスタッフにも大きな危機感が生まれるようになったのである。

この危機感を、もっとも強く感じていたのは、民博の創設に多大な貢献をし、当時館長をつとめていた梅棹忠夫本人であったかもしれない。梅棹は、民博創設10年目の1984年に、次のように述べているのである。

いま創設以来10年、これで、創業の時代はおわったのかもしれない。同時になにもかもルーティン・ワークになってきて、すこし創業の精神をわすれているんじゃないか。ちょっとだれているという感じがなければなりません。もういっぺん創業時代のこと、なにをめざしどういう戦略でやってきたのか、みなさんおもしろくしてください。(梅棹 1990: 588)

いまふりかえてみると、たしかに当時の民博にはそのような雰囲気があった。民博創設からしばらくは、梅棹館長の「ご先祖さまになろう」という檄が功を奏し、館員全員が新しい博物館づくりに全力を投入していた。しかし、1977年に民博の展示場が完成、1979年には第4展示場(中国、北アジア、東アジア)も完成したことにより、「これで民博の展示は一段落した」という安堵感が教員全員に漂うようになっていたのである。

こうして展示場は着々と拡大していったが、それに反比例するかのように、入館者数は減少していった。とくに、1984年から87年にかけての3年間の入館者数の減少は十数万人に達した。それまでの40万人以上の入館者数が、ついに30万人を切ったのである。この時のショックを、私はいまもお思い返すことがある。

じつは、私は、この1984年から87年にかけての3年間、ペルーへの海外出張のために民博を留守にしていた。そして、この出張から帰国後に展示場に足を運んで、あまりの入館者数の激減ぶりに大きなショックをうけた。その頃、ある人を展示場に案内したとき、「今日の民博は休館中ですか」と聞かれたことも、私のショックに拍車をかけた。たしかに、そのときの民博の展示場は人影がすくなく、休館中と思われても仕方がなかったが、開館中だったのである。

こんなことがあってから、私は民博の展示場を見て歩くことを日課とし、入館者の反応を知るように心がけた。さらに、招待券を友人や知人に積極的に送り、民博の展示についての意見を聞くように努めた。それで明らかになったことは、民博が「くらい、かたい、冷たい」というイメージをもたれていることであつた。なかには、館員の対応が悪かったのか、「民博には2度と行きたくない」と抗議した入館者もいた。

民博が開館した当初は、露出展示やビデオテークなどの導入により、民博はこれまでにない新しい博物館として歓迎されたが、それがいつのまにか、「くらい、かたい」博物館というイメージがもたれるようになっていたのであつた。このような状況のなかで、大きな期待がかけられたものこそが、特別展であつた。いつ来ても同じものが展示されている常設展だけの民博では、入館者の減少は当然のことと考えられたからである。

実際に、第1回の特別展「大アンデス文明」(1989年)は、先述したように12万人近い入館者を迎え、民博の入館者の減少に歯止めをかけた。具体的にいえば、前年の約27万人の入館者数が36万人近くに達したのである。この第1回特別展は、私も実行委員のひとりであつたので、この入館者の増加によって民博自体も活気を取りもどしたことをよく記憶している。さらに、第3回特別展「大インド」も11万人近くの入館者を迎え、民博の入館者数は30万人前後で推移するようになったのである。

ここで、あらためて図1を参照されたい。もしアンデス展とインド展のふたつの特別展を実施していなければ、民博の入館者数は開館後の10年にして30万人を切っていたにちがいないのである。さらに民博における入館者数の増加を後押しするような出来事が1990年に万博公園にあった。大阪モノレールが延伸され、万博記念公園駅が開業したのである。これまで民博は地の利の悪さが指摘されていたが、それがようやく緩和されたことになったのである。このモノレールは1998年に彩都線が開通し、民博へのアクセスはさらに容易になった。にもかかわらず、この翌年の1999年度には入館者数は20万人を切り、約16万6千人となった。この低迷状態はその後10年間変わらず、入館者数はピーク時の4分の1の15万人前後と低迷したのである。

だからといって、このあいだ特別展がおこなわれていなかったわけではない。表1に示したように、特別展は毎年趣向をかえておこなわれていた。では、なぜ、特別展が毎年おこなわれているにもかかわらず、入館者が増えないのだろうか。この原因を一言でいえば、常設展だけでなく、特別展も入館者が減少したからであろう。実際に近年の特

別展の入館者数は2～4万人のあいだを推移している。これを1日あたりの入館者数（図2）でみると、第1回の「大アンデス文明展」では約1,500人であったものが、近年では200～400人ほどと少ないのである。開館当時の展示場の盛況を知る者にとって、また第1回の特別展の実行委員であった者としても、閑散としている現在の展示場は淋しいかぎりといわざるをえない。

もちろん、このような状況を民博の館員も手をこまねいて見ていたわけではない。展示場の拡張だけでなく、研究公演や映画会、さらに毎月のゼミナール、そのほか、さまざまな機会をとおして市民サービスにつとめてきた。その後、1989年からは、春に企画展、秋には特別展を実施するようになった。また、1996年には常設展示場に、資料を自由に手にもつことができる「ものの広場」を設置したり、2000年には「移動博物館」も開始した。

これらのなかで、入館者数の増加に大きな効果があったのは、常設展示場の拡充やリニューアル、そして特別展と企画展の開催であっただろう。とくに、特別展と企画展の展覧会は、初めての入館者はもちろんのこと、いわゆるリピーターとよばれる再入館者の数も増やしてきたと考えられるからである。

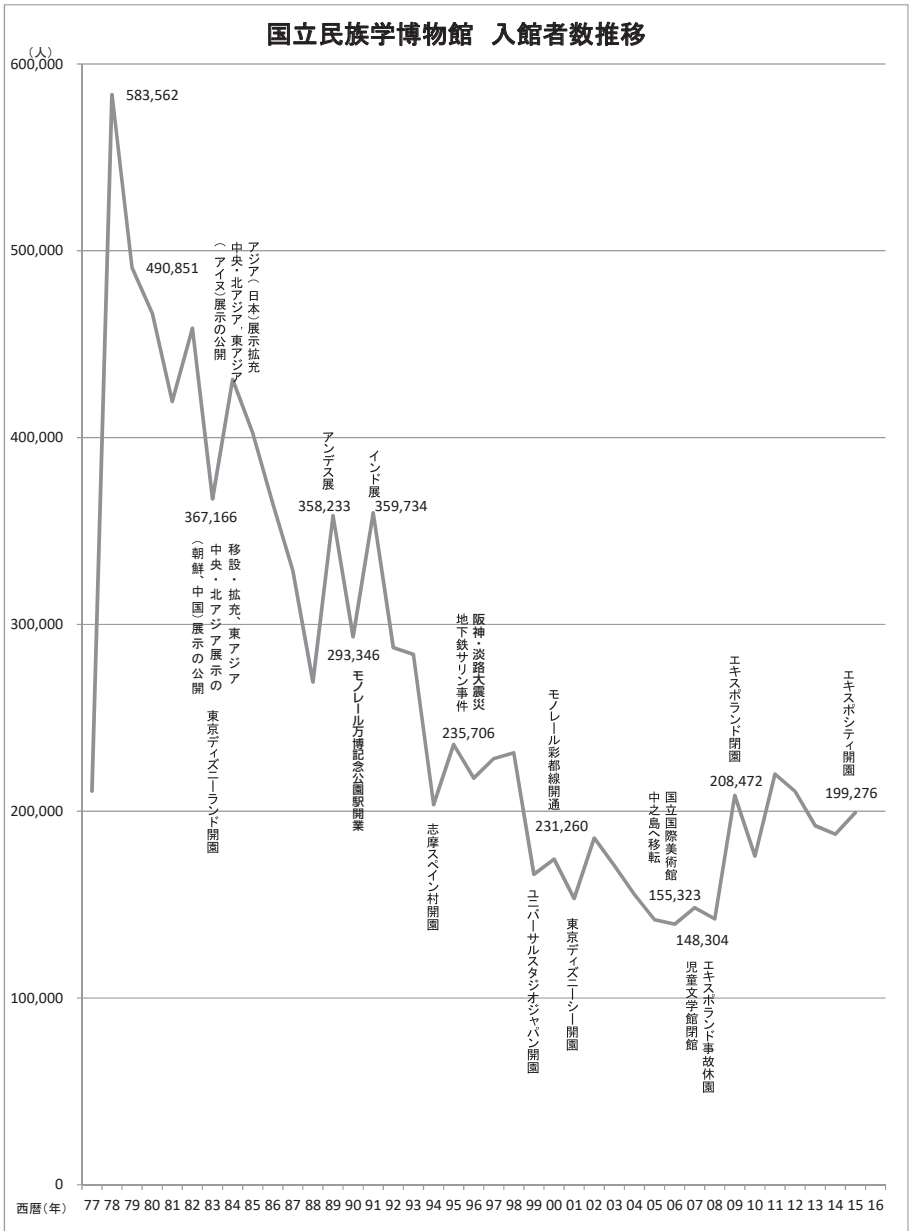


図1 国立民族学博物館における入館者の推移（民博管理部総務課広報係の資料による）

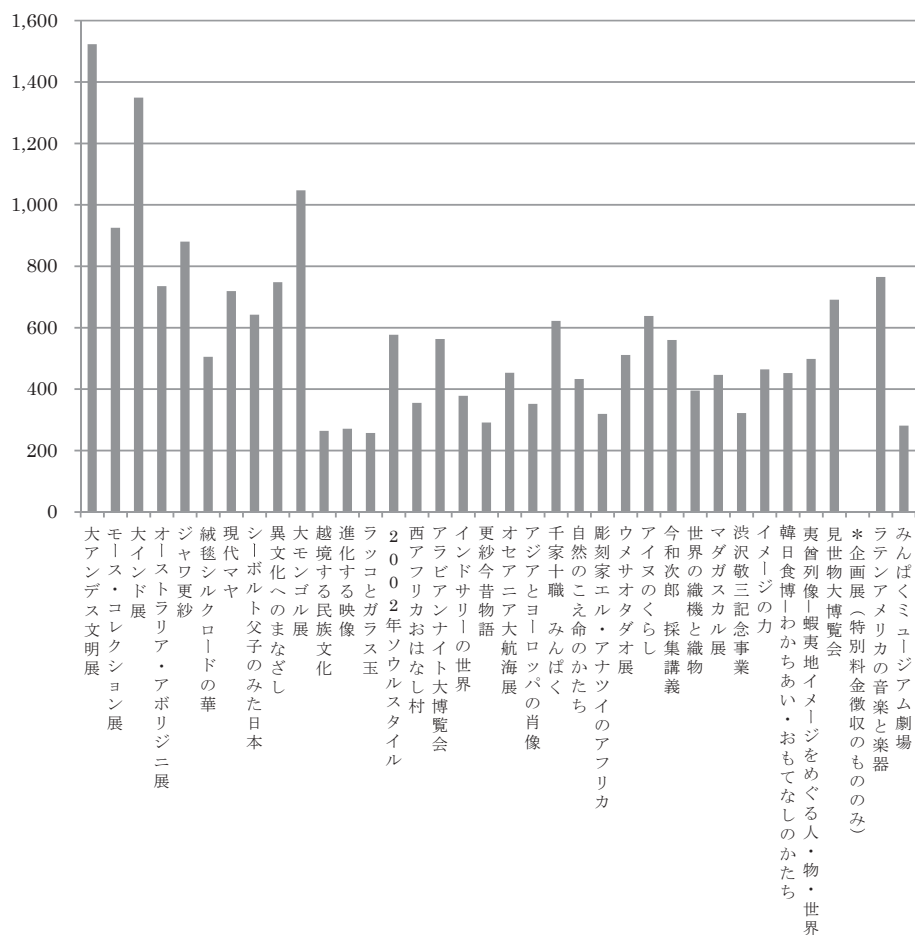


図2 特別展および企画展の入館者数（民博管理部総務課広報係の資料による）

表1 特別展入館者数状況（企画展は特別料金徴収分のみ）

年度	1989年度	1990年度	1991年度	1992年度	1993年度
期間	9/14～12/12	9/13～12/4	8/1～11/5	9/10～12/8	9/9～11/30
名称	大アンデス文明展	モース・コレクション展	大インド展	オーストラリア・アボリジニ展	ジャワ更紗
個人	66,897	31,289	79,543	30,281	42,145
団体	51,927	35,326	29,731	27,055	21,238
合計	118,824	66,615	109,274	57,336	63,383
平均	1,523	925	1,349	735	880
日数	78	72	81	78	72
	★1,030円	★720円	★1,100円	★1,100円	★790円

年度	1994年度	1995年度	1995年度	1996年度	1997年度
期間	9/8～11/29	3/16～5/30	9/14～11/30	8/1～11/19	9/25～1/27
名称	絨毯シルクロードの華	ラテンアメリカの音楽と楽器	現代マヤ	シーボルト父子のみた日本	異文化へのまなざし
個人	23,434	30,222	29,694	46,642	57,673
団体	12,914	21,029	18,502	14,951	17,920
合計	36,348	51,251	48,196	61,593	75,593
平均	505	765	719	642	748
日数	72	67	67	96	101
	★790円	★850円	★790円	★1,100円	★1,250円

年度	1998年度	1999年度	2000年度	2000年度	2001年度
期間	7/30～11/24	9/9～1/11	3/18～5/14	7/20～11/21	9/20～1/15
名称	大モンゴル展	越境する民族文化	みんぱくミュージアム劇場	進化する映像	ラッコとガラス玉
個人	81,410	17,649	9,520	19,602	15,376
団体	25,388	9,014	4,830	9,652	9,079
合計	106,798	26,663	14,350	29,254	24,455
平均	1,047	264	281	271	257
日数	102	101	51	108	95
	★1,100円	★1,200円	★800円	★1,200円	★870円

年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
期間	3/21～7/16	7/24～11/25	9/9～12/7	9/8～12/6	9/7～12/5
名称	2002年ソウルスタイル	西アフリカおはなし村	アラビアンナイト大博覧会	インド サリーの世界	更紗今昔物語
個人	36,764	26,803	33,005	23,854	16,713
団体	22,067	11,564	9,226	5,602	6,006
合計	58,831	38,367	42,231	29,456	22,719
平均	577	355	563	378	291
日数	102	108	75	78	78
	★830円	★830円	★830円	★830円	★830円

年度	2007年度	2008年度	2009年度	2009年度	2010年度
期間	9/13～12/11	9/11～11/25	3/12～6/14	9/16～12/8	9/16～12/7
名称	オセアニア大航海展	アジアとヨーロッパの肖像	千家十職×みんぱく	自然のこえ 命のかたち	エル・アナツイのアフリカ
個人	29,962	19,928	40,693	28,752	20,394
団体	5,856	3,280	4,726	4,590	2,582
合計	35,818	23,208	45,419	33,342	22,976
平均	453	352	622	433	319
日数	79	66	73	77	72
	★1,000円	★830円	★600円	★830円	★830円

年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
期間	9/13～11/27	9/19～12/3	9/11～12/9	8/27～11/10	9/8～11/29
名称	世界の織機と織物	渋沢敬三	イメージの力	韓日食博	見世物大博覧会
個人	23,193	18,866	32,266	20,460	37,532
団体	2,461	2,377	3,438	9,374	11,501
合計	25,654	21,243	35,704	29,834	49,033
平均	395	322	464	452	690
日数	65	66	77	66	71
	★830円	★830円	★830円	★830円	★830円

国立民族学博物館管理部広報係の資料より筆者作成

ところが、近年、このような特別展や企画展でさえも、入館者数が減少傾向をみているのである。つまり、入館者数の減少傾向に歯止めがかかっていないのである。これには、いくつかの要因が考えられるが、そのひとつに民博を取り巻く状況の大きな変化がありそうだ。そこで、民博の周辺の状況から見ておこう。まず、2003年、コンサート・ホールとして使われていた万博ホールが建物の老朽化などのために閉鎖、2004年には民博に隣接する国際美術館が中之島に移転し、その跡地は駐車場となった。また、2007年には、万博公園に多くの入場者を迎えていたエキスポランドが事故のため休園、やがて閉園となった。さらに、2009年には、民博の近くにあった国際児童文学館も閉館した。これらの美術館や遊園地などのあいつぐ閉館、閉園は、同じ万博公園に位置する民博にも大きな影響をおよぼしたはずである。後述するように、民博の入館者のなかには、周辺の施設に來たついでに民博に立ち寄る人が少なくないからだ。

さらに、一般の人びとが民博に対してもつイメージも影響している可能性がある。それというのも、先述したように近年の民博は「くらい、かたい、冷たい」というイメージがあるからだ。これは、入館者の博物館一般に対するイメージの影響もあるかもしれない。多くの人びとが、「かたく、古めかしく、暗い」という博物館像を持っているからである。布谷（2005）による調査によれば、博物館という言葉を開くとどんな言葉が頭に浮かぶか、という博物館のイメージ調査では、マイナスのイメージ（陰気、つまらない、古いなど）の言葉の数は、プラス（新しい発見、驚き、ゆったりなど）の数のほぼ倍であったそうだ。その結果、「博物館という機関は、まだ多くの人にとって、積極的に行ってみようと思う場所ではないようである」と布谷は結論づけている。

特別展と企画展

ここで、特別展と企画展の違いについて述べておこう。開館当時と現在では、この違いがかなり異なっているからである。1990年に作成された『国立民族学博物館における特別・企画展示の基本構想』によれば、特別展と企画展の違いについては、次のように記されている（国立民族学博物館 1990）。

特別展は、特別展示事業費の予算をもって実施する。原則として年1回の規模の大きな展示で、特別観覧料をとる事業である。

企画展は、経常経費の枠内で行なう比較的中・小規模の展示であり、館だけの主催で実施する場合には、特別料金をとることを想定していない展示である。

また、この『構想』は、常設展との関係についても次のように述べている。

- 1) 特別・企画展示は、常設展とはことなる発想で行なわれる必要がある。常設展示とはことなるスタイルが、それぞれの展示ごとに模索されるべきである。

2) 常設展示で行なわれないパフォーマンスも特別展示館では実行可能である。

現在の企画展は、常設展示場の一画を使った、かなり小規模な展示であり、当時のものとは大きく異なっている。一方で、現在春におこなわれている特別展は、かつての企画展の流れをひくものであり、通常特別入館料を払わなくても入館できる。この点では、私が実施した企画展「ラテンアメリカの音楽と楽器」展は、特別入館料を徴収したものであり、かなり異色の展覧会であったのかもしれない。

さて、このように特別・企画展示は、常設展示と大きく異なった構想をもち、入館者の増加にも大きな期待がかけられた。しかし、先述したように、このような特別・企画展でさえも、入館者数が減少傾向にあるのだ。その結果、民博全体としても入館者数の減少傾向に歯止めがかかっていないのである。

ここで、大きな問題があることに気づく。それは、「本当に、民博の入館者数は減少傾向にあるのか」という問題である。私は、民博開館以来の40年をとおして入館者数を見ているので、その減少傾向に歯止めがかかっていないと印象をもっているが、これは民博の教員でも受け取り方が異なっているようだ。実際に、民博の館員の中には、現在の状況を「低止まり」としていると判断している者もある。

とくに、比較的近年になって民博に着任した教員であれば、現在の20万人前後の入館者数に対して、さほど違和感をもたない可能性もある。民博の入館者数が20万人まで減少したのは、いまから20年以上も前の1993年のことだからである。つまり、民博の入館者数が少ないという現象は、この30年ほど常態化しており、それに違和感をもたないとしても、それは当然のことであるかもしれないのだ。実際、近年の入館者数が少ないと危機感を感じるのは、開館時の民博の盛況ぶりを知る人たちだけのようである。

ここで、もうひとつの問題が浮上してくる。それは、はたして民博の入館者数はどれくらいが適正かという問題である。不思議なことに、これは民博ではほとんど議論にならなかったようであるが、唯一の指針となりそうなものがある。それは、梅棹が1978年に、日本経済新聞に寄稿した次の一文である（梅棹 1990: 392）。

当初の計画では、他の類似施設の実績などを参考にして、1日平均800人という予想をたて、その数字をもとにしてすべてを計算した。

しかし、この1日800人という数字は、かなりひかえめであったのではないか。梅棹自身も、この記事のなかで、「いちばんおおきく予想がはずれたのは、入館者の数である」と述べているのである。

このときから40年も経た現在では、社会情勢も、予算などの面でも民博をとりまく状況も大きく変化しているので、単純に当時と現在の入館者数を比較することは無理があるかもしれない。しかし、その後、民博では入館者数の指針というべきものを示してこ

なかったので、ここで、あえて当時と現在の状況を少しくらべてみよう。

まず、開館当時と現在の民博が大きく異なっている点を、指摘しておかなければならない。それは、展示場面積が大幅に拡大されたことである。すなわち、開館当時の民博における展示面積が約4,400平方メートルであったのに対し、現在はその2倍以上に達する9,700平方メートルになっているのである。

一般公開された当初の民博の展示は、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、東南アジア、東アジア（日本の文化）の7地域の地域展示と音楽および言語の通文化的な展示、そしてビデオテークに限られていた。つまり、現在展示されている中央・北アジア、東アジア（アイヌの文化、中国地域の文化、朝鮮半島の文化）、さらに南アジアの地域展示を欠いていたのである（図3）。

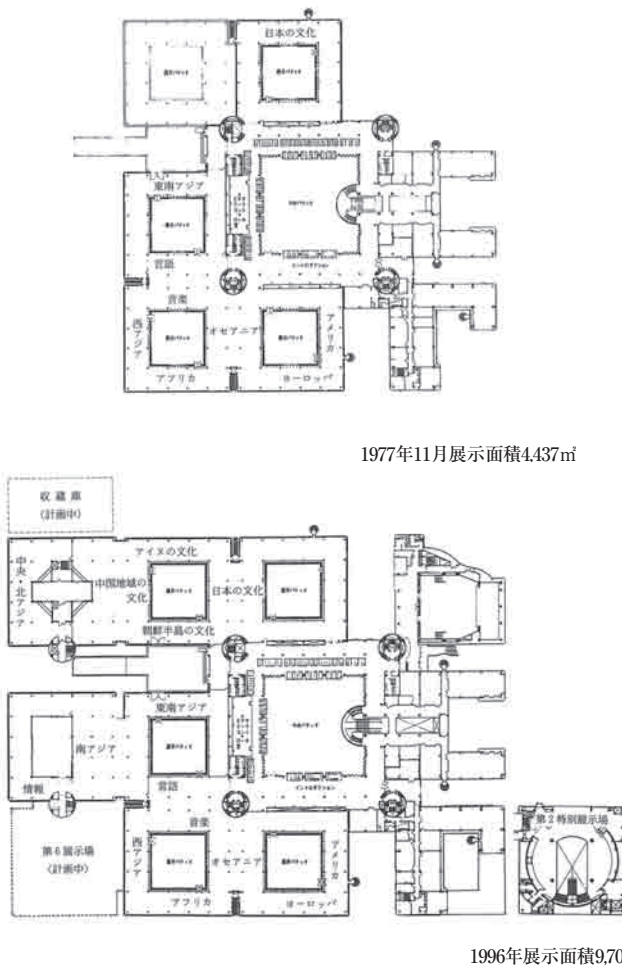


図3 常設展示場の増加状況（国立民族学博物館 2006a）

また、現在は民博へのアクセスが飛躍的に容易になったことも指摘しておかなければならない。開館当時は、しばしば民博は「陸の孤島」にあるといわれていたように、アクセスが非常に困難であった。この点については先述したが、最近では特別展期間中に大阪モノレールの万博記念公園駅から民博まで、週末には無料のシャトルバスも運行されるようになっているのである。

さらに、開館当時の民博に、特別展示館がなかったことも強調しておかなければならない。この点については、最近、民博を退任した須藤健一前館長の感想を、まず紹介しておこう。

……私が1993年にみんぱくを去り、2009年4月に館長として戻ってきて大変驚きました。2008年の入館者数は15万人まで減少していました。みんぱくの教員たちがいろいろな新企画をくみ、面白い展示を企画しているのにどうしたことか。開館以降展示を大幅に改変していないため、同じものが展示されていて、展示がくすんでしまっている。人びとのみんぱくへの関心が失せ、見向きもされていないのだという意見もありました。(須藤 2017: 409)

ここで述べられているように、2009年4月の時点では民博の展示の中心を占める常設展は、「同じものが展示されていて、展示がくすんでしまっている」可能性を否定できない。だからこそ、特別展に大きな期待がかけられたのではなかったか。そして、実際に、当初の頃は、特別展は多数の入館者をむかえ、民博の入館者数の減少に歯止めをかけた。それは、先述したとおりである。

(2) 「ガラクタ」の展览会へ

入館者数の減少については、社会状況の変化も見逃せない。民博が開館した40年前にくらべると、現在は海外からの情報量が飛躍的に増え、個人でも海外旅行がきわめて容易になっている。聞くところによれば、いまや日本人の一年間の海外渡航者数は2,000万人を突破しているそうだ。それだけに、海外からの民族資料、それらを中心に展示している民博に対しても、入館者の意識も大きく変化しているにちがいない。そして、それが入館者数の減少にも大きく影響していると考えられるのである。

入館者の意識の変化とは、何か。それは、具体的にいうと入館者にとって民博の展示物が珍しいものでも、とりたてて興味をひくものでもなくなったということではないか。梅棹がしばしば民族資料は「ガラクタ」であると言ってきたが、今や入館者にとっても民博の展示品が文字どおり「ガラクタ」に見えだしたのではないだろうか。

この「ガラクタ」という言葉には説明が必要かもしれない。これは今から30年以上も前の1984年に、当時館長であった梅棹忠夫が述べたものであり、当時の館員には共通認識のようにになっていたが、現在の民博の教員には知られていない可能性があるからだ。

梅棹によれば、「民族学資料というのは、諸民族が日常生活において使用する雑器、い

わば「ガラクタ」に類するもの」であり、「芸術的価値や経済的価値とは無縁の品物」であるというのである（梅棹 1990: 554）。この「ガラクタ」という言葉に違和感をもつ人もいるかもしれないが、民博で展示される「モノ」には、そのような側面があることを認めざるを得ないであろう。

もちろん、民博の展示資料は、たとえ海外旅行に出かけたとしても、容易に見ることができるものばかりでないことはいうまでもない。しかし、テレビなどでの海外取材番組などにより、入館者は海外からの民族資料を「ガラクタ」とは思わないまでも、さほど珍しいものとは感じなくなったとはいえるであろう。

じつは、このような現象は民族資料をあつかう博物館では早くから生じていた。元岐阜市歴史博物館の学芸員である日比野光敏は、展覧会における民俗分野のハンディについて、次のように述べている。

現場にいて実感するのは、博物館を特殊な（ハレ）の場と考えている来館者の多さである。彼らにとっての博物館は、貴重なモノ・めずらしいモノを見せてくれるところであった。絵画や工芸品、古文書、埋蔵文化財などはそのイメージに適合する。これに対し、多くの民俗資料は卑近なモノである。貴重そうには見えない、そして、さほどめずらしくもない、場合によっては薄汚いモノが、博物館の展示室に並んでいることは、それこそ『予想外』のことである。ともすれば、「観覧料を返せ」という不平にもなりかねない。（日比野 1994）

日比野によれば、博物館の入館者が観覧前に内容をもっとも予測しやすい展覧会は、美術、考古、歴史などの分野である、という。そして、観覧前の期待と実際の展覧会（展示）内容とのギャップが大きいと、展覧会の評価が芳しくないということになりやすいと指摘している。

この指摘は、まさしく民族資料に関してもいえることであろう。それゆえにこそ、民博の特別展も、これまでの展覧会が考古展的なもの（「大アンデス文明展」）や歴史的なもの（「モース・コレクション展」「シーボルト父子のみた日本展」）、さらに美術展的なもの（「ジャワ更紗展」「絨毯展」など）の傾向をもっていたといえるだろう。これらの展覧会は、いずれも、観覧前に展示についてある程度の予測ができるからである。美術展的なものでいうと、日比野の表現を借りれば、それは「美しいものを見たい人に、美しいものを見せる」ことで十分なのである。

しかし、考古学的なものにしても、歴史的なものにしても、さらには美術的なものにしても、これらの資料を中心に展示できるのは、やはり特別展示だからこそであろう。日常的な暮らしを展示している常設展では、やはり「ガラクタ」的な資料を中心とした展示をせざるを得ない。このことは、博物館における特別展の重要性を物語るものでもあるだろう。

この点で、私は民博の第1回の特別展「大アンデス文明展」で興味ぶかい体験をした

ので、それについても少し紹介しておこう。この特別展は、1989年におこなわれ、私も実行委員のひとりであった。実行委員長は友枝啓泰教授（当時）、実行委員は藤井龍彦助教授（当時）、そして私の2人であった。そして、この特別展の大きな特徴は、展示の中心がペルー各地の博物館から借用した考古資料であったことだ。すなわち、今から1000年も2000年も前の土器類や織物をはじめとして、日本人に人気のある黄金製品やミイラなど約700点で、これらが1階の展示場を埋めつくしていた（写真1, 2）。これらの資料は、日本では容易に見ることのできない、珍しいものばかりであり、この展示場ではあちこちに人だかりができていた。その結果として、この展覧会が12万人もの入館者をむかえたことは先述したとおりである。

しかし、この展覧会で、ほとんど知られていないことがある。それは、1階の展示場の盛況ぶりにくらべて、2階の展示場は人だかりができることがなく、いつもひっそりとしていたことだ。そして、この2階の展示場で主として展示されていたものこそは、民博が収蔵していた民族資料だった。しかも、この民族資料の展示を主として担当したのが、私だったのである。



写真1 ペルー各地の博物館から借用した先スペイン期（モチェ）の土器（1989年）。



写真2 ペルー各地の博物館から借用した先スペイン期の織物（1989年）。

このとき、私は入館者の考古資料と民族資料に対する反応の大きな違いに大変驚いた。驚いた、というより、大きなショックであった。一方で、この特別展は、民族資料の展示方法に大きな反省を迫るものとなった。当時の私には展示の経験がほとんどなく、特別展での民族資料の展示方法は常設展のそれにならったものだった。こうして、私は民族資料の展示方法、とくに「見せ方」には大きな工夫が必要であることを痛感するようになったのである。

ここで、ひとつ検討しておくべき問題がある。それは、はたして入館者数が展覧会あるいは博物館の評価につながるのか、という問題である。私自身は、入館者数は必ずしも展覧会や博物館の評価に直結するとは考えていないが、不思議なことに民博では入館者数をもって展覧会を評価するきらいがある。実際に、民博で展覧会を実施した実行委員長の名前には、入館者数が多かったからといって「大成功だった」と自画自賛している教員もいるが、これははたして正しいのであろうか。

たしかに、公立や民間の博物館では、入館者数の低迷はときに閉館を招くことがあり、入館者数は成功の目安になっているようだ。しかし、展覧会が成功したかどうかは、アンケート調査に示されているように入館者の展示に対する満足度によるのではないか。極端なことをいえば、そして入館者数の増加だけを期待するのであれば、それこそ「ミロのヴィーナス」像や「モナリザ」のような肖像画を借りてきて、それを展示すればすむ話である。しかし、民博は美術館ではないし、そもそも、それでは民博の存立理由もないであろう。じつは、私が実行委員のひとりであった「大アンデス文明展」にも、そのような傾向があったことを白状しておかなければならない。

あとから振り返ってみると、「大アンデス文明展」は民博始まって以来、最多の12万人近い入場者があったが、その最大の要因は、先述したように日本では容易に見られない、ペルー各地の博物館から借用した考古資料のおかげであったと私は考えている。おそらく、民博が収蔵している民族資料だけでは、これほど多数の入場者はなかったにちがいない。

(3) 実験的な展示とアンケート調査

それでは、はたして本当に民族資料の展覧会では多くの入館者を望めないのだろうか。見せ方によって、展示の方法によっては「ガラクタ」としか見えないものでも入館者に興味をもってもらうことはできないのであろうか。このようなことを知るために、きわめて実験的な展覧会をおこなうことにした。それが、1995年に実施した企画展「ラテンアメリカの音楽と楽器」であった。

たしかに、この展覧会でも展示した考古資料はあったが、それは国内で借用した資料であり、しかも展示した資料はわずかであった。展示の主役はあくまで多数の民族楽器であった。それも、ラテンアメリカの人びとが日常的につかっている楽器ばかりで、い

わゆる名品や逸品というものにはなかった。名品どころか、鍬や山刀、フライパン、ドラム缶など、楽器になるものは何でも展示した。この意味で、楽器展はまさしく「ガラクタ」の展覧会であった。

このような民族資料の展示では注意すべきことがある。それは、美術品とちがって、民族資料のほとんどは、本来鑑賞される目的をもって製作されたものではなく、道具として特定の使用目的のために製作されたものであるということだ。したがって、民族資料だけ、つまり「モノ」だけを展示すれば、その「モノ」は使用されるコンテクストから切り離されることになる。その代表的な例が、楽器であろう。本来音楽を演奏する道具であるはずの楽器が、博物館ではしばしばオブジェとして展示され、音を奏することがない。「音を出してこそその楽器」が、音が鳴らず、単にオブジェとして展示されていれば、展示を見る方は不満をかかえこむことになるだろう。

そのため、楽器展では見せ方にさまざまな工夫をこらした。その工夫については後述するが、実験的どころか、いささか冒険的と思える試みさえした。これらの試みをとおして入館者がどのような反応を示すのか、いわば入館者の展示に対するニーズを知ろうとしたのである。その意味で、この展覧会はこれまでの特別展や企画展とは少し性格が違っていたといってよい。従来の特別展は研究成果を発表する場と考えられていたが、楽器展は展覧会そのものを新しい実験展示をする研究の場と考えたのである。

実験という意味では、楽器展では展示だけでなく、広報の点でも、いくつかの新しい試みをおこなった。たとえば斬新な試みをしようとも、その展覧会が一般の人びとに広く知られなければ、入館者数の増加は期待できないからである。このため、従来からおこなっているポスターやチラシなどにも工夫をこらした。ポスターは、親しみやすいようにタイトルを手書き文字で書いたほか、チラシもイラストを多用した(図4, 5)。また、マスコミによる大きな広報の効果を期待して、共催者にNHK きんきメディアプランを選んだ。従来、特別展では共催者がつくことはあったが、企画展で共催のついた展覧会は楽器展がはじめてのことであった。

これらの試みに対する答えを知るために、展覧会の会期中はできるだけ会場にいて入館者の反応をみたり、意見をきくようにした。さらに、不特定多数の入館者の意見の動向や趨勢を知るためにはアンケート調査も実施した。すなわち、入館者の声に率直に耳を傾けようとしたのである。それというのも、これまで民博では展示する側の議論はあったが、展示を見る側の意見や感想にあまり耳を傾けてこなかったからである。

じつは、これは民博だけのことではなく、多くの博物館でも同じようだ。元琵琶湖博物館学芸員であった布谷知夫も、この点について次のように述べているのである。

これまでの博物館に関する多くの議論は、そのほとんどが博物館を運営し、管理する視点での議論であった。そのために議論の中心は事業の分類や運営方法、資料の保存管理、展示

作りの技術などであった。(中略)しかしそのような議論において、利用者がどう利用するのか、利用者にとって利用しやすいかどうか、というような視点をあわせて議論することができていなかった。(布谷 2005: 41)

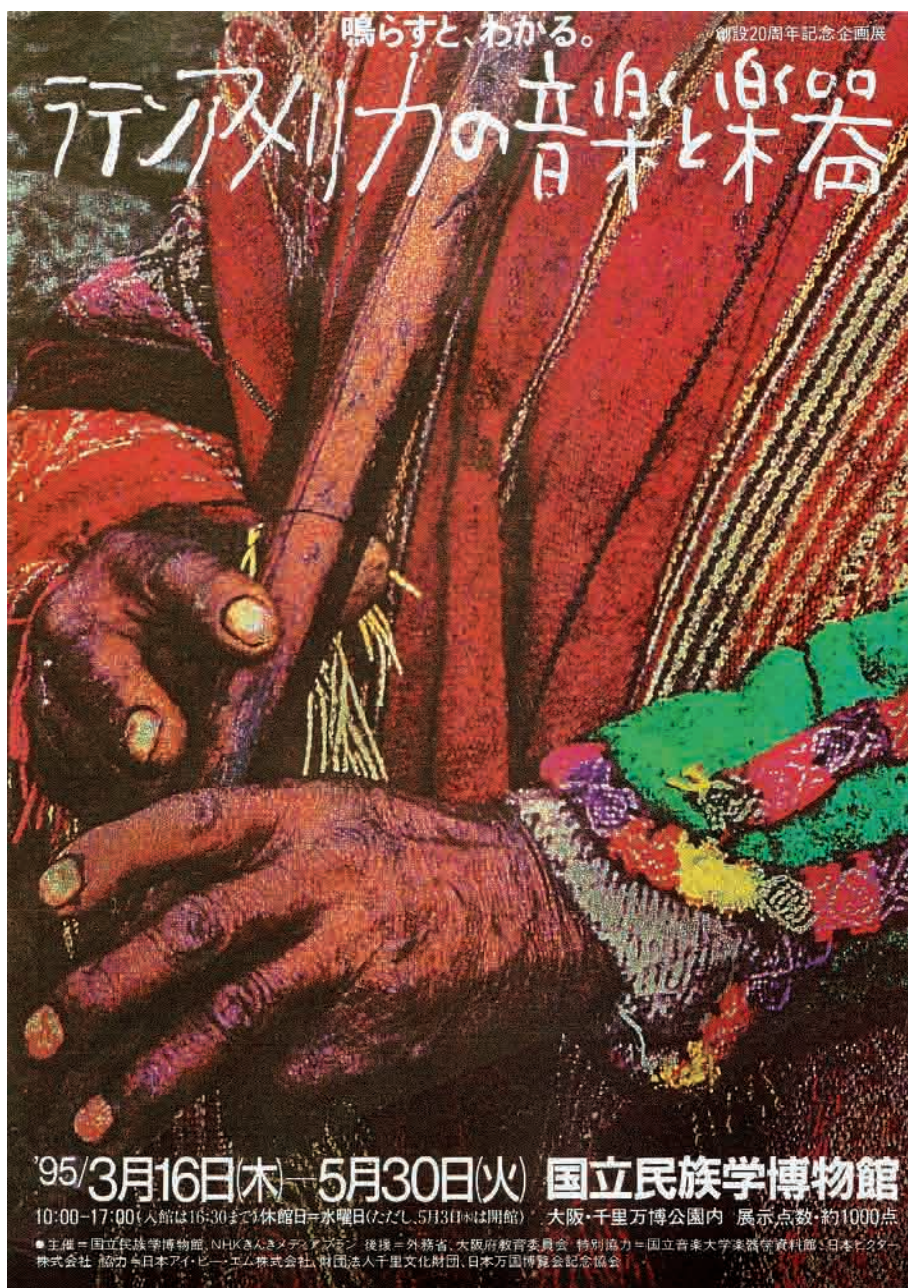


図4 楽器展のポスター。手書き文字によって親しみやすさをだした。

鳴らすと、わかる。

ラテンアメリカの 音の楽園

前設20周年記念 企画展 展示点数・約1000点
3月16日(木)～5月30日(火)

ラテンアメリカの音楽は、日本をはじめ世界中で愛されています。ひとくちにラテンアメリカ音楽といっても、そのなかみは、アルゼンチン・タンゴから、サンバ、フォルクローレ、そしてサルサやレゲエまで、多種多様です。これらの音楽には、先住民と、植民地支配国であるヨーロッパ人、奴隷として連れてこられたアフリカ人などの異なる諸文化の出会いと融合の歴史が表現されています。苛酷な支配と抗争の歴史は、一方で豊かで創造的な音楽を生みだしたのでした。

ライブでラテンアメリカ音楽を体感

この企画展では、さまざまな楽器、演奏時に着用する民族衣装、映像や音、さらに会場でのコンサートなどによってラテンアメリカ音楽の世界を身近に体感していただくことを目指しています。また、実際に演奏していただける楽器もあります。なお、コンサートの日程などは、みんぱくテレフォン情報(TEL:06-878-2211)でご確認ください。

ギターを鳴らす子ども(ボリビア)

一本弦の太鼓(アルゼンチン)

伝統的なスリット・ドラム(メキシコ)

アルマジロを利用した弦楽器(ペルー)

ヒョウタンを共振器にしたマリンバ(グアテマラ)

大阪・千里万博公園内 ● 近鉄京都市駅・千里中央駅よりバスで日本道園前(記念公園入口)下車徒歩約13分 ● 大阪モノレールで万博記念公園駅下車徒歩約15分(ただし、自然文化園は有料です) ● タクシーは駐車場正面まで入ることができます。

● 観覧料(常設展も観覧できます) 一般 ¥750(¥510) 高校・大学生 ¥430(¥240) 小・中学生 ¥240(¥120) 内は20名以上の団体料金です。● 団体の引率も一般の観覧料が必要です。● 問い合わせ先 〒555 大阪府茨田市千里万博公園10-1 TEL:06-876-2151(前) 週刊みんぱくテレフォン情報 TEL:06-878-9211

正面展覧館種し類(左・右側)展示

■ 第203回みんぱくゼミナール
3月18日(土) 「中南米への弦楽器の伝播とその変容」
14:00～15:30 講師:濱田進郎(スペイン・中南米音楽研究家)

■ 第204回みんぱくゼミナール
4月15日(土) 「アジア音楽の変容 ―伝統音楽とポピュラー音楽のはざまで―」
14:00～15:30 講師:藤井知昭(国立民族学博物館教授・副館長)

■ 第205回みんぱくゼミナール
5月20日(土) 「アンデスからカリブへ ―ラテンアメリカの音楽を巡って―」
14:00～15:30 講師:山本紀夫(国立民族学博物館教授)

● 当日入場された方だけでなく参加できます。● 開場は1時間前(定員450名)。

■ 研究公演(コンサート)
5月27日(土) 「ボリビアの音楽と踊り」
14:00開演(15:00開演) 解説:山本紀夫(国立民族学博物館教授)

花巻はが例にも申し込みが必要。住所、氏名、年齢、職業、電話を明記。
締切日:4月21日(当日消印有効) 問い合わせ先:研究協力課事業係

特別展「現代マヤ―色と織に魅せられた人々―」95年9月14日(土)～11月30日(土)

図5 チラシの裏面。チラシの表側はポスターと同じだが、裏面はイラストを多用して親しみやすさを出すようにした。

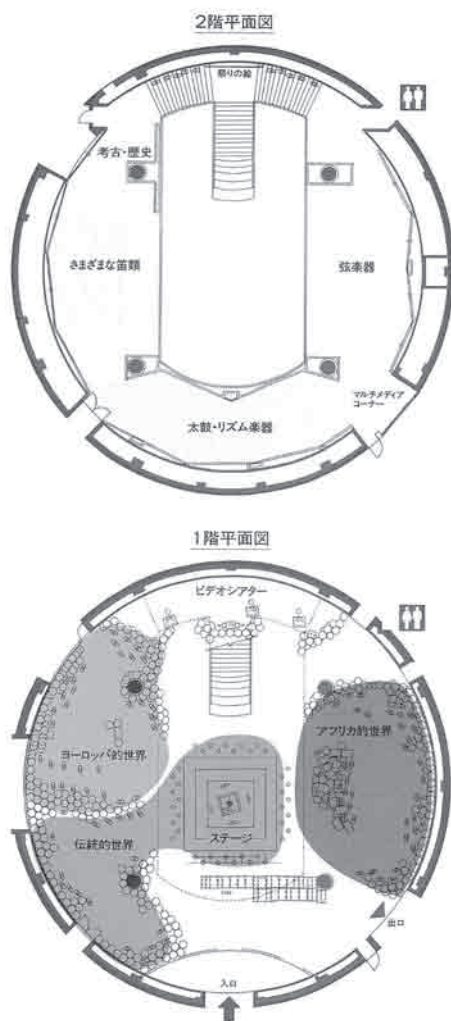


図6 特別展示場平面図（楽器展のリーフレットより）

3. 楽器展への道

ここで、楽器展を実施するに至った展示の趣旨や構想、概要などについても述べておこう。なお、以下のうち、「展示の趣旨」と「構想」は民博の展示委員会に提出した楽器展の計画書の一部を転載したものであることをお断りしておきたい。

(1) 展示の趣旨

ラテンアメリカの音楽は、日本をはじめ世界各国で受け入れられ、幅広く愛好されている。日本でも、戦前からアルゼンチン・タンゴが親しまれ、その後も「コンドルは飛んでゆく」に代表されるアンデス音楽、さらに1990年代ではレゲエやサルサなどカリブ系音楽が人気を得ている。そして、これらの音楽で演奏される楽器もじつに多様性に富んでおり、そのなかにはラテンアメリカの風土や歴史を反映したものが少なくない。それは、広大で変化に富んだ自然条件のなか、そこでくり広げられた波乱に満ちた歴史に由来している。すなわち、アメリカ大陸の先住民、植民地支配者としてのヨーロッパ人、さらにアフリカから奴隷として連れてこられた黒人たちなどによって織りなされた征服と融合の歴史が、ラテンアメリカの音楽と楽器に反映されているのである。

この展覧会では、このような特徴をもつラテンアメリカの音楽と楽器を映像や音響資料なども利用して紹介する。これらの音楽と楽器をとおして、ラテンアメリカの人びとの生活や歴史、社会、文化などを見直すことは、国際理解の一助となるだろう。なお、ラテンアメリカの音楽や楽器に焦点をあてた大規模な展覧会は先例がなく、映像・音響資料をも駆使した展示は、この種の展覧会としては、わが国のみならず世界でも初の画期的な試みとなろう。

(2) 展示の構想

世界情勢が激動するなかで日本と諸外国、とくに発展途上国との関係は新しい局面をむかえつつある。ところが、一般に日本人は発展途上国を多く含むラテンアメリカ地域になじみが薄く、それらの国々についての知識はきわめて乏しい。このようななかで、身近なものがラテンアメリカの音楽である。本展示の特色は、このように親しまれてきた音楽やそれに使われる楽器をとおして、ラテンアメリカの人びとの暮らしや社会、歴史などの全貌を理解してもらうことである。

では、なぜ、今この展覧会を開催するのか、以下に、その主要なポイントをあげる。

1) 現在は民族の時代とよばれ、多民族の共生・共存が叫ばれている。ラテンアメリカ諸国は比較的短い歳月のなかで、多民族によってつくりあげられてきた歴史をもつ。そして、そこで親しまれ、愛されている音楽や使用されている楽器にはラテンアメリカの歴史や風土をよく反映したものが多い。一方、これらの楽器のなかには近代化の波に押

されて、急速に消え去ろうとしているものが少なくない。したがって、楽器に焦点をあてた今回のような展覧会の機会は今を置いてほかにない。

2) ラテンアメリカ諸国は経済的に苦しい地域が多く、政治的にも不安定である。しかし、そのような状況のなかでも一般国民は様々な楽器を演奏し、音楽を楽しむ暮らしをしている。音楽や楽器をとおして、その文化的基盤となる社会を理解しようとすることは、発展途上国に共通する、さまざまな問題に新しい視野を与える。

3) ラテンアメリカの諸国のなかには古くから日本人移住者を数多く受け入れてきた国が少なくない。たとえば、ペルーもブラジルも移住100周年を迎え、両国での日系移民の数は百数十万人におよぶ。現在、これらの日系人のなかには日本に働きに来ている人が少なくない。このように、ラテンアメリカと日本の関係が一層強くなりつつあるこの時期に本展覧会を開くことはラテンアメリカの国々について再考する絶好の機会となる。

4) アメリカ大陸が1492年に「発見」されて以来、500年あまりの歳月がすぎた。この約500年のあいだに生まれ、発達してきたラテンアメリカ音楽が今や国境を越えて世界各地で受け入れられていることを考えると、本展覧会は国際化時代の現代社会にとって時宜を得た画期的な試みであるといえよう。

(3) 「楽器展」の概要

展覧会について述べる前に、会場となった特別展示館における展示空間の紹介をしておこう。特別展示館の建物は、地階から4階までの5層からなっているが、このうちの1、2階が展示空間である（写真3）。この展示空間は、巨大な円形の1階展示場（面積約850平方メートル）、高さ15.8メートルにおよぶ大きな吹抜け部、この吹抜けを回廊状にとり囲む2階展示場（面積約630平方メートル）の3つからなりたっている（図6）。



写真3 民博の特別展示館（1989年）。

さて、楽器展は、音楽と楽器を対象にしている点、さらに実験的な試みをいくつもしている点で、従来の展覧会とは大きく異なったものであった。それらの特徴を具体的に述べると、つぎのようになる。

- 1) 演奏の様子を示すマネキンを多用したこと
- 2) ビデオ・シアター、マルチメディア、指向性スピーカーなどによる映像音響資料の利用
- 3) 展示場内で現地の音楽家によるライブ・コンサートを毎日実施したこと
- 4) 週末にもラテンアメリカ各地のレクチャー・コンサートを実施
- 5) 楽器を自由に演奏できる試奏コーナーの設置
- 6) ボランティアの女性によるアルパの試奏

これをもう少し具体的に述べておこう。まず、全体として意図したことがあった。それは展示を「明るく、親しみやすい」ものにしようとしたことである。その背景には、かなり以前から、先述したように民博の展示が「くらく、かたく、冷たい」というイメージがあり、それが入館者の減少に関係しているという判断があった。このようなイメージをくつがえすため、さらにラテンアメリカの雰囲気を少しでも出すため、会場には色とりどりにペイントされたドラム缶約1,000本を配した。メインである1階の展示は、このドラム缶が構成する曲線によって、ゆるやかなセクションに区分されている。ドラム缶はオブジェであると同時に可動式の「間仕切り」としても機能しているのである（写真4）。

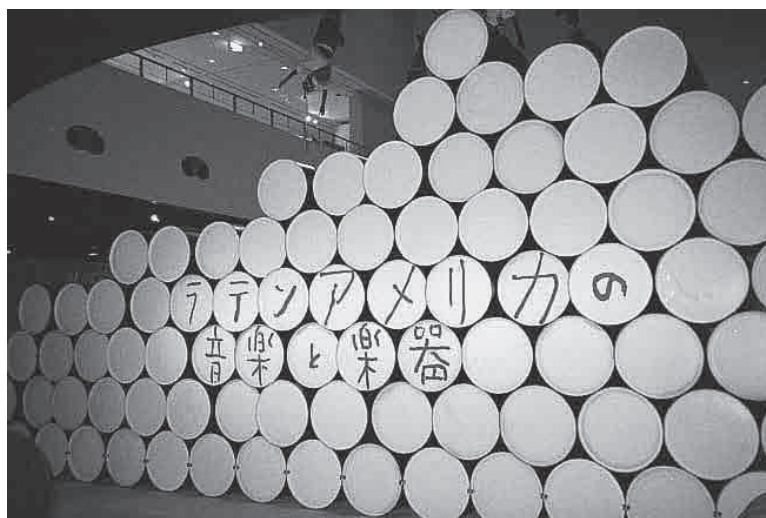


写真4 ドラム缶を積み上げた楽器展のエントランス部分（1995年）。

そのため、1階展示場は従来のように間仕切りによって閉鎖的空間を作らず、吹き抜けの天井まで見上げることのできるオープンな空間にした。具体的には、特別展示場の高さ13メートルの天井ぐらいまで電柱のような太い柱を立て、その柱をまわりながら逆さになって男性4人が下りてくる光景をあらわした。これは、メキシコ東部低地で先スペイン期以来おこなわれてきた、伝統芸能の「ボラドーレス」（飛ぶ人たち）を再現したものであり、柱の上には太鼓と笛を演奏する楽士がいる（写真5）。そして、このボラドーレスの展示の下には、ビデオを設置、そこで実際のボラドーレスの儀式と演奏が見られるようにした。

また、今回の展示の目玉はライブ・コンサートであったので、「展示場をコンサート・ホールに」を合言葉にして、展示場中央に中米の古代遺跡を模したピラミッド型のステージを設置、そこで毎日4回、約30分の生演奏を実施した。さらに、週末の土曜日と日曜日にも、このステージを使ってレクチャー・コンサートをおこなった。



写真5 展示場の1階部分中央。毎日ライブ・コンサートがおこなわれた（1995年）。

また、1階展示場では、中央のステージを囲むようにラテンアメリカの音楽と風土を知ってもらうために、マネキン約100体を使って各地の代表的な楽団を、「伝統的世界」、「ヨーロッパ的世界」、「アフリカの世界」にわけて展示した。それぞれの楽団は民族衣装をつけ、さまざまな楽器がどのように組みあわされて演奏されるかを示した。

たとえば、「アフリカの世界」では、一例としてベネズエラのパルロベント地方の太鼓演奏の男性5人と、その演奏にあわせて踊る女性二人のマネキンを展示した（写真6）。また、「ヨーロッパ的世界」では、メキシコのマリアッチの楽団やブラジルのカーニバルでの演奏風景を（写真7）、「伝統的世界」では、アンデスの農民が踊りながら演奏する風景なども展示した。

さらに、ラテンアメリカの音楽と楽器について、多角的に学び、楽しめるような入館者本位の展覧会にしようと試みた。すなわち、「モノ」の展示以外にも、さまざまな企画や映像音響メディアを取り入れたのである。そのなかでも、企画の当初から考えていたものが、入館者が実際に楽器を手にとって鳴らしたり、音楽の演奏を楽しむことのできる展示であった。

さまざまな制約や条件のなか、会場内でライブ・コンサートを毎日4回おこない、演奏者がくぼる楽器で入館者も演奏に参加できるようにした。このライブ・コンサートでは、期間の前半（3月16日～4月25日）がペルーから来日した4人の兄弟姉妹（写真8）、後半（4月27日～5月30日）もパラグアイから来たふたりの姉妹によるもので（写真9）、家族的なあたたかみを出そうとした。また、週末におこなったレクチャー・コンサートでは、演奏者が日本人であり、言葉の壁がなかったこともあり、楽器を手にとって演奏法を学べるようにした。さらに、入館者が自由に楽器を鳴らすことのできる試奏コーナーをもうけ、あまり知られることのない楽器約20種類に親しんでもらえるようにした。

また、2階の回廊状の展示場はおおまかに3つの区画にわけ、主として壁面を利用して多種多様な楽器を展示した。すなわち、最初の区画では、管楽器を展示、次の区画では打楽器およびリズム楽器を（写真10）、そして最後の区画では弦楽器類を展示したのである（写真11）。

このほか、実験的なメディアとしては、いくつかの映像音響設備とコンピューターがある。1階会場では、3つに分けたコーナーと中央ステージの4ヶ所にそれぞれテレビを設置、ラテンアメリカ各地の音楽に関連する文化や風土についてのビデオ番組をながした。さらに、ラテンアメリカ各地の音楽演奏を「メキシコ・中米」「カリブ海」「南アメリカ」の3地域にわけて鑑賞できるように、ビデオ・シアターとよぶコンピューターを3台設置した。また、2階の楽器展示の一角には、今回の展覧会のためにIBMと共同開発した、展示中の楽器182件を検索できるシステム、マルチメディア・コーナーの2台のコンピューターを設置した（写真12）。



写真6 マネキンを使った楽団の演奏風景。ベネズエラ・バルロント地方の太鼓演奏と踊り（1995年）。



写真7 マネキンを使ったブラジル・カーニバルの演奏と踊りの風景（1995年）。



写真8 会期の前半にライブコンサートをおこなったペルーのロドリゲス・ファミリー（1995年）。



写真9 会期の後半にライブ・コンサートをおこなったパラグアイのサナブリア姉妹（1995年）。



写真10 2階展示場の打楽器のコーナー（写真は、株式会社「七彩」提供）。



写真11 2階展示場の弦楽器のコーナー（1995年）。



写真12 マルチメディアのコーナー。パソコンの端末は、無機質な感じをあたえないようにダンボール紙でおおった（1995年）。

この情報メディアのうちのマルチメディアに関しては、すでに報告がなされているので（草場・高橋 1996）、その報告の一部を整理して引用しておこう。このマルチメディアでは、2種類のシステムが作成された。ひとつは、レーザー・ディスクにおさめられた楽曲を選択して再生し、文字情報を表示する「ビデオ・シアター」である。もうひとつは、楽器標本に関連した文字情報・画像・映像を自由に検索しながら、展示されている楽器について学習してもらう「学習コーナー」である。

このうちの「ビデオ・シアター」は、中南米の楽曲を鑑賞するためのシステムであり、決められたボタンを押すことで楽曲が選択できるようになっている。「メキシコ・中米」「カリブ海」「南アメリカ」の展示場に1台ずつ、計3台のパソコンが設置された。各地域の地図上でカーソルを希望の国にあわせれば、その国の楽曲があらわれる。そのなかから楽曲を選ぶと、レーザー・ディスクの映像を再生し、その曲の説明がディスプレイに表示されるようになっているのである。

もうひとつの「学習コーナー」は、楽器標本に関する知識を深め、学習してもらうためのシステムである。標本画像や演奏ビデオにつけられた楽器の種別や地域名から、演奏風景や楽曲を検索できるようになっている。このため、展示場には、2台のパソコンが設置された。

以上述べた展示方法に対する入館者の反応については、楽器展そのものに対する反応とは別にアンケート調査がおこなわれ、分析もおこなわれているので、詳しくは先述した草場・高橋（1996）を参照されたい。このように楽器展は、さまざまな情報メディアや手法も駆使して、入館者がラテンアメリカの音楽と楽器を多角的に学び、肌で感じてもらえるような工夫をしたのである。

さらに、1階展示場にはベニヤ板を敷き詰め、これも木によるあたたかみを出そうと

した。そのため、警備員もこれまでは男性だけであったが、女性を中心にした。また、2階展示場の背景の壁紙もやわらかい雰囲気を出すためクラフト紙を使った。解説プレートなどもクラフト紙にワープロ文字をコピーして、手作りの感じをだした。これは、ラテンアメリカの楽器には手作りの素朴なものが多いため、その雰囲気を少しでも出そうとしたのである。さらに、楽器の演奏法なども写真パネルだけでなく、必要に応じてイラストなども使った（図7）。



図7 楽器の演奏法を示したイラスト（高戸涼子作画）

このようなさまざまな実験的な試みを、民博だけでおこなうことは不可能であった。そのため、マルチメディアの開発にIBMの協力を得たことは述べたが、このほか楽器展には共催者があった。それがNHK きんきメディアプランである。民博の企画展としては共催者のある初めての展覧会となったのである。そこで、その背景についても少し述べておこう。当時の民博の企画展示には、特別展と企画展があり、通常、秋に開催される特別展は春の企画展より予算も規模も大きいものであった。また、特別展では展示資料を国内外から借用することが多く、しばしば共催者がついていた。一方、企画展は館蔵資料を使い、特別料金を徴収しないで、通常料金でおこなわれていた。

ところが、企画展である楽器展では当初からライブ・コンサートを企画していたため、共催を募らなければならなかった。民博の予算では海外からミュージシャンを呼んで、長期にわたり演奏してもらうことは不可能だったからである。また、ライブ・コンサートなどを広報してもらうためには、共催には映像関係のメディアが適切であるという判断もあった。こうして、NHK きんきメディアプランが共催者となったのである。この結果、展覧会は通常料金ではなく、特別料金を徴収することになった。これが、入館者に展示が料金に見合ったものであるかどうかという厳しい目を注がせることにもなった。

楽器展について述べようとするとき、阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件の影響も忘れることができない。そこで、これらについても少し言及しておこう。阪神・淡路大震災は、展覧会の準備が追い込み時期に入った1995年1月17日に発生した。その影響は大きく、一時は楽器展の開催も危ぶまれた。実際、阪神間にある博物館や美術館には休

館するところが少なくなく、中止になった展覧会も多かった。民博でも常設展示場は45日間の休館を余儀なくされた。災害復旧などのさまざまな要因のため、楽器展の準備も大幅に遅れることになってしまった。社会的にも「歌舞音曲」をひかえるなどの雰囲気があり、とても「音楽と楽器」の展覧会をひらく状況ではないようにさえ思えた。復旧事業では、ライフラインの情報が優先され、テレビや新聞などのマスメディアなども震災復旧に関連するニュースに大きなスペースや紙面がさかれ、楽器展の広報も思うようにはならなかった。一方で、この時期だからこそ展覧会をひらいてほしいという館内外からの強い要望があり、予定どおり開催することになったのである。

このような自粛ムードのなかでなんとか開催にこぎつけたものの、開催してまもない3月20日には追い打ちをかけるように地下鉄サリン事件がおこった。この事件は東京でおこったものであり、それが大阪でおこなわれた楽器展にまで影響をおよぼしたとは考えられないかもしれないが、この事件が社会におよぼした影響も予想以上に大きかった。関西でも多くの人々の関心が地下鉄サリン事件に向けられ、世の中全体が暗く、とても展覧会どころではない、というムードがあった。また、多くの人が集まる場所を避けるようになった。展覧会が始まってからも、これらの影響は展覧会にも広報にも影をおとした。その影響については後述することにした。

(4) さまざまな広報活動

民博がおこなった広報活動の概要は、表2に記したとおりである。これらの広報の大半は民博の普及係をととして実施されたが、実行委員会や共催相手のNHK きんきメディアプランも独自の広報をおこなった。そこで主だった広報活動について以下に報告する。

1) ポスターとチラシ

「明るく、親しみやすい」という展示の方針は、図録や広報資料の製作でも重視した。とくに、ポスターとチラシの作製では、ラテンアメリカの楽器に手作りのものが多いことから、親しみやすく、かつ手作りの暖かさが感じられるようなものにした。具体的にはポスターとチラシのタイトルの文字は手書きにしたほか、そこで使った写真もコンピューター処理をして絵画風の雰囲気をもつものにした。さらに、チラシの裏面には手書きの楽器の図を挿入したり、ポスターは周辺をバーナーで焼き、裁ち切りの直線的な固さをなくす工夫もした。

これらのポスターとチラシの大半は、普及係をととして従来の企画展と同じところに配布されたが、「楽器展」独自で配布したところもある。たとえば、大阪府立の中学校と高校の音楽の教師にはダイレクトメールでチラシを送付した。また大学には、庶務課宛でなく関係学部や教室に直接ポスターを送付するなど、入館してほしい個人や団体など

対象をしぼって広報をおこなった。近隣のホテルには館からチラシだけが送られていたため、ポスターも掲示してもらうことにした。また、大学所属や個人主宰のラテンアメリカ同好会や愛好会約100件、またラテン音楽専門の楽器店などにもチラシやポスターなどを送った。

2) 新聞、テレビ、ラジオ

先述したように、「楽器展」では今までにない試みをいくつもしていたため、開催のかなり前から、民博のプレス懇談会をとおして新聞社やテレビなどのマスコミ関係者に展示の内容やイベントについての告知をおこなった。その結果、新聞が楽器展をとりあげた記事の数は全部で20件におよんだ。「ライブ・コンサート」や「レクチャー・コンサート」、「試奏コーナー」などの新しい試みが多かったおかげであろう。

テレビやラジオは共催者がNHKの関連会社ということもあり、大きな期待がかけられたが、大震災や地下鉄サリン事件などの影響で、期待に反してあまり取り上げられることはなかった。この点についてはあとで検討する。一方で、民放のテレビやラジオではイベントを中心に展覧会を取り上げたものが少なくなかった。

3) 雑誌、情報誌、ミニコミ誌等

雑誌等では、展覧会がオープンする1年くらい前から関連記事を掲載してもらい、広報活動につとめた。まず、民博の広報誌である『月刊みんなく』で1994年に予告記事を書いた。つづいて、『季刊民族学』などにも関連記事を投稿した。さらに、ラテンアメリカに関心をもつ読者の多い季刊雑誌の『オーラ・アミーゴス』（季刊）などでも1年をとおして関連記事を連載した。このほか展覧会記事を掲載した情報誌やミニコミ誌でも楽器展を取り上げたものがあった。しかし掲載誌が送られてこない場合もあるので、正確な数は把握できていない。

4) テレフォン情報、看板、電光掲示板

民博では1990年から「民博テレフォン情報」で展覧会情報などをながし、利用者サービスをおこなってきた（現在は廃止されている）。楽器展の期間中は、BGMにラテンアメリカ音楽をもちい、場内コンサートなどについての案内をおこなった。また、阪急梅田駅および阪急茨木市駅では電光掲示板や大型テレビによる広報活動も実施した。さらに、万博公園内にはポスター以外に立て看板をたて、万博外周道路にも横断幕を掲示した。ちなみに、現在ではあたりまえになっているホーム・ページは当時まだ開発されていなかった。楽器展では、ホーム・ページにふさわしい映像などの情報が多かっただけに、この点は残念であった。

表2 普及係がおこなった広報活動

1	印刷物		
	ポスター	B 2 送付用	4,000枚
	チラシ	B 5 送付・配布用	200,000枚
2	ポスター・チラシの送付		5,487枚
	ポスター・チラシ	近畿小・中・高校	5,487枚
		諸機関	1,814ヶ所
		(そのうち旅行者など	513ヶ所)
	チラシ	学校・諸機関	7,432ヶ所
3	看板掲出等		
	ポスターの掲出	万博公園内	5ヶ所
	看板の掲出	万博公園内	4ヶ所
	横断幕の掲出	万博外周道路	1ヶ所
		特別展示館南北壁面	
	電光掲示板	阪急茨木市駅前	
	大型テレビによるビデオ放映の提出	阪急梅田駅2階中央改札口付近	2月15日～5月30日
		(月～土曜日 17回／日、日曜日 13回／日)	
4	テレフォン・サービスの実施		
	週刊みんぱくテレフォン情報		2月15日～5月28日
5	みんぱくカレンダー、万博公園だより などに広報		
6	プレス懇談会		3回
	内覧会		3月15日
7	関連事業		
	研究公演	1994年12月10日「マリンバ・ナショナル・コンサート」	
		1995年5月27日、28日「ボリビアの音楽と踊り」	
	みんぱくゼミナール	1995年3月18日「中南米への弦楽器の伝播とその変容」	
		1995年4月15日「アジアの音楽の変容」	
		1995年5月20日「アンデスからカリブへ」	

4. アンケート調査の方法と結果

上述したように、楽器展はさまざま実験的な展示をおこなったので、その成果を知るためにアンケート調査を実施した。楽器展の展示の意図と方針が入館者に正しく伝わったかどうか、そして、その反応について知るためである。質問は、展示や広報、入館回数など、別紙1に示したように22～25項目におよび、個人入館者に向けておこなった。団体客は概して滞在時間が短く、落ち着いてアンケートに回答している時間がとれないと判断したからである。

アンケートの最大の目的は、楽器展の新しい試みに対して入館者の反応や意見を知るためのものであった。そのため、22～25項目中18項目が展示に関する質問であった。会期中に展示場内での楽器演奏などの有無など条件が変化したため、調査項目の内容と数

は配布時期によって若干違う。なお、アンケートは会期中盤から後半にかけて3回にわけ、約1週間ずつ実施した。

こうして約3週間のアンケート調査で、2,473人から回答を得ることができた。これは約5万人の総入館者数の約5パーセントに相当している。回収率の平均は約30パーセントで、予想以上に多くの人が回答してくれた。アンケートの質問項目が多かったにもかかわらず、このように多数の回答を得たのは、楽器展が新しい試みをいくつもしていたからであろう。また、自由記入欄には展示や広報について、さまざまな貴重な意見が寄せられ、入館者の展覧会への関心の高さや民博への期待の大きさをうかがうことができた。寄せられた貴重な意見や要望を最大限に生かすため、本稿では、あえて広報や展示に関する記録もすべて掲載することにした。

以下では、まずアンケートのなかから主だった項目ごとについて意見を紹介しながら私自身のコメントを加える。なお、マルチメディア・コーナーについては、先述したように別途にアンケート調査がおこなわれ、それについての報告もなされているので（草場・高橋 1996）、ここでは扱わない。また、図録については、すべての入館者が購入していないので、これについても本稿では言及を必要最小限にとどめる。

♪わかりやすく、親しみやすい展示にむけてご協力を♪

本日は、「ラテンアメリカの音楽と楽器」展に、ようこそ、お越しくさいました。今回の展示会は民博(国立民族学博物館)の創設20周年を記念し、わかりやすく、親しみやすい展示をめざして、さまざまな試みをしております。この展示会に対して皆様のご意見をうかがい、これからの新しい展示に生かしたいと願っております。このアンケートはそのためのものです。皆様がたのご協力をお願い申し上げます。

月 日

- 1) 男 女
- 2) 年齢 10才未満 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
- 3) 住所 大阪府(市・町・村) 大阪府以外(都・道・府・県)
- 4) 職業
- 5) この展示会を知ったのは、つぎのどれですか。
 テレビ ラジオ 新聞 雑誌 情報誌 チラシ ポスター
 月刊みんぱく みんぱくテレフォン情報 電光掲示板(阪急梅田・阪急茨木市駅)
- 6) 国立民族学博物館に何回来られましたか?
 初めて 1～2回 3～4回 5回以上
- 7) ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 8) ベニヤ板の床について
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 9) 演奏の様子をマネキンで表現した展示について
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 10) 展示コーナーのテレビについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 11) 展示コーナーのスピーカーについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 12) コンサート用のステージについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 13) ビデオシアターについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 14) 展示の解説について
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 15) 写真のパネルについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない

- 16) 手でふれることのできる展示について
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 17) 「鳴らすと、わかる」試奏コーナーについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 18) 展示場内でのコンサートについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 19) いっしょに演奏することについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 20) ボランティア・グループによる2階のアルバの演奏と試奏について
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 21) 展示案内リーフレットについて
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 22) 展示場の案内係について
 とても良い 良い ふつう 良くない 悪い わからない
- 23) この展覧会のイメージについて
 明るい 暗い かたい やわらかい わからない その他 ()
- 24) この展覧会にあなたはどのくらい満足しましたが
 とても満足 満足 ふつう 不満足 とても不満足
- 25) 自由にご感想ご意見をお聞かせください (売店、展示照明、図録などもふくめて)

Muchas gracias! Muito obrigado! Thank you very much! ご協力ありがとうございました。♪♪

① 入館者数の推移

上述したような展示および広報の準備をしたうえで、楽器展は3月16日にオープンした。そして5月末までの2ヶ月半（65日間）のあいだに5万人あまりの入館者をむかえた。まず、初めに楽器展への入館者の全体像をみておこう。毎日の入館者数は、普及係（当時）によって集計されているので、ここではその記録を利用することにする。それによれば、会期中の毎月の入館者の推移は、個人と団体をあわせた1日平均が3月は315人、4月には597人、そして5月には1,199人と毎月ほぼ倍増している。さらに1週間ごとの入館者の推移を表しているのが図8で、このグラフを全体として見ると、次のような傾向がうかがえる。

- 1）入館者は会期の前半に少なく、後半になって増加する。
- 2）入館者がとくに少なかったのは、開催の後約1ヶ月間であった。
- 3）入館者が急増するのは連休頃からで、個人入館者とともに団体も多くなる。

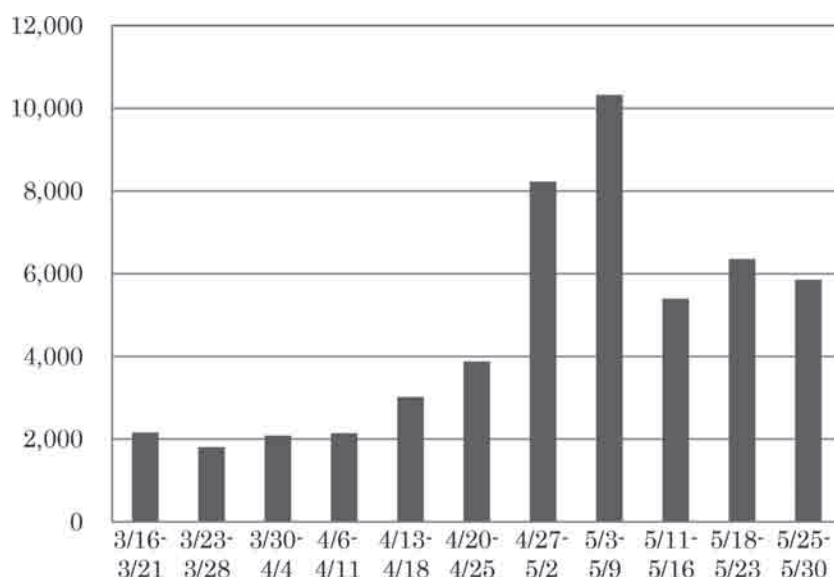


図8 入館者数の推移

このような入館者数の推移を生みだした背景について、少し検討しておこう。まずもって指摘しておかなければならないのは、阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件の影響である。1995年1月17日に発生した大震災は、被災地はいうまでもなく阪神間にある博物館や美術館にも大きな影響をおよぼした。休館した博物館もおおく、先述したように民博も45日間の休館を余儀なくされた。また中止になった展覧会もすくなくなく、楽器展も中止か、延期かと思ひ悩む時期もあった。このような状況のなかでオープンした展覧会であったためであろう、開催したばかりの第1週の入館者数は1週間全体でも2,160

人（1日平均360人）と少なかった。

これに追い打ちをかけたのが、オウム教団による地下鉄サリン事件であった。東京の地下鉄でサリン事件がおこった2週目の入館者は1,805人（1日平均301人）とさらに2割ちかく落ち込んだ。先述したように大震災と地下鉄サリン事件の影響で世のなか全体がくらく、展覧会どころではないというムードが充満していたせいであろう。

もうひとつ考えられる理由は、開幕後1ヶ月くらいのあいだは、広報がまだ十分に浸透していなかったのではないかとことだ。それというのも、テレビやラジオなどのマスコミが「楽器展」をさかんに取り上げてくれるようになったのは、4月半ば頃からだったからである。これも大震災や地下鉄サリン事件の影響によるところが大きいだらう。

当時の状況は、世相の暗さにくわえて、マスコミのあいだでは「歌舞音曲」をひかえるといった自粛ムードもあった。このような状況のなかでは、音楽と楽器を対象にした展覧会は、マスコミなどの広報メディアにはなじまなかったようである。このころ、私は入館者のあまりの少なさの原因などを知るために、毎日のように展示場に詰め、入館者に意見や感想を聞いていたが、ライブ・コンサートの時間になっても数人ほどの入館者しかおらず、演奏者たちに申し訳なくて泣きたいような気持ちになったものだ。この当時の記録が残されているので、それを少し紹介しておこう。

そのライブ・コンサートに、ほとんど人の集まらないことが少なくなかったのである。コンサートは午前中に1回、午後に3回の一日に4回実施していたが、平日で雨の降ったときなどはコンサートの時間になっても数人しか入場者がいないことも珍しくはなかった。こんなとき、管理部や情報管理施設の非常勤の女性職員たちがしばしば聴衆として応援にかけつけてくれた。これは本当に有難いことだった。研究部からも応援があり、手をあわせて感謝したいほどのときもあった。

たとえば、ある日の朝のこと、コンサートを始めようとしたら入場者が2、3人しかいなかった。コンサートを中止しようか、それとも早目に切り上げようかと考えていたとき、数十人の和服の女性の団体客が入ってきた。これは天の助けかと思ったら、民博の熊倉功夫教授が連れてきてくれた団体だった。このときばかりは、正直なところ、「神さま、仏さま、熊倉さま」と思ったほどであった。（山本 1995）

一方で、会期の後半になって、個人、団体ともに入館者が増加したのは、しだいに広報活動の効果がでてきたといえることができるだろう。とくに、入館者の増加がいわゆるゴールデンウィークとよばれる、4月末から5月上旬にかけての連休前後にピークをむかえるのは、広報の浸透や世相の好転、さらに万博公園への入場者数の増加などに関係をもつのであろう。ただし、5月5日の祭日は4,070人という最高入場者数を記録しているが（写真13）、この日は無料入館日であった。

とくに連休前後からの入館者数の伸びには団体入館者の増加が大きく貢献しているが、



写真13 特別展示館を埋め尽くした入館者（1995年 5月5日）。

これは広報のおかげと判断してよいであろう。それというのも、団体の大半は小・中・高校および大学などの、児童、生徒、学生であり、民博への訪問はかなり前から学校行事の予定に組み込まれていたと考えられるからである。

最終週の入館者で個人の数に注目すると、前週の2倍近い入館者が記録されている。閉幕前のかけ込み入館者がとくに多かったといえる。これにはちょうど閉幕の2週間前にテレビで放映された、楽器展に関するNHKの特別番組の影響もあるのかもしれない。

② 年齢別にみる入館者

年齢別による入館者には、ひとつの大きな特徴があらわれている。それは、20代の若者が入館者のうちの37パーセントと群をぬいて多かったことである（図9）。これにつづくのが30代（17パーセント）で、20代と30代だけで入館者の半分以上を占める。これに、10代（12パーセント）を加えると66パーセントとなり、楽器展の入館者の大半は10代から30代までの若い世代であったことがうかがえる。この資料には団体が含まれていないが、団体の大半が生徒、学生であったことを考慮にいれると、楽器展の入館者は圧倒的に若い人たちであったと言えるだろう。

これは、今回の展覧会が音楽と楽器を対象にしたもので、どちらかといえば若い人たちが関心をもつテーマであったことから当然の結果とみることもできるかもしれない。しかし、若い入館者が多かったことは、逆に彼らがこれまであまり民博を知らなかった、あるいは来ていなかったことも物語るようである。この点について、さらに詳細にみるために入館回数の内訳を検討してみることにしよう。

③ 入館回数

入館回数は図10に示したように、全体の入館者のうち31パーセントが初めて民博に来

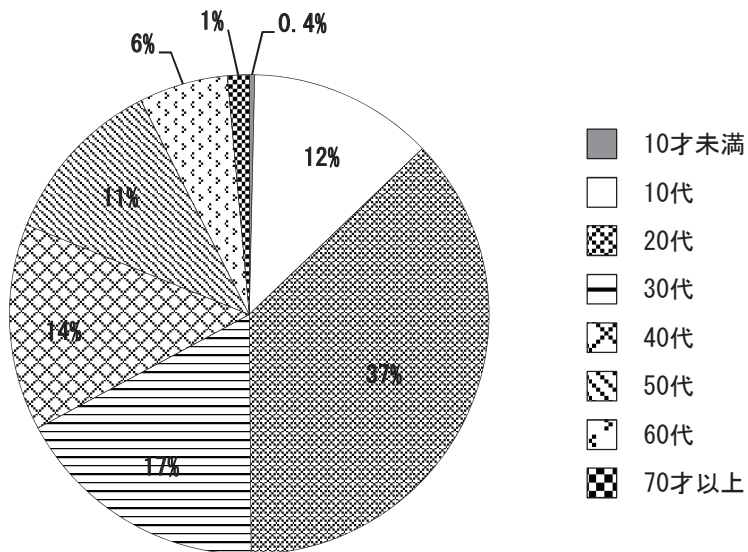


図9 年齢別入館者

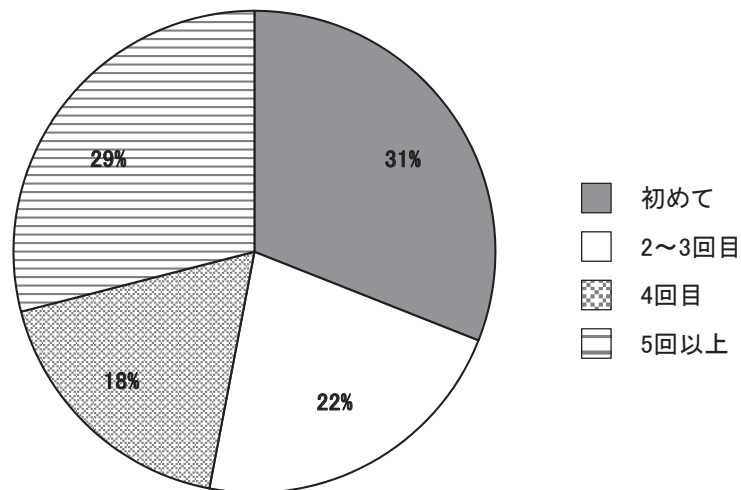


図10 入館回数

た人たちであった。また、これまで2、3回しか入館したことのない人を入れると、全体の入館者のうちの半分以上の53パーセントを占める。これを多いとみるか、少ないとみるかは判断のわかれるところであろう。しかし、楽器展で初めて民博に入館した人が、開館して20年ちかくなった時点でさえも、3割を超えたのはさきわめて多いと判断してよいであろう。

実際、これまで民博では特別展や企画展の実施のたびに入館者の入館回数を調査して

いるが、公表されたものはほとんどない。そのようななかで、表3は開館以来楽器展までの常設展および企画展での入館回数を示したものである。この表が示すように、楽器展での初入館者が30パーセントを超えているのは異例である。

表3 民博入館回数の推移*

(%)

区分	時期	開館半年後 1978年4月	開館7年後 1984年11月	民族誌映画会 1985年8月	仮面展 1990年	楽器展 1995年
初めて		81.3	61.7	28.4	10	31
2回目		12.1	20.6	16.7	18	22
3回目		3.0	8.1	5.1	28	
4回目		1.2	1.5	3.6		18
5回目以上		2.4	8.1	46.2	20	29

*秦（1987）、佐々木（1992）などを参考に作成。

開館半年後では、「初めて」が81.3パーセント、すでに「2回」が12.1パーセント、「3～4回」が4.2パーセント、「5回以上」が2.4パーセント、であった。それが、開館12年後におこなわれた「仮面展」では、それぞれ10パーセント、18パーセント、28パーセント、20パーセントとなっている。この結果から、「仮面展」の報告書では、「この12年のあいだに当館が大幅に知られるようになってきているといえよう」と結論づけている（宇野 1992: 38）。

さて、それでは表3に見られるような楽器展での入館者の入館回数をどのようにみるべきか。たしかに、4回以上および5回以上の入館者数も多いことから民博が広く知られるようになってきていることはまちがいない。いっぽうで、「楽器展」での31パーセントの初入館者数は、これまで民博を知らなかった、もしくは知っていても来ることがなかった人が増えているという事実を示すものではないか。

この意味で、さきほどの「年齢別グラフ」で20代の入館者が群をぬいて多かった事実は、「初めて」来た人が多かったことを裏付けているようである。これに団体も含めると、初めて入館した人の大半が若い人たちであったと考えられる。先述したように、団体の大半は児童、生徒、学生であったからである。

④ 居住地別入館者

図11は、楽器展への入館者の居住地を府県別にグループわけしたものである。これによれば、大阪府下から来た人が入館者の半分以上の60パーセントを占めている。つづいて、兵庫県が13パーセント、京都府が11パーセント、奈良県が4パーセント、滋賀県が2パーセント、東京都が2パーセントとつづく。このように大阪府下からの入館者が圧倒的に多いが、これは地の利からいって当然であろう。しかし、震災の被害が甚大であった兵庫県からの入館者数が大阪について多かったのは、予想外であった。

参考までに、図12に2016年の特別展から2017年の特別展までの居住地別入館者数を示したが、大阪、兵庫、京都の順で入館者数が多いのは変わらないようである。

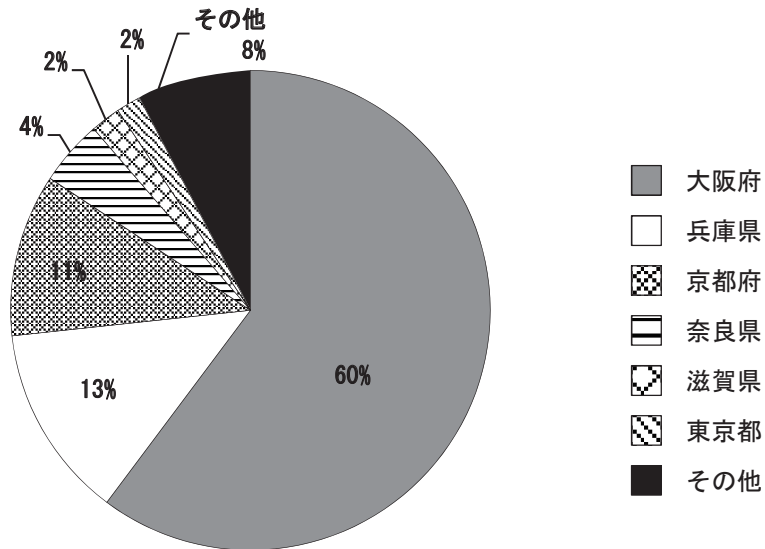


図11 居住地別入館者（1995年）

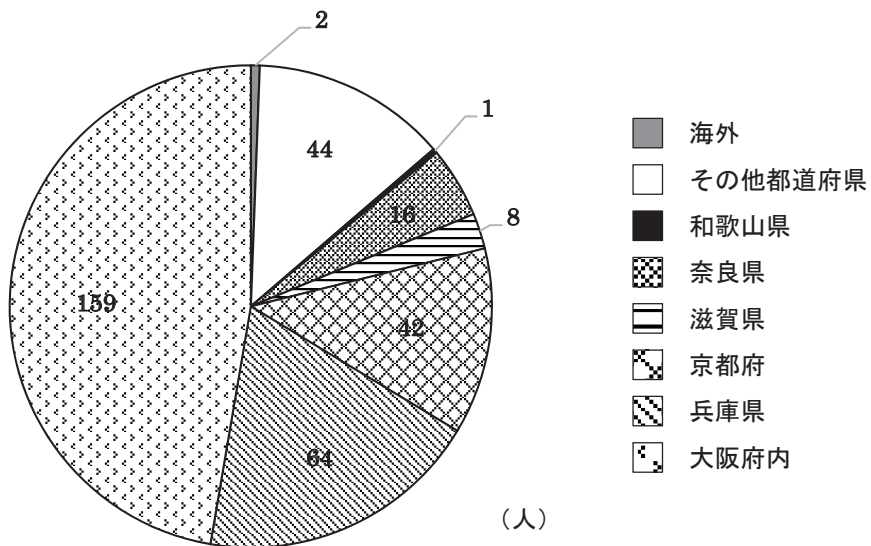


図12 居住地別入館者数（2016～2017年）

さて、入館者数の大半をしめた大阪府からは、どこの市から来た人がおおかったのでしょうか。それを示したのが、図13である。これによれば、大阪府とはいっても、そのうちの6割以上が北摂地域（大阪府北部）から来た人たちであった。人口から言えば、大阪市の方が吹田市や茨木市などよりはるかに多いにもかかわらず、入館者の大半がいわば地元の北摂地域からきた人であったのは注目すべきことであろう。つまり、この点からみるかぎり、民博はきわめて「ローカルな博物館」といえるかもしれないのである。

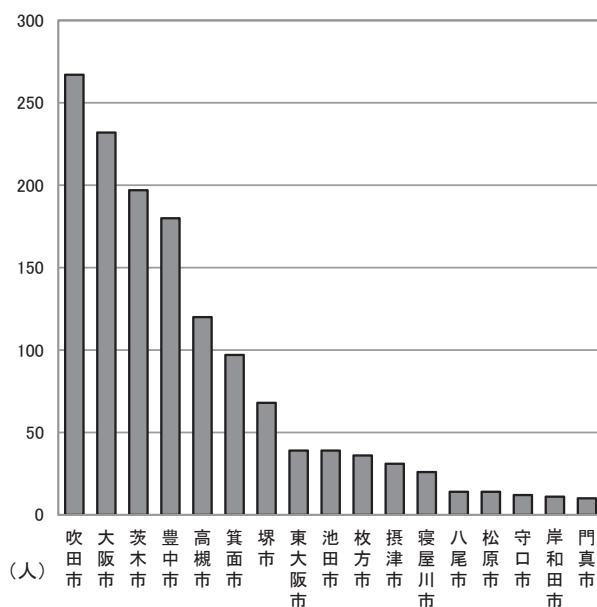


図13 大阪府下の居住地別入館者数 (人)

⑤ 琵琶湖博物館との比較

ここで、他の博物館と比較してみよう。参考になる博物館がひとつある。それは、滋賀県にある県立琵琶湖博物館（以下では琵琶博と略す）である。琵琶博は県立の博物館であるが、民俗・民族資料も多数展示しており、この点でも民博の比較対象として適当であると考えられる。

この博物館で特筆すべきことは、開館前後の時期を例外として、この20年ほどのあいだ毎年40万人ほどの入館者をむかえ、ほとんど増減がないことである。図14は、同館が開館した1996年から2016年までの21年間の入館者数を示したものであるが、この20年ほどのあいだだけを比較しても同館の入館者数は民博の2倍前後の40万人と多く、とくに昨年度（2016年）は入館者数が45万人を突破しているのである。

では、なぜ琵琶湖博物館では、これほど入館者が多いのか。しかも、この入館者が多

い状態を20年にわたって維持しつづけられるのであろうか。これは、現在の民博にとって大変重要な問題なので、この点については少し紙幅をさいて詳しく検討しておきたい。以下では、民博と比較しながら、まず同館を紹介することにしよう。民博の教員だけでなく、管理部や情報管理施設のスタッフにも、同館を訪れた人が少ないと思えるからだ。まず、同館の特徴を紹介しておきたい。

琵琶博は、滋賀県のちょうど真ん中あたり、琵琶湖に面した烏丸半島に位置している(写真14)。また、同館のパフレットによれば、「(琵琶博は) 湖をテーマとした博物館としては日本で最大規模であり、琵琶湖と人間の関わりについての展示、淡水専門の水族展示を含め多彩な展示を行なっています」とある。

次に、同館と民博の規模を比較しておこう(表4)。まず、同館と民博の展示面積を比較しておきたい。展示面積は、琵琶博が約6,000平方メートルであるのに対し、民博は約9,700平方メートルと、民博は琵琶博の2倍に近い。また、展示に大きく関わると考えられる研究員の数は、同館が29人(行政職3名、教員1名)であるのに対して、民博は専任の教員だけでも2017年の時点で52名と琵琶博の2倍に近いのである。

表4 琵琶湖博物館と国立民族学博物館との比較*

博物館名	開館年	展示面積	研究員の数	入館者数(平成28年度)
県立琵琶湖博物館	1996年	約6,000平方メートル	25名(行政職・教員は除く)	約45万人
国立民族学博物館	1987年	約9,700平方メートル	52名(専任教員のみ)	約24万人

*民博「要覧」(2017)および琵琶博「要覧」(2016)等をもとに作成



写真14 琵琶湖博物館全景(琵琶湖博物館提供)。

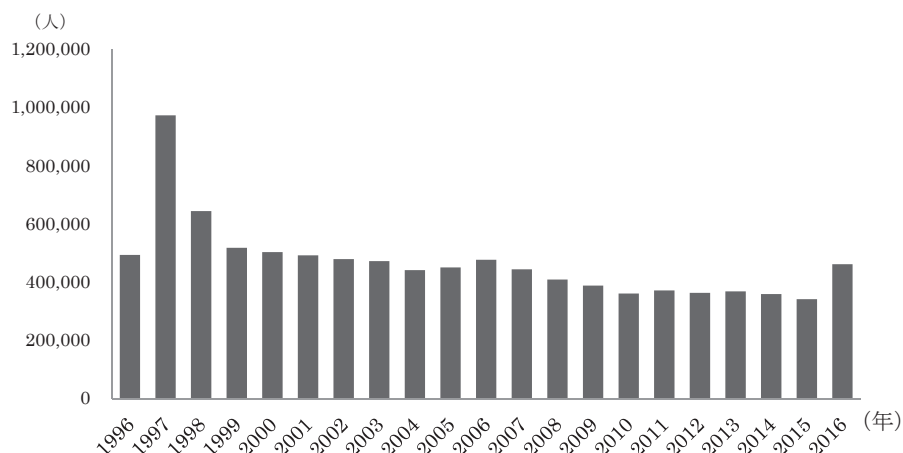


図14 琵琶湖博物館の入館者数 (人)

つまり、展示面積のうえでも、研究者の数のうえでも、民博は琵琶博の2倍の規模をもっていることになる。にもかかわらず、入館者数のうえでは、民博は琵琶博の2分の1でしかないのである。これは、なぜなのか。

この点で、しばしば民博の入館者の少なさの理由とされる「地の利の悪さ」について、検討してみよう。たしかに、民博はかつて「陸の孤島」とよばれたほどに、アクセスが困難なところに位置していた。しかし、その状況はいまでは大きく改善されている。モノレールが開通したことにより、以前はバスでしか行けなかったところにも比較的容易に行けるようになったからである。

では、琵琶博はどうか。同館への最寄りの駅はJRの草津駅であるが、そこからは1時間に1本しかないバスで向かうしかなく、「地の利の悪さ」という点では民博をしのぐ。それを如実に示すものがある。同館へ入館した人たちの交通手段を調べたアンケート調査の結果である。それによれば、2015年8月の調査では、入館者のうち、約86パーセントの人たちが自家用車で来ている。また、2016年3月の調査によれば、約91パーセントの人たちが自家用車で来ている。ちなみに、JRの草津駅から琵琶博まで、タクシーであれば3,000円以上もかかる。なお、琵琶博での駐車料金は無料であり、これも同館の入館者数の増加に大きく貢献しているにちがいない。

この琵琶博訪問で、最近、面白い経験をしたので、それも報告しておこう。じつは、私は、この拙稿をまとめるために、2017年に入って2回同館を訪れている。1回目は、4月10日、2回目は連休中の5月4日であった。その1回目は、一般の人たちが「どのようにして琵琶博を訪れるのか」、それを知るためにJR草津駅からバスで同館を訪れた。私にとって、同館の訪問はフィールド・ワークの一環であると考えたのである。しかし、4月10日(月)は、同館の休館日であった。

そのため、私は5月4日に同館を再訪した。さいわいに、この日は晴天であったので、琵琶博周辺の環境条件を知るために、JR草津駅からはバスではなく、タクシーで行った。琵琶博への道は、JR草津駅周辺の町を過ぎると、すぐに田んぼと畑のなかにつけられた農道を行く。この農道を走っているとき、面白い光景にであった。農道を一羽のキジが横切ったのである。

このキジとの出会いを面白い光景と述べたのは、かつては民博の周辺に広がる万博公園でもしばしばキジの姿を見たからである。それは、今から30年も40年も前のことであるが、近年では万博公園でキジの姿を見ることはない。おそらく、万博公園周辺の環境が激変したせいであろう。それにともなって、万博公園周辺の交通状態も整備され、万博公園にはモノレールが走っているし、万博公園の外周道路も、祝日ともなれば、しばしば渋滞するのである。

この状態とくらべれば、琵琶博の周辺は、きわめて長閑な光景が広がっている。農道をキジが行くだけでなく、空ではヒバリがさえずっているし、水が張られた田んぼでは鴨が泳いでいる。これらのことは、いいかえれば、それだけ琵琶博が「地の利」の悪いところに位置していることを物語るであろう。じつは、万博公園でもかつてはヒバリがさえずっていたが、これも近年では鳴き声を聞くことはなくなった。これは、それだけ万博公園周辺の「地の利」がよくなったことを物語るのではないだろうか。

こんなことを考えながら、琵琶博に入館して、たいへん驚いた。琵琶博周辺の、のんびりした光景とは違って、あまりにも入館者が多かったからである。それも、子ども連れの家族が多かった。そんな光景を見たのは、民博では開館当時しか、私の記憶にはない。そして、私はそんな光景を眺めながら、民博における入館者の少なさを「地の利」の悪さに求めることは、そろそろ止めたほうがよいのではないかと、思った。そもそも、「地の利」のよい場所に位置している博物館というのは、どれくらいあるのだろうか。規模が大きくなればなるほど、博物館は都心部から離れざるを得ないであろう。そして、都心から離れれば離れるほど、「地の利」は悪くなるからである。

ここで、思い出した博物館がある。それは、愛知県の犬山市にある、野外博物館「リトルワールド」である。「地の利の悪さ」といえば、同館は琵琶博のそれをしのぐ。大阪からであれば、新幹線で名古屋まで行き、名古屋からは私鉄で犬山まで、そして犬山からはバスで行くしかない。にもかかわらず、同館の入館者数は、琵琶博より多く、民博の約2.5倍の50万人に達している。じつは、私は同館が好きで、若いころ（1990年代）、週末に家族連れで、しかも泊りがけで、よく訪れた。しかし、交通が不便なので、いつも大阪から車で行ったものである。なお、同館の駐車料金は800円である。

それでは、リトルワールドの何が私をひきつけたのであろうか。展示されているものは、民博と同じように民族資料が中心である。展示されている資料の点数では、民博がリトルワールドを圧倒するが、展示の方法が大きく異なる。リトルワールドの目玉的な

展示は、大阪の万博公園の約半分に匹敵する広大な博物館の敷地のなかで、屋外に移築された数多くの民家なのである。そこには、ネパールから移築された寺院や、ペルーの海岸地帯に建っていたアシエンダ（大農園の豪邸）など約50もの世界各地の建物が再建されている（写真15,16）。これらは、きっと入館者に大きなインパクトを与えるものになっているにちがいない。また、大人だけでなく、子どもも楽しめる展示になっている。

じつは、リトルワールドは最初から子どもが楽しめる博物館を目指してつくられたようだ。実際、リトルワールドの創設にたずさわった元館員の鹿野勝彦は次のように述べているのである。



写真15 ネパールから移築された寺院（リトルワールド・2017年5月7日）。



写真16 ペルーから移築された大農園の豪邸（リトルワールド・2017年5月7日）。

われわれの場合、研究博物館というのじゃなくて、もうすこし民族学入門という意識がつよいものですから。最初から一貫して、こどもにたのしく遊びながらいろんなものを見てもらえるような博物館にしたいということがあり、……。 (梅棹 1987)

また、同館は関連イベントも豊富である。私が同館に通っていたころは、コンサート・ホールで、ペルーの民族音楽グループ6人が毎日演奏していた。私たち家族が同館をしばしば訪れていたのは、この楽団の演奏を聴くためであった。そして、これがきっかけとなり、後にこの楽団には大阪まで来てもらい、民博の研究公演「アンデスの音楽と踊り」をやってもらった。この楽団こそは、今回の楽器展でライブ・コンサートを実施していたロドリゲス・ファミリーにほかならなかったのである (山本 1988)。

ここで、再び、琵琶博の話題にもどり、その周囲の状況についても見ておこう。一説によれば、琵琶博のまわりには観光地が多いので、同館の入館者が多いのは当然とみなす説もあるようだが、はたして、この説は正しいのか。念のため、琵琶博の館員に真偽をたしかめたところ、一笑にふされてしまった。むしろ、滋賀県には観光地が少なく、そのため琵琶博そのものが、観光地のひとつとして人気を得ているのだそうだ。

琵琶博との比較のため、私は琵琶博を訪れた翌日の5月5日(祝日)、同じ時間帯(午後1時頃)に民博に行き、館内を見てまわった。この日も晴天で、万博公園のまわりの外周道路はひどい渋滞であった。私は、抜け道をとおり、ようやく民博にたどりついた。民博のまわりに広がる万博公園は多くの人出でにぎわっていた。「今日こそは、民博も賑わっているか」と大きな期待をもって入館して、まず目についたのは入館者ではなく、民博のボランティアの人たちであった。ほかでもない、入館者の人影が少なかったからである。

館内も万博公園の賑わいがウソかと思えるほど、ひっそり静かであった。そこで、私は特別展示場にも足を運んでみた。ちょうど特別展の「ビーズ展」がひらかれていたからである。しかし、特別展示館にも期待したほどの人影はなかった。たしかに、平日にくらべれば入館者は多かったが、私には「祝日の特別展としてはちょっと淋しいな」というのが正直な印象であった。

これは、私が20年あまり前の企画展「楽器」展を想いおこしていたからかもしれない。じつは、楽器展では、この日と同じ5月5日に、楽器展最多の4,070人もの入館者があったのだ。あまりにも入館者が多かったため、管理部サイドからは「入館者制限をしろ」といわれた。たしかに、2階の回廊状の展示場も入館者で埋めつくされており、大震災のあとであったこともあり、入館者の一部から「これでは危険ではないのか」という声がきかれたほどであった。

さて、琵琶博とは、どのような博物館なのであろうか。まだ見ておられない方には、ぜひ足を運んで、同館を見学していただきたいが、ここでは簡単に同館の展示室を紹介

しておこう。同館の展示室は、A,B,C,の3つの展示室と水族展示室から構成されている。このうち、A展示室は「琵琶湖のおいたち」、B展示室は「人と琵琶湖の歴史」、C展示室は「湖のいまと私たち―暮らしとつながる自然」、そして水族展示室は「湖のいまと私たち―水の生き物と暮らし」を展示している（琵琶湖博物館 2013）。このなかで、もっとも人気があり、いわば「目玉」的な展示は、同館の関係者によれば、水族展示室だそう（写真17）。



写真17 琵琶湖博物館の水族展示室の一部（2017年 5月4日）。

水族展示室は、簡単にいえば水族館である。ただし、一般の水族館と大きく異なるのは、同館の水族展示室では、琵琶湖や周辺の河川に生息する淡水魚を主として展示している点だ。これは、少なくとも関西で唯一の展示であろうし、それが人気を博する一因になっているのかもしれない。しかも、これらの魚は剥製ではなく、生きて泳いでいるのだから、大きな親しみをもって展示を見ることができる。

同館で得た情報によれば、魚だけで124種、14,000尾も飼育しているそう。そのなかには、ハヤやドジョウのような小さい魚から、ビワコオオナマズのような巨大なものまでいて、まったく退屈させない。また、同館は、魚を水槽に入れて見せるだけでなく、その魚が棲息する河川や湖周辺の植生などもわかる生態展示もしている。その結果、小さいころ、野山でウサギ狩りをしたり、小川でフナ釣りをした私のような人間にとっては、それこそ童謡の「ふるさと」を思い起させる原風景を見ているような展示ともなっている。そのため、私は水族展示室では、しばしば足をとめ、展示を眺めながら、野山を駆けまわっていた少年時代を懐かしく思いだしているのである。

ちなみに、琵琶博が飼育している生物は、魚類だけではなく、脊椎動物では両生類、爬虫類、哺乳類、そして無脊椎動物では甲殻類や貝類まで含まれるそう。そして、こ

これらの飼育には、研究員もかかわっているという。おそらく、そこには、民博のような民族資料だけを保存管理するのとは大きく異なった苦労があると想像される。その苦労があればこそ、琵琶博の入館者も多いのであろう。

このような展示の存在もあり、同館は、大人だけでなく、子どもも一緒になって楽しめるものになっている。同館には、魚だけでなく、実物大のマンモス（レプリカであるが）もいれば、移築した農家や琵琶湖畔の環境を展示したコーナーもある。つまり、琵琶博は、琵琶湖に関する総合博物館であり、入館者の多様な関心をうけとめるものになっているのである。

私の率直な感想をいえば、同館の展示を見たあと、「おもしろかった」「楽しかった」「これなら、また見に来たい」と思ったものだ。実際に、私は同館を数度訪れており、リピーターのひとりなのである。

それでは、私は何を面白いと感じたのであろうか。その一部については、先述したので、ここではくりかえさない。じつは、諸岡博熊などが今後の博物館のあり方をめぐって、博物館には面白さが必要だということをくりかえし論じているが（諸岡 1990; 1991）、展示を見た入館者がどのような展示を面白いと感じるのかについて論じた議論はほとんどなかった（布谷 2005）。このような状況のなかで、上田篤（1989）はミュージランドを提唱して、博物館の楽しさを強調している。また、諸岡は、五感を通じて感じる事ができる雰囲気楽しさを強調している。

もちろん、このような意見には異論もあるだろう。博物館にはさまざまなものがあり、必ずしも面白さや楽しさを目指しているものばかりとは思えないからだ。たとえば、歴史や戦争などを扱った博物館の展示はどうしても暗くなったり、悲しくなったりするかもしれない。少なくとも楽しさや面白さとは無縁になるかもしれないのである。

それでは、民博はどうか。民博は、世界各地の異文化や暮らしを中心にした展示をおこなっており、「戦争博物館」や「歴史博物館」とはやや様相が異なるだろう。たしかに、異文化を展示する難しさはあるが（この点の詳細については川口（2009）などを参照されたい）、一方で人びとの暮らしも展示するのであれば親しみやすく、楽しい展示もできるのではないか。

この点でも、琵琶博の展示方法には参考になるものが少なくない。たとえば、移築された民家がそうだ。民博にも、秋山郷から移築された民家があるが、それにはほとんど人の気配が感じられない（写真18）。一方、琵琶博に移築された民家は、昨日まで人が住んでいたような気配が感じられる（写真19）。この違いが何によるのか、それは今後の課題であるが、琵琶博の展示には、さまざまな工夫がこらされているようだ。

たとえば、民博の民家は出入りができないが、琵琶博の民家は靴をぬぎ、畳にあがって、高度成長期の前の琵琶湖畔における暮らしの一部が体験できるようになっている。つまり、民博の民家は見るだけのものであるのに対し、琵琶博の民家は体験できるもの

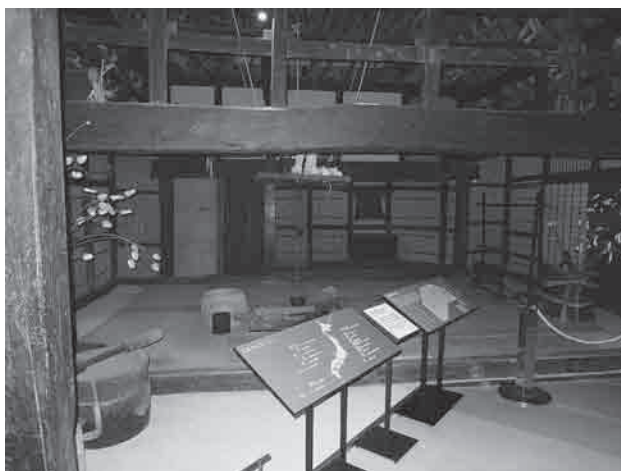


写真18 移築された秋山郷の民家内部（民博・2017年 5 月 5 日）。



写真19 移築された琵琶湖畔の民家（琵琶博・2017年 5 月 4 日）。

になっているのである。実際に、私がこの琵琶博の民家を訪ねたとき、若い人たちのあいだからは「レトロやなあ」という感嘆の声があがっていた。一方、その翌日に訪ねた民博の民家の展示場では、立ち止まる人もほとんどおらず、閑散としていたのであった。

一方で、気になるデータがある。それは、研究者と展示の関係についてである。琵琶博から得た情報によれば、同館の常勤研究者25名の研究者のうち、21名が学芸員の資格をもっており、学芸員の資格をもたない4名は最近採用された者で、いずれ取得する見込みだという。これに対して、民博は、私を含めて大半の研究者が学芸員の資格をもっていない。つまり、民博の教員の大半は展示に関しては素人なのである。

この違いが、民博と琵琶博の入館者数の違いにも示されているのではないか。学芸員の有資格者は少なくとも博物館学は履修しているだろうし、その実習もうけていると聞いている。これが、琵琶博の展示にも役だっているようだ。実際、私の印象によれば、琵琶博の展示は「親しみやすく、楽しい」ものになっているのだ。

それでは、この点について民博はどうか。これも外部の人の声に耳を傾けてみよう。次は、民博の展示に対する外部評価に掲載された意見である（国立民族学博物館 2002: 22）。

（民博の全体のイメージについて）総じて、無造作に商品が並べられているスーパーマーケットです。悪く言えば、人の香りのしない商品倉庫です。人の香りのしない無機質な空間には、人々は行きたがりません。

これは、はなはだ厳しい意見であるが、民博の常設展示場に、このような雰囲気があることを私も否定しない。この「人の香りのしない」という点について、同書では次のようにも述べている。

総じて民博の展示場は、ひと気がないという印象をうける。

これは、私も常々感じていることである。先述したように、私は民博の展示場を見て歩くことを日課のようにしていたが、そのおり「これでは閑古鳥が鳴いてもしかたがない」と思ったことが何度もある。

この展示場については、もうひとつ気づいていることがある。それは、展示場でほとんど教員の姿を見ないことだ。これも琵琶博との大きな違いであろう。琵琶博では、しばしば研究者が展示場に行き、入館者と会話している姿を見るが、民博でそのような教員を見たことは、少なくとも私にはない。これも民博の展示場に「ひと気がない」という印象を与えている一因なのかもしれない。

この点についても、外部評価委員会からは、次のような厳しい声が届いている。一部に先述した文章と重複している部分があるが、そのまま引用しておきたい。

（民博にとって）一番致命的なのは人の香りがしないことである。一つは展示物から人の香りのしないことである。もう一つは研究者の顔が見えないことである。展示物の背後にある研究者の息吹が聞こえないと、見る方も1回きりになってしまう。（国立民族学博物館 2002: 30-31）

じつは、楽器展は、展示場を「親しみやすく、楽しい」ものにしようという点に焦点をあてた展示であった。それには、次のような事情があった。じつは、私は楽器展を実施する10年ほど前、先述したようにペルーに3年間滞在していたが、当時のペルーは社会状態が不安定で、反政府テロが激化していた。私が主として暮らしていた首都のリマ

も非常事態下にあり、夜間の外出も禁止であった。そのため、日本のマスコミなどでは、南アメリカといえば、テロ、インフレ、治安の悪さばかりを取り上げていた。しかし、現地で暮らしていると、そのような状態の反面、音楽や踊りを楽しむ人びとの暮らしも目についた。それこそ、ペルーにもラテンアメリカらしい陽気な面があり、私にはマスコミに対する反発もあった。こうして、私はラテンアメリカの音楽と楽器に焦点をあてた展覧会を企画したのであった。

民博における入館者数の減少の原因には、いくつかの理由がありそうだが、そのひとつが入館者の居住地、つまり入館者がどこから来るか、ということと大きな関係がありそうだ。図15は、琵琶博の入館者の居住地を比較したものであるが、民博とは違い、地元の滋賀県だけではなく京都や大阪も多い。たしかに、開館した初年度は滋賀県内が50パーセントを超えていたが、2年目以降、滋賀県内は25パーセント前後となり、京都、大阪がそれぞれ20～25パーセントを占めるようになった。この分析をおこなった嘉田たち（嘉田他 2000）は、「年度を追って、大阪、京都以外の近畿圏や、名古屋などの東海地域が増えつつあることは、遠隔地からの入館者が増えつつあることを意味している」と述べている。これには、先述したように琵琶博の近くには無料の広大な駐車場が近くにあるおかげも大きいようだ。

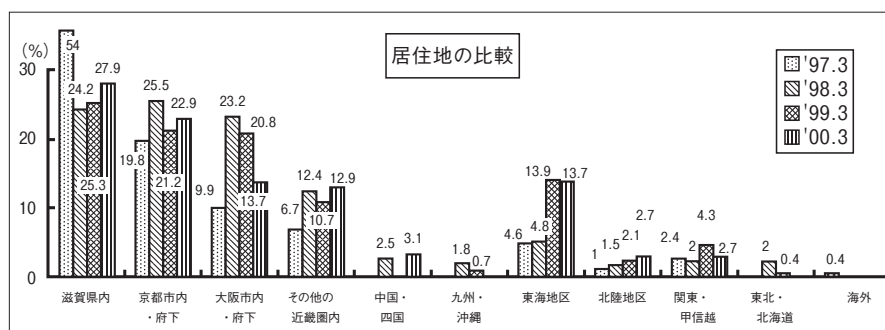


図15 琵琶湖博物館における入館者の居住地の比較

このように琵琶博では、地元の入館者数の減少を京都や大阪、その他の地域の入館者がカバーしているようだ。だからこそ、同館の入館者数は極端に減少することがなく、コンスタントに入館者が多いと考えられる。一方、入館者の大半を地元の人が占める民博では、地元の入館者数の減少はすぐに民博の入館者数の減少にむすびつくのではないか。もしそうであれば、そして民博の入館者数の増加を望むのであれば、地元の北摂地域だけでなく、近畿一円にまで視野を広げ、入館者の掘り起こしに努力すべきであろう。そのためには、広報のあり方なども再考してみる必要があるのかもしれない。聞くところによれば、琵琶博では日常的に学芸員を含むすべての館員が広報活動に力を入れている。

るのに対し、民博の楽器展では広報不足という声が多かったからである。この点については後述する。

一方で、阪神・淡路大震災の影響の大きかった兵庫県から京都府よりも多い13.1パーセントもの入館者があったことは注目すべきことである。そのなかには、被災した方もおられたようで、次の回答はそのような人からのものである。

今日の一日をお与え下さって感謝しております。私共夫婦は神戸の長田で被災。大阪へ避難してまいりました。どんなにか、パラグアイの御姉妹の演奏になぐさめ励まされ力付けられました。何卒神戸の罹災者が今日の日を感じていたかお伝え下さいますように。音楽は一つ、パラグアイそしてラテンアメリカは近い国になりました。このような企画をして下さった皆様に感謝します。ガレキの街からのがれ緑一杯の万博公園で、心いやされ心労がいやされました。最後に震災に対して頂きました御援助にも厚く御礼を申し上げプレゼントして下さいました知人にも感謝を。(原文ママ)(大阪市・無職・60代)

このアンケートを目にしたとき、私は「たとえ入館者数が少なくとも、たとえひとりであっても、このような入館者がいる限り展覧会をやるべきであった」と嬉しく思ったものである。地震の被災者からも励まされたようで、私にとって大きな励みになったからである。

⑥ 展覧会を知った広報メディア

グラフ全体を見てわかることは、「友人・知人」「ポスター」「チラシ」などが広報に大きな効果をあげていることだ。これらの合計は全体の半分以上、57パーセントを占めた。とくに、「友人・知人」は全体の約25パーセント、全体の4分の1を占めている(図16)。一方、今回最も大きな期待をかけたテレビやラジオは、合計しても19パーセントにすぎなかった。したがって、楽器展の広報では、マスコミより、いわゆる口コミによる広報が大きかったと言えるだろう。以下、それぞれのメディアごとに、もう少し詳しく検討してみよう。

意外にも、もっとも利用された広報メディアは「知人・友人」による口コミであった(図16)。これに「民博関係者」による広報を加えると、その割合は全体の34パーセントにおよぶ。これは特筆に値するだろう。第1回企画展の仮面展でも広報メディアのトップは口コミであり(24パーセント)、その影響力の強さは仮面展の「報告書」でも指摘されている。このような口コミの数の多さは展覧会を評価するひとつの基準になりそうだ。展覧会の評価が高いからこそ、展覧会を見た友人や知人から評判を聞いて入館することになると考えられるからだ。次のアンケートの回答はそれをよく物語っている。

「コンサートが良いときいてきました。子供(5才、小2)は楽器にさわれて満足そうでした。それとボラド―レスに興味をもち、ビデオもよくみていました。博物館や美術館に行

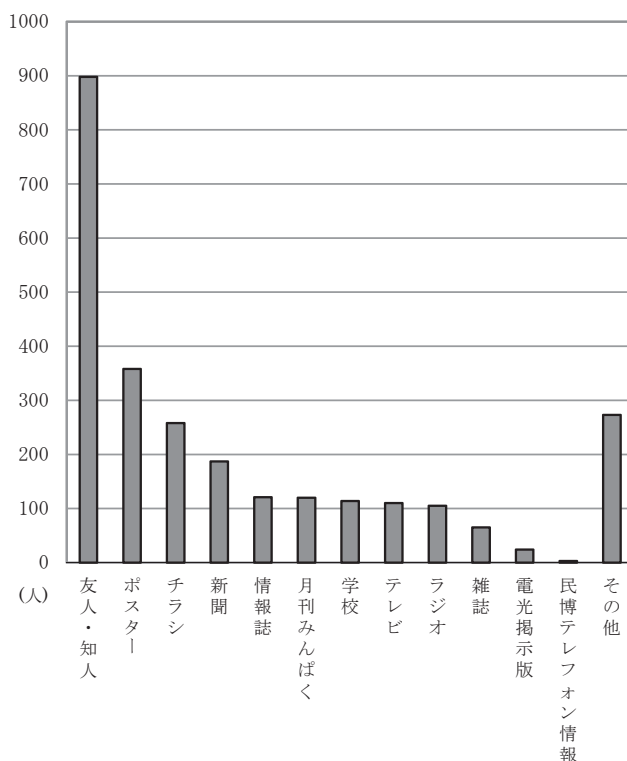


図16 展覧会を知った広報メディア（1995年）

くと、子供に触ったらダメばかり注意しないとダメなので親子ともストレスがたまるのですが、今回は触って鳴らせて Very Good でした。」（女性・30代・吹田市・教員）

また、「民博関係者」から展覧会を知った人のなかには、招待券をもらって入館した人もいたにちがいない。そのような人が今回の様々な新しい試みに好感をもち、それが口コミとなって展示の内容が広がっていったことも考えられる。実際に、次のような感想がこのような口コミによる広がりを裏付けている。

「音楽好きの娘を連れてくればよかったです。」（女性・30代・寝屋川市・主婦）

「実際に触れて音を自分で確かめられてとても楽しかったです。子ども（小学生）も連れてきたらよかったと思いました。」（女性・40代・高槻市・公務員）

口コミによる広報の効果の大きさは、すでに海外でも指摘されている。消費者行動に関する研究では、口コミは、新聞雑誌の7倍、セールスマンによる勧誘の4倍、ラジオ広告による2倍効果的であるという（Katz・Lazarsfeld 1955）。この口コミによる効果の

大きさについてはフォークとディアーキングも次のように述べている。

「宣伝的ではない口コミ情報は、それが恐らく誰かの客観的な実体験に根ざしているが故に信頼性と正当性と信憑性をもっている。親族や友人たちは、恐らく他人にとっても楽しい体験になると信じるからこそ、奨めるのである」(フォーク・ディアーキング 1996)。

この口コミで注意しなければならない点は、展示が期待に反して楽しいものでなければ、逆効果になることである。次のアンケートによせられた意見は、それを代表するものであろう。

「国立なのだからもっと料金をおさえるべき。これでは地元の友人に『良かったから行ってみて』とはとても言えない。むしろ『高くておそまつなので行かん方がええ』と言いつたのである。」(女性・20代・吹田市・主婦)

「友人・知人」に次いで多かった広報メディアは、「ポスター」と「チラシ」であり、それぞれ全体の14パーセントと10パーセントを占めている。ポスターやチラシによる効果は、「鳴らすと、わかる」というキャッチフレーズや、そこに表現された楽器展のコンセプト「明るく、親しみやすく、わかりやすく」が見る人に伝わり、好感がもたれたのかもしれない。実際に、ポスターを見て入館した人から「総じてセンスがよい」という回答もあった。一方で、広報内容を見て期待したものと、実際の展示にギャップを感じた人もいたようである。

「前宣伝が大きすぎたのか大満足というところまでいかなかった。」(女性・50代・埼玉県)
「もっと楽器をさわれると思った。」(女性・20代・高槻市)

この「もっと楽器をさわれると思った」という意見は少なくなく、なかには次のような厳しい意見もあった。

「試奏コーナーの楽器が少ない。“鳴らすとわかる”と銘うってあるからにはもっと多くの楽器を陳列すべき。あんなに少ないのなら“鳴らすとわかる”などと書かないでほしい。」(吹田市)

これは、いささか誤解もあったようだ。主催者側としては、「鳴らすと、わかる」というキャッチフレーズは必ずしも試奏コーナーにおいて自分自身で楽器を鳴らすことだけを考えていたわけではなかった。ライブ・コンサートやレクチャー・コンサート、さらにビデオ・シアターなどで音楽を楽しんでもらうことも、「鳴らすと、わかる」ことだと考えていたのである。このことは、逆にいえば、キャッチフレーズがきわめて大きな影響をもつことを物語るものであり、今後はキャッチフレーズや副題の付け方には反省すべき点がありそうだ。

「ポスター」「チラシ」に次いで多かったのは「新聞」であった。具体的にいうと、「新聞」を見て入館した人は全体の8パーセントで130人であった。「新聞」での記事掲載は20回あり、これが効を奏したようである。その背景には、コンサートのある展覧会という珍しさやマルチメディアなど話題性のある展示などもあったようだ。この「新聞」については次のような声があった。

「今回の企画を二月頃でしたか、新聞で知りました。」(40代・大阪市・教員)

「新聞や地域紙などでの広報を望みます。」(女性・20代・池田市・ピアニスト)

「月刊みんぱく」を見て入館した人は全体の5パーセントで、「新聞」による入館者に近い120人であった。「月刊みんぱく」は発行部数が約1万で、友の会の会員のほか、関係諸機関にも送付され、楽器展については3回の関連記事を掲載している。この「月刊みんぱく」の送付先は近畿圏のみでなく、全国各地におよんでいるので、遠方からの入館者の増加に貢献していると考えられる。

楽器展の広報で最大の誤算は、テレビやラジオによる効果が小さかったことだ。共催相手にNHK きんきメディアプランを選んだ背景には、テレビやラジオでの広報に期待していたことがあったが、実際にはテレビやラジオの広報によって入館した人は少なかった。具体的にいうと、テレビと回答した人は109人(4.1パーセント)、ラジオと回答した人は105人(4.0パーセント)であった。これは、先述したように阪神・淡路大震災および地下鉄サリン事件の影響が大きかったからかもしれない。テレビやラジオは公共放送の性格をもつため、公共性の強い天災や事件は展覧会の広報にも大きな影響を与えたと考えられるからである。

「その他」と回答した人は、数としては第3位になる273人(16.4パーセント)もあり、「友人・知人」、「ポスター」につづくほど多かった。「その他」の回答者には具体的に展覧会を知ったメディアを自由に記述してもらうように回答欄をもうけたが、約半数の147人から記述が得られた。それによると、この147人が「来てから知った」という人たちであった。そこで、具体的にいくつかの声を再録しておこう。

「たまたま今日来たらやってたから知った。」(女性・10代・松原市・高校生)

「万博公園に来てわかった。」(女性・20代・会社員)

「日本庭園へ来て知った。」(女性・60代・豊中市・主婦)

「来たらやってた。」(男性・20代・大阪市・会社員)

このほか、「通りがかり」「偶然来訪して」「美術館に来て」「公園入り口で」「切符売場自動販売機で」「ぶらぶらして」などの声もあった。これほど「来てから知った」人が多いことはアンケート結果を集計するまで予想外であったが、一方で早い時期から広報が十分でないという声も届いていた。とくに展覧会場で毎日実施していたライブ・コンサ

ートや週末におこなっていたレクチャー・コンサートに関しては、入館するまで知らなかった人が多かったようだ。実際、「ポスターやチラシにコンサートなどの案内が不足」や「レクチャー・コンサートの予定 etc. が、もっと外部にPRされてもよかったと思う」という指摘もあった。

じつは、これは震災などの影響により、コンサートの予定発表が遅れ、そのせいでポスターやチラシに会場内でのコンサートについての情報を載せることができなかったからであった。これらの苦情に関しては展覧会場などでも直接に訴える入館者も少なくなかった。

実際には、コンサートの情報は民博テレフォン情報で流していたが、図16にも示されているようにテレフォン情報はほとんど利用されていなかったようだ。そこで、民博側では展覧会の途中であったが対応を考え、実施した。具体的には、スピーカーを特別展会場から外に向けて出し、ライブ・コンサートの音声を流すという工夫をした。また、公園内に掲示したポスターの上には、ライブ・コンサートの演奏風景の写真を貼り、「演奏中」という掲示もした。こうして、偶然万博公園に遊びに来た人たちのなかには、スピーカーから流れてくる音楽や、「演奏中」と写真を掲示したポスターを見て興味をもち、楽器展に足を運んだ人もいたようである。

アンケートの回答にも、「偶然、近くに来て初めて入館しました。とても興味深く、楽しむことができました」(女性・愛知県・フリーター)、「館外へ音楽を流す効果が良かった」(男性・30代・東京都・会社員)という意見があり、効果があったと考えられる。

以上述べたような「来てから知った」入館者数の多さを裏付けるものとして、次のような「広報不足」の声が少なくなかった。

「私はチラシをブラジル料理のお店で頂きましたが、もっとあちこちで宣伝があると、行きやすいと思いました。今まで知らなくて残念だったと思いました。ずい分、以前からこういうイベントを開催しているんですよ。」(女性・20代・大阪市・フリーター)

「もっと宣伝してほしい。」(30代・豊中市・公務員)

「民博を通じて、もっとPRすべき。」(40代・茨木市)

「初めて来て、感動しました。これほどおもしろい展示なのに東京方面では知られていないのが残念です。……私は一応教職者なので、生徒集めてきたいと思います。」(女性・30代・神奈川県・教員)

「よかった。でももっとたくさんの人にこういう展示の存在がわかるように宣伝したらいいと思います。」(女性・20代・守口市・会社員)

「この博物館は「ハンズオン (HANDS ON)」方式のとても身近な博物館ですから、学校(小・中・高校)や教育機関、一般の人々にもっとPRをさかんにすれば、もっと多くの人が存在を知って、このすばらしい博物館にきてくれると思います。」(20代・八尾市・大学生)

「わたしは近くに住んでいますので、良く来るのですが、もっともっとピーアールされて沢山の方々に見、聞いていただきたいと思いました。」(女性・50代・豊中市・主婦)

具体的に広報の方法について提案した意見もあった。なかでも次の提案は面白く、これからの広報の方法にひとつの方向を示しているようだ。

「南米でのNo.1スポーツのサッカーと音楽は非常に深い関係があると見たり聞いたりしています。こういう催し物をする時は万博競技場でのガンパの試合の時にタイアップしてみるのも面白いのではと素人考えですが思います。」(男性・20代・奈良県・公務員)

とにかく、梅棹が述べているように「博物館にとって広報は死活問題」であり、広報の方法についてはさらなる研究が必要なようだ。

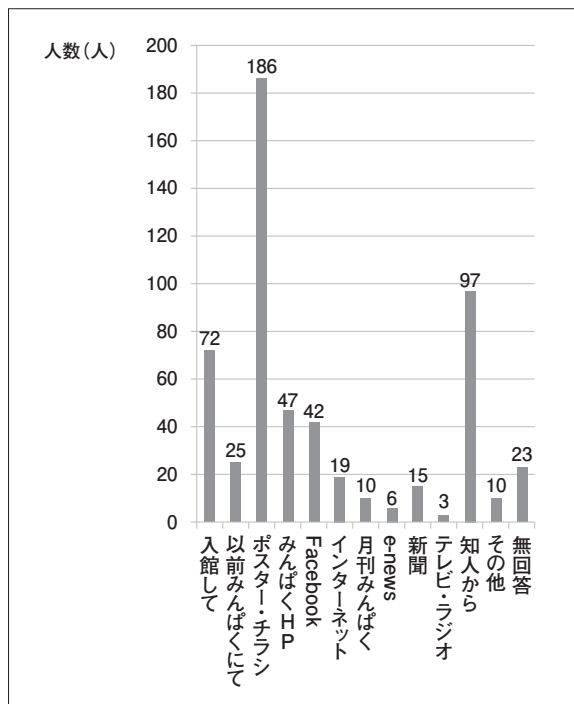


図17 展覧会を知った広報メディア (2017年)

ここで参考までに2017年におこなわれた特別展「ビーズ展」における展覧会を知った広報メディアについても述べておこう。楽器展当時とは大きく変化している点があるからだ。その最大のものは近年ではネットの利用がさかんであり、グラフにも示されているように、フェイスブック、ホームページなど、インターネットによる広報をあわせれば新聞よりも多くの人が利用しているのである(図17)。なお、このグラフでは口コミによる広報の影響はさほど大きくなかった。ひょっとすると、口コミによる影響の大きさは仮面展や楽器展に特異なものであったのかもしれない。一方で、ビーズ展では、ポス

ター・チラシによる広報の効果がきわめて大きかった。これは大変興味深い現象であるが、その理由は不明である。

⑦ ドラム缶によるラテンアメリカのイメージ

楽器展では、1階の展示場だけで1,000本あまりの彩色したドラム缶を積み上げて、導線を示したり、展示物のグループわけをおこなった。これらのドラム缶はインパクトが強かっただけに、多くの入館者を驚かせた。これは実験的というより、いささか冒険的とも言える試みであったかもしれない。しかし、アンケート調査によれば、「とても良い」と回答した人が20パーセント、「良い」と答えた人が40パーセントで、この試みは一定の成功をおさめたと言えるかもしれない（図18）。ただし、その意図を疑問視する声もあった。そのせいか、このドラム缶についての意見は極端にわかれたので、相反する意見をそのまま紹介しておこう。

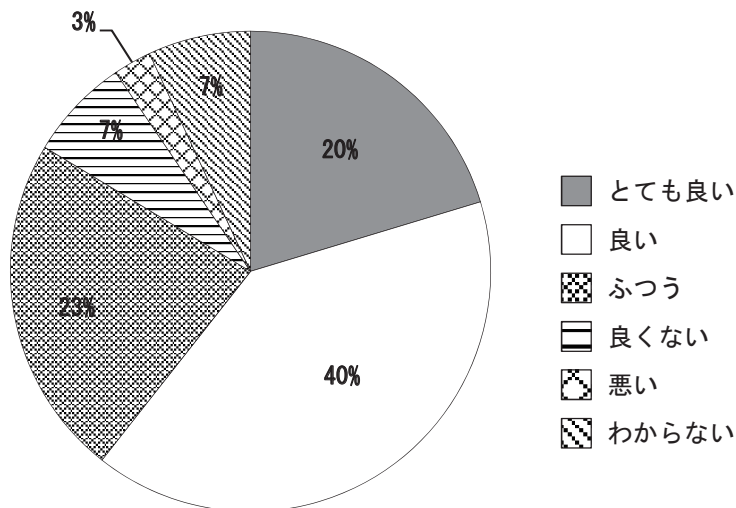


図18 ドラム缶に対する評価

「ドラム缶にはびっくりしました。個人的にあまり好きではありませんが、こうした試みをいろいろしていく事は必要と思います。」（男性・20代・広島県）

「[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について] めっちゃとても良い。ペイント缶のいすも良い。」（女性・30代・吹田市）

「民族博物館の展示ってムズカシイですね。わかりやすく並べなきゃいけないし、かといってあまりに並べすぎると平面的な展示になってしまうし。その点、今回のドラム缶を使ったりベニヤ板を床に使った展示はとても面白かったです。何よりドラム缶を使うことで立体的になったと思う。でも背景（ドラム缶に文字）はよかったです。」（女性・20代・千葉県）

「ドラム缶は何を狙っているのか分らんが、従来の博物館にありがちな『堅苦しく観賞する』というイメージを払拭しようとしているのは良い試みだと思う。」（男性・20代・兵庫県）

「大量のドラム缶にびっくりしたのと同時にとても新鮮に写った。」(女性・20代・滋賀県)

一方で、「ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示」について、「なぜドラム缶なのかわからない」という声も少なくなかった。また、「[ドラム缶は] イメージがブラジルにかたよらないでしょうか」、「[ドラム缶のイメージは] メキシコだけって感じ」、さらに「ドラム缶はアフロのイメージを感じる」という声もあった。さらに、「ラテンアメリカにはドラム缶のイメージより、自然・緑・水空・海・太陽のイメージの方が欲しかった」という意見もあった。

こうしてみると、入館者はラテンアメリカにさまざまなイメージをもっていることがわかる。それを統一的なイメージでまとめるのは、やや無理があったのかもしれない。それというのも、楽器展が対象としたラテンアメリカはじつに広い地域であり、そこには都市もあれば、自然が豊かに残るアマゾン流域のような地域もあるからだ。私自身は、音の出るものなら何でも楽器にしてしまうラテンアメリカの特色をドラム缶の再利用によるスチール・パン（ドラム）に象徴させようとしたのであった。わずかながら次のようにこの意図を理解した人もいた。

「ドラム缶を使っている所がなんでも楽器にしてしまうラテンアメリカほくて感心してしまっただ。」(女性・10代・奈良県)

一方で、入館者にもラテンアメリカに対する固定的なイメージがあるらしく、ラテンアメリカといえば「底ぬけに明るい」という声が少なくなかった。このような反応はある程度予想できたが、私は一般の日本人に浸透しているラテンアメリカのステレオタイプの見かたに挑戦してみようという思いもあった。実際に、私の観察によればラテンアメリカ全体が底ぬけに明るいわけではなく、政情不安で暗い地域もある。このような点も考慮すれば、広大で多様な地域性に富むラテンアメリカのような場合、もっとニュートラルな統一的イメージでまとめた方が良かったのかもしれない。

なお、ドラム缶による展示については、阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件の影響もかなりあったようだ。展示のオープン当時、口頭で伝えられたのは、積み上げてあるドラム缶が地震などによって倒壊しないかという心配の声であった。そのため、オープンしてから約1週間後にも、補強工事をおこなった。また数多くならんだドラム缶は地下鉄サリン事件も想像させたようだ。実際、アンケート調査でも、「ドラム缶のペンキの臭いがきつい」という声も多く寄せられた。

⑧ ベニヤ板を敷いた床

先述したように、1階展示場の床にはベニヤ材を敷きつめた（写真20）。これは、手作りのものが多いラテンアメリカの楽器のイメージにあわせて木のもつ暖かみ、ぬくも

り、そして素朴さを感じてもらうためであり、約半数の人が好意的な印象をもったようである。一方で、35パーセントの人が「ふつう」と答え、「良くない」「悪い」という回答もそれぞれ7パーセントと1パーセントずつあった（図19）。

まず、肯定的な意見から紹介しておこう。



写真20 ベニヤ板を敷きつめた1階展示場の床（1995年）。

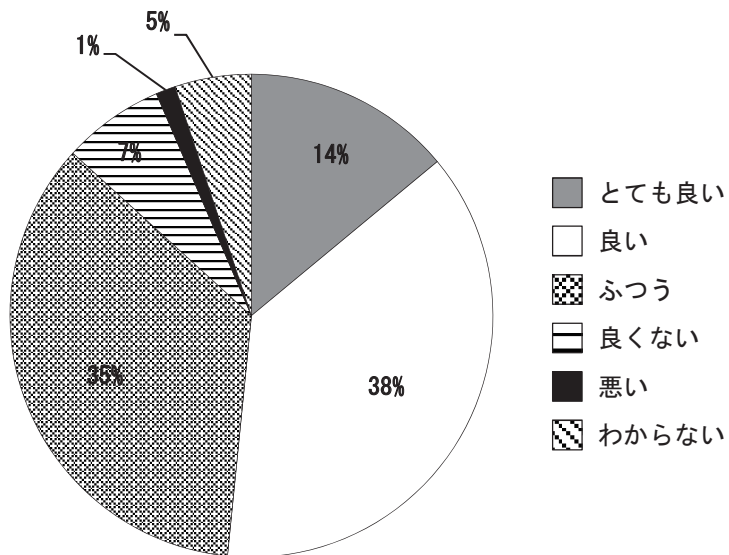


図19 ベニヤ板の床に対する評価

「ベニヤ板の床も木の香りがして気持ちいいと思います。」（女性・20代・大東市）

「中の展示の様子、ダンボールやドラム缶、ベニヤなどの展示が効果的だったと思う。なん

か、おもしろいなあ、と思った。」(女性・20代・京都府)

「ベニヤ板の床も独特の香りがして快適な雰囲気でした。」(男性・20代・奈良県)

「ドラム缶とベニヤ板に何の意味があるかわかりませんでしたが、アンケートにこたえてみてはじめて分かりました。ラテンアメリカの雰囲気づくりに力をそそがれていることは良いことだと思います。」(女性・20代・兵庫県)

このほか、「ベニヤ板の床は」素朴であるとの回答もあり、当初の意図が理解されたと感じた。一方で、次のように相反する意見もあった。

「[ベニヤ板の床は] 歩きやすい」、「Pタイルより足がつかれない」という答えがある一方で、「足元のベニヤはすこしふわふわしていて安定がよくなさそうに見えました」、「一部めくれている箇所があり危険では?」という声もあった。この後者の指摘に対しては何度も応急処置をほどこした。面白い意見もあった。それが次のものである。

「Video Theater を見ながら踊りたかった。まあ、そんなことをしようとする人はあまりいないでしょうが……。」(男性・30代・神奈川県)

じつは、ライブ・コンサートでは、演奏者が演奏するだけでなく、入場者にも演奏に参加してもらい、踊り出す人がいてもよいと考えていた。そのため、踊るためのスペースをとり、床もベニヤ板にしていたのだが、ついぞ踊る人はいなかった。また、手拍子を取る人も少なかった。そのせいで、入場者のなかからも、「聴衆の乗りが悪くて演奏者が気の毒だ」という声さえでてきた。

これは、なぜなのだろうか。軽快なリズムの音楽を聴きながらも静かにしている聴衆を目の前にして、私はラテンアメリカの現地の聴衆とのあまりの反応の違いに驚き、その理由について考えた。固くて暗い民博の雰囲気のせいなのだろうか。しかし、今回の展示場は、かなり明るく、またやわらかい雰囲気をもつように心がけたつもりである。実際に、後述するようにアンケート調査によっても、今回の展示は明るい、またはやわらかいという印象をもったと答えた人が少なくなかったのである。

日本では、音楽は静かに聞くものだと考えている人が多いせいかもしれない。腕組みをし、熱心に聞き入っている人が多いところを見ると、そうなのかもしれないと思う。しかし、入場者のなかには若い人たちも多く、そのなかには体全体でリズムをとり、今にも踊りださんばかりにしている若者も珍しくない。しかし、そんな彼らでさえも決して踊ろうとはしないし、手拍子もなかなかとらないのである。

聴衆が静かなのは、ことばの問題と遠慮がちな日本人の国民性のせいらしいと気づいたのはレクチャー・コンサートを何回かやってからのことであった。レクチャー・コンサートは、ライブ・コンサートとは違い、日本人の奏者によってラテンアメリカ各地の音楽や楽器を紹介することを目的としたものである。そのため、日本語で手拍子をうながされると、みんなで一緒に手拍子をとることになる。そして、みんなでやればコンサ

ートも盛り上がったものとなる。

しかし、それでも聴衆のなかから踊りだした人は会期中一人もいなかった。これはベニヤ板の床のことに限らず、大きな誤算であった。今後は日本人の国民性もよく考えて、展示しなければならないようだ。

⑨ マネキンによる楽器演奏の展示

楽器展では、いくつもの実験的な試みをおこなったが、そのひとつがマネキンを多用し、さまざまな民族の衣装を見せるとともに、楽団がどのように構成されるかということも示した展示であった。この試みに対しても、アンケートによれば「とても良い」が21.9パーセント、「良い」が46.9パーセントで、70パーセント近くの人が肯定的に見ている。一方、「良くない」が5.3パーセント、「悪い」が0.9パーセントで、ドラム缶ほどには否定的な意見は少なかった。それらの声を紹介しておこう。

「マネキンは演奏の様子はわかるけどちょっと不気味な感じがしました。」(女性・20代・豊中市)

「マネキンでの展示のアイディアは良いと思うが、黒い人形だったため恐くて見る気がしなかった。」(女性・20代・豊中市)

「人形が真黒で焼死体のよう。アンデスだから黒い人というのは発想がステレオタイプ。」(女性・40代・豊中市)

「[マネキンの展示は] 子どもがこわがった。」(男性・30代・大阪市)

一方で、次のような回答もあった。

「マネキン表現はよくないが、楽器アンサンブル、配置がわかってよい。」(男性・40代・大阪市)

「人形で演奏者が具体的に示されていたこと、民族衣装を含めておもしろい展示でよかったと思います。」(女性・30代・東京都)

こうして見てくると、マネキンを使った構想自体は悪くなかったようだが、黒いマネキンに違和感を抱いた人が少なくなかったようだ。次の回答は、それを端的に示しているようだ。

「マネキンを使って展示しているのもわかり易くてよかったのだが、あの黒いマネキンはどうも……という気がした。」(女性・20代・島本町)

もうひとつ、採光の影響もあったかもしれない。マネキンを用いた展示コーナーではフラットな光ではなく、スポットライトを使っていたので、全体に暗く、その中で黒いマネキンは暗さをより強調するものになった可能性がある。後述するように、展示のイメージに対する回答のなかに「くらい」と答えた人が少なくなかったのも、その影響が

あったのかもしれない。

マネキンに関しては、展覧会に限らず、常設展などにおいても、どのようなものが適切なのか、意見がわかれ、試行錯誤をくりかえしているが、そろそろ衆知を集めて結論を出すべき時期が来ているようだ。

⑩ ライブ・コンサート

展示場内でのコンサートは、今回の展示のひとつの「目玉」といってよい企画であった。楽器はまだしも、音楽を展示する方法については頭を悩ましたが、かなり早い段階から展示場内でライブ・コンサートをおこなうことにしていた。「楽器は鳴らして音色を出してこそその楽器」であり、その演奏法や楽器の音色なども知ってもらうためにはライブ・コンサートが最適だと考えたからである。そのため、先述したように会期の前半にはペルーから招いたロドリゲス・ファミリーの4人にfolkloreを30分ずつ一日4回演奏してもらった。また、会期の後半にはパラグアイのサナブリア姉妹にアルパとギターでラテンアメリカ各地の音楽を、やはり1日4回演奏してもらった。

では、はたして、この意図は達せられただろうか。アンケートの回答によれば、この意図はかなり達せられたとみてよいだろう。「とても良い」と回答した人が65パーセント、「良い」と回答した人が27パーセントで、あわせると90パーセント以上の人が肯定的な意見を表しているのだ（図20）。その一部を紹介しておこう。

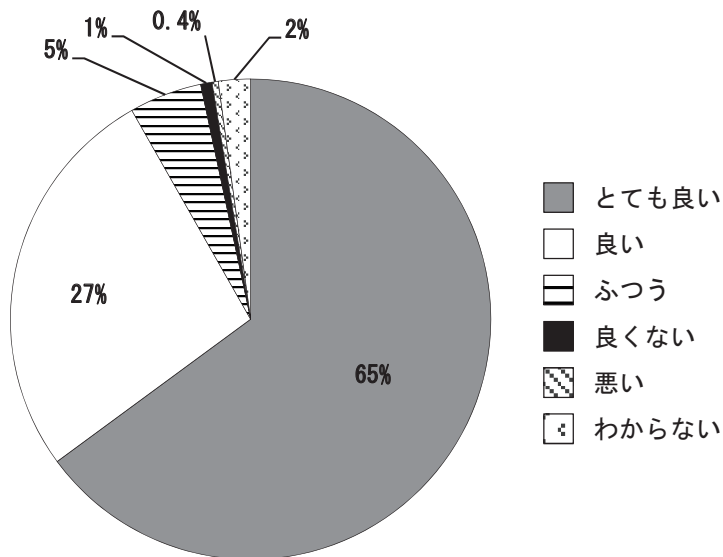


図20 ライブ・コンサートに対する評価

「コンサートがとても感動的で、ラテン音楽の力強さの一端に触れたような気がします。」(男性・30代・京都府)

「コンサートも、最高にいい。同じチケットで何度も入れるのも最高だ。民博は、毎回くるたびに感動して、満足気分で還るが、今日は今までの中で最高に感動、満足している。」(女性・20代・箕面市)

「コンサートが毎日開かれているのがよい。座るところがもう少しあってもよい。」(女性・20代・枚方市)

「コンサートはものすごく楽しかったです。ロドリゲス一家万歳！」(女性・20代・兵庫県)

「ライブ・コンサート・アルバの演奏とてもうれしかったです。年に1回この催しがあってもいいなと思います。」(女性・30代・大阪市)

「サナブリナ姉妹のコンサートがとても良かった。いつも(平日)来る民博と違って、家族連れがとても多くて、好評な特別展だなと思った。音楽は国境や、言葉や文化の違いを越えられるものなんだって改めて思った。」(女性・20代・茨木市)

「民族学博物館というとかたくるしくて古いものばかり展示してあるというイメージがありますが、ライブ・コンサートを取り入れることで民族学を音楽を通じて身近に感じることができたように思います。」(女性・30代・高槻市)

一方で、わずかながら(約1パーセント)、「良くない」「悪い」と回答した人もいたが、アンケートからはその理由がわからなかった。強いていえば、コンサートの開催時間が明示していなかったことくらいであるが、これは広報の項で取り上げたい。とにかく、私はライブ・コンサートを今回の楽器展の目玉的な展示と考えていたので、その意図が大半の入館者に伝わったようで嬉しかった。正直なところ、実験的な展示が成功して、わたしは胸をなぞおろしたものである。

ちなみに、民博の特別展ではパフォーマンスを実施しているものが人気を博しているようだ。その代表的な例が第3回の特別展「大インド展」である。先述したように、大インド展は、大アンデス文明展に次いで2番目に入館者数の多い、11万人もの入館者をむかえたが、この特別展を特徴づけたのはさまざまなパフォーマンスであった。ただし、それは特別展示館の中ではなく、特別展示館の地下ピロティを使っておこなわれた。すなわち、バウルとよばれる吟遊詩人、武術の型から発展したと言われるチョウ・ダンス、民謡をうたうランガ、そして操り人形などである(長野 1991)。じつは、これらのパフォーマンスを見て、私は自分が実施する特別展では「特別展示館をコンサート・ホールに」しようと考えたのであった。

もうひとつ、1998年に実施された「大モンゴル展」もパフォーマンスのあった特別展であった。これは「入館者の五感にうったえて」モンゴルのメッセージをつたえることを目的にした展覧会であった。そのため、「民族音楽は、週末の土曜・日曜に加えて、できるだけ平日も公演」がおこなわれた(小長谷 1998)。この大モンゴル展は、大インド展に次いで民博では3番目に入館者の多い展覧会となったが、これもパフォーマンスのおかげがあったのかも知れない。

このほかにもパフォーマンスのあった特別展はあったが、それらの特別展に関してはほとんど報告がなされていないので、ここで言及することはできない。

なお、大アンデス文明展は、特別展示館でのパフォーマンスこそなかったものの、講堂を使った映画会、6回にわたる連続講演会、アンデス音楽のコンサートなど、関連イベントがいくつもひらかれた。さらに、地下ピロティではアンデス関連のグッズを売る店も軒をつらねていた。

いま振り返ってみると、当時の展覧会は特別展示館の展示だけで完結するものではなく、地下ピロティや講堂なども利用した大掛かりなものであった。そして、それが入館者数の増加にも大きく貢献していたようである。

⑪ レクチャー・コンサート

先述したライブ・コンサートは、ペルー人4名およびパラグアイ人2名の現地ミュージシャンを招いて演奏してもらったが、ペルーとパラグアイだけではラテンアメリカの音楽や楽器の一部しか紹介できない。そこで、日本人のラテン音楽の演奏者を招き、別紙2のように週末ごとにラテンアメリカの各地の音楽と楽器を紹介してもらうことにした。これが、レクチャー・コンサートであった（写真21～26）。なお、この案内を作成した段階ではすべてのレクチャー・コンサートの予定が決まっていなかったため、後に2つのレクチャー・コンサートを追加した。それが、5月3日に実施した、てんてこ座による「手作り楽器コンサート」と5月21日に実施した、ひょうたんバンドによる「君にも楽器が作れるコンサート」であった。さらに、このレクチャー・コンサートとは別に5月5日には屋外でフォルクローレ教室もひらいた（写真27）。



写真27 民博の屋外でひらいたフォルクローレ教室（1995年）。

ここで、このフォルクローレ教室について述べておこう。じつは、この「教室」は当初から予定していたものではなく、展覧会の開幕後に急遽実施したものであった。アンケートに寄せられた声にも散見されるように、コンサートを屋外でひらいてほしいとい

う声が少なくなかったからである。また、展覧会場でも、私に直接「民博は緑に囲まれた、とても環境のよい場所にあるのだから、ぜひ屋外コンサートをひらいてほしい」と訴える入館者の方もおられた。さらに、展示場で見ていると、展示してある笛に顔をよせて、なんとか笛を鳴らそうとしている入館者も少なくなかったのである。

これらの光景を見たり、入館者の声を聞いていて、私はなんとかして、楽器展の開催中に、楽器を自由に手にして、楽器を演奏できる場を作れないかと考えた。その結果、考えたものこそが、特別展示場の屋外で実施することになった「フォルクローレ教室」であった。

ここで、フォルクローレという言葉についても説明がいるだろう。一般的には、フォルクローレという言葉はなじみがないと思えるからだ。フォルクローレとは、簡単にいえば、ラテンアメリカ、とくにアンデスの民族音楽のことである。そこで使われる楽器には、アンデス伝統のものもあれば、ヨーロッパ由来のものもある。さらに、アフリカ起源のものもある。これらの楽器のなかで、私が選んだものは、アンデス伝統の楽器、サンポーニャ、つまり多列笛（パン・パイプ）であった。これは、アンデスでは今から1000年以上前から使われており、アンデスを代表する楽器であると判断したからである。

こうして、フォルクローレ教室は、5月の連休中の5日（「こどもの日」）の午前と午後の2回にわけておこなわれた。講師陣には、アンデス音楽のミュージシャンである「岸本太郎氏とそのアミーゴ達」が駆けつけてくださった。この教室に関する広報がまにあわず、はたして参加者がおられるのかどうか、と気をもんだが、予定していた椅子はすべて満席であった。私自身は、ロドリゲス・ファミリーが万博公園の別会場でおこなっていたコンサートにつきあっていて、「教室」にはあまり顔を出せなかったが、子どもたちの輝く瞳を見ていて、屋外コンサートは成功だったのではないかと胸をなぜおろしたのであった。

さて、レクチャー・コンサートはライブ・コンサートを補うものであり、アンケートの回答によっても、この目的は果たせたようである。すなわち、レクチャー・コンサートを「とても良い」と回答した人は40パーセント、「良い」と回答した人も30パーセントあまりで、大半の人が満足していたようだ。一方で、「わからない」と答えた人が17パーセント、「ふつう」と答えた人も11パーセントおり、この点がライブ・コンサートの評価とは大きく異なった（図21）。

そこで、まずはレクチャー・コンサートを評価した人の声に耳を傾けてみよう。

鳴らすとわかる

ラテンアメリカの音楽と楽器展

コンサートのご案内

創立20周年記念 企画展/3月16日(木)～5月30日(火)

展示会場(特別展示館)内でのコンサートは次のようになっています。

■ライブ・コンサート

- ① フォルクローレ ファミリア・ロドリゲス(ペルー)……………3/16(木)～4/25(火)
ペルーの代表的なフォルクローレグループ、いつもはファミリー12名で活動している。
今回は中心メンバーの兄弟姉妹4名が、ラテンアメリカの音楽と歌を演奏。
- ② アルバとギター サナブリア姉妹(パラグアイ)……………4/27(木)～5/30(火)
きらびやかな音色の民族楽器アルバはパラグアイを代表する楽器。姉カローラは女性アルバ奏者としてはパラグアイ随一の技術をもつ。
- 〔演奏時間帯〕 ●第1回目/11:00～11:30 ●第2回目/12:30～13:00
●第3回目/14:00～14:30 ●第4回目/15:30～16:00

■レクチャー・コンサート (より身近にラテンアメリカ諸国の音楽と楽器を感じていただくコンサート。)

- ① チリのギタロン……………3/19(日)、4/16(日) 11:00～14:00～(各45分間)
25本の弦をもつ珍しい弦楽器ギタロンとクエッカの踊り。(演奏:千葉 泉 他)
- ② アルゼンチンのバンドネオン……………3/25(土) 14:00～ 3/26(日) 11:00～14:00～
タンゴの演奏に欠かせないバンドネオンの音色は味わい深い。ヴァイオリンの共演もあり。(演奏:タンゴ・アンサンブル「アストロリコ」)
- ③ ボリビアの知られざる楽器……………4/2(日) 11:00～14:00～
講師はフォルクローレの宝庫・印皮アで伝統的な音楽を追求。珍しい楽器の紹介と共に演奏も。(演奏:杉山貴志 他)
- ④ ブラジルのピリンパウ……………4/8(土) 14:00～ 4/9(日) 11:00～14:00～
アフリカのアンゴラから伝わりブラジルのバイーア地方でポピュラーな一弦楽器の紹介と演奏。(演奏:丸山祐一郎)
- ⑤ メキシコのカンシオン……………4/22(土) 14:00～ 4/23(日) 11:00～14:00～
日本を代表するラテン歌手。メキシコ各地やラテン諸国の様々なリズムに乗せてデュエットで。(演奏:マリキータ&シロー)
- ⑥ キューバのバタ……………4/29(土) 14:00～ 4/30(日) 11:00～14:00～
バタはキューバを代表する両面楽器。この太鼓の解説と共に演奏も。(演奏:グルーボ・アケ)
- ⑦ トリニダード・トバゴのスチール・ドラム……………5/13(土) 14:00～ 5/14(日) 11:00～14:00～
スチール・ドラムはドラム缶を利用した楽器。カリブに浮かぶトリニダード・トバゴの民族楽器スチール・ドラムの素敵な音色を楽しみ、実際にドラムを叩いてみよう。(演奏:原田芳宏)

※このほかにも計画中のものがあります。出演者の都合により日程が変更することもあります。

- みんばくゼミナール(3/18、4/15、5/20)、みんばく友の会講演会(4/1、5/6)、研究公演(5/27)のある時は、14時の演奏はなくなります。
- レクチャー・コンサートのある土曜日は、14時の演奏はなし。おなじく日曜日は、11時と14時の演奏がなくなります。

【主催】 国立民族学博物館、NHKきんきメディアプラン

● 問い合わせ先 ●

吹田市千里万博公園10-1 TEL:06-876-2151
通関みんばくテレフォン情報
TEL:06-878-9211



写真21 レクチャー・コンサート「チリのギタロン」(1995年)。



写真22 レクチャー・コンサート「アルゼンチンのタンゴ演奏」(1995年)。



写真23 レクチャー・コンサート「ボリビアの知られざる楽器」(1995年)。



写真24 レクチャー・コンサート「キューバのパタ」(1995年)。



写真25 レクチャー・コンサート「メキシコのカンシオン」(1995年)。



写真26 レクチャー・コンサート「トリニダード・トバゴのスチール・ドラム」(1995年)。

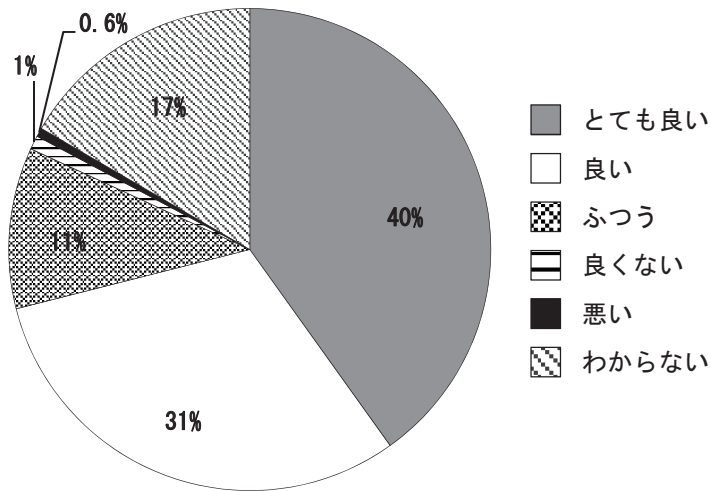


図21 レクチャー・コンサートに対する評価

「レクチャー・コンサートはビリンパウ、ギタロンについて、バタと三回目。カンシオンも来たかったが残念。バタも大変おもしろく楽しめました。」(男性・50代・兵庫県)

「レクチャー・コンサートが楽しみで時間が合うかぎり来ています。毎回珍しい楽器の説明、弾き方の説明があり、希望者には教えて下さり、素人がやると、どんなに難しいかを実感し、リズムなどを分解して聞かせてくださり、それぞれのリズムと合わせてみたり……と毎回なるほどと感動しています。ラテンアメリカ展は3回目です。」(男性・兵庫県)

「休日ごとのコンサートとレクチャー・コンサートを、楽しくてつい何度も足を運んでしまいました。ふだん、聞いたことがない、または聞いたことがあってもおそらく他の演奏に埋もれていたりして、その楽器のひとつひとつの音色をきけないようなものを簡単な歴史をふくめてきくことができ、たいへん良かったです。コンサートを含めて、750円は安くて気楽に来られました。20周年に限らず、このような企画をどんどんして下さい。期待しています。」(男性・30代・吹田市)

「今回の展示は、比較的平面的になりがちな今までの展示方法を脱した、民博にしては、とても斬新で良い！と思います。また、レクチャー・コンサート及ライブ・コンサートを、開かれていたのは知っていたのですが、レクチャー・コンサートはここに来て初めて判り、(前回のカンシオンで)もっと早く判っていたら、1回目から来たのに！と思うと残念です。このように、毎回来たい！と思わせるような企画の場合、回数券(フリーチケット)的な券が欲しいです。あと、2～3回は来るつもりです(講演会ともう一度レクチャー・コンサートを)。ほんとうに久しぶりにとても楽しい展示です。またぜひこういう企画を。」(女性・30代・吹田市)

このような声はリピーターが少なくなかったことを物語りそうである。実際に、展示場で入館者から直接聞いた情報によれば、「もう10回以上来ました」と言う声もあった。そして、それは週末ごとに異なった音楽を生で演奏したことと大きな関係がありそうである。一方で、レクチャー・コンサートに関してはかなり厳しい批判もあった。その代

表的なものが次の回答である。

「日本人によるレクチャー・コンサートは、あまり意味がない気がする。それなら現地の人の演奏を見せたほうがいいと思う。」(20代・大学生・男性)

「一部の音楽だけでラテンアメリカというのはおかしい。説明不足。現地のグループを招待して欲しかった。」(20代・無職・女性)

このような意見は予測できたが、これを実現するのは、限られた予算のことなどを考えれば不可能であろう。これらに類似した次のような回答もあった。

「経費の問題もあると思われるが演奏者の顔ぶれがもっと多様化しないと、テーマの割に情けない。例としてはグアテマラのマリンバ奏者とか、ボリビアの田舎のグループとか。(羊頭狗肉のテーマではありました。)この程度の演奏ならば楽器だけにすれば良かったと思う。」(男性・50代・兵庫県)

じつは、ここで指摘されているグアテマラのマリンバ演奏もボリビアの田舎の音楽も、このアンケート回答者が入館する前に民博ですでに実施したものであった。とくに、マリンバについては、楽器展開催の数カ月前に民博の講堂をつかった大規模なコンサートもおこなわれ、そこには8名のマリンバ奏者のほかに、コントラバス奏者、太鼓奏者1名も参加していた。しかし、そのような情報を正確に伝える準備が十分ではなかったようだ。これなどは共催者との役割分担上の問題があったといえよう。

では、同じレクチャー・コンサートに接しながら、このような否定的な意見と先に紹介したような肯定的な意見の違いが生まれるのだろうか。その最大の要因は、入館者のなかに音楽（とくにラテン音楽）に対して非常にマニアックな人がいる一方で、日頃あまり音楽に接する機会のない人がいるせいではないか。また、音楽にマニアックな人は音楽の質を求めるのに対し、そうでない人は音楽を異文化として受けとめている傾向があるせいかもしれない。

民博でおこなう音楽や楽器の展覧会であれば、後者の立場に立つのは当然である。そして、入館者のなかには次のように、この意図を正確に受けとめてくれた人もいたようだ。

「芸術としての音楽というより、生活の中から生まれる人々の心のリズムが壊されることなく会場の中にしっかり含まれていたと思う。」(20代・東大阪市)

⑫ スピーカーに対する評価 (図22)

展示場には2種類のスピーカーを設置したが、どちらについてもさまざまな意見があった。まず、ライブ・コンサートでは演奏者ひとりずつが、それぞれマイクを使ったが、これに対して次のようにマイクなしで演奏して欲しかったという意見が少なくなかった。

「せっかくのライブなのにPA(拡声装置)をつかうとよさが半減してしまう。大音量である必要はないのだからPA無しでしてほしい。」(男性・20代・会社員・吹田市)

「演奏において、どんな理由があるのかは分らないがスピーカーで拡声するのはいただけないと思う。」(男性・10代・吹田市)

「スピーカーなしで聞きたい。」(50代・堺市)

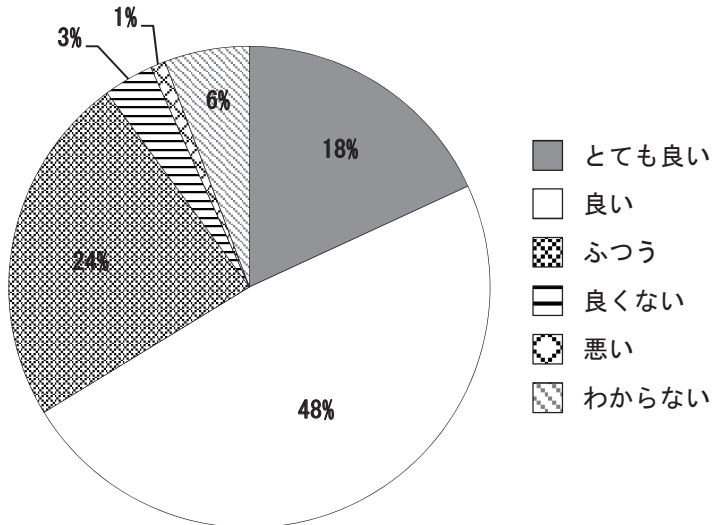


図22 スピーカーに対する評価

たしかに、マイクを通さず生の音色を楽しみたいという入館者の希望は理解できるが、聴衆が多い時は音がどこまで届くかという心配があった。とくにアルパやギターなどの弦楽器は音が小さく、マイクなしではいささか無理があったかもしれない。それというのも、聴衆が少ないときはあまり問題がなかったが、団体（とくに中高生の団体）の入館者のなかには演奏が始まってもおしゃべりをやめない人たちが少なくなかったからである。なかには、演奏中であるにもかかわらず、拡声器を使って生徒たちに注意をする先生さえいたのである。このようなマナーの悪い人たちへの非難の声もアンケート調査に少なくなかった。

もうひとつのスピーカーは、「伝統的世界」「アフリカ的世界」「ヨーロッパ的世界」の各コーナーに設置された指向性スピーカーである。指向性スピーカーとは、天井から吊るされたスピーカーの音が真下にいる人だけに聞こえ、他に音がもれないように工夫したスピーカーである(図23)。これは、民博でも初めての試みであり、その結果は大いに期待された。この期待どおり次のような回答があった。

「楽器の展覧会といえは、とにかくやかましい音が飛びかう会場を想像しますが、今回の展示は「不必要な」音がなく、じっくり落ち着いて見物できる。スピーカーの指向性を下に向けて上から吊るす方法は他の展覧会でも参考になると思いました。沢山のコーナーが競合してやかましくなるのをうまく防いであります。」(男性・50代・枚方市)



図23 天井に設置された指向性スピーカー (日経エレクトロニクス587号 1993)

また、次のような意見もあった。

「スピーカーは真下に立った時はとても良い。」(女性・20代・東大阪市)

一方で、「(音が) 上から聴こえてくるのは怖い」という意見もあった。

さらに、音質については次のようになんげ否定的な声が多く聞かれた。

「[スピーカーは] 良いが、音には不満。」(30代・奈良県)

「展示コーナーのスピーカーは少し音がわれていた。」(男性・20代・京都府)

「[展示コーナーのスピーカーは] とても良いが音がわれている。」(男性・30代・大阪市)

じつは、私自身は「スピーカーの音がわれている」ことに気づかず、アンケートによる指摘で初めて知った。しかし、それを知ったのは会期の後半だったため、対応がとれなかったのは残念である。

⑬ 試奏コーナー (写真28)

アンケート回答者のうちの67パーセントが「とても良い」、27パーセントが「良い」と答えた。両方をあわせると94パーセントの人が、この試みに好感をもってくれたことがわかる(図24)。楽器は見ていだけでは不満があり、とくに初めて目にする楽器がどのような音色がするののかについて、入館者は大きな関心があったことがうかがえる。その一部を紹介しておこう。

「博物館といえは、“手をふれてはいけません”というイメージがあるけど、今回は直接手に



写真28 試奏コーナー（打楽器のコーナー）（1995年）。

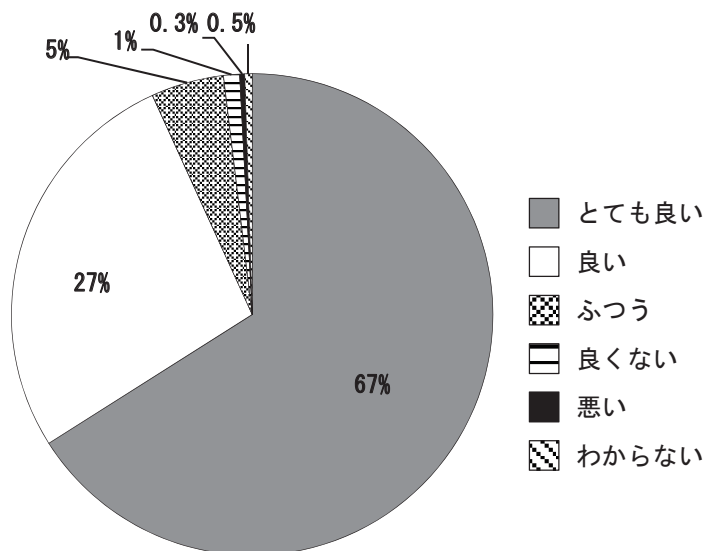


図24 試奏コーナーに対する評価

ふれることができたので、とても楽しかった。」（女性・10代・高槻市）

「試奏コーナーは思い切った企画でよかったと思われる。」（女性・20代・豊中市）

「試奏コーナーはとても良かったです。楽器は鳴らしてこそものだから。」（女性・20代・兵庫県）

「鳴らすことのできるコーナーは、わかりやすく、とても良かった。」（女性・20代・大阪市）

一方で、試奏コーナーには注文も少なくなかった。とくに試奏できる楽器をもっと増やして欲しいという声が多かった。

「試奏コーナーの設置は良いが、種類と、数が少なすぎる。楽器が高価なものと云うのは分るが、全種、1点ずつでも、試してみたい。」（男性・30代・茨木市）

「試奏コーナーをもっと増やして欲しい。」(女性・30代・豊中市)

「[試奏コーナーについて] もっと数が欲しい。」(女性・30代・岡山県)

「楽器は実際に音を聞かないとその良さがわからないので、試奏コーナーは良いと思うのだが、みんな好き勝手に音を出すので、うるさい。博物館関係者が代表して音を出すようにした方が良いと思う。」(男性・20代・堺市)

じつは、試奏コーナーの楽器の種類や数については民博側で大きな制限があった。展示物は民博の標本資料であり、その破損はさげなければならないからである。実際、次のように資料の破損を心配する声もよせられている。

「展示物に手を触れてみることは、ある点で非常によいことだと思いますが、民博に収集されている資料には大変貴重な物もあるはず。よく理解できない人が興味本位で触っているのを見ると本当に触らせて良いのか疑問に思います。触らずともよく観察させることを教えるのも一つの方法だと思います。」(男性・60代・兵庫県)

また、弦楽器は破損しやすいだけでなく、チューニングなどの問題もあった。そして、管楽器は吹口に口をつけるため、消毒などの問題があった。こうして、試奏コーナーに使える楽器のほとんどが破損しにくいパーカッション類となったのであった。しかし、破損の問題に関しては標本資料の一部を消耗品扱いにするなどの方法で解決できるかもしれない。これは、期待が大きかっただけに、今後の大きな課題である。

このように楽器の試奏にはさまざまな問題があるが、一方で94%もの入館者が楽器の試奏の試みに賛意をしめてくれたことは、今後の民博の常設展でも同様の展示がのぞましいと考えられる。

⑭ アルパの試奏 (写真29)

アルパとは、ラテンアメリカのハーブのことである。16世紀頃にヨーロッパからラテンアメリカに伝えられ、その当時の面影を残す弦楽器である。そのため、クラシック音楽などで使われるハーブよりは小型で、ふつうは半音も出せない。ラテンアメリカの楽器のなかではあまり知られることがないが、ラテンアメリカ中で広く使われているので、2階の楽器コーナーの一角にラテンアメリカ各地のハーブを展示した。しかし、展示だけでは、どのように演奏され、どのような音色がするのかわからない。そこで、会期の前半(3月16日～4月27日)、アルパの愛好グループ、「ラパーチョ」の皆さん3人にボランティアで演奏してもらうとともに、楽器の演奏法などの解説もしてもらった。なお、会期の後半はバグアイからアルパ奏者を招き、ライブ・コンサートを企画していたので、このアルパの試奏は会期の前半だけとした。

このようにアルパの試奏は会期の前半だけ、しかも午前中だけだったので、この試みを知らなかった入館者が多かったようだ。それはアンケートの結果にも示されている。

25パーセントの人が「わからない」と回答しているが、これはアルパの試奏に接する機会を得られなかった人たちであると考えられる。一方、この試みを「とても良い」「良い」と回答した人がそれぞれ32パーセント、29パーセントもあり、大半の人が良い印象を得たようである（図25）。実際、次のような回答があった。



写真29 ボランティアによるアルパの試奏（1995年）。

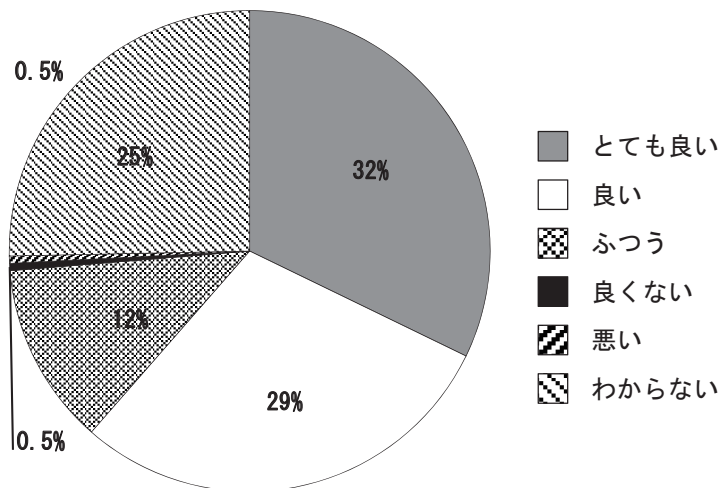


図25 アルパの試奏に対する評価

「アルパの試奏をさせてもらったのが良かった。普通の博物館等は単に展示品を目で“見る”だけだが、今回は実際に楽器に触れることができ良かったと思う。」（女性・20代・寝屋川市）

先述したように、アルパなどの弦楽器は試奏しただけでも音が狂いやすく、そのたびに調弦の必要があるので、この点でもアルパの試奏の試みは成功であったと考えている。

⑮ 手でふれられる展示

今回は「親しみやすい」展示を目指していたので、ごく一部の展示を除き、ほとんどは露出展示で、手でふれても良いことにした。この意図は好感をもって迎えられたようで、アンケート回答者のうちの64パーセントが「とても良い」、29パーセントの人が「良い」で、あわせると93パーセントもの人が賛意を示してくれた（図26）。これには試奏コーナーを設けたことやレクチャー・コンサートなどのおりに、入館者に楽器に接する機会を設けたことなどが好印象を与えたと考えられる。そのような声のいくつかを紹介しておこう。

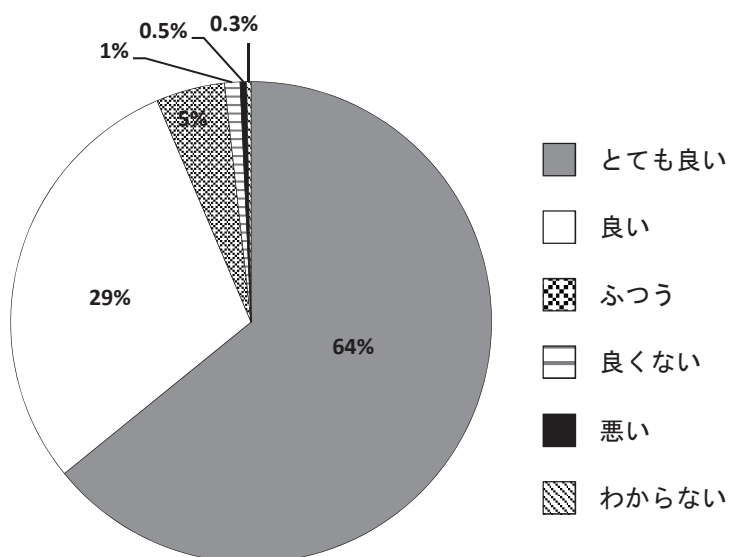


図26 手でふれることのできる展示に対する評価

「実際にふれてみるのができたので、体全体で感じることができました。楽器が人の生活に密着していること、また、いろいろな工夫がなされていること、全てのものが楽器になれることもよくわかりました。」（20代・茨城県）

「国立民族学博物館本館にくらべて、手でふれることのできる展示コーナーなど工夫があるので、あまり興味がもてないコーナーでも、大変親しみやすかったです。」（男性・20代・兵庫県）

「コンサートで聞いたアルパに触れて自分で音が出せるというのはすてきな試みですね。（民族楽器を聴きに行ったりした時にいつもさわってみたいと思っていたのです）。」（女性・30代・高槻市）

「これからも実際に手にとってさわるような展示をして下さい。今日は学校のフィールドワークで民博に来たのですが、たまたま来ただけなのに、コンサートもあり喜んでます。とても良かったです。」（女性・10代・吹田市）

「難しい点がありますが、できる限り手でふれられるような展示を希望します。」(茨木市)

このような声の一方で、不満の声も少なくなかった。その最大のものは、もっと手でふれることのできる楽器を増やして欲しいというものであった。そのいくつかを紹介しておこう。

「手でふれることのできる楽器の数がもっと多い方がよかったです。」(男性・20代・京都府)
 「もっと手でふれることのできる展示、鳴らせる展示があつてよいと思う。」(女性・20代・大阪市)

これらは「不満の声」というよりは、もっと手でふれることのできる展示に対する期待の大きさを反映した声とみたほうがよさそうである。このような手でふれることのできる展示はハンズ・オン方式として知られており、欧米などでも人気を博すようになっている。図27は、楽器展が開催された1995年までのイギリスにおけるハンズ・オン系博物館・科学館の伸びをしめしたものであり、楽器展が開催された時点でも普及していたことがわかる。

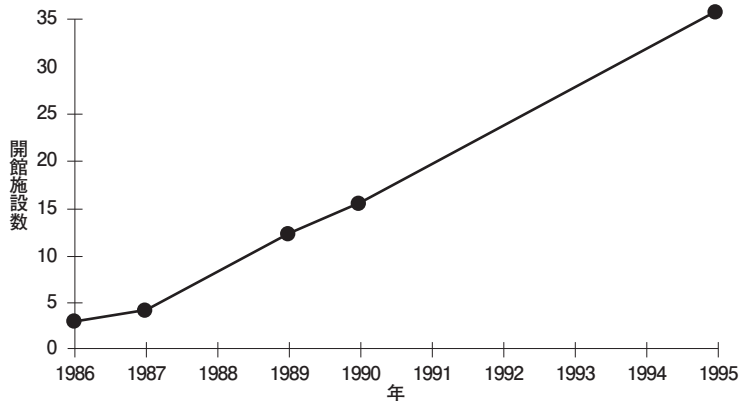


図27 イギリスにおけるハンズ・オン系博物館・科学館の伸び (コールトン 2000)

この点では、民博は開館当時から資料をガラスケースなどに入れて展示するのでなく、露出展示をしてきたので、ハンズ・オン系博物館のパイオニアといえるかもしれない。実際、楽器展が開催された1995年の時点で日本の博物館などでも露出展示するところは少なくなかった。これも民博における露出展示の影響といえるのかもしれない。

しかし、楽器展のアンケートから見ると、入館者は単に展示物に手でふれることだけでは満足していないようである。手でふれられる展示は、民博の常設展示でおこなってきた露出展示でも可能であるが、ハンズ・オンは手でふれるだけでなく、それを自分の

手でもち、利用してみることまで含まれるようだ。これは楽器であれば、なおさらであり、手でふれるだけでなく、それを鳴らしてこそ満足が得られるのであろう。

これまで展示を見た入館者がどのような展示を面白いと感じるのかを論じた議論はほとんどなかったが、諸岡（1991）は五感を通じて感じることでできる雰囲気を楽しむを強調している。先に紹介したように、楽器展の入館者のなかにも「実際にふれてみるのができたので、体全体で感じることができました」という声があり、単に展示物にふれられるだけでなく、できるだけ五感に訴えるような展示がのぞましいと考えられる。

このような意見は今後参考にしなければならないが、民博の標本資料を使った試奏に制限があることは前述したとおりである。この点については、琵琶湖博物館の布谷も「触ることのできる展示は、多くの入館者の利用を受けると必ずといたいほど破損していくものである。そのことについての日常的なメンテナンスの体制、具体的には修理の予算と人手を準備しておくことが必要となる」と述べている（布谷 2005: 172）。

また、実際に試奏コーナーを設けて、うかびあがってきた問題についても言及しておこう。それは、試奏による大きな音をどうするか、という問題である。つまり、試奏によって出る音は、他人にとってはしばしば雑音となり、他の入館者に迷惑をかけがちなのである。実際に、楽器展の展示場では、試奏コーナーの音に対してしばしば苦情があり、ライブ・コンサート中は試奏を止めてもらうなどの対策をとった。根本的には、防音室を別に設け、そこで試奏する方法などの対策が考えられる。

⑩ 展覧会のイメージと満足度

冒頭で述べたように、楽器展を開催した当時の民博のイメージは「暗く、固く、冷たい」という評判があり、それが入館者の減少に関係しているのではないかと私は考えた。そこで、民博の展示を「明るくて、親しみやすい」ものにするためには、どのような展示をすべきかと考え、そのための実験的展示をしよう、というのが今回の企画展の発端であった。はたして、この目的は達せられたのであろうか。

それを知るために、展覧会のイメージを調べた結果が図28である。これによれば、「明るい」と回答した人が44パーセント、「やわらかい」と答えた人が20パーセントで、両方をあわせると60パーセントに達した。一方、「暗い」と答えた人は11パーセント、「かたい」と答えた人は9パーセントであった。このアンケート結果から見る限り、「明るく、親しみやすい」展示を目指した実験は一応の目的を果たせたとみてよいであろう。

次のアンケートも、民博にはかたいイメージをもっていたが、予想以上に楽しいととらえているようだ。

「民博とゆうことで、もっと勉強っぽくて、かたいイメージがあったけれど、中へ入ってみると予想をはるかに上まわって楽しいひとときを過ごすことができました（茨木市・女性・

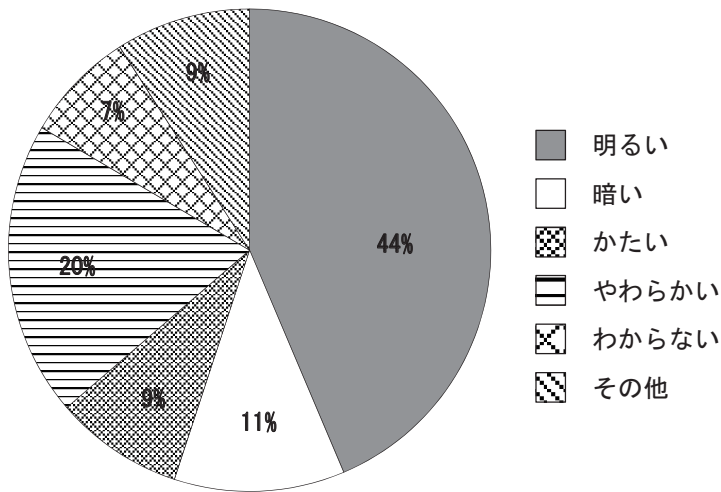


図28 展覧会のイメージ

20代)。

また、次の声も興味ぶかい。

「『国立民族学博物館』という名前から、堅いイメージをもっていたが、実際には非常に興味ぶかい物が沢山置いてあり、もっといろんな人に見物してもらえるといいのではないだろうか（大阪市・20代・大学生）

では、楽器展の何が「明るく、親しみやすい」ものにしたのであろうか。それについては、これまでのアンケートの結果に示されているので、詳しくはそれを参照していただきたいが、あえてくりかえせば、「モノ」だけが展示してあるのではなく、それを自分の手でとってならすことができる、いわば参加型の展示であったといえよう。また展示してある楽器を使ったライブ・コンサートやレクチャー・コンサートも効果があったようだ。

これらの点については、もうひとつの興味ぶかいデータがある。それが、図29に示した展覧会の満足度である。これによれば、アンケートの回答者のうちの25パーセントが「とても満足」、そして52パーセントの人が「満足」と回答している。「不満足」「とても不満足」は、それぞれ3パーセント、0.2パーセントで、その差は歴然としている。なお、「ふつう」と回答した人は約20パーセントで、5人に1人という割合になり、およそ5人に4人が「満足」と回答していることになる。

ちなみに、この満足度とイメージには大きな相関関係があるようだ。図30は、満足度とイメージをクロスさせたものであるが、展覧会に「明るい」というイメージをもった

人の大半が「とても満足」または「満足」と回答している。また、展覧会に「やわらかい」というイメージをもった人の大半が「とても満足」または「満足」と答えているのである。

このことは、展示に対するイメージが満足度にも大きな影響をおよぼしていることを物語っているようだ。したがって、できるだけ「明るく、やわらかい」イメージをもった展示が入館者には好評であると考えられる。

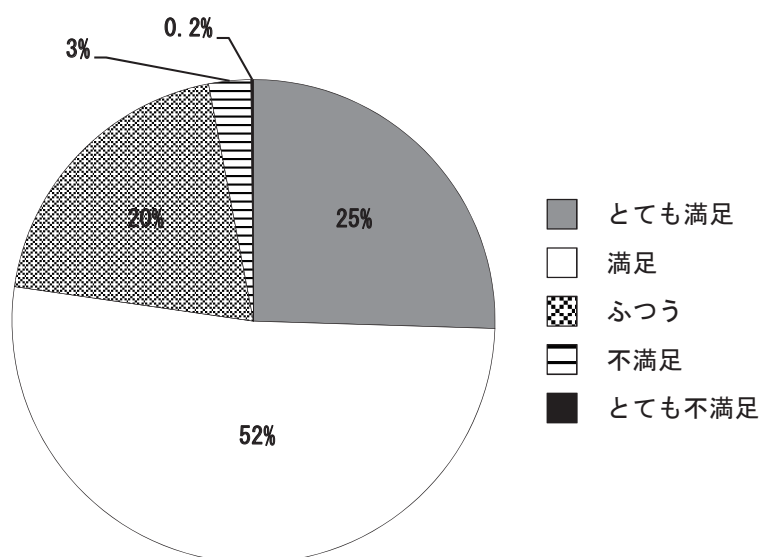


図29 展覧会に対する満足度

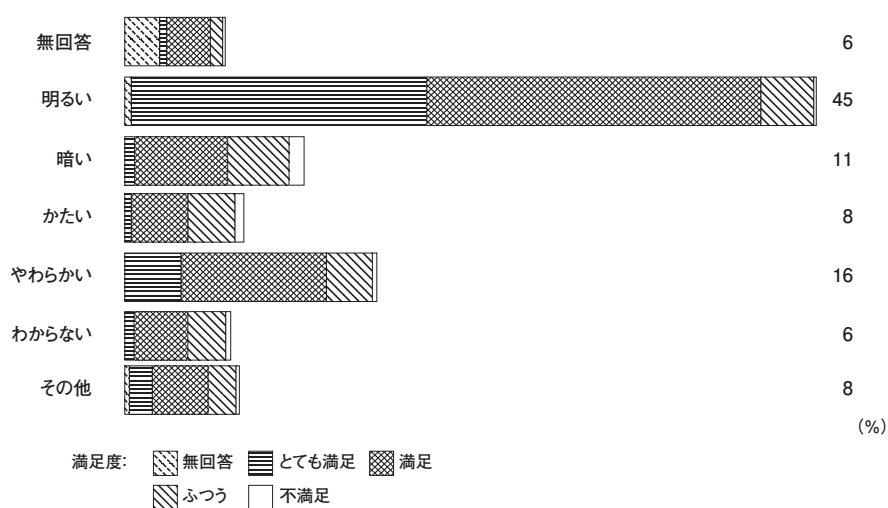


図30 「展覧会のイメージ」別の「満足度」グラフ

⑪ 要望等

「ラテンアメリカのふんいきを伝える映像や、写真がもう少し多くあると、もっとふんいきが明るくなったと思う。」(女性・20代・京都府・無職)

「ラテンアメリカの人びとの生活と音楽との関わりについての展示があれば、もっとおもしろかったと思います。」(女性・20代・茨木市・無職)

これは望みながら、果たせなかったことであった。私自身は、もっと大きな写真を数多く使い、ラテンアメリカの雰囲気を伝えたかったが、それは予算的に不可能であった。冒頭で述べたように、楽器展は特別展でなく、企画展であった。そのため、予算も少なく、楽器展の展示も1992年に実施され、撤去されずに残っていたダゲスタン展の一部を再利用したほどであった。また、ラテンアメリカの雰囲気を少しでも伝えるようにビデオ・シアターを準備したが、これも十分ではなかったようだ。映像の使用に関しては、著作権等の問題があり、自由に映像資料が使えなかったからである。また、当時としては、最新の技術を使ったつもりであったが、情報機器が発達した現在では希望にそう展示ができるのではないかと思う。

「解説カードに若年層のためふり仮名をつけないと。読めないのでは展示の意味が半減する。」(70才以上・枚方市・無職)

これは私にとって大きな盲点であった。小中学生も入館しているのだから、子どもたちでも理解できる解説を書くべきであった。民博の「展示の基本構想」(国立民族学博物館 1982)でも、「展示基本構想 2007」(国立民族学博物館 2007)でも、展示表現は「小学校高学年からでもそれなりに理解できることを目標とする」とあるが、ついつい大人目線で解説を書いてしまった。大きな反省材料である。

「1階の展示の解説で見過ごしそうな所があった。また、目が悪いのであまり奥の方に解説の板を置かれると読みにくい。」(女性・20代・高槻市・大学生)

この問題に関しては、開幕当初から一部の入館者から解説文字が小さくて読みにくいという声があり、可能なかぎり文字を大きくするなどの応急措置をとった。そのため、文字の大きさに統一がとれていないというデザイン上の問題が生まれたが、これは入館者本位の展示であれば仕方がないと判断した。

「展示の解説についてはもっとくわしくしてほしい。」(男性・30代・大東市)

解説をどの程度書くか、ということは特別展に限らず、常設展でも問題になっている。楽器展では、マルチメディア・コーナーを設置したり、レクチャー・コンサートなどでも音楽や楽器についての説明をしてもらったので、解説は極力簡潔にした。「解説はちょうど良い」という回答もあり、解説文の長さや詳しさをどの程度にするかということは

永遠に未解決の問題かもしれない。

しかし、当面、考えるべき問題もある。それは、展示の解説を補充すべき展覧会の図録（カタログ）の解説がもつ重要性である。展覧会に図録はつきものであるが、それが展示をどのように補うべきかという点については理解が必ずしも十分ではなかったようだ。私自身も、この点については十分な認識がなく、この点については大きな反省がある。それを具体的に述べておこう。

私自身は図録を展示の延長線上にあると考え、それを可能なかぎり、「親しみやすく、やわらかい」感じをもつものしたいという希望をもっていた。そのため、楽器展の図録は、それまで民博で作られていたようなアート紙をつかい、写真もふんだんにつかった、ずっしりと重いものではなく、ムック判として、軽くて持ち運びに便利なものにした。また、展示解説では十分な説明ができなかった音楽や楽器、そしてラテンアメリカの風土や歴史などについて17名の研究者や音楽家に執筆してもらった。さらに、楽器を演奏している光景の写真を多用したり、楽器のイラストを多用するなどの工夫もした（ラテンアメリカの音楽と楽器展編集委員会 1995）。

しかし、執筆者に執筆依頼する段階で、楽器展の「親しみやすく、やわらかい」というモットーが執筆者に十分に伝わっていなかった。この結果、楽器展の図録は、楽器展のモットーとは異なり、ややかたく、くらいものになったようである。そのせいで、解説文の不足を、図録の解説で補う入場者が少なくなったのかもしれない。

一方で、この図録に関しては意外な側面もあったようだ。それは、楽器展の図録の値段が高いという声が少なくなかったことである。この図録は、A4判変形（横裁断、縦長）、並製の132頁で1,800円だった（写真30）。これが、先述したようにムック判であったために、一見すると安っぽいものに見え、1,800円の定価は高いと感じさせたのかもしれない。

これには、大阪ならではの土地柄もあったようだ。一般に、大阪人はお金に対してきわめてシビアであり、それが反映した可能性もある。実際に、第1回の特別展で、民博の共催相手になった朝日新聞事業部の関係者によれば、東京で10人にひとり買う図録でも、大阪では20人にひとりも買ってくれないそうだ。

「私のような地理が苦手な人には国の名前と一緒に、小さな地図があればうれしい。」（女性・10代・兵庫県・大学生）

ラテンアメリカは日本の国土の約50倍にも及ぶ広大な地域であり、そこには30ヶ国あまりの国がある。それらの国のほとんどが、一般の日本人にとってはなじみのない国であるため、これらの国を地図上に位置を示す工夫などがもっとあっても良さそうであった。これまでの特別展のほとんどがかなり限定された地域を扱ってきたため、ラテンアメリカのような広大な地域を扱うときは注意しなければならない点であろう。楽器展で



写真30 楽器展の図録（1995年）。

は、展示リーフレットなどを利用して、手元に地図をもって会場をまわれるようにすれば良かったという反省がある。リーフレットも、展示の延長線上にあるもののなのだ。

「2Fの展示が良かったです。たくさん楽器があって。「鳴らすとわかる」コーナーで、ならしてみせてくれたり、教えてくれる人がいたらいいな。」（女性・20代・堺市）

「鳴らすとわかる」コーナーは民博でも初めての試みであり、楽器展では未だ試行錯誤の段階であった。この指摘のとおり、ボランティアの人たちによる指導などがあれば、もっとさまざまな楽器の演奏法なども理解しやすかったであろう。これも今後の課題であろう。

5. アンケート調査を終えて

「楽器」展で実施したアンケートの最大の目的は、入館者の意見や感想に率直に耳を傾け、それを今後の展示に生かし、入館者の増加をはかりたいということであった。もちろん、特別展の目的は入館者数の増加だけにあるわけではない。研究成果を展示に反映

させ、どのような研究を民博がおこなっているのか、それを示すことも重要である。そのため、ときに入館者の少ない展覧会があってもやむを得ないであろう。

しかし、展覧会を実施する上では、入館者数もきわめて重要な要素である。ときに、「民博は国立の機関であり、非営利の組織だから、入館者数は気にしなくてよい」という声も耳にするが、はたしてそうだろうか。そもそも、展覧会を実施した人間にとって、大変気になるのが入館者数ではないだろうか。実際に、民博でも展覧会が成功したかどうかは、しばしば入館者数の多さによって語られている。そのため私も特別展の実行委員や企画展の実行委員長をつとめたとき、入館者数が多いときは嬉しかったし、逆にすくないときは情けなくなり、展示のアイデアが悪かったのかと反省したこともあった。

このような点でも、アンケート調査はきわめて有効である。展示に肯定的な意見が寄せられた時はおおきな励みになるし、逆に否定的な意見が寄せられた時は反省点を知ることになるからである。

アンケート調査を実施してみて、それまで気づかなかった効果があったことも述べておこう。それは、開催期間中であっても展示や広報の方法を見直し、手直しのきっかけを与えてくれたことである。幸いに、民博の特別展や企画展は2ヶ月あまりと開催期間が比較的長いため、アンケートによる指摘で、展示や広報の方法を開催期間中に調節したり、手直しをすることが可能になったのである。

実際に、展覧会がオープンしてすぐに地下鉄サリン事件がおこり、そのせいか「ドラム缶のペンキのにおいがきつい」という声が多数寄せられた。これに対しては、展示場の換気に注意を払う方法をとった。具体的には、毎朝、入館者が来る前に展示場の窓を全部あけ、可能な限りの換気をはかった。また、大震災の影響で、積み上げたドラム缶に不安を感じる人が少なくなかったため、これも何度も補強工事をおこなった。さらに、広報不足の声に対してもいくつかの応急措置をとった。これは先述したとおりである。

予期しなかった声についても述べておこう。それは、「入館料が高い」という声である。なかには「金をかえせ」という抗議の声もあった。はたして、本当に入館料は高かったのか。最後に、この問題について検討しておこう。

先述したように、楽器展は、企画展としては初めて特別入館料を徴収した展覧会であった。従来の企画展は常設展の入場料（420円）だけで見ることができたが、楽器展はこの常設展の入館料のほかに特別展料として430円を徴収したのである。これが入館料を高いと感じさせた一因かもしれないが、主催者側としては特別入館料の徴収はやむを得なかった。会期中、海外から6名のミュージシャンを招いただけでなく、週末におこなったライブ・コンサートでも数多くのミュージシャンに演奏してもらったからである。そして、レクチャー・コンサートも、ライブ・コンサートも、特別料金を徴収したからこそ、可能になったものであった。楽器展を実施した私としては、いくら国立とはいえ、「受益者負担も少しは考えてくれ」といいたい気持ちであった。

むしろ、検討すべきことはライブ・コンサートやレクチャー・コンサートが入館料に見合うものであったかどうか、ということだろう。しかし、この点に関しては先述したように大方の入館者が「とても満足」「満足」と回答している。実際に、次のような声もあった。

「アンケートには「良い」項目ばかりに印をつけましたが、実際この料金でここまでやってしまうのは凄いと思います。」(男性・20代・京都府)

「生の演奏がとてもよかった。これが聴けてこの入場料は大変安い。」(女性・20代・京都府)

では、ほかに入館料が高かったと感じさせるものがあったのだろうか。この点で気になることがある。それは、わずかだが「展示品が少なかった」という声である。しかし、楽器展での展示点数は1,000点を超えており、決して展示点数が少なかったとは思われない。にもかかわらず、展示点数が少ないと感じた入館者がいたことは、何を物語るのであろうか。その一因は、楽器の大半が小さいものであり、しかも先述したような意味で「ガラクタ」としか見えないものが少なくなかったせいではないか。

実際に、入館者のなかには展示してある楽器を「ほとんどが観光客向けに作られた粗悪品」と述べた人もいたが、これは展示資料がまさしく「ガラクタ」としか見えなかったことを物語るのではないか。じつは、展示品の大半は私自身が収集したものであり、観光客向けの店で買ったものはひとつもなかった。ただし、今回の展示では、名品や逸品といえるものもほとんどなく、日常生活の中で人びとが楽しみ、実際に使っている楽器を展示したのであった。

この料金が低いという点については、気になることがある。「あの内容に一人750円は高い。国立なのだからもっと料金をおさえるべき」(吹田市・女性・20代)という批判に象徴されるように、民博は国立の機関であり、国民の税金でまかなわれているのだから、料金は安くても当然という考え方の人が少なくないことだ。実際に、私は展示会場で、ある入館者から「民博は税金でやっているんだから、料金は無料でもよい」と抗議されたことがある。

たしかに、国立の機関は非営利の組織だから、料金はできるだけ安くおさえるべきであろう。しかし、特別展、とくに共催者のある特別展では、共催相手に損失を与えるわけにはゆかない。投下した資本を回収することは共催社の当然の権利であり、また義務でもあるからだ。そうであれば、特別展の料金をおさえるとしても、それには当然限界がある。現実問題として、楽器展の場合、先述したように特別料金を徴収しなければ、ライブ・コンサートもレクチャー・コンサートも実施することは不可能だったのである。

この入場料金については、おもしろいデータがある。すなわち、これまで民博で実施された特別展や企画展を見ていると、料金が低いからといって必ずしも入館者が少なかったわけではなく、逆に安いからと言って入館者が増えたわけでもないことだ。たとえ

ば、表1に示されているように、第1回の大アンデス文明展は入館料が1,000円であったが、入館者数は先述したように12万人近くに達した。大インド展もそうだ。大インド展は、入場料が1,100円と高かったが、入場者数は11万人に近かったのである。

一方で、企画展の大半は特別料金を徴収しないで、常設展のチケットのみで入館できるにもかかわらず、近年の入館者数は2万人から4万人にとどまっている。この点で、楽器展はやや特殊で、企画展でありながら特別料金を徴収した展覧会であった。にもかかわらず、楽器展の入場者数は特別料金を徴収した企画展としては、異例ともいえる5万人あまりの入場者があったのである。

こうして見てくると、料金の高さや低さも展覧会の重要な要因であるかもしれないが、さらに重要なことは、やはり展示の内容であろう。これまでのアンケート調査でも明らかのように、展示が魅力的であればリピーターも増えるであろうし、口コミによる入館者増も期待できるからだ。

このように入場料金については、さまざまな意見があったが、そのなかで次のような意見もあり、展示した側としては大きな励みになったことも付言しておこう。

「これだけのものを一度に集めたものを見てしまつて興奮が収まりません。これだけで『ラテンアメリカ音楽博物館』を作つて常設展示にしようという奇特な方はいないのでしょうか。最低限、Video theaterは常設して欲しい。それと、ぜひ首都圏でもやって下さい。」(男性・30代・神奈川県)

こうして見てくると、同じ展示を見ても入館者によって大きく意見や感想の異なることがわかる。幸いに、今回の楽器展では好意的な意見が多かったが、だからと言って、少数意見を無視してはならないだろう。そこには反省すべき点も多くあると判断されるからである。

しかし、それを知るためにはアンケート調査だけでは限界があることも明らかになった。その限界を克服するためにも、展示する側の人間は展示場に積極的に足を運び、今後は入館者の生の声に耳を傾けて、民博のあるべき展示の姿を追求めてゆくべきであろう。そして、そこで得られた情報を特別展や企画展はもちろんのこと、常設展などにも反映させるべきであろう。

6. 今後に向けて

(1) 展示と研究の関係

最後に「まとめ」にかえ、今後に向けて二つだけ提案しておきたいことがある。その前に、まず特別展と企画展をふたつ実施した私の感想を述べさせていただきたい。ただし、以下で述べることは、あくまで私個人の感想であり、一般化はできないかもしれな

い。

私の感想とは、特別展の実施は大きな喜びを与えてくれるが、一方で大きな苦しみも与えるものだということである。その苦しみの最たるものが、研究者が展示にかかわることの苦しさである。展覧会を実施しようとすれば、その準備段階から展示にかかわる、さまざまな作業に忙殺されて、研究がほとんどできなくなるからである。

もちろん、展示も研究の一部であるという意見があるのは承知しているが、それにしても展示の負担はきわめて大きいものがあるだろう。この点について、梅棹は次のように述べているそうだ（佐々木 1991: 32）。

特展の開催には数名の教官が2～3年ほどかかるので、その間の負担は大きい、その研究分野の特展は当分の間開催されない、長い目でみれば余り負担にならない。

私の経験からいえば、この文章の前半部はそのとおりであるが、後半部はどうだろうか。本当に「あまり負担にならない」のであろうか。少なくとも私にとって、特別展はきわめて大きな負担になった。その具体例を述べておこう。

それは、私が実行委員のひとりとして、かかわった第一回特別展「大アンデス文明」展の例である。この特別展は、特別展示館の開館を記念して、いわば、「特展馆のこけら落とし」とでもいうべきものであった。そのため、民博全館が応援体制をくみ、力のこもった展覧会となった。それだけに、準備も大変であった。

ペルー各地の博物館から借用した考古資料約700点は、いずれもペルーでは貴重な文化遺産であり、これらの資料の梱包、輸送、保管、展示には大きな神経をはらわれなければならなかった。考古資料のうち、大きすぎて輸送が困難なものや、貴重で借用できなかったものは、いくつかのレプリカが造られた（写真31）。また、アンデスの自然環境を示すための大きなジオラマも造られた（写真32）。そして、これらのレプリカやジオラマの製作にあたって指導したり、注意を与えたのが実行委員たちであった。そのため、



写真31 特展馆の中央に設置されたインカ時代のサイウテの石彫（レプリカ）（1989年）。



写真32 アンデスの自然環境を模したジオラマ。写真中央が筆者（1989年）。

実行委員はこれらの資料の作成の途中でも、何度も製作現場に足を運ばなければならなかったのである。

さらに、展覧会の図録の作成も大変であったので、この図録の作成についても少し言及しておこう。私の率直な感想をいえば、図録の作成は展示のそれに匹敵するほど大変である。とくに、「大アンデス文明」展は、朝日新聞社が共催相手であり、民博のあと、沖縄を含む日本全国8ヶ所での巡回展も予定されていた。このため、図録は巡回展示場でも販売されることになり、朝日新聞社側は「売れる図録」を作りたいという考えもあったようだ。この結果、「大アンデス文明」展の図録は、A5判サイズで240頁あまり、オールカラーで、全頁がアート紙を使った、ずっしり重いものになったのである。

この図録の作成に直接たずさわったのは前出の3人の実行委員であった。そして、この3人で大部な図録を作成するのは、きわめて大変な作業であった。写真選びから原稿の執筆、そして1,000点近くにおよぶ日本語とスペイン語による展示品のリスト作りなどに、膨大な時間と労力を要したからである。このような作業を、展示の準備とともに進めるのは、想像をはるかに超えるほどに大変であった。このため、当時の私は自分の研究室にほとんど行けなかったほどである。そして、このような状態が3年ほどつづき、このあいだ研究はほとんどできなかったのである。

このとき、脳裏にうかんだものこそが、「研究者はいかに展覧会にかかわるべきか」という疑問であった。たしかに、民博は博物館をもつユニークな研究所であり、展覧会も研究成果を発表する場所として重要である。そうであるならば、はたして展覧会は、民博の研究部というまでもなく、文化人類学会などの学会などでも正当に評価されているのであろうか。これが、民博で1度ならず、2度も特別展を実施した人間の率直な感想である。

この研究と展示の関係について、この拙稿をまとめていて、私は面白いことに気がついた。それは、民博では展示に活気があるときは研究にも活気があったのではないか、

ということだ。これは、私が40年あまり民博を見てきた、あくまで私の印象である。とくに、民博では展示と研究が強く関係していると思った時期がある。

それは、阪神・淡路大震災のときのことであった。先述したように、この地震の直後から民博は45日間の閉館を余儀なくされた。しかし、閉館していたのは、2階の展示場だけであり、研究部や管理部は館員が出勤していた。私はといえば、地震のために遅れた展示作業を進めるために、毎日、展示業者や協力者たちとともに特別展示館で作業に没頭していたのであった。

そのような状況のなかで、気づいたことがある。それは、展示場が閉鎖され、人の姿が消えると、研究部のほうも人影が少なくなり、火が消えたように淋しく、暗くなったことである。ところが、展示場が再開され、入館者が戻ってくると、研究部も活力を取り戻したのだ。そして、3月中旬に特別展示場で楽器展が開催され、4月にはいって特別展示館の入館者数が増加するとともに、研究部を含めた民博全体が活力を取り戻し、館員の表情も明るくなった。そんな光景をながめていて、私は「展示あってこそその民博」と思ったのであった。

(2) 報告書の刊行を

民博は博物館をもった研究所であるが、民博における業績の評価では、展示は評価の対象とされず、論文だけを評価していた。この方法に、私は大きな違和感をいだいていたが、では、どうするのか、それに対する具体策はなかった。しかし、いまでは、その具体策の形がおぼろげながら見えてきた。

まず、具体的な案をひとつ述べておこう。それは、せめて展覧会を実施した実行委員長だけでも、展覧会の終了後、民博のさまざまな雑用や会議から解放し、最低でも一年くらいのサバティカル期間を与えるべきではないだろうか、というものである。そうすれば、研究の遅れも少しは取り戻せるだろう。

このサバティカル期間を与えれば、もうひとつの利点がありそうだ。それは、展覧会を実施した研究者に対して、それを反省する時間的・精神的な余裕を与えられることだ。おそらく、これは民博だけでなく、全国の博物館でも共通していえることだろう。今や博物館の入館者数の低迷は、民博だけでなく、日本全国でおこっている現象だからである。そして、その一因に展覧会をやろうとする人間に、「展覧会をやりたい」というインセンティブを欠いていることが考えられるのだ。

実際に、今回この拙稿をまとめるにあたって、大変驚いたことがある。それは、これまで民博では50回近くの特別展・企画展がおこなわれているにもかかわらず、ほとんど展覧会に関する報告書が刊行されていないことだ。民博の特別展は、公立や私立の博物館とは違って巨費が投じられ、しかも、これらの特別展では「実験」的なものが少なくない。もし、展示を「実験」ととらえるならば、「実験」には、実験結果があり、その結

果に対する考察や議論、そして結果を報告する義務があるだろう。しかし、これまでの民博の特別展では実験と結果だけがあり、その結果は入館者数のみで語られるきらいがあった。

ちなみに、報告書そのものは民博では、ほとんど刊行されてこなかったが、展覧会等に関する短い報告は『民博通信』などにいくつも発表されてきた（長野 1991; 栗田 1992; 杉村 1995; 山本 1995; 立川 1997; 森田 1998; 吉田 1997, 1998a; 小長谷 1998; 石森 1999 など）。

しかし、これらの報告のほとんどは、展示が入館者にどのようにうけとめられたのかという問題に対しては、分析も調査もおこなっていないのである。

それでは、なぜ、民博では特別展に関する報告書が刊行されてこなかったのでしょうか。これは、一言でいえば、展示を実施した研究者が、報告書をまとめるだけの精神的・時間的余裕をもてなかったからではないだろうか。そういう私自身がそうであった。私は民博を10年前に定年退職したが、現役時代には楽器展の報告書を書くだけの精神的・時間的な余裕はまったくなかった。そして、定年後も科学研究費による海外調査を代表者として継続したこともあり、また共同研究会の報告書や自分の研究をまとめていて、楽器展をふりかえる余裕さえなかった。こうして、私は原稿をまとめるまでに、定年後の10年も経ってしまったのであった。

報告書を書くきっかけになったのは、冒頭で述べたように、近年の民博の入館者数の低迷、とくに特別展への入館者数の減少であった。この入館者数の減少の原因などについては、すでに述べたので、ここではくりかえさない。じつは、もうひとつのきっかけがある。それこそは、ここで述べた展覧会の報告書がこれまでほとんど刊行されてこなかったことだ。これまで何度も述べてきているように、わたしは2度も特別展・企画展にかかわっているが、そんな人間でさえ一冊も報告書を出してこなかったのである。

そして、民博の特別展の入館者数の減少は、展覧会に関する報告書がほとんど刊行されてこなかったこととも大きな関係があるかもしれないと思うようになった。報告書がないと、これから新たに展覧会を企画しようとする者にとって、指針になるべきものがなく、また過去の特別展の反省すべき点などもわからないからである。実際に、1990年に実施された企画展「赤道アフリカの仮面」展の調査報告書は、1995年に実施した楽器展を実施するうえで大きな指針を与えてくれたのである。さいわいに、私の場合は、楽器展の前に「大アンデス文明」展を経験していたので、その経験を生かすことができた。しかし、ほとんどの民博の教員にとって、特別展は初めて経験するものであろうし、指針がなければ羅針盤を欠いた船ようになってしまうであろう。

だからといって、これまで展覧会の報告書が刊行されてこなかったことを、私は非難するつもりは毛頭ない。むしろ、報告書を刊行してこなかった（正確には、できなかった）のは、それだけ特別展が大変なイベントであることを雄弁に物語るものであろう。

私の経験からいえば、展覧会の終了のあとは、「2度と展覧会のことは振りかえりたくもない」といった気持ちであった。

これは、楽器展の準備中に大地震がおこったこと、さらに開催直後に地下鉄サリン事件がおこったことなど、楽器展が異常事態下でおこなわれたことも関係しているかもしれない。また、楽器展は、民博での展示のあと、岐阜（県立博物館）と東京（たばこと塩の博物館）で巡回展を実施したが、これも大きな負担となった。このため、私はすべての展覧会のあと、疲労などで一ヶ月半の入院生活を余儀なくされたのであった。

この点で、思いかえされることがある。民博の特別展では、ふたりもの犠牲者を出していることだ。ひとり、第2回特別展「明治の民具―モース・コレクション展」（1990年）の実行委員長であった守屋毅教授である。もうひとり、2013年の特別展「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館」の実行委員長であった近藤雅樹教授である。守屋教授は特別展の終了直後に、近藤教授は特別展の開催直前に亡くなられた。ふたりとも病死であった。このほか、特別展の準備中、あるいは特別展が終わってから病気で倒れたり、病院に入院した教員も少なくない。

これらの例を見ても、特別展がある意味で、「命がけ」の大変なイベントであることがうかがえる。したがって、特別展の終了後に、実行委員長だけでもサバティカル期間を与えることは、休養をとるためにも、研究の遅れを取り戻すためにも、さらには展覧会の報告書をまとめるためにも必要である、と私は考えている。一年間が無理なら、せめて半年間でもサバティカル期間が与えられれば、報告書を完成することができるかもしれないのだ。

このように述べてくると、「展覧会なんてやりたくない」、と思われる方がおられるかもしれないが、展覧会は、研究室にいては味わえない、さまざまなメリットもある。その最大のものは、展示を創る喜びであろう。とくに、展覧会では論文や本を書くのとは大きく異なった喜びが与えられる。それは、一般市民と直接に接触でき、展示に対する反応を見たり、意見を交換できる機会が与えられることである。端（2000: 6）も指摘しているように、「展示こそが博物館が利用者とコミュニケーションするもっとも重要な手段である」からだ。最近、民博で特別展を実施した教員の、「これで、ようやく民博の一員になれたような気がします」という言葉は大変印象的であった。

(3) 「モノばなれ」のすすむ民族学

ここで、もうひとつ指摘しておかなければならないことがある。それは、民族学（文化人類学）における「モノ」の研究、つまり物質文化研究の衰退である。いまや、物質文化研究は民族学のなかで中心的なテーマではなく、周縁分野に位置づけられているのである。それは、民博の『研究報告』を見ていても明らかであろう。かつては、同誌に、いくつもの物質文化研究の論文が掲載されていたが、近年はほとんど姿を消した。また、

日本文化人類学会の学会誌である『文化人類学』においても物質文化に関連する論文を見なくなって久しい。

じつは、物質文化研究の衰退は、昨日今日に始まったものではなく、かなり以前から生じていた現象である。実際に、『文化人類学』の前身である『民族学研究』で、日本民族学会の50周年を記念した座談会「日本における民族学」がひらかれたのは、いまからもう30年以上も前の1985年のことであったが、そこでも物質文化研究の衰退が指摘されていた。このため、私は1998年に『民族学研究』で、「物質文化研究の新たな可能性」と題する特集を組んだが、大きな流れはかわらなかったようである。

一方で、「モノ」をとおして異文化を展示してきた民族学などの博物館関係者のあいだでは、物質文化研究への新たな取り組みが強く求められている。そして、すでに一部ではそのような試みもなされている。具体的には、ここで述べた『民族学研究』の特集（62巻4号）や近刊の『展示する人類学』（昭和堂）などを参照されたい（橋本 1998; 吉田 1998b; 高倉 2015）。

さて、それでは民博ではどうだろうか。物質文化研究の衰退、ひらたくいえば「モノばなれ」が深く進行しているのではないだろうか。その象徴的な例をあげておこう。それは民博の広報誌である『月刊みんぱく』の例である。『月刊みんぱく』は、B5判、24ページの小冊子であるが、それゆえに広く読まれている雑誌である。現在は、カラー頁をふんだんに使った、いささか贅沢な感じのものになっているが、創刊から長いあいだ、2色刷りで、表紙だけがカラーであった。そして、現在の表紙は風景などの写真を使っているが、以前は民博に収蔵されている民族資料の写真が使われていた。また、表紙裏には、その民族資料の詳しい解説もついていた。

つまり、開館から長いあいだ、民博の顔とでもいうべき『月刊みんぱく』の表紙は民族資料、すなわち「モノ」だったのである。同誌の変化は、これにとどまらない。かつては、この雑誌のちょうど真ん中に、見ひらきで2ページにわたる「モノ」のコーナーがあり、主として民博の教員が物質文化に関するエッセイを交代に書いていた。たとえば、手元にあった『月刊みんぱく』をひらいてみると、1981年9月号では、祖父江孝男教授（当時）が「エジコとゆりかご」というエッセイを、いくつかの民族資料の写真とともにその解説も書いておられる。

じつは、私はこのコーナーのエッセイを読むのが楽しみであった。世界各地の民族がどのようにして民族資料をつくり、どのようにして利用しているかが、わかったからである。とくに、私のように理系から民族学に転向した人間にとっては、物質文化研究の身近な手はどきにもなった。さらに、このコーナーでは、世界各地の人びとの暮らしなども紹介されていたので、異文化を理解するうえでも貴重な情報をあたえてくれたのである。

それでは、なぜ、このような変化がおこったのであろうか。私はその経緯を知らない

が、あるいは物質文化研究における衰退の影響なのかもしれない。しかし、民博は博物館をもったユニークな研究機関であることが、しばしば強調されている。この点を考慮すれば、民博の広報誌から「モノ」に関連する記事がほとんど姿を消してしまったことは、はたして正しい選択であったのだろうか。

もうひとつ懸念される変化がある。それは、いわば民博の「展示ばなれ」とでもよべる現象である。民博では、一般市民への広報誌とは別に、主として研究者むけの広報誌『民博通信』を刊行しているが、この雑誌からも「展示ばなれ」の傾向がうかがえるのである。

『民博通信』も、菊版で総頁が100ページ前後の小冊子であったが、その特徴は、依頼原稿がほとんどを占める『月刊みんぱく』とはちがって、かなり自由な投稿欄があったことだ。すなわち、投稿欄には「評論・随想」「ほん（書評）」「展示コーナー」「映像・音楽・演劇」「資料と情報」「フォーラム」などがあった。

それが、いまから数年前のリニューアルによって、版形や頁数がかわっただけでなく、ほとんどの投稿欄が姿を消したのである。これも、さまざまな事情があったのであろうが、「展示コーナー」と「映像・音楽・演劇」の欄がなくなったことは、展示のことを考えるうえで、たいへん大きな問題であった。それというのも、「展示コーナー」は特別展や企画展を実施した教員たちが、それらを報告する「コーナー」として、しばしば利用していたからである。また、「映像・音楽・演劇」の欄も、民博の教員たちが展覧会のパフォーマンスや研究公演の報告の場として利用していたのである。そして、これらのコーナーや欄がなくなったことによって、民博からは展示や展示にかかわるパフォーマンスに関して、自由に意見を述べたり、意見を交換する場を失ってしまったのであった。

このような変化に対して、私は民博を定年退職して、すでに10年にもなる人間なので、いまさら何もいえる立場にないが、善処してほしいとは願っている。そうでなければ、民博の「モノばなれ」「展示ばなれ」は、さらに進むであろうし、それは民博の入館者数の減少や展覧会への入館者数の減少にもつながりかねないからである。

ここで、民博外部の声にも少し耳を傾けておこう。じつは、私は民博にいて、教員を含む民博のスタッフに入館者の低迷状態に危機感をもつ人が少ないと感じていたが、これはときに私の判断が間違っているのかと思ったこともある。しかし、外部からはかなり以前から民博の展示に対してかなり厳しい声が届いている。たとえば、『国立民族学博物館における外部報告書』（国立民族学博物館 2002）のなかでも、民博の博物館活動について厳しい批判がだされている。委員のなかには「今の民博の展示というのは、魅力がないですからね」という人もいる。さらに、展示に対する外部評価では、「民博は人に来てもらう努力をおこなってきた」「ここ（民博）の展示はすごく立派である。でもなぜ人が来ないか。簡単にいえばサービス精神がない。何とかして見せよう、何とかして人を呼ぼうという気がない」といわれているのである。

私は民博のスタッフ全員に「サービス精神がない」とは思わないが、このような側面があることは否めないだろう。さて、それでは、なぜ「人を呼ぼうという気がない」のであろうか。これにも、さまざまな要因があるのかもしれないが、私自身は民博に展示や展覧会を評価するシステムが確立されていないからではないかと考えている。現在のよう、展示をしても、展覧会をやっても、入館者数だけで評価されれば、展示をする人間が「やる気」をなくしても当然だと思うからである。

この点に関しては、かなり以前から展覧会の図録を論文や著作と同様に教員の業績として評価すべきだといわれてきた。実際に、先述した『外部評価』のなかでも、当時、国立歴史民俗博物館の館員であった篠原徹は、以下のように述べている（国立民族学博物館 2006b）。

特別展の図録は、研究者の間では研究業績にならない。図録は社会的評価が低い。図録が論文と対等に評価されることがないので、論文を書いていたほうがよいということになる。これからは博物館の評価のなかで、図録を一冊書くことと研究論文を書くことが対等に評価されることにならないかぎり、博物館が市民のものにならない。

これが述べられたのは、いまから20年も前のことであるが、状況はほとんど変わっていないのではないだろうか。ただし、私は、これとはやや違った意見をもっている。たしかに、図録も業績として評価すべきであると思うが、図録はあくまで展覧会を補充するものであり、図録は展覧会の一部でしかない。つまり、私は展覧会そのものを業績に認めるべきであるといいたいのである。もしそうなれば、そのときこそは、展覧会の報告書も重要な位置を占めてくるであろう。展示も、図録も、そして報告書も一括して評価する方法を、民博でこそ、なんとかして創れないものであろうか。

実際、今から20年以上も前の1994年にも民博の課題として以下のようなことが指摘されているのである（国立民族学博物館 1994）。

展示が研究の成果の一部であるということは、それは業績として評価されることを意味する。民博ではこうした観点から、展示とりわけ特別・企画展示の評価を行なってきたのかどうか。制度化された形ではそれは行われてこなかったといわざるをえない。こうした点については工夫と改善が必要と考えられる。

しかし、このような「工夫と改善」は現在に至るまで行なわれてこなかったのではないだろうか。ここで、あらためてその必要性を指摘しておきたい。

この拙稿を脱稿したとき、朗報が届いた。ようやく民博でも展示が業績の一部として認められようになったというのである。これは、吉田新館長の着任のおかげかもしれない。それまでの館長は誰ひとりとして展覧会を実施したことがなく、現場の苦しみを知らなかったと考えられるからである。一方、吉田新館長は企画展も特別展も委員長とし

て実施したことがあり、現場の苦しみを知っていたからこそではないだろうか。

(4) 共催のすすめ

今後の展覧会にむけて、最後に、もうひとつ提案しておきたいことがある。それは、いわば「共催のすすめ」とでもいうべきものである。この共催については、私が実行委員のひとりであった「大アンデス文明」展が朝日新聞社、そして私が実行委員長であった楽器展もNHK きんきメディアプランが共催者であったことは述べた。しかし、民博とマスコミなどの企業の共催は、楽器展を最後として、その後はほとんどおこなわれていない。これには、さまざまな理由が考えられるが、ここでは、それにふれない。述べたいことは、一点だけ、それは共催のメリットについてである。

この点については、まず具体的な例を示しておこう。民博での第1回特別展が「大アンデス文明」展であり、それに12万人近い入館者があったことはすでに述べた。また、この特別展は朝日新聞社が共催相手であり、約12万人の入館者数は、民博で実施した特別展のなかでは最多であったことも述べた。では、この入館者数が多かったことと、共催があったことのあいだには何か関係がなかったのであろうか。

これを知る上で参考になる展覧会が、1991年におこなわれた特別展「大インド展——ヒンドゥー世界の神と人」である。これは関西テレビとの共催であり、入館数は11万人あまりで、民博では「大アンデス文明」展に次いで2番目に入館数の多い展覧会となった。

ここで注目していただきたいことは、どちらも共催相手があったことだ。そして、これらがともに入館者数がきわめて多かったことだ。これは偶然だろうか。おそらく、そうではないだろう。マスコミの関連企業が共催をしたからこそ、広報活動も充実したものとなり、民博の存在を広く知らしめるためとなったのではなかったか。

じつは、広報活動は研究者とは違ったセンスが要求される。そのことを知ったのは、第1回特別展で、共催相手の朝日新聞社とともに作業をおこなった結果であった。これも具体例を述べておこう。

第1回の特別展「大アンデス文明」展では、この展覧会名をどうするかについて民博側と共催会社とのあいだには大きな考え方の違いがあった。民博側は、アンデス文明に「大」という字をつける理由がよくわからなかったが、朝日新聞社側は、「大」という字にこだわったのである。これに、なかなか決着がつかず、展覧会名は「大アンデス文明」展で押しきられる形となった。そのため、図録では、表紙が「アンデス文明」、背表紙が「大アンデス文明展」という、いささか不統一なものになったのであった。

しかし、後からふりかえてみると、これは朝日新聞社側の主張が正しかったようである。「大」という一字をつけくわえることによって、展覧会そのものが大規模なものであることを感じさせるものになったからだ。そのせいか、「大アンデス文明展」のあとの

民博の特別展も、「大インド展」や「大モンゴル展」と名づけられ、いずれも10万人を超える多数の入館者をむかえたのである。

このことは、展覧会の広報活動などでは、研究者だけの努力では限界があり、それをさらに効果的なものとするためにはマスコミなどの共催会社のサポートが重要になってくることを物語っているのではないだろうか。一方で、民博が国立の非営利機関であることも忘れるわけにはゆかない。この点で、梅棹は重要なことを、次のように述べている。

……国民の税金をつかうのですから、そのつかいかたには、制度的に厳重な制約がたくさんついております。たとえば、広報活動などはほとんどできないような仕組みになっています。日本政府というのは、伝統的に宣伝広報活動をしないたてまえになっているようで、博物館というような、国民大衆に対して積極的によびかけてゆかなければならない機関においても、広報予算はまずゼロというのが実情です（梅棹 1990）。

現在は状況が少しわかり、「広報予算はゼロ」ではないようだが、民間とちがって、国立の民博では広報活動にさまざまな制約があり、自由な広報活動がむずかしいことは事実である。だからこそ、民間会社のサポートが重要になってくるのではないか。とくに、2004年の大学法人化以降、民博の予算もどんどん縮小されている状態のなかで、共催等を通じて民間資金を積極的に導入し、自助努力をはかるべきではないだろうか。

もちろん、このような意見には反論も予想される。たとえば、先述したように民博は国立の非営利機関であり、その民博がそこまでやる必要があるのかといった反論である。しかし、展覧会をひらいて、ひとりでも多くの入館者にきてほしいと期待するのは当然であろう。また、民博は国立だからこそ注がれている厳しい目があることにも注意を払う必要がある。それは、楽器展によせられたアンケート調査にも散見されるとおりである。

その意味でも、本稿に付したアンケートの生の声に耳を傾けていただきたい。アンケートには、民博を批判する厳しい声がある一方で、民博を応援する、あたたかい声も少なくないからだ。そんな応援の声にこたえるためにも、民博はこれからも魅力的な展覧会を次々に実施して、ひとりでも多くの入館者がふえることを祈っている。また、本稿が、民博はもとより、日本各地の博物館における今後の企画の立案・実施に生かされ、展示活動がさらに活発に展開されることを願ってやまない。

追記

民博における楽器展の展示は1995年度の「日本ディスプレイ・デザイン賞」奨励賞を、図録も「全国ポスター・カタログ展」カタログ部門の奨励賞を受賞したことを付記して

おきたい。そして、この図録は会期途中に重版されたことも付言する。なお、本稿で
 用いた写真は、特記したもの以外は、すべて民博の情報管理施設および筆者の撮影によ
 るものである。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、琵琶湖博物館の元学芸員の布谷知夫氏、創造室長の藤村俊
 樹氏、そして同館館長の篠原徹氏から、さまざまな情報をいただいた。とくに、篠原館
 長には同館を案内していただいただけでなく、貴重な意見交換もできた。また、野外民
 族博物館リトルワールドの主任学芸員の宮里孝生氏にもさまざまなご意見、情報をいた
 だいた。

また、山形県鶴岡市では、アマゾン民族博物館の山口吉彦元館長から博物館の運営に
 関する貴重な情報を得た。残念ながら、同館は入館者数の低迷がつづいたことなどによ
 り廃館を余儀なくされたが、いつの日か再オープンされることを祈りたい。鶴岡市では、
 市立加茂水族館（クラゲドリーム館）の奥泉和也館長や藤沢周平記念館（文学館）の三
 浦真紀館長、さらに致道博物館の酒井忠久館長が、ご多忙のなか、館内を案内してくだ
 さっただけでなく、貴重な情報も与えてくださった。

このほか、民博の広報係、出版編集室、情報管理施設、梅棹資料室の皆様がたにもお
 世話になった。アンケート調査のコンピューターによる解析は、民博の情報管理施設の
 皆様のおかげである。また、本稿は、元リトルワールド博物館員の稲村哲也氏（現在、
 放送大学教授・博物館学）および池谷和信氏（民博教授）に目をとおしていただき、貴
 重なコメントをいただいた。本稿の取りまとめ、拙稿のワープロへの入力、写真選びな
 どには、私の研究室の秘書である山本祥子さんのご尽力があった。

以上、記して謝意を表したい。

参考文献

石森秀三

1999 「企画展『南太平洋の文化遺産——ジョージ・ブラウン・コレクション』の報告」『民博通
 信』85: 1-58。

宇野文男

1992 「企画展期間中の来館状況と今後への指針」佐々木高明編『企画展「赤道アフリカの仮面」
 アンケート調査報告』大阪：国立民族学博物館情報管理施設。

1995 「阪神大震災と国立民族学博物館」『民博通信』70: 96-113。

上田篤

1989 『博物館からミュージランドへ』 東京：学芸出版社。

梅棹忠夫

1976 「『国立民族学博物館研究報告』のあり方について」『国立民族学博物館研究報告』1(1): 204-215, 大阪：国立民族学博物館。

1990 「民族学と博物館」『梅棹忠夫著作集』第15巻, 東京：中央公論社。

梅棹忠夫編

1978 『民博誕生——館長対談』 東京：中央公論社。

1987 『人間探求』 東京：講談社。

Katz, E. and P. F. Lazarsfeld

1955 Personal influence: The part played by people in the flow of mass communication. Glencoe, MN: The Free Press.

嘉田由紀子・古川彰

2000 「生活再現の応用展示学的研究——博物館のエスノグラフィーとして」
『琵琶湖博物館調査研究報告』16。

川口幸也

2009 『展示の政治学』 東京：水声社。

草場匡宏・高橋純一

1996 「マルチメディア・コーナーの舞台裏——『ラテンアメリカの音楽と楽器展』」
『民博通信』71: 54-68。

栗田靖之

1992 「大インド展の計画とその経過」『民博通信』55: 41-57。

コールトン, T.

2000 『ハンズ・オンとこれからの博物館』 染川香澄他訳, 東京：東海大学出版会。

国立民族学博物館

1982 『国立民族学博物館における展示の基本構想』 大阪：国立民族学博物館。

1990 『国立民族学博物館における特別・企画展示の基本構想』 大阪：国立民族学博物館。

1994 『国立民族学博物館の現状と課題——21世紀の研究博物館をめざして』 大阪：国立民族学博物館。

2002 『外部評価報告書』 大阪：国立民族学博物館。

2006a 『国立民族学博物館三十年史』 大阪：国立民族学博物館。

2006b 『外部評価報告書』(2004-05) 大阪：国立民族学博物館。

2007 『国立民族学博物館における展示基本構想2007』 大阪：国立民族学博物館。

2017 『国立民族学博物館要覧2017』 大阪：国立民族学博物館。

小長谷有紀

1998 「1998年度特別展『大モンゴル展——草原の遊牧文明』の生起」『民博通信』82: 70-79。

佐々木高明

1991 「『特別・企画展示の基本構想』によせて」『民博通信』51: 23-33。

佐々木高明編

1992 『企画展 赤道アフリカの仮面アンケート調査報告』 大阪：国立民族学博物館情報管理施設。

須藤健一

- 2017 「本館展示の新構築とその心——40年ぶりの改変をおえて」『国立民族学博物館研究報告』41(4): 393-450。

杉村棟

- 1995 「特別展『絨毯——シルクロードの華』をおえて」『民博通信』68: 20-22。

高橋徹

- 1981 「『比較マスコミ利用学』のすすめ」『月刊みんぱく』6: 1。

高倉浩樹

- 2015 『展示する人類学——日本と異文化をつなぐ対話』京都：昭和堂。

立川武蔵

- 1997 「ヒンドゥイズムの展示」『民博通信』79: 62-69。

長野泰彦

- 1991 「大インド展におけるパフォーマンス展示——経緯と民俗芸能紹介」『民博通信』54: 26-32。

布谷知夫

- 2005 『博物館の理念と運営——利用者主体の博物館学』東京：雄山閣出版。

秦明夫

- 1987 「民博入館者像のスケッチ——見られる側からみた見る側のイメージ」『民博通信』36: 46-59。

端信行

- 2000 『新しい展示技法の開発と子どもと博物館のコミュニケーションに関する研究』大阪：国立民族学博物館。

橋本裕之

- 1998 「物質文化の劇場 博物館におけるインタラクティブ・ミスコミュニケーション」『民族学研究』62(4): 537-562。

日比野光敏

- 1994 「博物館・展覧会・学芸員——そして民俗学——ある地方公立博物館の事例から」『日本民俗学』200: 248-265。

琵琶湖博物館

- 2013 『滋賀県立琵琶湖博物館総合案内』滋賀：県立琵琶湖博物館。

- 2016 『琵琶湖博物館 要覧』滋賀：県立琵琶湖博物館。

フォーク, J. H.・L. D. ディアーキング

- 1996 『博物館体験 学芸員のための視点』高橋順一訳, 東京：雄山閣出版。

『民族学研究』編集部

- 1998 「物質文化研究の新たな可能性を求めて」『民族学研究』62(4): 517。

森田恒之

- 1998 「企画展『なかはどうなってるの?』の中はどうなってるの?」『民博通信』82: 61-69, 大阪：国立民族学博物館。

諸岡博熊

- 1990 『MI (ミュージアム・アイデンティティ) 変革する博物館第三世代』東京：学苑社。

- 1991 『ミュージアム・シティ』兵庫：コミュニケーションサービス株式会社。

山本紀夫

- 1988 「研究公演『アンデスの音楽と踊り』の舞台裏」『民博通信』42: 47-60。

1995 「ライブ・コンサートの試み——『ラテンアメリカの音楽と楽器』展から」『民博通信』69: 38-42。

吉田憲司

1997 「フィールド・ワークとしての展示——特別展『異文化へのまなざし』の記録抄（上）」『民博通信』82: 38-60。

1998a 「フィールド・ワークとしての展示——特別展『異文化へのまなざし』の記録抄（下）」『民博通信』83: 44-67。

1998b 「民族誌展示の現在——表象の詩学と政治学」『民族学研究』62(4): 518-536。

ラテンアメリカの音楽と楽器展編集委員会

1995 『ラテンアメリカの音楽と楽器』大阪：NHK きんきメディアプラン。

資料1 楽器展組織一覧

(肩書きは、いずれも1995年の楽器展実施当時)

実行委員会

山本 紀夫 国立民族学博物館第5研究部教授(委員長)
今村 隆 NHKきんきメディアプラン企画事業本部 部長(副委員長)
藤井 龍彦 国立民族学博物館第4研究部教授
中牧 弘允 国立民族学博物館第1研究部助教授
栗本 英世 国立民族学博物館第3研究部助教授
久保 正敏 国立民族学博物館第5研究部助教授
福岡 正太 国立民族学博物館第2研究部助手
園田 直子 国立民族学博物館第5研究部助手
河野 克俊 国立民族学博物館庶務課長
加藤 建夫 国立民族学博物館研究協力課長
井上 信一 国立民族学博物館会計課長
山岸 大紘 国立民族学博物館施設課長
久野 木 国立民族学博物館情報企画課長
宇野 文男 国立民族学博物館情報企画課専門員

ワーキング・スタッフ

武田 耕三 国立民族学博物館情報企画課展示企画係長
飯島 善明 国立民族学博物館情報企画課標本整備係長
田上 仁志 国立民族学博物館情報システム課映像音響技術係長
長井 純 国立民族学博物館庶務課普及係長
佐々木幹夫 国立民族学博物館研究協力課事業係長
上殿 克己 国立民族学博物館会計課用度係長
藤井 智博 国立民族学博物館情報企画課展示企画係員
浅井 俊子 NHKきんきメディアプラン
堺 真理 NHKきんきメディアプラン

アートディレクター

大野木啓人 株式会社七彩

デザイナー

古川 幹雄 株式会社七彩

グラフィックデザイナー

河野 一郎 B2デザイン

展示設計・施工

株式会社七彩

資料2 展示品リスト

国立民族学博物館創設20周年記念企画展

聴らずともわかる
行方アメリカの音楽と楽器展

展 示 品 リ ス ト

国立民族学博物館創設 20 周年記念企画展
「ラテンアメリカの音楽と楽器」 展示品リスト

このリストでは、本企画展の出品物のうち、主として楽器に関するデータをあつかい、衣装その他の資料については載せておりません。リストの中の展示番号は、< >でくくられたそれぞれの分類の中で1、2、3・・・となっております。番号の前に★がついているものは、図録に掲載されていることを示しています。現地名がわかっている資料に関しては、その読みを名前の欄に、綴りを現地名の欄に記しております。国（部族）名は、あくまでも当該の資料が入手された場所を意味し、それ以外の国（民族）で使用されないということではありません。大ききの単位はセンチメートル、またlは長さ、hは高さ、wは幅、dは直径を表わしています。標本番号の頭の記号は、KUが国立音楽大学楽器学資料館、Hが国立民族学博物館、YA、NH、NA、FUなどが個人の所蔵を示します。

音楽の世界

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 小	標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 小	標 本 番 号
伝統的世界						6	カニヤ		カリブ	l=387	H196347
メキシコのボラードレス						チュンチョのフレチャ					
1	太鼓		メキシコ	d= 15	H196876	1	フレチャ	flecha	カリブ	l= 40	H110448
2	笛		メキシコ	l= 28	H196877	2	フレチャ		カリブ	l= 32	YA
グアテマラのマリンバ						メキシコのマリアッチ					
1	マリンバ		グアテマラ	l=163	H153485	1	ビヤラ		メキシコ	l= 80	H155751
アンデスのケーナ						2	トランベト		メキシコ	l= 55	H191898
1	ケーナ	quena	ペルー	l= 53	H110384	3	サコ		メキシコ	l=110	H191900
アマゾン						4	サコ		メキシコ	l=102	H196947
1	太鼓		ブラジル(カピ)	l= 25	H197296	5	カイヤ		メキシコ	l= 60	H197013
2	マカ		ブラジル(カピ)	l= 41	H197286	ペルーのバンダ					
★ 3	笛		ブラジル(カピ)	l=220	H197294	1	トランベト		ペルー	l= 43	H196759
サラサカの笛と太鼓の同時演奏						★ 2	チューバ		ペルー	l= 56	H197115
1	笛		エクアドル	l= 40	H196740	3	サコ		ペルー	l= 33	H197168
2	笛		エクアドル	l= 40	H196741	4	太鼓		ペルー	d= 76	H197170
★ 3	太鼓		エクアドル	l= 50	H196693	★ 5	スチール・ドラム		ペルー	l=130	H197171
4	太鼓		エクアドル	l= 50	H196695	チリのクエッカ					
5	太鼓		エクアドル	l= 50	H196734	1	サコ		チリ	l=100	H191902
オタバロ族						2	カイヤ		チリ	d= 20	H196579
1	ウグドル	rondador	エクアドル	l= 32	H8152	★ 3	トルメント	tormento	チリ	l= 53	H196620
ヤキ族の鹿踊り						★ 4	ハフ		チリ	l=125	H196621
1	マカス	maracas	メキシコ	l= 30	H132562	アフリカ的世界					
2	マカス	maracas	メキシコ	l= 30	H132563	ガリファの仮面舞踊					
3	ジャジャラ・足飾り		メキシコ	l=180	H132564/2	1	足用ジャラ		ホンジュラス	l=180	H196758
4	ジャジャラ・足飾り		メキシコ	l=180	H1325642/2	2	足用ジャラ		ホンジュラス	l=180	H196865
5	ジャジャラ・腰帯		メキシコ	l=110	H	3	足用ジャラ		ホンジュラス	l=180	H196762
ボリビアのコレケンチャ村						4	足用ジャラ		ホンジュラス	l=180	H196779
1	カニヤ	pusi pillia	ペルー	l= 71	H196512	5	太鼓		ホンジュラス	h= 36	H196748
2	太鼓		ペルー	d= 45	H196394	6	太鼓		ホンジュラス	h= 53	H196749
3	太鼓		ペルー	d= 38	H196395	トリニダード・トバゴのスチール・ドラム					
4	ババ		ペルー	l= 28	H196530	★ 1	スチール・ドラム	トリニダード・トバゴ	h= 48	H196288	
ヨーロッパ的世界						★ 2	スチール・ドラム	トリニダード・トバゴ	h= 88	H196289	
ボリビアのカニヤ						★ 3	スチール・ドラム	トリニダード・トバゴ	h= 20	H196291	
1	カニヤ	caña	ペルー	l=380	H110333	★ 4	スチール・ドラム	トリニダード・トバゴ	h= 21	H196868	
2	カニヤ		ペルー	l=397	H110334	キューバのバタ					
3	カニヤ		ペルー	l=403	H196344	1	バタ	batá	キューバ	l= 69	H196805
4	カニヤ		ペルー	l=395	H196345	2	バタ		キューバ	l= 66	H196806
5	カニヤ		ペルー	l=362	H196346	3	バタ		キューバ	l= 47	H196807

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 小	標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 小	標 本 番 号
ベネズエラのミーナ						10	マトラ 白は		ボリビア	l= 27	H109863
1	曲	boca	ベネズエラ	l= 234	YA	11	マトラ ジャガ-		ボリビア	w= 32	H109865
2	曲バタ	curbata	ベネズエラ	l= 80	YA	12	マトラ モレノ		ボリビア	w= 32	H109866
ボリビアのモレーノの踊り						13	マトラ 蛇の		ボリビア	l= 29	H109874
1	マトラ	matraca	ボリビア	l= 58	H196551	14	マトラ 人形		ボリビア	l= 30	H109879
2	マトラ		ボリビア	l= 25	H196561	15	マトラ 角笛		ボリビア	l= 26	H110112
3	マトラ		ボリビア	l= 75	H196568	ブラジルのサンバ					
4	マトラ コドル		ボリビア	w= 25	H109802	1	グイロ	guiro	ブラジル	l= 42	H110843
5	マトラ モレノの板面		ボリビア	l= 32	H109854	2	太鼓		ブラジル	d= 31	H197344
6	マトラ 車		ボリビア	l= 38	H109857	3	太鼓		ブラジル	h= 30	H197345
7	マトラ モレノ		ボリビア	l= 35	H109858	4	太鼓		ブラジル	h= 60	H197346
8	マトラ モレノ		ボリビア	h= 21	H109859	5	太鼓		ブラジル	d= 57	H197352
9	マトラ モレノの板面		ボリビア	l= 24	H109860	6	ショカリ	chocalho	ブラジル	l= 60	H197354

楽器の世界

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 小	標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 小	標 本 番 号
<楽士たち>						<たて笛のなかま>					
1	楽団		ペル	h= 40	H167954	★ 1	呼び笛	バグパイ(ガラン)	ペル	l= 14	YA
2	楽士夫婦		ペル	h= 51	H167953	2	呼び笛	バグパイ(ガラン)	ペル	l= 15	YA
3	楽士		ペル	h= 59	H167956	3	骨の笛	ベネズエラ	ペル	l= 17	H123194
<先スペイン時代の楽器>						4	骨の笛	ベネズエラ	ペル	l= 21	H123096
1	オカリナ	オカリナ	ペル	h= 18	KU968	5	骨の笛	ベネズエラ	ペル	l= 20	H123094
2	オカリナ	オカリナ	ペル	h= 10	KU969	6	骨の笛	ベネズエラ	ペル	l= 19	H123095
3	オカリナ	オカリナ	ペル	l= 23	KU612	7	骨の笛	ブラジル	ペル	l= 19	H110613
4	笛	コロンビア	ペル	l= 8	KU1367	★ 8	骨の笛	ベネズエラ(ピグマ)	ペル	l= 18	H123105
5	笛	コロンビア	ペル	h= 4	KU1370	9	笛	ベネズエラ	ペル	l= 44	H123189
6	オカリナ	オカリナ	ペル	l= 10	KU966	10	ピフィカ	pifilika	ペル	l= 20	YA
7	オカリナ	オカリナ	ペル	l= 16	KU1197	★11	ピフィカ	pifilika	ペル	l= 31	H144265
8	オカリナ	オカリナ	ペル	l= 21	KU965	★12	ハントロ	jantarco	ペル	l= 39	H196380
9	ケナ	ケナ	ペル	l= 15	KU1738	13	笛	ボリビア	ペル	l= 29	YA4
10	チマチ	チマチ	ペル	l= 15	KU1739	14	笛	ペル	l= 43	H196998	
11	円笛	円笛	ペル	l= 13	KU1672	15	ケナ	quenita	ボリビア	l= 25	H196382
12	鳴笛壺	鳴笛壺	ペル	l= 23	KU964	16	ケナ	quenita	ボリビア	l= 25	H196383
<先スペイン時代の楽器(複製)>						17	骨の笛	ブラジル	ペル	l= 14	H190283
1	多列笛	ペル	l= 17	H197081	18	骨の笛	ブラジル	ペル	l= 26	H9121	
2	土人形	ペル	l= 14	H197077	19	笛	コロンビア	ペル	l= 17	H10911	
3	土人形(カカ)	ペル	l= 18	H197078	20	骨の笛	ベネズエラ	ペル	l= 23	H123270	
4	土人形(蛙)	ペル	l= 20	H197076	★21	笛	コロンビア(タニカ)	ペル	l= 20	H10912	
5	土人形(猿)	ペル	l= 20	H197079	22	骨の笛	ペル	l= 14	H127622		
6	笛	ペル	l= 6	H197089	23	骨の笛	ペル	l= 21	H127621		
7	笛	ペル	l= 6	H197187	24	骨の笛	ペル	l= 23	H127620		
8	笛	ペル	l= 5	H197090	★25	ケナ	quena	ペル	l= 33	H4381	
9	笛	ペル	l= 5	H197092	26	はさみおどり用笛	ペル	l= 32	H162359		
10	オカリナ	ペル	l= 8	H197101	27	笛	コロンビア	ペル	l= 21	H10909	
11	オカリナ	ペル	l= 9	H197100	28	ケナ	quena	ペル	l= 40	H197132	
12	たて笛	ペル	l= 23	H197082	29	ケナ	quena	ペル	l= 40	H197131	
13	たて笛	ペル	l= 15	H197083	30	ケナ	quena	ペル	l= 37	YA	
14	骨笛	ペル	l= 25	H197061	31	ケナ	quena	ボリビア	l= 38	YA	
15	骨笛	ペル	l= 17	H197062	32	ケナ	quena	ボリビア	l= 38	YA	
16	骨笛	ペル	l= 13	H197063	33	ケナ	quena	ペル	l= 34	H196577	
17	骨笛	ペル	l= 9	H197064	★34	タナ	quenaquena	ボリビア	l= 36	H109967	
18	太鼓	ペル	l= 55	H197112	35	たて笛	ペル	l= 38	H197173		
19	蔵笛	ペル	h= 57	H197075	36	たて笛	ペル	l= 36	H197174		
					37	チャトレ	chatre	ボリビア	l= 47	H110042	
					38	たて笛	ボリビア	l= 46	H132866		
					39	笛	ペル	l= 48	H4364		

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大結	標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大結	標 本 番 号
40	笛		ベル-	1=	48 H4367	12	ラキタ	laquita	チリビ?	1=	53 H109983
41	笛		ベル-	1=	52 H4363	13	タリナ	taquina	チリビ?	1=	64 H110075
42	ケナ	quenacho	チリビ?	1=	55 H132863	14	タリナ	taquina	チリビ?	1=	57 H110076
43	ケナ	quenaquena	チリビ?	1=	50 H132865	15	プリメ・ル・タリナ	primer taquina	チリビ?	1=	58 H110081
44	ケナ	quena	ベル-	1=	51 H197166	16	プリメ・ル・タリナ	primer taquina	チリビ?	1=	52 H110082
★45	チャトレ	chatre	チリビ?	1=	47 H110041	17	シク	sicu	メキシコ	1=	48 H196938
★46	モロ	mollo	チリビ?	1=	58 H109971	18	シク	sicu	メキシコ	1=	43 H196939
47	アユハ	ayuhuala	チリビ?	1=	67 H110091	19	多列笛	パナ		1=	52 H196742
48	アノ	iano	チリビ?	1=	60 H11009	20	サンボニ・クロマティカ	sampoña cromática	チリ	1=	43 H196578
49	アユハ	ayuhuala	チリビ?	1=	44 H110092	21	多列笛	ベル-		1=	29 YA
50	ムクル	mukururu	チリビ?	1=	49 H109973	22	多列笛	ベル-		1=	45 H197243
★51	チョケ	choquilla	チリビ?	1=	45 H109969	23	チリワノ	chiriwano	チリビ?	1=	42 H110059
52	ムクル	mukururu	チリビ?	1=	80 H109972	24	チリワノ	chiriwano	チリビ?	1=	38 H110060
53	笛		チリビ?	1=	76 H4512	25	ワヤル	huayruru	チリビ?	1=	35 H110087
54	ムクル	mukururu	チリビ?	1=	79 H132861	26	ワヤル	huayruru	チリビ?	1=	32 H110088
55	笛		ベル-	1=	80 H197175	27	ラキタ	laquita	チリビ?	1=	32 H109984
56	たて笛		ベル-	1=	80 H197172	28	ラキタ	laquita	チリビ?	1=	30 H109985
<よこ笛のなかま>						29	プリメ・ル・タリナ	primer taquina	チリビ?	1=	30 H110083
★1	横笛		フラジル(カヤ)	1=	40 H110582	30	チリワノ	chiriwano	チリビ?	1=	21 H110061
2	横笛		フラジル	1=	40 H197293	31	タリナ	taquina	チリビ?	1=	17 H110080
3	笛		フラジル	1=	49 H103974	32	プリメ・ル・タリナ	primer taquina	チリビ?	1=	15 H110086
4	ピクイ・フラタ	pikuy flauta	エタドル	1=	50 H196676	33	プリメ・ル・タリナ	primer taquina	チリビ?	1=	14 H110085
★5	横笛		エタドル(シュトル)	1=	48 H196677	34	タリナ	taquina	チリビ?	1=	15 H110079
6	横笛		フラジル	1=	55 H197308	★35	アンタラ(鏡付き)	antara	ベル-	1=	32 H4385
7	横笛		フラジル	1=	50 H197309	36	タリナ	taquina	チリビ?	1=	32 H110078
8	横笛		フラジル	1=	51 H197307	37	タリナ	taquina	チリビ?	1=	38 H110077
9	笛		フラジル	1=	60 H9148	38	プリメ・ル・タリナ	primer taquina	チリビ?	1=	26 H110084
10	横笛		フラジル(タリナ)	1=	67 NH	39	チリワノ	chiriwano	チリビ?	1=	22 H110052
11	笛		フラジル(タリナ)	1=	62 NH	★40	バシ	bajón	チリビ?	1=	52 FU
12	笛		フラジル(タリナ)	1=	62 NH	41	多列笛	ベル-		1=	58 YA
13	笛		ベル-	1=	67 YA	42	多列笛	ベル-	w=	38 H161635	
14	横笛		エタドル	1=	46 H12981	43	多列笛	ベル-		1=	26 H150036
15	横笛		エタドル	1=	70 H196678	44	サンボニ	sampoña	ベル-	1=	38 H196999
16	フラタ		チリビ?	1=	42 H196385	45	笛	ベル-アマツ?	1=	28 H12822	
★17	フラタ・チュンチュ	flauta chunchu	チリビ?	1=	44 H110035	46	多列笛	ベル-アマツ?	1=	17 H197187	
18	ピナノ	pifano	チリビ?	1=	35 H196362	47	多列笛	ベル-	1=	23 H197188	
19	横笛		ベル-	1=	72 H197162	48	ロツドトル	rondador	エタドル	1=	30 H196697
★20	フラタ・パカ	flauta paka	ベル-	1=	42 H196995	49	ハバイ	エタドル	1=	11 H8153	
21	呼子笛		ベル-	1=	13 H197250	50	多列笛	ベル-アマツ?	1=	19 H162282	
22	呼子笛		ベル-	1=	13 H197249	51	多列笛	ベル-アマツ?	1=	14 H162281	
★23	横笛		ベル-アマツ	1=	45 H197165	★52	アンタラ	ベル-アマツ?	1=	16 H162283	
24	横笛		ベル-	1=	55 H197164	53	タリナ	cuadrado	チリビ?	1=	17 H110056
25	横笛		エタドル	1=	55 H196679	54	タリナ	cuadrado	チリビ?	1=	18 H110055
26	横笛		ベル-	1=	57 H197163	55	ハバイ	コンビ?	1=	40 H0851	
27	フラタ・パカ	flauta paka	ベル-	1=	68 H196996	56	ハバイ	コンビ?	1=	42 H10849	
28	フラタ・パカ	flauta paka	ベル-	1=	68 H196997	57	ハバイ	コンビ?	1=	45 H10847	
29	横笛		ベル-	1=	74 H197161	58	ハバイ	コンビ?	1=	42 H10845	
30	横笛		ベル-	1=	80 H197160	58	ハバイ	コンビ?	1=	43 H10850	
						59	ハバイ	コンビ?	1=	43 H10848	
<パンパイプ>						60	アンタラ	antara	ベル-	1=	26 H197134
1	ママト	mamatoyo	ベル-	1=	169 H197240	61	カンタ	cantu	チリビ?	1=	52 H110070
2	ママト	mamatoyo	ベル-	1=	153 H197240	62	カンタ	cantu	チリビ?	1=	36 H110071
3	ト	toyo	チリビ?	1=	134 H196401	★63	ジュラ	jula jula	チリビ?	1=	27 H110051
4	ト	toyo	チリビ?	1=	130 H196400	64	タリナ	cuadrado	チリビ?	1=	27 H110054
5	ラキタ	laquita	チリビ?	1=	108 H109980	★65	タリナ	tabla sicu	チリビ?	1=	29 H110053
6	ラキタ	laquita	チリビ?	1=	122 H109981	66	ハバイ	コンビ?	1=	44 H10846	
7	チリワノ	chiriwano	チリビ?	1=	86 H110058	<リコーダーのなかま>					
8	チリワノ	chiriwano	チリビ?	1=	77 H110057	1	ピンキョ	pinquillo	チリビ?	1=	42 YA
9	インカ	inca	チリビ?	1=	65 H110064	2	ピンキョ	pinquillo	チリビ?	1=	50 H196386
10	インカ	inca	チリビ?	1=	60 H110063	3	ピンキョ	pinquillo	ベル-	1=	70 H197124
11	ラキタ	laquita	チリビ?	1=	63 H109982	4	ピンキョ	pinquillo	チリビ?	1=	75 H196387

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大註	標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大註	標 本 番 号
5	ピンキー	pinquillo	チリ	1=	71 H196510	67	ポルチーニ	porteño	チリ	1=	49 H110045
6	ピンキー	pinquillo	チリ	1=	68 H196511	68	スカー	sucacu	チリ	1=	64 H110094
7	ピンキー	pinquillo	ペルー	1=	103 YA	69	スカー	sucacu	チリ	1=	97 H110093
8	トコロ	tokoro	チリ	1=	142 YA	70	竹製トランペット		ペルー	1=	56 H197011
★9	フラウタ	flauta	メキシコ(ナ)	1=	28 H74340	71	笛		ペルー	1=	84 H162280
10	笛		メキシコ	1=	28 H191912	72	コマンチ	comanche	チリ	1=	35 H109977
11	笛		メキシコ	1=	31 H132233	73	コマンチ	comanche	チリ	1=	54 H109976
12	笛		メキシコ	1=	33 H191953	74	ピンキー	pinquillo	チリ	1=	43 H109975
13	笛		メキシコ	1=	33 H191949	75	ピンキー	pinquillo	チリ	1=	43 H109974
14	笛		メキシコ	1=	33 H191944	76	オエケ	oeque	チリ	1=	38 H110048
★15	ケナマリン	quena marimacho	チリ	1=	35 H109948	77	オエケ	oeque	チリ	1=	57 H110047
16	笛		チリ	1=	35 H4514	78	タルカ	tarka	チリ	1=	53 H109959
★17	ピンキー	pinquillo	ペルー	1=	44 H197012	79	タルカ	tarka	チリ	1=	52 H450733
18	笛		パラグアイ	1=	24 YA	80	タルカ	tarka	チリ	1=	52 H450713
19	笛		パラグアイ	1=	23 YA	81	タルカ	tarka	チリ	1=	52 H450723
20	笛		パラグアイ	1=	37 YA	82	タルカ	tarka	チリ	1=	35 H450813
21	笛		パラグアイ	1=	36 YA	83	タルカ	tarka	チリ	1=	35 H450833
22	笛		ペルー	1=	57 H123092	84	タルカ	tarka	チリ	1=	35 H450823
23	笛		ペルー	1=	57 H123091	85	タルカ	tarka	チリ	1=	26 H109962
24	笛		ペルー	1=	56 H123089	86	タルカ	tarka	チリ	1=	33 H109958
25	笛		ペルー	1=	65 H123090	87	タルカ	tarka	チリ	1=	35 H109956
26	ロリアーノ	loriano	チリ	1=	35 H196324	88	タルカ	tarka	チリ	1=	39 H109961
27	ロリアーノ	loriano	チリ	1=	55 H196323	89	タルカ	tarka	チリ	1=	49 H109957
28	ロリアーノ	loriano	チリ	1=	75 H196322	90	タルカ	tarka	チリ	1=	53 H109955
★29	ロリアーノ	loriano	チリ	1=	110 H196321	91	タルカ	tarka	チリ	1=	66 H109960
★30	笛		ブラジル(カタラ)	1=	105 H190309	<オカリナのなかま>					
31	笛		ブラジル	1=	101 H190308						
32	笛		ブラジル	1=	101 H103980						
33	笛		ブラジル	1=	160 H110695						
34	笛		ブラジル	1=	141 H110696						
35	笛		ブラジル	1=	230 H197295	1	鼻笛	ブラジル	1=	8 H197290	
36	笛		ブラジル	1=	49 H190307	2	オカリナ	ブラジル	1=	7 H197291	
★37	ダブルフルート	flautas duplas	ブラジル(カタラ)	1=	51 H190306	★3	木の葉の笛	ブラジル(カタラ)	1=	5 H190416	
38	笛		チリ	1=	61 H196340	4	オカリナ	ブラジル	1=	7 H197292	
39	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	61 H196339	5	笛	ブラジル	1=	5 H190415	
40	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	61 H196338	★6	コンビエ(ギンムカ)	ペルー	1=	6 H10914	
41	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	91 H196337	7	笛	コンビエ	1=	5 H10921	
42	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	92 H196335	8	笛	コンビエ	1=	9 H10924	
43	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	94 H196336	10	笛(鳩)	ペルー	1=	7 H197103	
44	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	86 H197119	11	笛(鳩)	ペルー	1=	7 H197102	
45	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	81 H197121	12	笛	エクアドル	1=	9 H8144	
46	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	73 H197120	13	笛	エクアドル	1=	6 H8146	
47	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	73 H197122	14	笛	エクアドル	1=	4 H8145	
★48	ピンキー	pinquillo	チリ	1=	58 H132862	★15	笛	メキシコ(セリ)	1=	5 H115016	
49	笛		ペルー	1=	45 H4368	★16	土笛	アルゼンチン	1=	7 H132844	
50	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	99 H109931	17	土笛	アルゼンチン	1=	5 H132845	
51	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	104 H197117	18	笛	エクアドル	1=	8 H148792	
52	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	104 H197118	19	笛	エクアドル	1=	14 H8147	
53	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	134 H197116	★20	土笛(鳥)	メキシコ(チリチカ)	w=	13 H132087	
54	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	126 H196334	★21	土笛(犬)	メキシコ(チリチカ)	h=	8 H132088	
55	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	186 H196331	22	土笛(鳥)	メキシコ	h=	14 H132091	
56	ピンキー	pinquillo	チリ	1=	30 H196381	23	土笛(鳥)	メキシコ	w=	12 H132086	
57	ピンキー	pinquillo	チリ	1=	44 H109964	24	笛	グアテマラ	1=	5 H194239	
58	アギヤド	aguiador	チリ	1=	57 H109978	25	笛	グアテマラ	1=	5 H194240	
★59	レキント	requinto	チリ	1=	56 H110028	26	笛	グアテマラ	1=	5 H194234	
60	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	56 H110029	27	笛	グアテマラ	1=	5 H194241	
61	モヘニョ	mohceño	チリ	1=	88 H110026	28	笛	グアテマラ	1=	5 H194237	
62	グワイチュニ	huaychunu	チリ	1=	31 H110038	29	笛	グアテマラ	1=	5 H194235	
63	グワイチュニ	huaychunu	チリ	1=	47 H110037	30	笛	グアテマラ	1=	5 H194242	
64	タイピタマ	taipitama	チリ	1=	31 H110044	31	笛	グアテマラ	1=	5 H194238	
65	タイピタマ	taipitama	チリ	1=	46 H110043	32	笛	グアテマラ	1=	5 H194236	
66	ポルチーニ	porteño	チリ	1=	33 H110046	★33	オカリナ	エクアドル	1=	16 H196670	
						34	オカリナ	エクアドル	1=	11 H196671	
						35	オカリナ	ペルー	1=	11 YA	

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 き	標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 き	標 本 番 号	
★36	わかナ		エグドゥ	l=	8 H196673	42	木製ラッパ	コソビ		l=	47 H10842	
★37	わかナ		エグドゥ	w=	11 H196672	43	木製ラッパ	コソビ		l=	60 H119059	
38	わかナ		ベル	h=	17 H197105	44	木製ラッパ	コソビ		l=	49 H10844	
39	わかナ		ベル	w=	10 H197106	45	木製ラッパ	コソビ		l=	50 H10843	
★40	わかナ		ベル	h=	25 H197104	46	木製ラッパ	コソビ		l=	83 H10841	
41	わかナ		ベル	w=	13 H197107							
＜うなり音具＞						＜リードのついた笛＞						
1	うなり音具		メシコ	l=	10 H131973	1	チラス		ベル		l=	48 H197238
2	うなり音具		メシコ	l=	10 H131972	★2	チラス		ベル		l=	36 H197214
★3	うなり音具		フラジル(シャバウチ)	w=	19 H104028	3	角笛		チビ		l=	57 H110330
★4	うなり音具		フラジル(シャバウチ)	l=	18 H110669	★4	子供用笛		フラジル(ワラ)		l=	32 H197304
★5	うなり板		メシコ(セリ)	l=	27 H743191/2	★5	子供用笛		フラジル(ワラ)		l=	35 H197302
★6	うなり板		メシコ(セリ)	l=	27 H743192/2	★6	子供用笛		フラジル(ワラ)		l=	34 H197303
7	うなり板		オーストラリヤ	l=	33 H147842	★7	チリミ	chirimia	メシコ(チリミ)		l=	30 H131853
8	うなり板		オーストラリヤ	l=	22 H147841	8	チリミ	chirimia	チリミ		l=	39 H193956
★9	うなり板		フラジル	l=	50 H197306	9	チリミ	chirimia	チリミ		l=	39 H193955
10	うなり板		フラジル	l=	59 H197305	10	チリミ	chirimia	チリミ		l=	39 H193957
★11	うなり板		フラジル(メナ)	l=	60 H197304	★11	チリミ	chirimia	チリミ		l=	39 H193954
						12	チラス		ベル		l=	59 YA
＜ラッパ＞						★13	フル	fulpo	ベル		l=	112 H197008
1	ベル		イタス	l=	85 H109405	14	笛		フラジル		l=	123 H170908
★2	クラリ	clarin	ベル	l=	110 H197125	15	笛		フラジル		l=	147 H170907
3	クラリ	clarin	ベル	l=	120 H197127							
★4	クラリ	clarin	ベル	l=	110 H197126	＜ガラガラ＞						
5	クラリ	clarin	ベル	l=	330 H197128	★1	チリ	sonaja	メシコ		l=	21 H154613
6	エグ	erque	アルゼンチン	l=	204 H197377	2	チリ		メシコ		l=	23 H154616
7	ラバ		ベル	l=	300 H197252	3	チリ		メシコ		l=	22 H154612
8	カニ	caña	チリ	l=	350 H196348	4	チリ		メシコ		l=	25 H155274
9	ドチ		チリ	l=	244 H126562	5	チリ		メシコ		l=	20 H154623
10	フル		スイス	l=	300 H129652	6	チリ		メシコ		l=	22 H154624
★11	土器ラッパ		ベル	h=	20 H197001	★7	チリ		メシコ		l=	20 H154619
12	角笛		チリ	l=	23 H110429	8	チリ		メシコ		l=	22 H154611
13	角笛	kuikui	チリ	l=	20 H144264	9	チリ		メシコ		l=	22 H154610
14	角笛		メシコ	l=	24 H160653	10	チリ		メシコ		l=	20 H155277
15	角笛	kuikui	チリ	l=	24 H144263	★11	チリ		メシコ		l=	20 H154621
★16	角笛		ベル	l=	67 H4324	★12	チリ		メシコ		l=	20 H154605
17	角笛		チリ	l=	44 H196363	★13	チリ		メシコ		l=	20 H154626
18	角笛		チリ	l=	65 H196364	14	チリ		メシコ		l=	20 H154609
19	儀礼用角笛		チリ	l=	75 H196366	15	チリ		メシコ		l=	20 H154615
20	儀礼用角笛		チリ	l=	80 H196365	16	チリ		メシコ		l=	20 H154625
★21	角笛	waqra	ベル	l=	30 H197007	17	チリ		メシコ		l=	24 H155273
22	角笛		ベル	l=	31 H196683	18	チリ		メシコ		l=	20 H154622
23	角笛		ベル	l=	40 H197072	19	チリ		メシコ		l=	20 H154620
24	ほら貝		チリ	l=	25 H196746	20	チリ		メシコ		l=	20 H154607
25	ほら貝		メソジュラス	l=	16 H191171	21	チリ		メシコ		l=	21 H154606
26	ほら貝		メソジュラス	l=	37 H191172	22	チリ		メシコ		l=	23 H154608
27	ほら貝		ベル	l=	18 YA	23	チリ		メシコ		l=	23 H155275
28	ほら貝		ベル	l=	18 H4382	24	チリ		メシコ		l=	20 H154618
29	ほら貝		ベル	l=	18 H197067	25	チリ		メシコ		l=	20 H154617
★30	竹のトランペット		ベル	l=	54 H197071	26	チリ		メシコ		l=	20 H154604
31	竹のトランペット		ベル	l=	52 H197070	27	チリ		メシコ		l=	20 H154614
32	トランペット		ベル	l=	52 H197114	28	チリ		メシコ		l=	20 H154603
33	トランペット		ベル	l=	50 H197113	29	チリ		メシコ		l=	23 H155276
34	フル		チリ	w=	45 YA	30	マラス	maracas	フル		l=	20 H196966
35	ラバ		フラジル	l=	67 H103981	31	マラス		ベル		l=	25 H196981
36	ラバ		フラジル	l=	38 H103979	★32	マラス		フル		l=	25 H153798
37	笛		フラジル	l=	40 H197297	33	チリ		ベル		l=	15 H196959
38	笛		フラジル	l=	88 H190264	★34	チリ	chinchin	チリ		l=	20 H193381
39	笛		フラジル	l=	103 H104047	35	マラス		ベル		l=	15 H196984
40	儀礼用笛		フラジル	l=	97 H110581	36	マラス		メシコ		l=	20 H196937
41	牛の角のラッパ	bosina cañar	エグドゥ	l=	151 H196737	37	マラス		メシコ		l=	20 H196936
						38	マラス		フル		l=	22 H153799

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大経 標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大経 標 本 番 号
39	マラカ		バハマ	1= 20 H196743	100	マラカ	フラジル		1= 24 H197299
40	マラカ		ベネズエラ	1= 15 H196962	★101	ガガガ(試奏用)	フラジル(ジャバチ)		1= 40 NA3
41	マラカ		ベネズエラ	1= 15 H196960	102	ガガガ	フラジル		1= 53 H103977
42	ガガガ		メキシコ	1= 29 H74320	★103	マラカ	コロンビア(タニム)		1= 30 H10901
43	マラカ		ドミニカ共和国	1= 2 H196965	104	儀礼用ガガガ(シャーマン)	フラジル		1= 39 H10600
★44	マラカ		ジャマイカ	1= 27 H153703	★105	マラカ	フラジル(ジャバチ)		1= 47 H110671
45	マラカ		ジャマイカ	1= 22 H153704	106	マラカ	コロンビア		1= 34 H10900
46	マラカ		ベネズエラ	1= 15 H196961	★107	エリクンデ	エリクンデ		1= 40 H196829
47	マラカ		ボリビア	1= 20 H196396	108	エリクンデ	キューバ		1= 40 H196833
48	マラカ		トリニダード	1= 15 H196971	109	エリクンデ	キューバ		1= 40 H196830
★49	マラカ		ホンジュラス(グアテマ)	1= 27 H191182	110	ガガガ	ganza		1= 38 H197358
★49	マラカ		ホンジュラス(グアテマ)	1= 27 H191183	111	ガガガ	フラジル		1= 45 H197362
50	マラカ		ドミニカ共和国	1= 20 H191961	112	ガガガ	フラジル		1= 55 H103982
51	ガガガ		メキシコ	1= 27 H191943	113	ガガガ	フラジル		1= 30 H197310
52	ガガガ		メキシコ	1= 27 H191939	★114	ガガガ	フラジル(アバティ)		1= 43 H110592
★53	ガガガ		メキシコ(チリ)	1= 27 H191936	115	セミジャ	semilla		1= 53 YA
54	ガガガ		メキシコ	1= 27 H191940	116	セミジャ	セム		1= 37 YA
55	ガガガ		メキシコ	1= 27 H191941	117	セミジャ	セム		1= 29 YA
56	ガガガ		メキシコ	1= 29 H131645	118	ガガガ	フラジル		1= 32 H197313
57	マラカ		キューバ	1= 30 YA	119	ガガガ	フラジル		1= 38 H197312
★58	ガガガ		メキシコ(チリ)	1= 21 H132165	120	ガガガ	フラジル		1= 81 H197314
59	ガガガ		ベネズエラ	1= 22 H123111	121	雨の木	エリクンデ		1= 65 H196882
★60	チンチン	chinchin	グアテマラ(キチ)	1= 27 H153339	122	雨の木	フラジル		1= 81 H197343
61	舞踏用ガガガ		メキシコ	1= 32 H192103	123	雨の木	フラジル		1=105 H110728
★62	ガガガ		メキシコ(チリ)	1= 22 H83498	124	雨の木	フラジル		1=112 H170027
63	ガガガ		メキシコ	1= 22 H154765	125	雨の木	フラジル		1=117 H190414
★64	ガガガ		メキシコ(チリ)	1= 21 H154766	126	雨の木	セム		1=132 H197176
65	ガガガ		チリ	1= 28 YA	127	チェケレ	chekére		1= 14 H196822
66	ガガガ		フラジル(グアテマラ?)	1=34 H103984	128	チェケレ	chekére		1= 21 H196821
67	ガガガ		バハマ	1= 28 YA	★129	チェケレ	chekére		1= 32 H196820
68	マカ子供用		フラジル	1= 10 H197301	130	カバサ	cavasa		1= 32 H197360
69	ガガガ		セム	1= 17 H197247	131	カバサ	メキシコ		1= 23 H196935
70	ガガガ		ベネズエラ	1= 28 H123269	132	カバサ	セム		1= 25 YA
71	ガガガ		フラジル	1= 32 H103978	133	カバサ	トゴ		1= 45 H63002
72	ガガガ		グアテマラ	1= 26 H1532296	134	タバコ	ジャマイカ		1= 30 H196852
73	ガガガ		フラジル	1= 22 H190359	135	タバコ	セム		1= 21 H197210
74	ガガガ		ベネズエラ	1= 30 H123204	136	ガガガ	tecun		1= 21 H153144
75	ガガガ		バハマ	1= 32 YA	137	ソナ	フラジル		1= 25 YA
76	チンチン	chinchin	グアテマラ	1= 17 H153121	138	ソナ	フラジル		1= 65 H197355
77	舞踏用		メキシコ	1= 24 H192101	139	ソナ	フラジル		1= 47 H197356
78	亀のガガガ		ガガガ	1= 5 H300775	140	バネラ	bandereta		1= 33 H197202
79	ガガガ		フラジル	1= 6 H170892	141	バネラ	セム		1= 30 H197203
★80	ガガガ(亀の甲羅)	chocalho	フラジル(メナ)	1= 16 H170891	142	ガガガ	sonaja		1= 35 H74339
81	新装用ガガガ		ベネズエラ	1= 20 H123107	143	ガガガ	メキシコ		1= 30 H74101
82	ガガガ		ベネズエラ	1= 29 H123202	144	バネラ?	ベネズエラ		1= 35 YA
83	ガガガ		フラジル	1= 38 H103983	145	ソナ	フラジル		1= 30 H197374
84	ガガガ		ベネズエラ	1= 30 H123192	146	ソナ	sonajero		1= 29 H196580
85	ガガガ		フラジル	1= 54 H104022	147	チェケル	churuchuru		1= 18 H196570
86	ガガガ		グアテマラ	1= 21 H153230	148	チェケル	ガガガ		1= 18 H196571
87	ガガガ		ベネズエラ	1= 30 H123203	149	ソナ	ホンジュラス		1= 28 H191247
88	ガガガ		ベネズエラ	1= 30 H123199					
89	ガガガ		ベネズエラ	1= 29 H123200					
★90	新装用ガガガ		ベネズエラ(チリ)	1= 35 H123106	<ジャラジャラ>				
★91	ガガガ		ベネズエラ(チリ)	1= 33 H123191	1	ジャラジャラ	セム		1= 20 H197200
★92	ガガガ		フラジル(チリ)	1= 24 NH	2	ガガガ	フラジル		1= 69 H110548
★93	ガガガ		フラジル(トックス)	1=38 H190448	3	ガガガ	フラジル		1= 72 H110566
94	ガガガ		ベネズエラ	1= 29 H123190	★4	爪の腰帯	フラジル(カチ)		1= 77 H110559
95	ガガガ		フラジル	1= 57 H103975	5	ガガガ	フラジル		1=100 H197321
96	マラカ		フラジル	1= 34 H197300	★6	腰帯	メキシコ(マ)		1= 82 H156501
★97	ガガガ		フラジル(チリ)	1= 34 NH	★7	貝殻つきヤウ	ホンジュラス(ガガガ)		1= 31 H191178
★98	マラカ		フラジル(チリ)	1= 47 H110664	8	木の突つき腰帯	コロンビア		1= 53 H10922
99	マラカ		フラジル	1= 28 H110558	9	ガガガ	フラジル		1= 15 H110743
					10	ガガガ	フラジル		1= 25 H197287

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大鼓 標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大鼓 標 本 番 号
11	チャチャ	chajcha	ペルー	1= 15 YA	3	楽器	フラジル	1= 35 H110845	
12	カカ		フラジル	1= 23 H197288	4	金属のグイロ	guiro	ドミニカ	1= 53 H153004
13	鐘		ペルー	1= 12 H197206	★5	金属のグイロ	guiro	メキシコ	1= 40 H196940
★14	チャチャ	chajcha	メキシコ	1= 17 H109954	6	グイロ	guiro	メキシコ	1= 20 H196941
15	カカ		フラジル	1= 50 YA	★7	おし金のグイロ	greater	ジャマイカ	1= 30 H196851
16	カカ		フラジル	1= 60 YA	8	グイロ	guiro	ペルー	1= 66 YA
17	カカ		メキシコ	1=280 H74086	★9	グイロ兼ウチス	guiro	キューバ	1= 30 H196840
★18	コイン銭腰帯		メキシコ	1= 50 H196572	10	グイロ	guiro	キューバ	1= 36 H196827
★19	鈴銭腰帯		メキシコ	1= 80 H196574	★11	ヒョウタングイロ	guiro	キューバ	1= 31 H196826
20	鈴帯		エクアドル	1= 50 H196690	★12	ヒョウタングイロ	guiro	キューバ	1= 45 H196825
21	カカ		チリ	w= 28 YA	★13	グイロ	guiro	パナマトリコ	1= 42 H153822
22	カカ		チリ	w= 28 YA	14	グイロ	guiro	パナマトリコ	1= 29 H196967
23	カカ		メキシコ	1=110 H196575	15	グイロ	guiro	パナマトリコ	1= 28 H196968
24	カカ		メキシコ	1= 6 H154531	★16	角のグイロ	guiro	ペルー	1= 25 H197201
25	カカ		メキシコ	1= 6 H154530	17	グイロ	guiro	ペルー	1= 20 H196957
26	カカ		フラジル	1= 20 H197376	18	グイロ	guiro	メキシコ	1= 20 H196956
27	カカ		メキシコ	1= 42 H196576	19	グイロ(竹製シメタ)	guiro	メキシコ	1= 34 H196368
<打つ楽器いろいろ>					20	グイロ	guiro	ペルー	1= 35 H196988
★1	木筒		コロンビア(チリ)	1= 86 H8942	21	グイロ	guiro	ペルー	1= 38 H196987
2	スタビリガ・チューブ		フラジル	1= 86 H197285	22	グイロ(魚型)	guiro	ペルー	1= 30 H197204
★3	キチ・グラス	quitiplas	ペルー	1= 43 YA	23	グイロ	guiro	ペルー	1= 27 H197208
4	グラス	claves	キューバ	1= 20 H196983	24	グイロ	guiro	メキシコ	1= 32 H132056
5	グラス	claves	キューバ	1= 20 H196847	★25	魚の形のグイロ	guiro	メキシコ(シメタ)	1= 36 H132057
6	グラス	claves	キューバ	1= 20 H196848	26	グイロ	guiro	メキシコ	1= 45 H196934
7	グラス	claves	キューバ	1= 25 H196849	27	グイロ	guiro	ペルー	1= 40 H197237
★8	グラス	claves	キューバ	1= 25 H196839	28	グイロ	guiro	フラジル	1= 49 H197367
★9	パロ・ジョ	parillo	エクアドル	1= 16 H153805	29	グイロ	guiro	メキシコ	1= 40 H196932
10	カチ・タ・チナ	cajita china	ペルー	1= 15 H197195	★30	鹿踊り用グイロ	guiro	メキシコ(チ)	1= 55 H132566
11	グイロ(トナ)		ペルー	1= 13 H196982	31	グイロ(竹製シメタ)	recu recu	メキシコ	1= 35 H196367
12	楽器		メキシコ	1= 22 H114994	32	グイロ(竹製シメタ)	ecu recu	メキシコ	1= 43 H196369
12	楽器		メキシコ	1= 22 H114995	33	グイロ	guiro	フラジル	1= 52 YA
13	キハ・ダ	quijada	ペルー	1= 38 H196992	34	グイロ(竹製シメタ)	recu recu	メキシコ	1= 76 H196371
★14	亀の太鼓と笛	teteco	ペルー(チリ)	1= 18 YA	35	グイロ(竹製シメタ)	recu recu	メキシコ	1= 90 H196370
★15	亀の太鼓	tambor	メキシコ(チリ)	1= 22 H131857	<マリニョ>				
16	トリアンガル		メキシコ	1= 40 H196473	★1	マリニョ	marimba	ペルー	1=240 H152734
17	トリアンガル		メキシコ	1= 31 H196475	★2	マリニョ	marimba	メキシコ	1=173 H153922
★18	椅子とスプーン	cuchara y banqueta	キューバ	1= 30 H196834	★3	マリニョ	marimba	グアテマラ(チ)	1= 78 H195789
19	カサネタ		ペルー	1= 10 H196985	4	マリニョ	marimba	グアテマラ	1=124 H192534
19	カサネタ		ペルー	1= 10 H196986	5	マリニョ	marimba	グアテマラ	1=119 H192533
★20	カサネタ		メキシコ(チリ)	1= 8 H131886	★6	マリニョ	marimba	メキシコ	1=125 H196751
★21	カサネタ		ペルー	1= 18 H197197	★7	マリニョ	marimba	エクアドル	1= 80 H196685
22	カサネタ		ペルー	1= 20 H197198	8	マリニョ	marimba	エクアドル	1=130 H196684
★23	山刀とチリ	machete y cuchillo	キューバ	1= 50 H196838	9	マリニョ	marimba	グアテマラ	1=177 H109137
24	セビロ	cencero	メキシコ	1= 25 H196942	<はじく楽器>				
25	楽器		キューバ	1= 18 H196836	1	親指ピアノ	marimba	カメルーン	1= 51 H143796
26	セビロ		メキシコ	1= 10 H196943	2	マリニョ	marimba	ドミニカ共和国	h= 50 H196978
★27	皿とスプーン		ペルー	1= 22 YA	★3	マリニョ	marimbula	キューバ	w= 55 YA
28	竹製カサネタ		キューバ	1= 35 H196853	4	マリニョ	marimbula	ペルー	w= 63 YA
29	楽器		フラジル	1= 28 H197375	5	マリニョ	marimbula	フラジル	1=141 YA
30	セビロ		メキシコ	1= 20 H196944	<カホン・カヒータ>				
31	カハル		ペルー	1= 12 H4348	★1	カヒータ	cajita	ペルー	h= 34 H197236
32	カハル		ペルー	1= 13 H4349	★2	カホン	cajón	キューバ	h= 50 H196813
★33	銀と鉄棒	guataka	キューバ	w= 20 H196842	3	カホン	cajón	キューバ	h= 36 H196812
34	楽器		フラジル	1= 30 H110844	★4	カホン	cajón	ペルー	h= 48 H196993
35	ビブラドル	vibrador	エクアドル	1= 30 H196669	5	カホン	cajón	ペルー	h= 38 H197242
36	アゴ		フラジル	1= 49 H197357	<マトラカ>				
★37	サテン	sartén	キューバ	1= 50 H196815	★1	大型マトラカ	matraca	グアテマラ	1= 48 H192541
<ひっかく楽器>					2	マトラカ	matraca	グアテマラ	1= 60 H192542
1	グイロ	guiro	メキシコ	1= 30 H196933					
2	楽器		フラジル	1= 35 H110846					

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大鼓 標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大鼓 標 本 番 号	
3	マトラ	グチマ		1= 95 H192543	65	マトラ (モノナ)	グチマ		1= 30 H109855	
4	マトラ	グチマ		1=152 H153556	★66	マトラ (乾電池)	グチマ		1= 23 H110124	
5	マトラ	グチマ		1= 69 H192544	67	マトラ (モノナ)	グチマ		1= 36 H110118	
6	マトラ	グチマ		1= 25 H196373	68	マトラ (コソル)	グチマ		1= 36 H110103	
7	マトラ	グチマ		1= 19 H196582	69	マトラ (魚)	グチマ		1= 56 H109790	
8	マトラ	グチマ		1= 42 H195728	★70	マトラ (ミソ)	グチマ		1= 18 H196375	
9	マトラ	グチマ		1= 67 H192545	71	マトラ (電球と蛾)	グチマ		1= 45 H109887	
10	マトラ	グチマ		1= 21 H196581	72	マトラ (チョウ)	グチマ		1= 25 H109881	
11	マトラ	グチマ		1= 20 H197199	73	マトラ (チョウ)	グチマ		1= 24 H110119	
12	マトラ	グチマ		1= 19 H196846	74	マトラ (ハナ)	グチマ		1= 36 H109786	
13	マトラ	グチマ		1= 42 H132670	75	マトラ (カント)	グチマ		1= 32 H109902	
14	マトラ (ステレオ)	グチマ		1= 30 H109882	76	マトラ (カント)	グチマ		1= 36 H109868	
★15	マトラ (コンピュータ)	グチマ		1= 25 H196377	77	マトラ (樽)	グチマ		1= 23 H109891	
16	マトラ (ミキウ人形)	グチマ		1= 33 H109850	78	マトラ (ゾウ)	グチマ		1= 25 H109900	
17	マトラ (モノ)	グチマ		1= 40 H109901	79	マトラ (トラ)	グチマ		1= 20 H196378	
18	マトラ (スベツ人)	グチマ		1= 38 H109873	80	マトラ (魚)	グチマ		1= 40 H109764	
19	マトラ (カント)	グチマ		1= 33 H109875	81	マトラ (カント)	グチマ		1= 25 H110107	
20	マトラ (船)	グチマ		1= 27 H109904	<割れ目太鼓>					
21	マトラ (帆船)	グチマ		1= 32 H110109	1	太鼓	グチマ		1= 13 H191644	
22	マトラ (船)	グチマ		1= 35 H109852	2	太鼓 (亀の甲羅)	グチマ		1= 18 H74336	
23	マトラ (教会)	グチマ		1= 30 H110122	3	亀の太鼓	グチマ		1= 19 H191170	
24	マトラ (ハ)	グチマ		1= 24 H109876	4	太鼓 (亀の甲羅)	グチマ		1= 31 H132722	
25	マトラ (タコ)	グチマ		1= 25 H109888	5	割れ目太鼓	グチマ		1= 40 H197004	
26	マトラ (ミキマウス)	グチマ		1= 34 H109894	6	割れ目太鼓	グチマ		1= 23 H89566	
27	マトラ (モノナと花)	グチマ		1= 34 H109870	7	割れ目太鼓	グチマ		1= 48 H143906	
28	マトラ (ライオン)	グチマ		1= 37 H109886	8	大型の割れ目太鼓	グチマ		1= 84 H84957	
29	マトラ (ゾウ)	グチマ		1= 33 H109862	★9	大型の割れ目太鼓	グチマ		1=183 H103972	
30	マトラ (トラ)	グチマ		1= 36 H109889	★10	太鼓	tun		グチマ (キ)	1= 66 H4542
★31	マトラ (ハ)	グチマ		1= 31 H109765	11	太鼓	グチマ		1= 76 H132585	
★32	マトラ (カメ)	グチマ		1= 35 H108897	12	太鼓	グチマ		1= 20 H151526	
33	マトラ (カ)	グチマ		1= 25 H109895	★13	幾何文様の太鼓	グチマ		1= 84 H197005	
★34	マトラ (カメの羽)	グチマ		1= 26 H109941	★14	カメの太鼓	グチマ		1=135H196675/1/2	
35	マトラ (カ)	グチマ		1= 25 H196372	★15	カメの太鼓	teponaxtle		グチマ	1= 70 H132591
36	マトラ (モノナ)	グチマ		1= 27 H110117	<太鼓>					
37	マトラ (モノ)	グチマ		1= 33 H110114	1	脚太鼓	グチマ		1= 67 H160654	
38	マトラ (トラ)	グチマ		1= 35 H110115	2	太鼓	グチマ		1= 35 H132520	
★39	マトラ (カメ)	グチマ		1= 32 H110101	★3	太鼓	グチマ		1= 74 H74120	
40	マトラ (車)	グチマ		1= 35 H109856	4	太鼓	グチマ		1= 74 H132572	
41	マトラ (トラ)	グチマ		1= 25 H110120	5	太鼓	tambor		1= 29 H156555	
42	マトラ (コソル)	グチマ		1= 25 H109890	6	太鼓	グチマ		1= 26 H74087	
43	マトラ (太陽の門)	グチマ		1= 25 H110113	7	太鼓	グチマ		1= 26 H196990	
44	マトラ (モノ)	グチマ		1= 24 H109898	8	太鼓	グチマ		1= 11 H193295	
★45	マトラ (装甲車)	グチマ		1= 30 H109896	9	太鼓	グチマ		1= 11 H193802	
46	マトラ (カ)	グチマ		1= 30 H109892	10	太鼓	グチマ		1= 11 H193803	
47	マトラ (モノ)	グチマ		1= 46 H110110	11	太鼓	グチマ		1= 18 H191656	
★48	マトラ (モノ)	グチマ		1= 43 H109907	12	太鼓	グチマ		1= 19 H191911	
49	マトラ (モノ)	グチマ		1= 25 H109908	★13	太鼓	bombo		1= 62 H196351	
50	マトラ (モノ)	グチマ		1= 40 H109906	14	太鼓	グチマ		1= 53 YA	
★51	マトラ (カント)	グチマ		1= 50 H109788	15	太鼓	グチマ		1= 44 YA	
★52	マトラ (モノ)	グチマ		1= 43 H109787	16	太鼓	グチマ		1= 53 H196169	
53	マトラ (帆船)	グチマ		1= 30 H109877	★17	太鼓	bombo		1= 50 H109782	
54	マトラ (モノ)	グチマ		1= 27 H196691	18	太鼓	グチマ		1=135 H197002	
55	マトラ (魚)	グチマ		1= 50 H109789	19	太鼓 (四角形)	グチマ		1= 20 H196389	
56	マトラ (帆船)	グチマ		1= 33 H110108	★20	太鼓 (三角形)	グチマ		1= 25 H196388	
★57	マトラ (モノ)	グチマ		1= 34 H196374	★21	太鼓 (四角形)	atabal		1= 27 H192540	
58	マトラ (モノ)	グチマ		1= 34 H110106	22	太鼓 (四角形)	グチマ		1= 27 H192539	
59	マトラ (樽)	グチマ		1= 25 H109784	23	太鼓 (四角形)	グチマ		1= 27 H193945	
60	マトラ (モノ)	グチマ		1= 35 H109872	24	太鼓 (六角形)	グチマ		1= 24 H192546	
★61	マトラ (モノ)	グチマ		1= 20 H196376	25	太鼓 (52本付)	グチマ		1= 61 H109923	
62	マトラ (モノ)	グチマ		1= 30 H109864	26	太鼓	グチマ		1= 38 H109924	
63	マトラ (カ)	グチマ		1= 34 H110105						
★64	マトラ (カ)	グチマ		1= 36 H110104						

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大鼓	標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大鼓	標 本 番 号
★27	太鼓		刹ビ	w=	52 H109925	<街角の楽器屋さん>					
28	太鼓		刹ビ	w=	41 H109926	1	サ- (未完成)		刹シコ	1=	93 H155833
29	太鼓		刹ビ	w=	39 H109927	2	アヤシの刺製		刹ビ	1=	38 H196352
30	太鼓		刹ビ	w=	40 H196343	3	チヤシロ (半成品)		刹ビ	1=	43 H100433
31	太鼓		刹ビ	w=	29 H110336	4	チヤシロ (半成品)		刹ビ	1=	50 H110304
32	太鼓		刹ビ	w=	27 H110337	5	マカ (半成品)		ベシエ	1=	20 H196963
33	はみ割り用太鼓		ベ-	w=	26 H162358	6	ハ-		ベ-	1=	54 H4441
34	太鼓		ベ-	w=	25 H162279	<一弦ハーブ>					
35	太鼓		バグタイ	w=	20 YA	1	楽弓		刹シコ	1=	88 H174102
36	太鼓		ベ-	w=	30 H4294	★2	林	oho	ラジル(グナ)	1=	64 NH
37	太鼓		ベ-	w=	23 H12760	3	楽弓		ラジル(グナ)	1=	62 NH
38	太鼓		ベ-	h=	21 H123354	4	弦楽器(サ)		ウビ	1=	128 H19138
39	タボル	tambor	ベ-	w=	32 H197003	★5	ビランウ	berimbau	ラジル	1=	140 H197364
40	タボル	tambor	ベ-	h=	31 H197000	6	一弦ハーブ		セリウラス	1=	215 H191250
41	太鼓		ラジル	h=	38 H197340	★7	カラバ	caramba	セリウラス	1=	300 H196750
★42	太鼓	kultrun	チリ(マプ-チ)	w=	41 H144262	<アルバン>					
43	太鼓	tambor	グアテマラ	h=	54 H153340	1	アバ		ベシエ	1=	165 YA
44	小太鼓		エグドル	w=	30 H196692	2	アバ		ベシエ	1=	155 YA
45	太鼓		グアテマラ	h=	9 H192535	3	アバ		バグタイ	1=	133 H4539
★46	太鼓	bombo	エグドル	w=	34 H13046	★4	アバ		ベ-	1=	137 H197045
47	タボル	tambor	エグドル	w=	62 H196736	★5	彫刻(アバ)		ベ-	1=	125 H162366
48	太鼓		エグドル	w=	32 H13047	★6	アバ	domingacha	ベ-	1=	100 H197129
49	太鼓		スリナム	h=	26 H123469	7	アバ		ベ-	1=	76 YA
50	太鼓(3つ)		ベシエ	h=	98 YA	8	アバ		刹シコ	1=	123 H74104
51	太鼓(3つ)		ベシエ	h=	27 YA	9	アバ		ベ-	1=	120 H4438
52	太鼓	gumbe drum	ジャマイカ	w=	25 H153662	11	アバ		グアテマラ	1=	126 H192783
★53	太鼓	gumbe drum	ジャマイカ	w=	15 H153663	★12	アバ		刹シコ(アバ)	1=	160 H191494
54	太鼓	gumbe drum	ジャマイカ	w=	8 H153664	13	アバ		刹シコ	1=	99 H121852
55	太鼓		セリウラス	w=	20 H191184	★14	アバ		エグドル	1=	150 H196694
56	太鼓		セリウラス	w=	18 H196796	15	アバ		刹シコ	1=	104 H192093
57			ベシエ	h=	41 YA30?	16	子供用アバ		刹シコ	1=	77 H74103
★58	太鼓		ベリ-ズ(グナ)	h=	47 H152748	★17	アバ		グアテマラ(ベリ-ズ)	1=	70 H193064
★59	タボラ	tambora	ドミニカ共和国	h=	35 H196951	18	アバ		刹シコ	1=	59 H191495
60	太鼓		ドミニカ	h=	30 H196952	<ヴァイオリン>					
61	バ	bata	キューバ	h=	67 H196808	1	ヴァイオリン		エグドル	1=	60 H196667
					-10	2	ヴァイオリン		刹シコ	1=	58 H74277
★62	太鼓		刹ビ	h=	30 H196393	3	ヴァイオリン		刹シコ	1=	68 H192078
63	太鼓		刹ビ	h=	40 H196392	4	ヴァイオリン		刹ビ	1=	59 H110338
64	太鼓		刹ビ	h=	55 H196391	5	ヴァイオリン		エグドル	1=	78 H196689
★65	レキント	Requinto	刹ビ	h=	50 H196390	6	ヴァイオリン		刹シコ	1=	68 H74119
66	太鼓		ベ-	h=	52 H197235	7	ヴァイオリン		刹シコ	1=	68 H74118
★67	コガ	conga	キューバ	h=	80 H196803	8	ヴァイオリン		刹シコ	1=	53 H160648
68	キント	qinto	キューバ	h=	80 H196804	★9	手作りヴァイオリン		グアテマラ(グナ)	1=	59 H192784
★69	コガ		キューバ	w=	40 H196811	10	ヴァイオリン		グアテマラ	1=	58 H192539
70	コガ		ベ-	w=	48 H196994	11	ヴァイオリン		刹ビ	1=	58 H110339
71	太鼓		ラジル	h=	62 H197353	★12	甲羅(アバ)		エグドル	1=	70 H196688
72	太鼓		ラジル	w=	31 H197348	★13	模造(アバ)		刹シコ(アバ)	1=	53 H131739
73	太鼓		ラジル	w=	37 H197351	★14	アバ		バグタイ(グナ)	1=	43 YA
74	太鼓		ベシエ	h=	115 YA	15	アバ		刹シコ	1=	44 H154966
75	太鼓		ラジル	h=	102 H197339	★16	ラベル	rael	刹シコ(グナ)	1=	31 H192098
76	太鼓 (ドラム缶)		ベシエ	h=	78 YA	★17	ウルウング	urucungo	ラジル	1=	44 H197366
★77	太鼓	band drum	ジャマイカ	w=	60 H153610	<マンドリン>					
78	太鼓		ジャマイカ	h=	44 H153608	1	ラウ	laud	キューバ	1=	75 H196817
79	太鼓		ジャマイカ	h=	42 H153609	★2	ビラ-チ-マ	viola de cocho	ラジル	1=	64 H197371
<摩撻太鼓>						3	バドリン	bandorilla	ベ-	1=	64 H197110
★1	オサ	onça	ラジル	1=	28 YA	4	マドリン	mandolina	刹ビ	1=	63 H109949
★2	タイカ	cuica	ラジル	1=	25 YA						
★3	フルコ	furuco	ベシエ	h=	207 YA						
4	クニカ	cuica	ベ-	1=	44 H197244						
5	摩撻太鼓		アフリカ	h=	50 H143796						
★6	サカチ	sacabuche	セリウラス	h=	45 H196747						

展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 き き	標 本 番 号	展示 番号	名前	現地名	国(民族)名	大 き き	標 本 番 号
5	マンドリン	mandolina	ペル	1=	63 H196991	<チャランゴ>					
6	マンドリン	mandolina	ペル	1=	72 H197073	1	刹ビ			1=	69 YA
★7	マンドリン	mandolina	エグアド	1=	55 H196887	2	刹ビ			1=	71 YA
8	マンドリン		ペル	1=	63 YA	3	チャドール	chador	ペル	1=	50 H197135
9	マンドリン		ペル	1=	67 H4440	4	チャランゴ		刹ビ	1=	55 H110303
10	マンドリン		エグアド	1=	81 H196886	5	チャランゴ		刹ビ	1=	58 H110230
★11	アルマジロ製ギタロン	guitarrón	ペル	1=	110 H4439	6	チャランゴ		刹ビ	1=	64 H110301
12	バンドリージャ	bandorilla	ペル	1=	80 H197109	7	チャランゴ		刹ビ	1=	66 H109951
13	グアトロ	ベキヌタ		1=	70 YA	8	チャランゴ		刹ビ	1=	72 H109950
14	マンドリン	ポルトガル		1=	73 H98462	9	ロソコ	ronnroco	ペル	1=	78 H162364
<コントラバス>						10	チャランゴ		刹ビ	1=	59 H110095
1	コントラバス	contrabajo	メキシコ	1=	192 H196928	11	チャランゴ		刹ビ	1=	64 YA
<ギター>						12	コンコカ	khonkhota	刹ビ	1=	80 H196320
1	ギタロン	guitarrón	グアテマラ	1=	114 H192537	★13	コンコカ	khonkhota	刹ビ	1=	95 H196317
2	ギター	メキシコ		1=	97 H131657	14	ロソコ		刹ビ	1=	73 YA
3	ギター (アルマジロ製)	ペル	1=	45 H197130	15	チャドール	chador	ペル	1=	52 H197217	
4	ギター-ジャ	guitarilla	刹ビ	1=	100 H196397	16	アナルド	ansaldo	刹ビ	1=	60 H196315
★5	シコ	cinco	メキシコ	1=	100 H196946	17	アナルド	ansaldo	刹ビ	1=	50 H196318
6	ビラエラ	メキシコ	1=	79 H191901	18	アナルド	ansaldo	刹ビ	1=	55 H196314	
★7	バセ・セクスト	bajo sexto	メキシコ	1=	120 H196929	19	チャランゴ		刹ビ	1=	40 H196316
8	オクタビン	octavin	ペル	1=	82 YA	★20	アナルド	ansaldo	刹ビ	1=	50 H196312
9	レキント	requinto	メキシコ	1=	120 H196930	21	チャランゴ		刹ビ	1=	45 H110170
10	ギタロン	guitarrón	チリ	1=	98 YA	22	アナルド		刹ビ	1=	50 H196313
11	ビオラカピラ	violacaipila	ブラジル	1=	89 H197368	23	チャランゴ		刹ビ	1=	34 H110169
12	アコースティックギター	guitarra acostica	メキシコ	1=	100H196931	24	チャランゴ		刹ビ	1=	62 H110302
13	ビオラカピラ	violacaipila	ブラジル	1=	90 H197370	25	チャランゴ		刹ビ	1=	65 H196319
14	ティプレ	tipre	エグアド	1=	95 H196668	26	チャランゴ		ペル	1=	61 H不明
★15	ハラナ	jarana	メキシコ	1=	80 H196869	27	チャランゴ		刹ビ	1=	56 YA
16	女性用ギター	エグアド	1=	90 H196733	28	チャランゴ		ペル	1=	61 YA	
★17	グアトロ	cuatro	ベキヌタ	1=	45 H196950	29	チャランゴ		刹ビ	1=	63 H109952
18	トレス	tres	キューバ	1=	70 H196819	<アコーディオン>					
19	カバキニョ	cavaquinho	ブラジル	1=	90 H197373	★1	アコ-ディオ	acordeón	ペル	1=	47 H197185
★20	グアトロ	cuatro	アナルド	1=	87 H196948	★2	バンドネン	bandoneón	アルゼンチン	w=	48 H196292
21	オクタビン	octabin	ペル	1=	62 H197215	3	アコ-ディオ		ペル	h=	31 H197241
★22	手打ちギター	メキシコ(タイチ)	1=	59 H160649	★4	コンサート	concertina	刹ビ	h=	20 H196379	
23	ビオラデグリティ	ブラジル	1=	60 H197365	<蓄音機>						
★24	カバキニョ	cavaquinho	ブラジル	1=	68 NH	★1	分音		ペル	w=	28 H197057
25	弦楽器	メキシコ	1=	50 H192140	★2	蓄音機		ペル	h=	70 H197046	
26	ギター	メキシコ	1=	67 H131740	★3	蓄音機		刹ビ	1=	37 H196462	
27	ギター	メキシコ	1=	42 H154965							
28	スペイン・ギター	スペイン	1=	80 H98460							
29	ポルトガル・ギター	ポルトガル	1=	70 NA							
30	ポルトガル・ギター	ポルトガル	1=	70 NA							

試奏用楽器リスト

<台の上>			<弦楽器>		
バド・ヂ・ジュライ7	エタ7ド	H196681	チェランゴ	ボリビ7	YA
雨の木	ブラジ7	H170028	★トリス	キューバ	H196818
雨の木	ブラジ7	H197342	アムバ	ベネズエラ	YA
カンザ	ブラジ7	H197359			
マラカ	モンジュラス	H191249			
マラカ	モンジュラス	H191248			
マラカ					
ボリボ7	ボリビ7	H109953			
エリタソ	キューバ	H196832			
クラベス	キューバ	H196856			
マラカス	キューバ	H1968351/2			
マラカス	キューバ	H1968352/2			
スチールドラム (バスボン)	トリニダード・トバゴ	H196288			
カホン	キューバ	H196814			
トリアンゴロ・棒付	ボリビ7	H1964741/2			
トリアンゴロ・棒付	キューバ	H196841			
モンテ・ロ	メキシコ	H196945			

資料3 アンケートに寄せられた声（太字は本文中で筆者が重視したキーワード）

当時の状況および雰囲気などを知っていただくために、アンケートの声は、誤字および脱字以外は、すべて手を加えることなく原文のママとした。（但し、アンケート内 []：著者による補足説明）

日付	コメント	性別	年代	居住地	職業
4/13	Adios Amigo!	男性	20代	福岡県	大学生
	コンサートや講義もあり、又内容もわかり易く良かったです。「ピリンバウ」の講義をききのがしたのが残念ですけれども……。今後ともこういう企画を期待します。	女性	20代	堺市	大学生
	多様性に富み、おもしろい。歌詞などを書いてほしい。		30代	鹿児島県	
	もう少しCD、テープなど多種にわたって販売してくれればと思う。	男性	30代	兵庫県	会社員
	大変興味ある音楽でした。この様な企画が続けられることを期待します。ラテン音楽大変楽しかったです。	男性	50代	茨木市	教員
	ライブが非常によかった。	男性	20代	兵庫県	フリーター
	手にとってふれる事ができるのは、より興味がわいていいと思います。	女性	20代	東大阪市	会社員
	説明文字が小さく見にくい。特に照明のないところ。	男性	60代	愛知県	会社員
	入場料が高いと思う。ミニコンサートがなければ300円くらいの値打ちかな？	女性	40代	吹田市	主婦
	なかなかよい催しであった。今後も色々と多方面の企画もお願いしたい。	男性	60代	大阪市	自営業
	日本人もラテンアメリカの人のように生活の中に楽しさ（心からの）を見いだせたらもっと潤いがでるのに。あちらの人々はごく普通の人々もリズム感覚が抜群でうらやましい！！「マネキン人形について、」生き生きして気持ちいいくらいでした。〔展示場中のコンサートについて、〕客のノリが良くなってベルーの方には気の毒でした。	女性	20代	茨城県	フリーター
	ドラム缶のペンキ臭で気分が悪くなった。	女性	60代	八尾市	その他
	ラテンアメリカのふんいきを伝える映像や、写真がもう少し多くあると、もっとふんいきが明るくなったと思う。音楽はたくさん音がなっているとうるさくなるし、スイッチでONできるようになっていると、たれ流しのイメージでなくなるのではないかと思う。"鳴らすとわかる"コーナーがとてもよかった。また、いい展示を期待してます。	女性	20代	京都府	無職
	ダンボールを使った展示がとてもかわいらしくてよかったです。	女性	20代	兵庫県	フリーター
	（1）解説カード視線よりあまり上位にならぬ様。暗いライトで床上におくとよみ難い。（2）2Fの上り階段前。（大きな陶器の壺のおいてある処）線があっけいけいのかエジプトかトルコかを意味しているのですか（3）解説カードに若年層のためふり仮名をつけないと。読めないのでは展示の意味が半減する。よく理解出来なければ足が遠ざかる。一般人の教育も細かい処に留意してこそ達成される。		70才以上	枚方市	無職
	手でさわって実際に音を出してみたい もしくは、演奏できる人がいてほしい。	男性	40代	奈良県	会社員

	ラテンアメリカの人々の生活と音楽との関わりについての展示があれば、もっとおもしろかったと思います。	女性	20代	茨木市	無職
	フォルクローレ大好き人間なので、どのコーナーも興味深く拝見しました。	女性	50代	交野市	主婦
	曲の説明を日本語でしてほしいかった。	男性	30代	兵庫県	会社員
	コンサートが良かった。もっと聴かせて欲しかった。	女性	20代	堺市	大学生
	試奏コーナーがとてもよかったです。	女性	20代	八尾市	大学生
	入場料金が高い。	男性	40代	吹田市	会社員
	もっと楽器をさわらせてほしい。コンサートの時間を長くしてほしい。もっと明るい感じがいいです。	女性	40代	奈良県	主婦
	空気が悪い（塗料のにおい？）。	女性	30代	大東市	主婦
4 / 14	16：00入場のため［アンケートの回答が］コンサート等は「わからない」「となった」のが残念。後は満足です。		20代	吹田市	大学生
	ライブコンサート・アルバの演奏とてもうれしかったです。年に一回この催しがあってもいいなあと思います。これだけの楽器収集すごいですね。	女性	30代	大阪市	自営業
	特に［アンケートの質問］（18）［の展示場内での］コンサートが良かった。		40代	兵庫県	会社員
	もっとくわしく解説を。実際に音を出して確かめられる様にして欲しい。	男性	40代	大阪市	その他
	生演奏がよかった。		50代	池田市	主婦
	すべて自由な体験を許されることにより、現地の風習や考え方にまで、イメージアップができる。		50代	兵庫県	自営業
	もっとラテンアメリカっぽいほこりっぽさと雑ゼンとした雰囲気うまくてたら最高だと思う。（地域によって違うので一概には言えないが）	男性	20代	東京都	大学生
	ドラム缶とベニヤ板に何の意味があるか分かりませんでしたが、アンケートに答えてみてはじめて分かりました。ラテンアメリカの雰囲気づくりに力をそそがれていることは良いことだと思います。マネキン人形を使うことで、ここまで生活をイメージできるように展示できることに感動しました。	女性	20代	兵庫県	大学生
4 / 15	共に演奏できて良かったです。売店に絵ハガキ等も置いてくださっていたらうれしかったのですが……。	女性	20代	茨木市	会社員
	［ドラム缶の］色がよくない。［ステージの］上の方で人形がいるのが少し気になった。	女性	20代	兵庫県	会社員
	たのしかったです。	男性	20代	箕面市	大学生
	手で触れて良い楽器と触れてはいけない楽器の表示をわかりやすくはっきりとして欲しい。また、鳴らすことができる楽器をもっと増やして欲しい。	男性	20代	兵庫県	会社員
	・音楽［の展覧会］なので、もうちょっと試聴コーナーを増やした方が良いと思う。（CDショップにあるみたいなのがあればよい。）・歴史がちょっとわかりにくい。何から何が発生したかがもっとわかればよかった（音楽の種類）・ラテンアメリカという割に急にアジアの楽器とかがでてくるのがちょっとわかりにくい。・コンサートはものすごく楽しかったです。ロドリゲス一家万才！	女性	20代	兵庫県	主婦

・鳴らすとわかるをもっと増やしてほしい。・実際にどんな音が出るのかわからない楽器が多かった。・ラテンアメリカの明るいイメージと会場の照明の暗さのイメージが合わない。[展覧会のイメージは、] 1 階が暗く、2 階は明るい。コンサートはベリーグッド！	女性	20代	兵庫県	会社員
現地に行ってみたくなった。	女性	40代	茨木市	主婦
とても楽しかった。[コンサートを聴く観客の] 乗りが悪いので彼らに申し分けない。		40代	兵庫県	会社員
コンサートはとてもよかった。	女性	20代	箕面市	大学生
手にとって音が出せることがよかった。子供にかえて鳴らしてみました。	女性	50代	摂津市	主婦
[ベニヤ板の床について、] 建設中かと思った。	女性	20代		会社員
ここ近年の企画展では「ダゲスタン」が一番印象に残っています。最近は少し中味がうすくなったような気がします。		50代	吹田市	
[コンサートの] 日本人の聴き方はノリが悪くて、こういう時、いつも残念に思います（私も日本人ですが）。楽器は手渡された人だけが一緒に演奏してるだけで、もっと集団的な楽しい「雰囲気」を表現できてもいいのにな〜。使命感でやってるみたいです。彼等（Familia ロドリゲス）はとてもステキでした。上手（とっては失礼ですが）でCD があれば欲しい位。でも、こういうジャンル（今、World Music が注目されていますが）の音楽を紹介していただくきっかけとなって良かったです。Thank you. 神戸でもやってほしいな。	女性		兵庫県	会社員
全館でイメージミュージックが流れていた方がいい。	男性	40代	兵庫県	会社員
アルパ演奏と試奏コーナーをもっと別々にとってほしいかった。	女性	20代	大阪市	大学生
試奏の時間帯が限られているので、時間など気にせずふらっと来た見学者にとってはあまり良い印象がしません。また、楽器もただ鳴らしてみるだけではなく、実際に手にとってみてその質感などもつかめるようにした方が良い気がします。あと、その楽器の音階等もわかるようだとなお楽しいと思います。	女性	20代	吹田市	大学生
コンサートがとても良かったです。楽器の説明（ひとことでも）をして鳴らしてもらえるともっと身近な感じがするのでは……？		20代	滋賀県	その他
パネルで各地の風景の紹介を多く（ドラム缶の代わりに）。	男性	60代	高槻市	会社員
売店で売られている楽器類は、単なるみやげものか、正統なものなのかははっきりと示されていないのが不満。[質問（7）のドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、] なぜドラム缶なのか意味がわからない。		30代	豊中市	公務員
私のラテンアメリカの印象はもっと明るかったので、一寸暗かったが、ヒューヒュー風が吹く感じで暗いのかも知れませんか。	女性	60代	豊中市	主婦
試奏コーナーをもっと増やして欲しい。次は、アフリカ音楽をしてほしい。	男性	30代	豊中市	公務員、 教員

・展示説明の文字が（目の悪い人は）近くまでよらないと見えにくいと思います。・展示コーナーのテレビ（特にタイトル横の"次ページ"と"前ページ"〔を示すアイコン@と@について〕）年配の方は使い方がわかりにくそうでした。1画面分しか見ていない人が多いようです。次の企画展示を楽しみにしています。	女性	20代	滋賀県	会社員
南米でのNo. 1 スポーツのサッカーと音楽は非常に深い関係にあると見たり聞いたりしています。こう催し物をする時は万博競技場でのガンバの試合の時にタイアップしてみるのも面白いのではと素人考えですが思います。	男性	20代	奈良県	公務員
コンサートが良い。	女性	10代	兵庫県	大学生
楽器を指定して、その特色を示すような曲を演奏するのを見聞きできるようなものを期待していたのですが（例えばアルマジロと木、その他の胴でどう音色が違うのかetc。興味が色々ありますが、残念ながら知る事ができません。）	男性			無職
順序標があるととってもよいと思う。	女性	50代	茨木市	主婦
今までの特別展にくらべ、新しさを感じる。「音楽」というテーマにもよるが、「みる」に「きく」が加わり、楽しい展覧会となった。	男性	60代	豊中市	会社員
実物の楽器を見た上で、演奏が聞け、自分の手で鳴らすこともできとても面白かったです。文化は体験しなければ理解することは難しいでしょうから、今後も体験できる展示をお願いします。	男性	20代	滋賀県	大学生
手を触れても良いものとそうでないものの区別がつきにくい。鳴らさせて踊れる博物館を歓迎します。来て楽しかったといえる博物館が日本には少ない中で、今回の展示は今後の日本の博物館のあり方を大きく考えさせる機会となると思います。		30代	兵庫県	会社員
図録がないと、わからない部分も多い。くるしー。また図録ビデオもおもしろいのでは、あるのかな？	女性	30代	吹田市	
"鳴らすとわかる"の場〔所〕が打、弦楽器のみでなく管楽器も〔出〕してほしかった。	男性	20代	京都府	大学生
思ったより展示内容量が少なかった。楽器にさわれる量をもっとふやしてほしい。コンサートはとてもよかった。売店の楽器などのねだんは安いのでしょうか？	女性	20代	茨城県	大学生
マネキンは良かったが、暗くて子供がこわがった。〔ドラム缶について、〕どうしてラテンアメリカのイメージなのかわからない。〔マネキンの展示は〕衣しょうがわかってとても良い。	女性	30代	吹田市	主婦
各国々の違いを見せてほしかった。	男性	20代	東京都	会社員
もっと音楽楽器とかさわれるようにしてほしい。	男性	20代	滋賀県	大学生
思ったよりも展示が少なかったのが残念です。		20代	愛知県	会社員
もっといろいろ鳴らしてみたかったです。		20代	京都府	大学生
ラテンアメリカの音楽は多様だが原点はインディオ、ヨーロッパ、アフリカ、つまり、モンゴロイド、コーカソイド、ネグロイドの3つにあるという説明、展示はともわかりやすかった。国ごとの展示、つまり、白人の多いアルゼンチンやコスタリカ、インディオの多	男性	30代	兵庫県	その他／大学院

	いグアテマラ、ボリビア、ペルー、黒人の多いキューバ、ハイチ、ベリーズ、ジャマイカといった具合に分けて下さればもっとわかりやすいかと思います。あと、・・族とあってもそれらがその国のどのあたりにいるか地図をつけてくれればもっと良くなると思います。				
	展示内容が充実していて、見きれなかった（ステージを観たりして）。良かったです。日を改めて見に来るかもしれません。	男性	30代	神奈川県	会社員
4 /16	こんな音楽大好きです。京都の都楽都楽というライブハウスでも、私にしてみたら、珍しい音楽と珍しい楽器で演奏してるので、たまにゆきます。ハンガリーのブルースみたいなものもききたいです。今日の方々のテープ等あればよいのに……。	女性	20代	大阪市	会社員／その他
	予想していたものよりずっと良かった。かなり規模が大きく、その収集能力に感心した。大満足。		20代	兵庫県	教員
	なによりラテンアメリカ音楽を目で見、耳で聞き肌で感じる事ができる博物館なんて非常にすばらしいと思いました。	女性	20代	滋賀県	教員
	コンサートが毎日開かれているのがよい。座るところがもう少しあってもよい。	女性	20代	枚方市	会社員
	前からラテン音楽が好きでCDとかレコードで聞いていましたが、やっぱり生演奏は素敵でした。	女性	40代	吹田市	主婦
	おみやげの種類をもっと多くしてほしい。	女性	20代	箕面市	主婦
	チリの音楽にとっても興味があるので今日来ました。2回とも聴きました（ファミリアロドリゲスも）。来て良かったと思います。色々勉強になりました。遠いのでしょつ中来るわけに行かないのが残念ですがまた機会があればぜひ来たいと思います。ありがとうございます。[手でふれることのできる展示について、] もっと多くても良い。[試奏コーナーについて、] とても良いが、ただし触ってはいけない所のものまで触っている人がいた。（わかりにくかったのでは？）	女性	30代	岡山県	
	コンサートが有ってとても楽しめました。又、来ようと思います。		30代	大阪市	フリーター
	楽器の展示の仕方がよくわからなかった。もう少し整然と並べて欲しい。解説が少なすぎる。レストランで南米の料理があったのはよかった。[手でふれることのできる展示について、] 予想よりはるかに少ない。[いっしょに演奏することについて、] 良いが少ない。	女性	30代	岡山県	その他
	ダンボールがとても良かった。	女性	20代	高槻市	大学生
	楽器がいじれてとてもよかった。	男性	20代	大阪市	大学生
	おどりが楽しかったです。		20代	京都府	フリーター
	とても楽しい企画でした。めずらしい楽器等、又コンサート等、記憶にとどめるためにも写真をとりたいものでしたが、前回来館した折には写すことを許されませんでした。今回は多くの方がフラッシュをかけて写しておられました。統一してなぜかの説明をいただきましたかったと思います。	女性	50代	大阪府	主婦
	写真撮影を許可願いたい。もう少しさわるなど体験的なものがあってほしい。スペイン語、場合によってはケチュア語の言語のものがほしい（楽譜も解説書も文		50代	太子町	自営業

	法書なども)。めずらしい楽器の頒布も願いたい。				
	説明がもっと欲しい。ビデオも……。		30代	京都府	公務員
	演奏中はビデオは止めた方がいいのでは。(アルバの演奏が聞こえにくい)。千葉先生のレクチャーは大変親切で解かりやすかった。演奏もいいですが、声がとてもすばらしく、今回を記念してCD 製作をされてはいかがですか。今日はとても楽しかったです。	女性	40代	泉大津市	会社員
	楽器の販売ですが、種類が少ないですね。	男性	20代	大阪市	会社員
	はでなふくをきた人形がよかった。マルチメディアコーナーで形や音などがわかってよかった。楽きのしゅるいが多い。	男性	10才未満	池田市	小中学生
	ラテンアメリカ万歳！	男性	10代	大阪市	その他／浪人
	演奏もあって展示もあって体験型の企画展で本当に満足しました。またやってもらいたい企画です。	女性	20代	吹田市	公務員
	メインホールの照明が暗い。天井に空色の照明をあけると良いかもしれない。	男性	30代	兵庫県	会社員
	手で触れるということが今までに無い抜本的企画でとても良かった！スタッフバンザイ！	女性	50代	豊中市	主婦
	日本で手に入るフォルフローレのCD のリストなどを紹介すればもっと良かったのではないだろうか。	男性	20代	茨木市	無職
	[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、]かわいくにぎやかな感じはするが、ラテンアメリカのイメージはそういう面だけではない。固定したイメージで切りとらない方がよい。[展示コーナーのテレビについて、] 現物をしっかり見る方に夢中で、結局TVは見なかった。[展示コーナーのスピーカーは] 良いがあまりちゃんと聞こえなかった。[コンサート用のステージは] ひびきはとても良い。[展示の解説は] もっとくわしく。[手でふれることのできる展示は] 良いが、もっとあれこれさせて。[この展覧会のイメージは] 明るい。しかしもう少し細かく学術的でもよかったのではと思う。コンサートはとても満足。展示は少し不満足。		30代	高槻市	その他／音楽講師
	図録は大変良かったです。レクチャーコンサートは最高でした。	女性	20代	寝屋川市	大学生
	グアテマラ／エジプト／トルコの特集を組んで欲しい。	女性	20代	寝屋川市	フリーター
	非常に良かったです。		50代	大阪市	会社員
	民族音楽（ラテンアメリカ）以外もして欲しい。	男性	20代	大阪市	自営業
	とてもよかった。		10代	茨木市	小中学生
	音楽がとてもよかった。売店で土地のファーストフードなどの販売があればよいと思います。		30代	茨木市	主婦
	HASTA LA SEMANA QUE VIENE! VIENDRE OTRA VEZ.	男性	30代	大阪市	会社員
	展示場の中でコンサートをする、展示物を見るのに制限を受けるような気がする。別の会場にした方が良いのでは？		30代	大阪市	会社員
	もっとこーゆーのやって。	男性	20代	豊中市	会社員

	階段の前にステージがあり演奏中に目前に人の出入が多かった。演奏と演奏の間に、通るようにして、演奏中はさけてほしかった。	女性	50代	高槻市	主婦
	演奏がすごくよかった。	男性	20代	茨木市	会社員
	演奏の千葉泉先生。とてもすてきな声。ふんいきもよく感じとれ、よかった。	女性	30代	吹田市	主婦
	物足りない感じが全然なくてよかった。充分満足できました！		20代	高槻市	会社員
	楽器にふれて音を出すことができ、とても感激しました。コンサートもとってもよかった！！	女性	50代	京都府	主婦
	自由に触れることができるのは非常に良かった。	男性	30代	寝屋川市	教員
	コンサート聞いて、感動しました。「ドラム缶」の工夫のしかたとか、とってもいい雰囲気です。スピーカーも、とっても良かったです。		10代	兵庫県	小中学生
	展示と体験は別の方がよい。		30代	京都府	公務員
	人が多すぎる 入場制限すべき。		10代	松原市	無職
	最高。	女性	60代	東大阪市	主婦
	最高。	男性	60代	東大阪市	会社員
	上に人形をさかさにしているのは少し気持ちわるい。	女性	40代	大阪市	自営業
	ラテン音楽に興味があったので、とてもよかった。		30代	和歌山県	主婦
	〔千葉先生のレクチャーコンサートの〕ギタロンの演奏がとても良かった。ギタロンにさわる事が出来てうれしかった。楽器をもう少し整理して解説を増やした方がよいと思う。数は沢山あるが、それがどういう楽器かわかりにくかった。〔手でふれることのできる展示と試奏コーナーについて〕もっと多い方がよい。〔いっしょに演奏することについて〕もっとしたい。	女性	30代	岡山県	公務員
	〔手でふれることのできる展示と試奏コーナーについて、〕もっと数がほしい。	女性	30代	岡山県	その他
	これだけ多彩な国々を、ドラム缶で表現してしまうのはとてもムリだと思います。私にとっては南米のイメージではあり得ませんでした。展示品についての説明が不十分だと思います。展示品などで表現しきれなかった部分をビデオ等で示して下さいのは良いことだと思いますが、何ぶん、資料の多さのわりには展示場が小さいですね。でも、この企画じたいは、とても良いものだったと思います。	女性	30代	岡山県	会社員
	すごすぎる。		10代	兵庫県	小中学生
	少しいくつでした。子供でもたのしめるものがききたかったよ。	男性	10代	兵庫県	小中学生
	よかったよ。	男性	10代	京都府	高校生
	コンサートすてきでした。	女性	10代	兵庫県	大学生
	ドラム缶がほしかった。		10代	奈良県	高校生
	〔ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、〕試みとしてはありきたりでなくて良いと思うのですが、展示内容とはあってないと思います。		20代	千葉県	会社員
	〔試奏コーナーに〕木管楽器のコーナーがない	男性	20代	兵庫県	公務員
	期待して来たのにいまいちでした。	女性	20代	大阪市	大学生

テーブルだけでもよいので、常にそれぞれの楽器音が聞けたらもっとお客さんを引きつけることができるのではないのでしょうか。Muchas gracias! Estupendo! (Que lastima! No pude escuchar el jugar de señor Chiba.)	男性	20代	吹田市	フリーター
ドラム缶での展示はとても良かった。トイレをきちんと書かれていましたし。ステージ上の人形も良かったです。	女性	20代	福井県	会社員
楽器を売ることはいいことだ。				
Me nan divertido. Mucho. Gracias.	女性	20代	羽曳野市	会社員
楽しい、素敵な演奏をありがとうございました。	女性	20代	滋賀県	公務員
ドラム缶でのラテンイメージというのは、どういったコンセプトがあったのでしょうか。	男性	20代	高槻市	会社員
今度はアフリカの民族楽器もやってください。	男性	20代	茨木市	大学生
・リーフレットの中に、どこが手でふれることができる展示なのか、などが書かれていたらわかりやすかった。・鳴らすとわかるコーナー、もっとたくさんあると良かった。・展覧会は見るだけ、の所がほとんどな中、実際にさわって遊べる展覧会は面白いと思った。	女性	20代	奈良県	会社員
コンサートが良かったです。心で感じることができました。ドラム缶は色彩がきれいで良いのですが、ごついイメージがあり場所もとるので圧迫感があるような気がします。	女性	20代	枚方市	会社員
ドラム缶とラテンのイメージがどう結びつくのかわかりませんでした。	女性	20代	高槻市	会社員
鳴らすとわかる試奏コーナーについて"演奏中にご遠慮下さい"等の表示があると良かったと思う。(鳴らしてから注意されると、心苦しく感じる。)		20代	豊中市	主婦
コンサートが途中からだったので少し残念だった。	男性	20代	京都府	公務員
音楽を本当に楽しんでいる事が良くわかった。我ら年代の日本の音楽教育は、ヨーロッパのものを無理に教えられ民族固有即ち本能から湧きでるものでなかったからか、[または] 日本民族の性格によるものかかんがえさせられる。何でも努力をよとする気の持ち方が、教育によるものか民族の本来の性格か研究結果を教えてくださいただけたらと思ったりしました。[展示コーナーのスピーカーは、] この用紙を見るまでわからなかった。[展覧会のイメージを暗いと回答したのは、] 照明が暗いため。	男性	60代	箕面市	無職
・遠足にくるにはとてもいいところだ。・コンサートがよかった。		10代	奈良県	大学生
[展覧会のイメージ] について 思ったよりもコンサートも明るくなくて、楽しみに来たのに少しがっかりでした。ラテンアメリカはそこぬけに明るいと思っていたせいでしょか? 日本のラテンアメリカという感じでした。	女性	30代	兵庫県	主婦
もっと生活感が出ていれば、身近に感じられるものがあるのではないかと。コンサートにも1～2曲は、誰でも知っているような歌を聞きたかったが、とても楽しく面白かった。	男性	40代	兵庫県	自営業

	特に初めてのアルバの音色はすばらしくうっとり致しました。これからご活躍を期待しております。実際に楽器にふれることが出来るのでとても楽しいです。		40代	兵庫県	主婦
	コンサートがとても感動的で、ラテン音楽の力強さの一端に触れた様な気がします。	男性	20代	京都府	大学生
	なんか知らない事がいっぱいあって勉強になった。私は楽器なんてピアノちょっとひけるぐらいで、ドラムとかギターとかにあこがれている方だから、すごいのしかった。なにかの機会があればギターとかひいてみたいな。楽器のなりし方などを教えてくれる [ために]、ラテンアメリカから来た人が1つ1つの楽器のところにいたらいいと思います。		10代	東大阪市	大学生
	楽器は実際に音を聞かないとその良さがわからないので、試奏コーナーは良いと思うのだが、みんなが勝手に音を出すので、うるさい。博物館関係者が代表して音を出すようにした方が良いと思う。コンサートはとてもよかった。	男性	20代	堺市	その他／大学院生
	もっと楽器の音の特徴を紹介してくれればうれしいです。コンサートは大変良かったです。	女性	30代	寝屋川市	教員
	さわれるがつきがあってとてもよかった。ラテンアメリカのくににいきたくなった。とてもたのしいコンサートだった。	男性	10才未満	兵庫県	小中学生
	アルゼンチンタンゴに関する展示等が少ないのが残念。レストランのBGMにタンゴがかかっていたのは初めて。ラ・ファミリア・ロドリゲスの演奏がとても良い。他のレクチャーコンサートも良く解るし素晴らしい。前半だけで6回来ましたが後半も何度か来る予定。これ迄の特別展の中で一番気に入っています。そして如何に日本と中南米とのつながりが深いかということを改めて認識しました。というのは会場内でスペイン語を話している日本人がいつ来ても居るということ。移住者、滞在者、帰国した人を合わせると恐らく何百万人という日本人が中南米に関わっていると思います。	男性	60代	吹田市	無職
	レクチャーコンサートは、楽器の説明ひき方などを紹介して下さい、観客も参加しての楽しい演奏で、今まであまりなじみのない楽器にまで親しみを感じるようになりました。今日のギタロンも楽しかったですが、4/8のビリンパウも最高でした。先生方のお話がお上手で楽しいです。	女性	50代	兵庫県	主婦
	楽器をすべて演奏してほしい。説明をみるだけではどんな音がするのかわからない。音をきいてみたい。	女性	20代	守口市	大学生
	手に触れるということがとてもすばらしく良かった！日本人のなじみのマラカス・クラベス・ギロー等での演奏参加がしたかった。しかし良かった。スタッフ・バンザイ！ [質問7] のドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、] 良くないと回答したのは、[ドラム缶に] 黒い原油のイメージがあり、" 自然を大切に " のイメージに反した感があるため。[ベニヤ板の床について、] ふつうと回答したが費用の面で仕方ないかなァー。		50代	豊中市	会社員

	ラテンアメリカの音楽が好きなので今日で2回目。ほんとはもっと来たいが日程その他でままなりません。前回、ブラジルのピリンバウ、丸山氏の実演など興味深くありがとうございました。ビデオシアターの内容、演奏時間多様な曲目など更に向上させてもらえれば。そして本日、チリのギタロン、千葉先生、デリケートで、はなやか、非常によかった。	男性	50代	兵庫県	その他
	・ボリビアの楽器と今回のチリのギタロンとやって来ました。両方ともとても良かったです。企画ありがとうございました。今日の千葉先生の歌はとっても素敵ですね。シリーズ（又は先生だけの）のCD化は出来ませんか？日常あまり耳にすることのないチリの音楽、来てよかったです。・アルバの実演も良かったです。ただ展示の楽器をさわられて雑音が気になりました。実演の間は札を出されたら……と思いました。・今度はメキシコのカンシオンに来ようと思っています。Grcias.	女性	40代	京都府	会社員
	ドラムカンによる展示の演出に、びっくりした。入口で、とても胸がおどった。コンサートも、最高にいい。同じチケットで何度も入れるのも最高だ。民博は、毎回くるたびに感動して、満足気分で帰るが、今回は、今までの中で最高に感動・満足している。	女性	20代	箕面市	会社員
	ステージの上に、メキシコの"飛ぶ人"の人形がさげているのが、とてもざんしんで面白いと思った。レクチャー・コンサートとライブ・コンサートをきかせていただいた。ファミリーの方は楽しい自己紹介のあとの曲が、ききなれた曲でよかったと思う。ほうしのおどりや、楽器をくばるなど、観客も加わるようにしていただいて、工夫がよかった。展示について――1階の展示、アフリカのドラムかんが、つみ方も工夫されていて、とてもきれい。ただ、おかれている人形のことを考えると、もう少しおさえめの色にした方が、はえると思う。同様に、ステージも黒っぽい方が演奏者の衣装などもはえるのではないかな。	女性		吹田市	大学生
	[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示]について、レイアウト自体はとても良いと思うが、なぜラテンアメリカなのかはわからない。質問12) [のコンサート用のステージ] について、ステージを囲んで展示があるのは良いが、通路がふさがれているので、出入りが自由でない。コンサートに集中するにはその方がいい。移動には不便。質問11) [の展示コーナーのスピーカーについて] ビデオのスピーカーの音量がものによってはもう少し大きく（迫力）がないとよくわからないように思った。全体にはとても楽しめました。	女性	20代	池田市	教員
	ダンボールを使ったディスプレイ（コンピュータ etc.）ソフトなイメージになっていて良いと思う。	女性	30代	高石市	主婦
	やはり楽器はながめているだけでなく実際にさわって音を出してこそよさがわかると思います。「鳴らすとわかる」コーナーはとてもよかった。ながめているだけじゃおもしろくないもん。それと、演奏会をやってくれたのは実際の使用法（？）がよくわかるのでよいと思います。また、こういう企画楽しみにしています。ところで打楽器のコーナーにあったさらとスプーン。あれって楽器になるわけ？と1人疑問に思ってしまったが……。	女性	20代	豊中市	公務員

	ロドリゲス・ファミリーの演奏は本当によかった。声がすんでいて、きいてきもちよかったし、リズム感もすごかった。今後も、現地の人達のこのような生のもよしをどんどんしてほしいと思う。本当によかったです。[ドラム缶が] ちょっと新品という感じがしすぎと思う。アイデアはよい。	女性	10代	吹田市	大学生
	伝統的世界、ヨーロッパ的世界、アフリカ的世界に分けて展示してありますが、もう少しどういった経過でその要素が含まれるようになったのか、(少しは説明があったとは思いますが) 説明不足のような気がします。今回の展示は音楽と楽器なわけですが、それを大きく見ると「文化」なのでから今日のラテンアメリカ文化(融合文化)のはじまりについてもう少し詳しく説明した方が、大衆に分かりやすいのではないかと考えます。		20代	東大阪市	大学生
	素晴らしいレクチャーを有りがとうございました。チリーの友人にこのレジメを送ろうと思います。私の好きなアルゼンチン、ペルーの雰囲気がよく展示にも表れていてうれしいです。		50代	吹田市	主婦
	もう少しならせる楽器を増やしてほしいかったです。だけど、演奏者だけでなく聞いている人が躍ったりコンサートが終わってから楽器を見たりさわったりできるのはすごく良かったです。[展示コーナーのスピーカーについて、] 音量を少し下げられるようにしてほしいです。	男性	10代	京都府	小中学生
	ラテンアメリカ各国及びローカルでの生活行事(お祭り、宗教儀式等)とのかかわりの紹介があればもっと面白かったと思います。		60代	兵庫県	その他
	鳴らせる、触れるものがもっとあるとうれしい。	女性	20代	摂津市	会社員
4/17	もっと楽器に直接さわりたいかった。	男性	20代	滋賀県	大学生
	どうやって鳴らすとか、どんなリズムかがとっても大切なことなので、もっとそういうこともわかればよかった(せっかく鳴らせたのに)。フォルクローレと一緒にできるとは意外でしたが、とても良いところだと思います。しかし、つい「拍子」になってしまって「日本人」をあらためて意識しました。企画展ではいつも異文化の中へ移動があって楽しみです。入口ではなんでドラム缶と思っていたけどああそうかと思ったり。でも、今回はベンキのにおいででしょうか。ちょっときついですね。	女性	30代	吹田市	公務員
	コンドルはとんでゆく～	男性	20代	鳥取県	会社員
	ファミリア・ロドリゲスの歌がわかりやすく、リズムがとても良かった。すばらしい演奏でした。ブラボー	女性	50代	吹田市	主婦
	コンサートの音質が良くてよかった。ただ、観客の人数の少ないときは生演奏(マイク・アンプなし)でも充分届くのでは……。立体的な展示がとてもよい。	男性	20代		無職
	「鳴らすと、わかる」コーナーがもっとあればよかった。場内のコンサートは大変良かったです。	女性	40代	大阪市	公務員
	演奏中、ビデオの音を止めてほしい。	女性	50代	堺市	主婦
	コンサートがとても良かった。展示するだけでなく、今後もこのような形での企画を考えてほしい。ありがとうございました。	女性		豊中市	公務員

	以前の特別展に比べて、文化的つながりなどが今ひとつ感じられなくて少し残念です。楽器がどんな音を出すのかなどの音的アプローチが少なく感じてしまいました。コンサートはとても良かったのですが、展示に物足りなさを感じてしまいました。同じ様な楽器がずらっと並べられているだけの感じがしてしまいました（実際にはそうではないのでしょうか）。でもやはり民博にはとても独自性を感じます。来る度に目からうろこが落ちる思いです。これからも期待しています。がんばってください！	女性	20代	豊中市	無職
	コンサートが非常にすばらしかった。ラテンアメリカ音楽と楽器について少々理解できた。		30代	堺市	会社員
4 /18	特になし（団体客と重なったのでゆっくり鑑賞出来なかったのが残念です）。	女性	40代	兵庫県	無職
	楽しかった。	女性	10代	吹田市	高校生
	コンサート中はすべての音、映像は止めた方が良いと思う（試奏コーナーだけ禁止しても意味ないと思う）。	女性	30代	兵庫県	その他／イラスト屋
	大変すばらしい楽しい演奏をありがとうございました。4女のマリアさん、お体を大切に……。	女性	40代	豊中市	主婦
	もうちょっとくだけたかんじにしてもいいのでは。	男性	20代	高槻市	大学生
	とても見やすく、演奏できるのも素敵なアイデアだと思う。他の地域の企画もお願いします。	男性	20代	大阪市	無職
	Rodorigez 兄弟の演奏が良かったです！！フォルクローレ好きになりそう！！アルゼンチン・タンゴもしてほしい！！	女性	20代	大阪市	会社員
	経費の問題もあると思われるが演奏者の顔ぶれがもっと多様化しないと、テーマの割りには惜けない。例としてはグアテマラのマリンバ奏者とか。ボリビアの田舎のグループとか。（羊頭肉のテーマではありました。）この程度の演奏ならば楽器だけにすれば良かったと思う。		50代	兵庫県	会社員
	ファミリア・ロドリゲスには大満足。試奏コーナーは、もっと自由にさわれる様にしてほしかった。	男性	40代	豊中市	会社員
	場内コンサートがとてもすばらしかった。これからもやってほしい。楽器を手でさわれるのもとても良い。		30代	京都府	フリーター
	生の演奏がとても良かった。これが聴けてこの入場料は大変安い。とても素敵な企画だと思います。もう一度、いえ、何度でも来たいと思いました。（演奏中の楽器について少し解説などあればもっとわかりやすかったかも……）	女性	20代	京都府	大学生
	常に何かの演奏があるのは良いと思う。今日は「時間が」短いため、また次回よくよく見たいと思う。	女性	20代	大阪市	大学生
4 /20	演奏がとても素晴らしく良かった。"コンドルは飛んで行く"は聞き慣れた曲なので特に楽しく聞かせてもらいました。		40代	吹田市	主婦
	〔ドラム缶とペニャ板の展示について、〕説明が必要。	男性	70才以上	愛知県	その他／大学名誉教授
	せまいのですぐ見終わるかと思ったが、内容の充実度がよかったので可成り長い時間いさせてもらった。楽しく時間をすごせる博物館をこれからも期待したい。	女性	20代	豊中市	大学生

	本場の演奏が聞けてよかった。「コンドルはとんでゆく」は知っている音楽で、特に良かった。他にも知っている曲も入れてほしい。笛や笛を沢山つなげたものの音色がとてきれいだっった。				
	マスカカがかわいい。	女性	10代	兵庫県	大学生
	楽しめました。		20代	兵庫県	会社員
	ドラム缶の色などで素朴さとか派手さとかを表現しているのは良かったです。衣装とかもイメージの参考になりました。	女性	10代	茨木市	大学生
	楽しかったです。マネキンの着ている衣装を見るのも楽しかったです。	女性	10代	大阪市	大学生
	コンサートを聴いて、とても気持ちよくなった。楽しかったです。ありがとう。	女性	10代	大阪市	大学生
	1階の展示の解説で見過ごしそうな所があった。また、目が悪いのであまり奥の方に解説の板を置かれると読みにくい。	女性	20代	高槻市	大学生
	ドラム缶が、入ったとききさかった。イスがよかった。	女性	40代	吹田市	主婦
	もう少し「鳴らすとわかる」楽器があると期待していました。全体としてはなかなか面白い企画でした。次回も期待しています。	女性	20代	奈良県	無職
	鳴らすとわかるのコーナーがもう少し多ければと思いました。		30代	奈良県	無職
	レストランのブラジル料理がおいしかった。ライブが良かった。展示のスピーカーの音がもう少し良ければいいと思う。	女性	20代	京都府	主婦
	アルバの試奏をさせてもらったのが良かった。普通の博物館等は単に展示品を目で"見る"だけだが、今回は実際に楽器にふれる事ができ良かったと思う。	女性	20代	寝屋川市	会社員
	自分で演奏できたり、生の演奏を聞けたりと良かったと思う。もっといろんな楽器が自分で触ったりできると思う。ラモンとお話ができて良かった。	女性	20代	広島県	会社員
	コンサートがとても良かった。	女性	10代	高槻市	高校生
	演奏があることを知らずに来たのでおどろいた。でも、とても上手くて、とても良かったです。	女性	10代	茨木市	高校生
	売店もっていっぱいひろく。ほかは大満足。期待どおり。	女性	60代	大阪市	主婦
	ラテン系特に南米系の風土に接する面白さと自由さの表現を感じた。感謝します。	男性	70才以上	茨木市	無職
	アルバの演奏の館内案内をしてほしい。		30代	大阪市	会社員
	「乾杯」が心にしみた。	女性	10代	茨木市	大学生
	西洋音楽の楽器と異なる音やメロディーにふれ、忘れていたものを思い出したような気になった。ライブでよさがわかる。木、植物、ツメ、菌、動物と共に音をだすすばらしさ！	女性	50代	高槻市	主婦
	〔コンサート用のステージについて、〕演奏者にとっては狭いのでは？踊れない。		20代	吹田市	大学生
	鳴らすと、わかる楽器がもっとたくさんあったら良かったと思いました。とにかく自分の手で音がすると感覚的によくわかるし、本来楽器は見るものでなく鳴ら	女性	20代	奈良県	教員

	すものであると思います。ともあれありがとうございました。				
	偶然、近くに来て初めて入館致しました。とても興味深く、楽しむことができました。	女性	30代	愛知県	フリーター
	たのしい一日でした。		50代	吹田市	主婦
	文字での説明が少なかったので（マニアックな人にはいいかもしれないけど）もっと知りたい。内容がざっくりとしていて概要はわかってまいちポイントがつかめない。ビギナービギナーの展示会だったと思う。演奏の「カンバイ」もちょっと閉口。		20代	高槻市	無職
	初めてなので、こんなもんだと思ったのですが、展示数も多く、ビデオとかももっと見たいと思いました。2階のコンピュータの調子がちょっとおかしかったですが、うまく調整してもらいました。[マルチメディア係の] 久保田さんお世話になりました。期間中、できるものならもう一度寄りたいと思いました。	男性	20代	箕面市	大学生
4 / 29	きれいな音楽がきけてよかった。	女性	30代	京都府	その他
	売店の資料をもっと増やしてほしい（楽譜とか文献とか）。演奏できるコーナーを、たくさんつくってほしい。	女性	20代	高槻市	フリーター
	もっともっといろいろな楽器をさわれるようにしたら良いと思う。	男性	10代	豊能町	その他
	売店に「使い捨て」カメラもあれば良いと思う。撮影禁止かと思ってきたら、違うようで残念。サナブリア姉妹の演奏がとてもよかったが、日本語で曲の題名を言ってくれたら、もっとよく味わえたと思う。	女性	40代	高石市	自営業
	鳴らしてよい、ふれてもよい、さわらない、この展示物の区別をはっきりさせないと、ゆきすぎた行為をする人がいるので、もうすこし気をつけた方がいいのでは？ 民博のイメージが、大変新しい前向きなものになった気がします。壁にダンボール色もナチュラルな感じでいいですね。	女性	20代	京都府	大学生
	日本人によるレクチャー・コンサートは、あまり意味がない気がする。それなら現地の人の演奏を見た方がいいと思う。マルチメディアコーナーも、まだまだ改良点は沢山あると思う。打楽器に触れてたたくと思ひ、練習してきたのにたたけず、弦楽器も抱えて弾けると思ったのに、固定されていて弾けなかつてくやしい。	男性	20代	堺市	大学生
	とにかく、全部の楽器をさわらせてほしい。レクチャー・ライブコンサートでは、もっと良い質の高い演奏を期待していたけれど、良い演奏だとは思えなかった。なんかがっかりしました。	女性	20代	大阪市	大学生
	楽器もさわれるのと、実演があったのがすばらしかった。	女性	20代	京都府	会社員
	えんそう中にうたをうたっている人が、水をのんだ。	女性	10代	高槻市	小中学生
	「鳴らすとわかる」のコーナーはとてもよかったが、展示物やVIDEOと一緒に置いてあったらもっと興味を持って、鳴らしてみることができたかも。あと、私のような地理が苦手な人には国の名前と一緒に、小さな地図があればうれしい。ボリビアの黒人奴隷のくさりの重みや、がちがちした音についての説明は、とて	女性	10代	兵庫県	大学生

	も興味深かった。あのくらいくわしい背景の説明があると、ただぼーっとみて、きれいだね、日本と違うね、以上の感想を持てるかもしれない。				
	今回の展示は、比較的平面的になりがちな今までの展示方法を脱した。民パクにしては、とてもザン新で良い！と思います。また、レクチャーコンサート及びライブコンサート企画はとてもすばらしく、今回まいりましたのは2回目です。ライブコンサートを、開かれているのは知っていたのですが、レクチャーコンサートはこちらに来て始めて判り、(前回のメキシコのカンシオンで) もっと早くに判っていたら、1回目から来たのに！と思うと残念です。このように、毎回来たい！と思わせるような企画の場合、回数券(フリーチケット)的な券が欲しいです。あと、2〜3回は来るつもりです(コーエン会と、もう一度レクチャーコンサート)。ほんとうに久しぶりに、とてもとても楽しい展示です。またぜひこういうきかくを。＊階段より舞台を見て左うしろにいますと、VTR?の音声がるさく、コンサートの音のじゃまをします。そのへんにすわっていた人、皆少々困っていました。＊生き生きとした音楽が、とてもその土地の文化を物語ると思います。	女性	30代	吹田市	会社員
	ライブとかやってもらえてよかった。身近でふれられるものなかなか魅力的だと思う。	女性	10代	奈良県	高校生
	音楽が、きれいでよかった。	男性	10代	松原市	小中学生
	ドラム缶は、きれいすぎて、ラテンの雰囲気が出ていない。[マネキンの]服のすぐ横などに実際の写真などがあつたほうがよい。展示の楽器は見やすかったが、下の展示はそれぞれの、あついで国の雰囲気が必要だったと思う。ダイエーのマネキンと同じに見えた。	女性	20代	東大阪市	大学生
	5月中にもう一度足を運びたいと思います。楽しい企画をありがとうございました。	女性	20代	池田市	その他／ピアニスト
	展示場内でのコンサートがとても良かった。展示については、もう少し見やすい(1Fのマネキン)ようにできると思う。	女性	20代	羽曳野市	大学生
	コンサート(レクチャー・ライブともに)がすばらしい！！日本人でも、こんなに追究しているグループがいるのかと知りうれしく思う。(チリのギタロン、ブラジルのビリンバウ、キューバのバタ)を聴きました。世はまさに民族音楽、ワールドミュージック盛況である。とてもタイムリーな企画。	女性	20代	埼玉県	大学生
	一部の音楽だけでラテンアメリカというのはおかしい、説明不足。現地のグループを招待して欲しかった。	女性	20代	京都府	無職
	良かった。また来たいです。	女性	20代	兵庫県	会社員
	コンサートが良かったです。楽しかった。ありがとうございました。	女性	20代	京都府	フリーター
	ドラム缶に感動！！よいステージだったと思う。	女性	20代	兵庫県	会社員
	レクチャーコンサートはとても楽しかったです。キューバの音楽に興味がもてました。	女性	20代	東大阪市	会社員
	サナブリア姉妹のコンサートがとても良かった。いつも(平日)に来る民博と違って、家族連れがとても多くて、好評な特別展だなと思った。音楽は国境や、言	女性	20代	茨木市	大学生

葉や文化の違いを越えられるものなんだって改めて思った。ディスプレイや椅子なんかの感覚がいつもよりやわらかくて新鮮だった。				
とても良かった。	女性	20代	豊中市	公務員
サナブリア姉妹のライブ・コンサート、本当に感動しました。すごく笑顔もよくって、すごーく来てよかったです。	女性	20代	富田林市	大学生
その国の人が、その国の楽器を鳴らしているのを見て、とても身近にその国の文化を感じることができた。知識だけでなく、体感する場がもっともっと増えれば、と思う。コンサートなど このような実感できる企画を増やして下さい。	女性	20代	大阪市	フリーター
アルバ演奏があり、実際の音色がとても美しいことがわかりました。ドラム缶利用の座席も、会場の雰囲気によく合っていて良いと思います。今まであまり知らなかったラテンアメリカの国を身近に感じることが出来ました。これからもこのような企画をお願いします。	女性	20代	大阪市	教員
〔展示の解説について、〕もっとくわしくしてほしい。〔「鳴らすと、わかる」コーナーの楽器は、〕いつもチューニングしている必要がある。	男性	30代	大東市	公務員
〔展示コーナーのスピーカーは、〕とても良い音がわれている。	男性	30代	大阪市	公務員
1階はコンサートホール以外が暗い。コンサートタイム以外は、もっと明るくしてもよかったのでは。又、コンサートのいす、いまいち。たとえ30分でもゆっくりすわって聞きたかった。ビデオシアターは、数が少ない。		30代	香川県	公務員
アルバの演奏がとても良かった。こんなにすばらしい演奏をきかせてもらえて感動しました。		30代	兵庫県	会社員
上品すぎるのでは……。もっと現地っぽい、雑さがあってもよいと思います。		30代	東京都	自営業
ハーブとギターのえんそうが、とても良かった。場内案内等の方々も、すこし民族的なものを身につけていると、もっとふんいきが出ると思う。	女性	30代	松原市	主婦
ラテンアメリカの楽器や音楽にはとても興味があったので、今日で3度めです。ファミリア・ロドリゲスもとても楽しかったし、アルバとギターの演奏がどうしても聴きたくて来ました。楽器を手にとってさわれるのも、とても魅力です。演奏のしかたがもう少しわかりやすいといいかなーと思う展示物もありました。でもとても楽しかったです。!Muchas gracias!	女性	30代	豊中市	主婦
〔展示コーナーのスピーカーは、〕音がわれてるのもありました。〔コンサート用のステージについて、〕演奏している手もとがよくみえる。	女性	30代	大阪市	その他／看護婦
もっと明るいラテンの音楽や皆がよく知っている音楽を、演奏してほしい。〔「鳴らすと、わかる」コーナーは良いが、木琴のひもがみじかい。〕	女性	30代	泉大津市	フリーター
演奏にはとても満足でした。もう少し説明があっても良かったのではと思いますが、でも良い展覧会でした。	女性	30代	兵庫県	教員
休日ごとのコンサートとレクチャーコンサート、楽しくてつい何度も足をはこんでしまいました。ふだん、	男性	30代	吹田市	会社員

	聞いたことがない、または聞いたことがあってもおそらく他の演奏に埋もれていたりして、その楽器ひとつひとつの音色をきけないようなものを、簡単な歴史を含めてきくことができ、たいへん良かったです。コンサートも含めて、850円は、安くて気楽に出来ました。20周年に限らず、このような企画ぜひどんどんして下さい。期待しています。				
	ドラム缶の色の配色が雰囲気とマッチしていない部分があるのが気になった。	男性	30代	奈良県	会社員
	「『鳴らすと、わかる』コーナーの楽器が、」弾きにくい。	男性	30代	豊中市	会社員
	ラテンアメリカ、カリブ全域の音楽をひとつにまとめて展示するには、スペースの都合もあってやや「さわり」だけというイメージがあるが、2Fの楽器の展示は種類も豊富で実際にさわれるなど良かったと思う。できればもう少しジャンルを細分化してシリーズ化した展示会を開催してほしいと思う。	男性	30代	東大阪市	会社員
	もっとエネルギー感を感じがよかった。	男性	30代	豊中市	会社員
	もっと鳴らすとわかる楽器がよかった。そして、あまり人にさわらせたくない楽器は時間をみて鳴らしてみたい。つまり実演してほしい。見るだけでは音わからないものたくさんあった。		40代	高槻市	主婦
	今回「民博に」初めてきて、コンサートなど楽しむことが出来よかった。	女性	40代	堺市	主婦
	アルパとギターの演奏を聴かせてもらいとてもよかった。他の音楽もビデオシアターでみるのができよかった。	女性	40代	箕面市	主婦
	「展示コーナーのテレビやビデオシアターについて、」クリックのない GUI は使いにくい。Muchas gracias Srta. Sakai, Club Hioponico Rep. Yasuo Ichimura	男性	40代	大阪市	自営業
	よかったです。	男性	40代	豊中市	公務員
	キューバのバタはめったに聞けるものではありませんので、今日この機会に恵まれて幸いに思います。	男性	40代	奈良県	教員
	「『鳴らすと、わかる』コーナーに、」もっと多くの楽器があってもよいのではないか。例えばコンガ、ボンゴ、グイタ、クラベス、テンパルス等、日本でもよく使われている楽器などです。		50代	羽曳野市	会社員
	ゆったりと華やかな会場で満足しました。		50代	茨木市	会社員
	ペンキのにおいがきつい。	女性	50代	吹田市	主婦
	系統だてて多くの資料をよく集めてられると感心しました。とても親しみ易くたのしい雰囲気、これからの展示会がとてもたのしみです。博物館の暗く固く、カビくさい先入観が消えると思います。	女性	50代	奈良県	主婦
	ドラム缶による展示は、カリブ或は原産国等のイメージが強く、自然豊かなラテン米全体のイメージとしては非常に限定的な雰囲気を作ってしまった。むしろ残念な気持ちで見た。(中米5年、チリ7年在住経験者です。)	男性	50代	兵庫県	会社員
	もっと自由に楽器の演奏ができれば尚よい。(ロバの頭骨をたたいて鳴らす楽器がぜひやってみたかった！)	男性	50代	高槻市	会社員
	料金、展示工夫、演そう、ケイビとても良好です。	男性	50代	枚方市	会社員

	難しい点がありますが、出来る限り手でふれられるような展示を希望します。	男性	60代	茨木市	会社員
	専業主婦で外出することもないので余り知らないと言うこともあって、まあこんなものでしょう！！という感じでした。しかし悪い気分ではありませんでした。ありがとうございます。	女性	60代	茨木市	主婦
4 / 30	ビデオとパソコンの接続した装置はよかったですが、パソコン画面の選択肢が少なかった。例えば、アルゼンチン→「タンゴ」だけ、これはさみしいと思いました。		10才未満	高槻市	小中学生
	いろんなものが、おいてあって、おもしろい。	男性	10才未満	守口市	小中学生
	演奏できる楽器をもっと、ふやしてほしかったが、"アルパ"に感動したからいいです。またやってほしい。	男性	10代	兵庫県	大学生
	まあまあ。	男性	10代	吹田市	小中学生
	これからも実際に手にとってさわることでるような展示をして下さい。今回は学校のフィールドワークで民博に来たのですが、たまたま来ただけなのに、コンサートもあり喜んでます。とても良かったです。	女性	10代	吹田市	大学生
	コンサート会場がすこし良かったです。	男性	10代	吹田市	小中学生
	説明のパンフレットが1つの楽器につき1つあったらいいなと思った。	女性	10代	奈良県	大学生
	コンサート最高でした！！またやって下さい！！	女性	10代	箕面市	大学生
	とても楽しかった。もっといろいろなことをしてほしい！！	男性	10代	京都府	小中学生
	試奏できる楽器を増やして欲しい。	男性	10代	大阪市	大学生
	もっと超専門的になるほどおもしろいのではないかな？	男性	10代	兵庫県	大学生
	良かった。こんなに楽しい展覧会だとおもわなかった。	女性	10代	高槻市	大学生
	たのしかった。ありがとうございます。	女性	10代	大阪市	大学生
	ドラム缶のペンキのにおいがきつすぎる。	男性	20代	八尾市	会社員
	展示を見ながらコンサートを聴けるのが、とても良かった。(時間に追われなくてよいから)。また、ベニヤ板の床も独特の香りがして快適な雰囲気良かった。	女性	20代	奈良県	会社員
	「鳴らすと、わかる」コーナーで、実際に鳴らせる楽器が少ない。	男性	20代	京都府	大学生
	解説には日本語の他に外国語(英語と中国語は必須)が必要。ビデオ装置の設置が少なく、いろいろな音楽(又は楽器の音色)を聞くことができないのが不満。	男性	20代	吹田市	公務員
	レクチャーコンサート、"グルーボ・アチェ"によるバタ音楽はとても良かったと思います。あまり民間レベルで生演奏を聴く機会もないですし、こうしたラテン音楽の展示の場で行うのはとても意味があるのではないのでしょうか。歌(唄)については、あまりとりあげられていませんでしたけれど、とてもいい声でファンになりました。自分もフォルクローレを演奏して7年になります。現在、ケチュア語とアンデスの風土、歴史のべんきょうとしていますので、いろいろとためになり良かったです。こうした機会に少しでも多くの人にアンデスやカリブの、特にしいたげられた人々の歴史について知ってほしいと思いました。	女性	20代	東京都	会社員

	レクチャーをもってふやしてぜひ第2弾もやってください。	男性	20代	東京都	会社員
	ドラム缶はわざとらしかった。	男性	20代	高槻市	無職
	様々な楽器の展示が良かった。また、実際にふれてみることができたので、体全体で感じることができました。音楽が人の生活に密着していること、また、いろいろな工夫がなされていること、全ての物が楽器になりえることもよくわかりました。		20代	茨城県	会社員
	国立民族学博物館本館にくらべ、「手でふれることのできる展示コーナー」など工夫があるので、あまり興味が持てないコーナーでも、たいへん親しみやすかったです。	男性	20代	兵庫県	会社員
	コンサートがたのしかった。	男性	20代	池田市	大学生
	コンサートがとても良かった。時間をかけてまた来たいと思いました。	女性	20代	箕面市	会社員
	「鳴らすと、わかる」コーナーの部分、コンサート中の工夫がほしい。係員がたくさんいるのに、もう少しなんとかならないのか？[ベニヤ板の床について、] 雨の湿気？でボコボコになっているところがある。	女性	20代	兵庫県	会社員
	図録などはおもしろそうでした。レクチャーコンサートはやっぱり日本人ではなくメキシコ人やキューバ人にきてほしいと思った。	女性	20代	兵庫県	会社員
	2Fの展示が良かったです。たくさん楽器があって。「鳴らすとわかる」コーナーで、鳴らしてみせたり、教えてくれる人がいたらいいな。休日なのにあまり混んでいなくて良かった。今度はアフリカの音楽の特別展を開いて下さい。CDの販売の試聴コーナーがあればいいと思う。	女性	20代	堺市	フリーター
	4/2の15:30～のコンサートで、アンコールをしてくれたのでうれしかった。ラテンアメリカがテーマなので会場の中がもう少し明るい雰囲気だとよかった。	女性	20代	摂津市	公務員
	サナブリア姉妹の演奏を聴きました。きれいな音色で良かったです。アルパで演奏する「コンドルは飛んで行く」を聞いたのは初めてでした。ありがとうございます。	女性	20代	兵庫県	大学生
	演奏はとてもよかったです。		20代	兵庫県	大学生
	モダンな展示で面白かったです。若い人がプロデュースしたのですか？もう少し解説が多くても良かったなと思います……。	女性	20代	吹田市	会社員
	曲がいい。人もいい。	男性	20代	吹田市	大学生
	コンサートステージの展示用のドラム缶のMAPがとても良かった。	女性	20代	大阪市	会社員
	[レクチャー・コンサートは、] とても楽しかった！！[展示場内のコンサートは、] 笑顔がとてもかわいくて素敵。生えんそうが聞けてHAPPYでした。		20代	神奈川県	主婦
	CubaのBataのレク・コンがあったからこそ来たという感じです。民博へは一度行ってみたくて思っていたので今回がよいきっかけとなりました。楽器の展示は、単純に「管・弦・打」の分類や国別の分類ではなく、各々のつながり・系譜・変容・影響関係が歴史の流れに沿ってたどれるような順路を工夫すると、より生きてく	男性	20代	静岡県	大学生

	るように思いました。[ドラム缶の展示について、] 残念ながらラテンアメリカのイメージが湧きませんでした。				
	「～族」・各民族のことがよくわからない。	男性	30代	大阪市	会社員
	アルパに興味があったので、サナブリア姉妹の演奏はたいへん興味深く、とても良かったです。もう少し、見たかったです。	男性	30代	大阪市	会社員
	アルパの演奏はあんまり聞かないので良かった。声がかっこよかった。	女性	30代	大阪市	主婦
	演奏がとてもよかったです。	男性	30代	松原市	会社員
	活気ある演出を考えて欲しい。現地はもっと太陽があって明るい！金かえせ！	男性	30代	大阪市	自営業
	サナブリア姉妹の演奏をもっと楽しみたかった。アルパを生かしたバラグアイの伝統的な曲も入れていただきたいかったです。 Estamos muy impresiodas por la musica maravillosa de las Sanabrias. Quería escuchar mas de las obras paraguayas : por ejemplo "Pajaro Campana" o "Mis noches sin ti". Gracias.	女性	30代	神奈川県	会社員
	コンサートなど、生の文化に触れる機会がもっとあるといいと思う。	女性	30代	奈良県	公務員
	英語による展示解説が必要だと思います。ぜひよろしく。展示版に紙（ハトロン紙？うす茶色の）を利用しているところありますね、触れやすいとか、やわらかい雰囲気で見え方が良かったです。かたくなるくらいいい。とても勉強になりました。	女性	30代	吹田市	公務員
	これだけのものを一堂に集めたものを見てしまっただけで興奮が収まりません。これだけで「ラテンアメリカ音楽博物館」を作って常設展示にしようという奇抜な方はいないのでしょうか、（石橋純さんあたりどうでしょう？）最低限 Video theaterは今後常設して欲しい。それと、ぜひ首都圏でもやって下さい。[ベニヤ板の床について、] Video Theaterを見ながら踊りづらかった。まあ、そんなことしようとする人はあまりいないでしょうが……。[ビデオシアターについて、] ソフトによって音の大小差があった。[手でふれることのできる展示について、] どれに触ってよくて、どれがダメかわかりづらい。	男性	30代	神奈川県	その他／障害者地域作業所職員
	AM11:00に入場し、入場と同時にレクチャーコンサートが始まった。30分程度と考えていたが、30分経たなくても終わらない。あまり時間に余裕があったわけではなく、2Fの展示場へ上がりたかったが、階段まで人がすわり上がれない。コンサート終了直前に2Fへ上がったが1時間以上が過ぎていた。又、楽器に触れるというのが非常に楽しみたかったがそれでもできず（演奏中のため）、やっと演奏が終了したので楽器に触れると注意される始末（その時、既に演奏者がステージを降りたのを確認していた）。[来館者は、] 楽器や音楽に興味があるからと言って特定の音楽、演奏者を気に入るか否かは別。演奏の間2Fの展示物の内容を制限するのであれば、せいぜいサンプル演奏的に30分以内にすべき、又主催者側の押しつけ的な演奏ならない方がまし。係員の態度も高圧的であった！	男性	30代	兵庫県	会社員

	[展示コーナー] スピーカーは、もう少し広く聞こえた方がよいのでは。みんなくゼミナールの前に何かやっているようですが、予定が決まっている場合には、何らかの形で前もって知らせてほしい。		30代	兵庫県	公務員
	いつ来ても聞けるライブは画期的だと思う。欲をいえば、もっと多くの演奏家を招待できていればいいのだけれども。	男性	30代	広島県	会社員
	もっと宣伝してほしい。	男性	30代	豊中市	公務員
	ペンキのにおいが強かった。		30代	兵庫県	フリーター
	レクチャー・コンサートが長すぎる。手でふれる楽器が少なすぎる。		30代	兵庫県	会社員、主婦
	Bueno Musik!	男性	30代	箕面市	公務員
	展示のアートディレクターを明示しては？	男性	30代	吹田市	公務員
	ラテンアメリカの音楽を聞くことができ、リラックスできてよかった。	男性	30代	神奈川県	会社員
	レクチャー・コンサート目当てで、何回か足を運んで来ました。	男性	30代	兵庫県	会社員
	[マネキンの展示は、] 子供がこわがった。	男性	30代	大阪市	会社員
	視覚言語より、音楽を中心に添えた今回の展示はすばらしいと思います。南米の音楽を一般大衆に開き、文化の交流を広げた今回の展示は、地域市民を希求する時代にあって、大きな世界的な貢献であったと信じて疑いません。今後の展示として参考にすべきことは、一部の知識人が喜びそうな展示より、音楽や映画など誰にでもわかり、誰にでも興味を引くような方法を用いて、同時代に住む他文化の人々を身近なことにしていくことだと思います。又、文化紹介を、過去・現在・未来の流れとして展示していくこと、それを精神面をバックボーンに物事を、紹介すること、現物を（人を含む）持つてくる等のアプローチが大切だと思います。	男性	30代	茨木市	会社員
	生演奏をすべて聞きたかった。その為の回数券があったら申し分ないんですが。何回も通うつもりです。	女性	40代	大阪市	主婦
	コンサートのプログラムもポスターで紹介しておいた方が良かった。	男性	40代	吹田市	会社員
	マネキン表現はよくないが、楽器アンサンブル、配置がわかって良い。（伝統的な組み合わせのない楽器があるかも知れない。）音を出しての楽器であるから11）[展示コーナーのスピーカー] はよい。図録には美術館的カタログと、博物館的カタログがあって、後者はレイアウトが悪いが多い（ほとんど）	男性	40代	大阪市	会社員
	こんなにたくさんの楽器が、それぞれの地域にあったことを初めて知りました。人間の生活と深く関連して生まれていたのですね。庶民が楽しんで演奏をしていたように思いました。日本民族とは、少し違うように感じました。オカリナを求めて、練習していきたいと思っています。今回の企画を二月頃でしたか、新聞で知りました。本日見させて頂きとてもうれしく思っています。民博大好きな私ですので・・・有難うございました。		40代	大阪市	教員
	指向性のスピーカーを使っているようだが、あまり効果がないように思える。（かなりの範囲で音がもれている）。		40代	高槻市	公務員

	ラテンアメリカの開放的な明るさと音楽が宗教とのつながりの暗さをもっと出してほしかった。	男性	40代	大阪市	自営業
	レクチャーやコンサートの予定 etc が、もっと外部にPR されてよかったと思う。(来場してみないと、時間、内容が不明であった。)	女性	40代	高槻市	主婦
	[手でふれることのできる展示について、] とても良いが、少ない。	男性	40代	高槻市	会社員
	おもしろかった。ドラム缶のペイント、いいですね。缶の椅子、ほしいな。	女性	40代	茨木市	主婦
	コンサートが楽しかった。	女性	40代	箕面市	教員
	なぜドラム缶とベニヤ板が、中南米のイメージなのか？お金をかけてるわりに工夫がない。もっと知恵を出して欲しい。		40代	箕面市	会社員
	[コンサート用のステージについて、] バックが要る。		50代	豊中市	会社員
	もう少し客席が多く用意できればと思います。	女性	50代	兵庫県	主婦
	[展示コーナーのスピーカーについて、] 音量が少ない。[展示の解説について、] 不足。[手でふれることのできる展示について、] もっと多く。		50代	吹田市	会社員
	生活と音楽のむすびつきが楽しそうで感心しました。	男性	50代	茨木市	会社員
	今オカリナを習っている。イタリアの物と思っていたが、南米にもあったので興味深かった。パンフルートを持っているが、どこかで教えてくれる処はないでしょうか。もしありましたらご連絡下さい。		50代	京都府	主婦
	レクチャーコンサートが楽しみて時間の合うかぎり来ています。毎回珍しい楽器の説明、ひき方の説明があり、希望者には教えて下さり、素人がやると、どんなにむずかしいかを実感し、リズムなどを分解して聞かせて下さり、それぞれのリズムを合わせてみたり・・・と。毎回なるほどと感心し感激しています。ラテンアメリカ展は3回目です。		50代	兵庫県	主婦
	展示方法については、従来に引き続き申し分ありません。今後も楽しい企画をお願いします。	男性	60代	京都府	無職
	アルバの素晴らしい演奏に感激した。	男性	70才以上	大阪市	無職
	レクチャーコンサートはビリンバウ、ギタロンについて、バタと三回目。カンシオンも来たかったが残念。バタもたいへんおもしろく楽しめました。民博の講演やセミナーについてちょっとお願い、いつも土曜ですが、これを月～金にもやってもらえないでしょうか。土曜は他にもイベント多く、また小生、勤務の都合もあって来れないときが多いのです。いま、ウィークデーの方が都合のいい人も増えているのではないかと思います。	男性	50代	兵庫県	その他
	楽器の演奏方法とか、どんな音がするのかなどの説明や、その楽器の音のいったテープなどを流すなどしてほしい。	女性	20代	兵庫県	公務員
	また来たい！ と思いました。	女性	10代	京都府	小中学生
5 / 1	手で触れる楽器を増やしてほしい。コンサートをもっと聴衆も参加できる感じにした方が良いと思う。		10代	京都府	会社員
	もっといろいろな楽器を鳴らしたかった。		10代	兵庫県	大学生

	普段はもっとかたい感じがしていたけれど今回は楽しめた。コンサートもすばらしかった。	女性	10代	大阪市	大学生
	今度はアフリカ展をやってほしい！！		20代	豊中市	自営業
	中高生がうるさい。先生らしき人の拡声器もうるさい。演奏中につかうな。		20代	奈良県	大学生
	もう少し、触れる楽器が多ければよかった。	女性	20代	大阪市	大学生
	楽器ごとにどんな音なのか、よくわかれば楽しいと思います。(マルチメディアを利用しましたが、あと実演のコーナーも利用しました。)	女性	20代	兵庫県	会社員
	照明が少し暗かったような気がします。図録いいんですけど、1800円は高いです。こういう楽器・音楽展はたいへん楽しみです。インドやタイなど、また別の地域も開催して下さい。	女性	20代	大阪市	大学生
	来て損はなかった。	男性	20代	京都府	大学生
	もっと試奏したい。	女性	20代	兵庫県	大学生
	もっと試奏できる楽器をふやしてほしかった	男性	20代	豊中市	大学生
	試奏コーナーはとても良かったです。楽器というものは鳴らしてこそものだから。	女性	20代	兵庫県	主婦
	南米に興味をもった。	女性	20代	大阪市	フリーター
	[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、] トリニダードとかはそーいうかんじやけど、フォルクローレ系はどうだかわからない。	女性	20代	滋賀県	会社員
	不思議な展示のしかたでおもしろいと思う。	女性	20代	新潟県	会社員
	さわってはいけない展示品、さわってもいいけど鳴らしてはいけない展示品の区別がはっきりしません。[なぜ、] ラテンアメリカ＝ドラム缶なのか分かりません。	男性	20代	兵庫県	会社員
	楽器を目の前にして大部分を試しに演奏でないのは、わかっているもののストレスがたまる。しかし、これだけ集めたことには恐れ入りました。山本先生の本を読んでから来ましたが、例えばもう少しマルカパタの人の生活がうかがえる展示があるともっと良かったと思います。しかし、充分すぎるほど満足。はるばる来たかがありました。ありがとうございました。チョリータの「マネキン」がやせすぎ。	男性	20代	東京都	会社員
	スチールドラムについて、もっと詳しく展示してほしい。	女性	20代	箕面市	フリーター
	興味をわかせる展示とビデオとコンサートでとても面白かったです。十分に楽しめました。サナブリア姉妹のコンサートが素敵で特に「コンドルは飛んで行く」が良かったです。	女性	30代	兵庫県	主婦
	もっと音を出せる楽器を置いた方がよいと思います。	男性	30代	兵庫県	会社員
	中南米とひとまとめに考えていたが、様々な楽器の特徴があり、それぞれ民族的、歴史的に形成されてきた事がよく理解できた。また、世界の面白いイベントをお願いします。		40代	兵庫県	会社員
	CDをためしききさせてほしい。	女性	40代	兵庫県	主婦
	照明が暗い。カーニバルの服がダサイ、貧弱。人形がまっくろで焼死体のよう。アンデスだから黒い人というのは発想がステレオタイプ。楽器にさわれたのはよかった。展示品は数、種類が豊富でよい。	女性	40代	豊中市	教員

	1. 単に楽器を展示するに留まらず、体系的な説明文より詳細にしてより見やすくしてほしい。 2. 実際の音を知るためのビデオ展示の充実が望まれる。 3. 即売コーナーでは、スペイン語による参考書類をより充実してもらいたい。	男性	40代	神奈川県	会社員
	倉庫のコンサートの雰囲気です少し暗いと思った。		50代	高槻市	会社員
	演奏は楽しく聴かせていただきました。もう少し時間を延ばしてききたい思います。	女性	50代	寝屋川市	無職
	会場が素朴で良い。	男性		高槻市	会社員
5/2	ラテンアメリカの風土、についてもっと知りたかった。		10代	京都府	大学生
	[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、] 今までの民博のイメージとあまりにもちがうのでわからない。[ベニヤ板の床について、] ベコベコして変な感触であった。マネキンがこわい。[展示コーナーのスピーカーは、] 声が割れている様である。	男性	10代	茨木市	大学生
	楽器の説明が少なくよくわからなかった。	女性	10代	吹田市	大学生
	資料としての採集年代が欲しい。考古学的史料は、確かに少ないと感じた。Video or Computer は良かったが、演奏者(団体)名、曲名を入れて欲しい。"ラテンアメリカ"としては、とてもよく考えられていると思う。	女性	10代	長野県	大学生
	ドラム缶の使用がとても良かった。	女性	10代	能勢町	大学生
	[展示コーナーのテレビとビデオについて、] 音がきこえにくかった。	女性	10代	池田市	その他／浪人生
	ビデオで各楽器の演奏を見るコーナーはとても良かったと思いますが、少し画質が悪くて残念でした。マネキンは演奏の様子がわかるけどちょっと不気味な感じがしました。楽器の展示と、実際の音色が直接結びついて見学できればもっと楽しかったのでは……。サナブリア姉妹のコンサートは、Very goodでした！	女性	20代	豊中市	会社員
	民族博物館の展示ってムズカシイですね。わかりやすく並べなきゃいけないし、かといってあまりに並べすぎると平面的な展示になってしまうし。その点で、今回のドラム缶を使ったりベニヤ板を床に使った展示はとても面白かったです。VIDEO シアターもブース毎に(見る人が)落ち着くようにできているし、何よりドラム缶を使うことで、立体的になったと思う。コンサートは、ほんの少しがっかり。サナブリア姉妹のを聞かせてもらいましたが、マイクがあつて残念だった。でもマイク使わないとムリなのはわかるし、何ともいえませんが。生で聞きたかったです。電気通しちゃうとちょっと……。でも楽しかったです。図録、楽しみに読みます。あとスタンプが鮮明でうれしかった。汚い字でごめんなさい。[コンサート用のステージについて、] もっと閉じた感じ(舞台の方)の方が良かったのではないかな。舞台の方がちょっとだだっ広すぎたような。でも背景(ドラム缶に文字)はよかったです。	女性	20代	千葉県	大学生
	やはり本場のミュージシャンが来て演奏してくれてうれしかった。もう少し、現地の人々と触れ合う機会がほしかったです。	男性	20代	茨木市	大学生

コンピューターで楽器の紹介や、その他音楽や文化の紹介をしているのはよかったが、その内容の説明や楽器演奏のビデオが、非常にものたりなかった。マネキンでの展示のアイディアは良いと思うが、黒い人形だったため恐くて見る気がしなかった。床をベニアにしているのも、とてもいいと思うが、ドラム缶とのとりあわせで良さが生かされていない気がした。楽器の範囲だけでなく、各国の音楽に見られる特徴などでもうすこし、ふみこんで説明しても良かったのではないのでしょうか。	女性	20代	豊中市	無職
端末や手で触ることのできる楽器をもっとたくさんしてほしい。ビデオシアターは3つが、それぞれに分かれているのも、3つとも同じく全ての地域が見れるようにしてほしい。	女性	20代	愛媛県	会社員
歴史的背景をもっと知りたい。	女性	20代	京都府	会社員
ビデオシアターがよい（生きた音がきけるので。）企画自体が、大ヒットだと思います。博物館のイメージを変えるものだと思います。		20代	香川県	公務員
もっと深く掘り下げた内容のものを出して欲しかった。	女性	20代	摂津市	会社員、その他／ケーキ屋
もう少し系統だてた説明コーナーがほしかった。展示場の雰囲気はとても良かったです。センスの良さがわかりました。	男性	20代	大阪市	会社員
ドラム缶は何を狙っているのか分かんが、従来の博物館にありがちな「堅苦しく鑑賞する」というイメージを打破しようとしているのは良い試みだと思う。照明がやや暗い。床下から音が聞こえてくるのは気色悪い。	男性	20代	兵庫県	大学生
〔ベニヤ板の床について、〕歩いたかんじがやわらかくて良いが、これは貴重な森林資源です！〔マネキンによる展示は、演奏の〕ようすがよくわかる。展示コーナーのスピーカーは少しボリュームが大きい。	女性	20代	大阪市	会社員
とてもよくがんばっているとは思いますが、なにより問題は大きいと思いますが、「鳴らすとわかる」とはとってもそれらの点数がとても少ないのが残念でした。七彩のみなさまご苦労様です。コンサートは外で演ると楽しいと思います。	男性	20代	東京都	無職
楽器を陶器で作ろうとしているので来て良かったと思います。弦楽器の弦はどのような物でもいいかとちょっとこまっています。	男性	20代	滋賀県	会社員
パネルの説明がかんたんすぎ。	女性	20代	滋賀県	無職
「鳴らすとわかる」のコーナーがもう少し多いとよかったと思う。階段正面の絵や、人形の顔などスタッフが楽しんで作業したとは思うのだが全然こちらに伝わってこなかった。少しこじんまりとした感じはした。	男性	20代	京都府	教員
実際に使うのは、お祭りの時だろうから、もっとワクワクするんだろうなと想像した（その場にい合わせたとしたら）。でもここは並べてある。展示会だから、静かだ。私がいたときは、たまたまコンサートをしていなかったのとくにそう思ったのかもしれませんが。別に気にならなかった。きっとわくわくするだろうなと	女性	20代	兵庫県	フリーター

	思えたので、悪くない会場でした。				
	ビデオの音量がそれぞれバラバラでした。	女性	20代	京都府	大学生
	もっとコンサートの演奏が聞きたかった。	女性	20代	京都府	大学生
	「ラテンアメリカ」と広範囲な題のわりには、出展が Folklore に寄っている感じがする。出展品についての、学術的な解説をもう少し加えて欲しかったと思う。会場内でのコンサートは、今回の雰囲気によくマッチしていて、より親しみやすさを演出していると思った。	男性	20代	長野県	大学生
	ラテンの音楽に興味を持ち始めているところ。今回展示された楽器も音楽も少しオーソドックスなのでしょうか。最近流行りだしたワールドミュージック系の人気バンドの曲など、CDを集めた聴くコーナーなどもあったら"入りやすかった"のかもしれない。ドラム缶のアートなどは、さておき、衣装や人形の展示などはわかりやすかったと思う。	女性	20代	京都府	大学生、その他／看護婦
	クリタさん、はじめましてこんにちは。人見先生のおしえごです。イマヨシといます。	女性	20代	吹田市	学生
	国も大切だが、年代順に並べるとかもう少しわしく、演奏方法なども書いておいてもらいたかった。マルチメディアコーナーでは、一部の楽器だったが、聴き、くわしく知ることができ、良かったと思う。	女性	20代	吹田市	その他
	ビデオや演奏、また、鳴らすことの出来るコーナーは、わかりやすく、とても良かった。楽器の展示は、年代や、演奏の様子をまねたマネキンと共に展示してあれば、もっと見易くわかりやすかったのではないかなと思う。	女性	20代	大阪市	その他
	数、種類ともに豊富でよかった。特に試奏コーナーがよい。	女性	20代	東京都	会社員
	ミュージアム SHOP に、もっと今回の企画の商品をならべて欲しかった。展示のドラムカンからはラテンアメリカは表現出来きてないと思う。ストレートな表現でラテンアメリカを表現して欲しい。ex. 明るい、熱帯などの表現。	女性	20代	箕面市	会社員
	マルチメディア対応のパソコンの数がもう少し、多くても良いような気がします。	男性	20代	埼玉県	会社員
	コントラバスを少し前まで弾いていたので、また弾きたくなるような音楽の楽しさのある展覧会だった。これからも展示がんばってください。		20代	東京都	会社員
	展示場の広さを考えればやむを得ないことかも知れないが、スピーカーから流れる様々な音（曲）が混ざり合って混沌としてしまい、ひとつひとつの音を味わう楽しみが殺されてしまうのは残念である。ビデオやスピーカーの配置にはもうひと工夫されたし。また、細かいことを言えば、生演奏中は場内の他のスピーカーから出る音を全て止めた方がよいでしょう。演奏は、すばらしいのですから、集中したいものです。	男性	30代	高槻市	フリーター
	[[鳴らすと、わかる] コーナーは] 良いが、演奏の方法の説明があるともっとよい。	女性	30代	大阪市	その他
	とにかくコンサートが良かった。音楽の VTR[ビデオシアター] は両端（中米・南米）のが、音が小さく、中の（カリブ）の音にけされてしまう。	男性	30代	京都府	大学生

	学校の旅行で来た中学生の団体が演奏中にうるさく困った。展示自体は楽しくよかった。	女性	40代	大阪市	主婦
	コンサート演奏中の展示案内の音がとても気になった。	男性	40代	能勢町	その他
	試奏コーナーでもっといろいろの楽器にさわりたい。少し不満。	女性	50代	大阪市	会社員
	演奏中、ビデオの音は消してほしい。	男性	50代	吹田市	会社員
	インカのイセキを見学しながら現地のラテンミュージックにふれてみたいと思った。ぜひ「現地に」行って来ます。	女性	50代	吹田市	主婦
	ケーナやサンポーニャに以前から興味があったが、吹鳴楽器の展示も多く、名称分類もよくしてあって満足しました。	男性	50代	箕面市	会社員
	手でふれる事の出来る楽器がもう少し多いと良い。	男性		茨木市	その他
5 / 3	どこにもない博物館らしい雰囲気が出ていてとても気に入っています。展示品が多いようなアナウンスがあったが、少し実際とはイメージが違った。ドラムカンの数も数えたかな。		40代	箕面市	会社員
	売店の商品が少ないし、値段は高いように感じた（最近の円高を考えると）。毎日、ライブコンサートを楽しめて、とてもよかった。		40代	豊中市	主婦
	ALEGRIA!	男性	30代	茨木市	その他
	もっと手でふれることのできる楽器が、沢山あればいいのと思います。	女性	30代	兵庫県	その他
	音楽をきいているととてもゆったりできて、ここよかったです。ぜひ行きたいと思っていたのでとてもたのしみになりました。生の演奏をもっときいてみたいので、こんな機会をふやしていただきたいです。		20代	吹田市	会社員
	ビデオシアターの場所が、わかりにくかった。(階段のうしろのところ)	女性	20代	吹田市	主婦
	サナブリア姉妹の演奏がとても良かった。できればもう少し聴きたかった。万博には、よく来るけど民族博物館があることを知らなかった。私の他にも知らない人は多いと思う。博物館といえば、"手をふれてはいけません"というイメージがあるけど、今回は直接手にふれることができたので、とても楽しかった。	女性	10代	高槻市	大学生
	場内でのサナブリア姉妹さんのコンサートがすてきでした。もっとききたいなあという気持ちになりました。	女性	10代	高槻市	大学生
	先生におもしろいときいてきたらとても良かったです。	女性	10代	摂津市	小中学生
	コンサートなど非常によいです。	女性	10代	堺市	その他
	Gorky's ZygotiC Mynci	男性	10代	吹田市	小中学生
	吹かせてほしい。あと、もうちょっとさわれる物を、作ってほしい。	女性	10代	大阪市	高校生
	サナブリア姉妹の演奏がとっても良かった！！是非CDなりが欲しい。	女性	10代	兵庫県	大学生
	コンサート用ステージが、もっと広かったら良かった。(別の場所にしても...) 展示物を触れたり鳴らしたりできるというのが、とても良かった。こういう機会がたくさんあったらと思った。	女性	10代	京都府	学生
	弦楽器も鳴らしてみたかった。館内には色々な音が入	男性	20代	兵庫県	会社員

り交じり、どくとくの雰囲気を出していて、私は居心地よかった。				
底ぬけに明るいラテンのイメージがあまり伝わってこなかったように思う。どうしてドラム缶やベニヤがラテンなんだろう？コンサートは良かったデス。音がきれい。		20代	兵庫県	会社員
ドラム缶は、沢山ありすぎて見通しが悪いし会場がせまくなっている感じがする。	女性	20代	兵庫県	その他
サナブリア姉妹のCDが欲しかったです。発売はされていないのでしょうか？	女性	20代	高槻市	会社員
実際に楽器の演奏がきけたりしてとても楽しかった。		10代	豊中市	小中学生
サナブリア姉妹の演奏がよかった。	女性	10代	堺市	高校生
たのしかった。	女性	10代	大阪市	その他
また、来たいぐらい良い。	女性	10代	大阪市	小中学生
ドラム缶がいっぱいあっておもしろい。いつもより人が多くて残念だけど常設展より明るい感じなので人がいてもいいような気もする。また来ます。	女性	10代	摂津市	大学生
もう少し展示の説明がほしい。	男性	10代	京都府	大学生
マネキンで様子を表した方法はとてもよいと思います。自分でさわるのは音楽のきょうみをより高めるので小さな子や大きい人にもいいと思います。	女性	10代	茨木市	学生
手でふれることの展示がいろいろな楽器がさわられてよかった。とてもいろいろな楽器でえんそうされるのが楽しみです。また来て聞いてみたいと思います。	女性	10代	茨木市	小中学生
ラテンアメリカのしいたげられた人々の強さみたいなものが伝わってきました。	女性	20代	吹田市	大学生
できればコンサートしたサナブリア姉妹のテープとかCDがあればよかったと思う。	女性	20代	高槻市	フリーター
ビデオシアターの音量が小さすぎる。特に二階の試奏コーナー隣ではぜんぜん聞くことが出来ず残念でなりません。	男性	20代	高槻市	大学生
もっと専門的な解説がほしい。	男性	20代	高槻市	学生, その他
物たりなさが残った。	女性	20代	京都府	会社員
二階ですりにもたれたら、とれるといわれました。そんなキケンなつくりはしないで下さい。こわ〜い。	女性	20代	茨木市	主婦
すぐこわれる手すりならつけないで欲しい。	男性	20代	茨木市	会社員
演奏者が演奏する曲目がわかるように印刷物が無理ならホワイトボードや、黒板などを使って表示して頂けたらと思います。たいへん楽しかったです。	女性	20代	兵庫県	大学生
[展示コーナーのテレビが、] 少なすぎる。[展示コーナーのスピーカーが、] 小さい。[ビデオシアターが、] 少なすぎる。	女性	20代	茨木市	フリーター
コンサートで一緒にやりたいです。	男性	20代	池田市	大学生
展示の解説の、つくりが粗雑なような気がしました。大量のドラム缶にびっくりしたのと同時にとても新鮮に写った。	女性	20代	滋賀県	大学生
ギターの量に驚きました。楽しかったです。ありがとうございます。		20代	茨木市	会社員

	たくさん楽器があるんだなあ～と思った。1 階のところの各地方のルーツをもっと詳しく知りたい。ブラジル系、キューバ系など楽器のルーツ別にみれてもよかったかなとも思う。民族楽器スキなので、また世界中のをやって下さい。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、] なぜドラム缶なのかわからない。[マネキンの] 衣装がきれい。[コンサート用ステージが] 素朴で良い。	女性	20代	兵庫県	会社員
	マネキンとドラム缶の表現とても良かったです。たのしかったです。	女性	20代	豊中市	公務員
	試奏コーナー、ビデオコーナーをかくりして欲しい。コンサートを別のところでしてほしい。楽器の伝来のみでなく、音楽的要素ともおりまざった解説がほしい。	女性	20代	兵庫県	会社員
	1 階の展示にも、地図があれば、と思った。また、テレビとスピーカーの説明も、そのコーナーに展示してある楽器の音が、これだとすぐわかる様に聴ければと思った。試奏のコーナーだけでなく、一緒にステージで！！の方がもっと良かった。	女性	20代	茨木市	会社員
	売店の品数が少ない。意味のないドラム缶が多く理解に苦しむ。	男性	20代	長崎県	教員
	[ドラム缶が、] 小さい。	女性	20代	兵庫県	会社員
	てんでこ団の方々の演奏はとてすばらしく、楽しく聴かせていただきました。	女性	20代	京都府	大学生
	展示場の入ったら臭いがキツかったです。(床の木の臭いですか?) 展示全体に"今までにない工夫"をとり入れようとしているのは判りますが、チープに見えます。コンサートは長すぎます。立ち見はしんどいし座ればお尻痛いし、子どもの知らない曲が多いせいか皆たいくつしてましたよ。コンセプトは良いです。	女性	20代	奈良県	学生
	会場がややせまくてごちゃごちゃしてるが、それがまた良い点でもあると思います。いまひとつ明るくなりきれず、やわらかくもなりきれてないようにみえますが、無理して明るくしたりやわらかくすることはないでしょう。ドラム缶が積んであるのはおもしろいです。(でもあまり展示内容にかんげいないとおもう)[ベニヤ板の床はアンケートで] 言われるまで気づかなかった。[展示コーナーのスピーカーは、] おもしろい。	男性	20代	京都府	大学生
	またやってほしい。		20代	大阪市	会社員
	[展示の解説について、] も少しくわしく。	女性	20代	吹田市	会社員
	[ベニヤ板の床について、] 一部めくれている箇所があり危険では？		20代	豊中市	会社員
	楽器にさわったりならしたりできるのでとても楽しかった。ピストルみたいなまわすやつがとくに Good。演奏もきかせてもらって良かったです。ビデオシアターはもう少し工夫がほしかったです。一人の人ばかりやってるし。まあしかたないかなあ。イスは、たくさんあって、すわりやすく良かったです。展示も見やすく、きれいでした。今から売店に行って来ます。	女性	20代	京都府	大学生
	階段が中央の 1 ケ所にしかないため 2 階の展示会場へいきたくてもコンサート中、階段を上がりづらかった。コンサート会場に独立性がほしい。	女性		兵庫県	会社員

展示品に手を触れてみることは、ある点では非常によいことだと思いますが、民博に収集されている資料には大変貴重な物もあるはず、よく理解できない人が興味本位で触っているのを見ると本当に触らせて良いのか疑問に思います。触らずとも良く観察させることを教えるのも一つの方法だと思いますが。	男性	60代	兵庫県	その他／コンサルタント
もう少し、広い場所で聞いて欲しい。(ドラム缶のせいで最後に狭く感じた)。	男性	60代	堺市	会社員
身近にある物を使つての楽器演奏、説明も良くとても楽しい演奏でした。ありがとうございました。	女性	60代	京都府	主婦
地域同士の関連が判り良い。同一地域で同様の展示があり、アマ用、プロ用、上流、下流、民衆等、使用者の比較があるのもっと良い。民衆のものか、手作りの感じのもの、身近なものの活用等、皆で音楽を楽しんでいるといった感じを受けたが、これがラテン民族の民族性にとっても良いのか、全般的な解説も欲しい。(気がつかなかったのかも知れません。)	男性	50代	大阪市	会社員
楽しい一日であった。舞もあれば良かった。	男性	50代	京都府	会社員
ラテン音楽は大好きです。	男性	50代	堺市	会社員
今迄何度も来ていますが、今回は、特に良かった。友人に教えてあげようと思った。ありがとう。	女性	50代	吹田市	主婦
[ベニヤ板の床について、] 音響のため良い。	男性	40代	吹田市	会社員
[写真のパネルを] もう少し多く。	女性	40代	豊中市	主婦
来て良かったです。	女性	30代	大阪市	公務員
[コンサート用のステージについて、] ドラム缶にすわって見ていて、首がだるくなった。もう少し離れた方がいいです。	女性	30代	京都府	教員
常設展示場だけに行きたかったのにラテンアメリカの音楽と楽器の料金も払わされてむかついた。	女性	10代	兵庫県	大学生
ラテンアメリカの音楽と云えば、テレビで見たり聴いたりぐらいであり親しみがなかったが、ミニコンサートを開かせていただき、身近な物で音を作り、わかりやすく音を楽しんで演奏しておられ、とても親しみを持って楽しく聞かせていただきました。ありがとうございました。展示の方もさわったりならしたりできて、とてもよかったです。		50代	滋賀県	主婦
20才になった子ども達がまだ幼いときにこういう催しがあったら、見せて、音楽・楽器の楽しさを味わせられたのと思いました。とても良かったです。	女性	50代	吹田市	主婦
泉大津のリソースセンターで、山本先生の講演をきかせていただいて、行ってみたいくなりました。	女性	40代	岸和田市	会社員
演奏者のCDがなかったのが残念です。	女性	40代	兵庫県	教員
珍しい楽器やコンサートがとてもよかったです。	男性	40代	豊中市	会社員
もっと多くの楽器をさわって鳴らせるとよい。ハンイが広すぎて印象が散まりました。[展示場の案内係は、] いてもいなくてもいいしよ。PR 不足。		40代	豊中市	会社員
会場が暗い。南米の感じがしない。		40代	東大阪市	自営業
ますます工夫して下さい。アフリカの仮面展以来のくふうした展示だったと思いました。	女性	30代	守口市	会社員

	ひとあじちがった、展覧会の企画はさすがです。	男性	30代	京都府	大学生
	素朴な楽器に触れたりできたので子供達は喜んでました。[マネキンは、] 顔が真っ黒だったので、子供はこわがった。展示場内のコンサートはとてすばらしい演奏でした。	女性	30代	豊中市	主婦
	ラテン音楽の世界が少しわかったような気がします。2:00のステージ、身近に思えてたいへん楽しめました。		30代	茨木市	会社員
	いろいろ触ったりできるのが、オープンな感じでとてもよかった。アルバもすばらしかった。	女性	30代	大阪市	会社員
	手でふれるコーナーと、見るだけ（ふれられない）のコーナーの表示の仕方が不十分。（はっきりと大きく表示されていない）なので、さわってはいけない物に、手をふれて演奏していた人が、かなりいて、案内係の人が、その都度声をかけていたのが印象に残った。	女性	30代	埼玉県	主婦
	コンサートの舞台がもう少し低いことを望みます。コンサートの演奏者と聞き手の距離がなくなるような努力ができるのもっとよいと思います。人形で演奏者が具体的に示されていたことと、民族衣装を含めておもしろい展示でよかったと思います。	女性	30代	東京都	会社員
	もっとたくさんの楽器をさわりたいです。	女性	30代	豊中市	主婦
	音楽の原点にふれたかんじでよかったです。	女性	30代	兵庫県	自営業
	いつもと違う、オープンな感じで新鮮だった。館内に突然現れたステージが特に印象的だったが、館内がせまくなってしまって、とくに1Fは、コンサート中は移動できなくて残念。途中から入ってきたひとには少し迷惑だったかもしれない。またこのような企画展をしてほしいです。音楽が好きなので、やっぱり音楽っていいなあって思いました。コンサートも（てんてこ）何でも楽器ができてしまうという発想が楽しかった。	女性	20代	京都府	フリーター
5/4	もっと楽器が実際どのような音がでるのか、どのように演奏するのか、音がきけたらわかりやすかった。	女性	10才未満	奈良県	小中学生
	展示の仕方を参考にさせていただきます。生演奏がすばらしい。	女性		京都府	大学生
	企画者の意欲が伝わってくる。なかなかよくできていると思います。これからも頑張ってください。	男性	40代	京都府	会社員
	一階の照明が少し暗いと思う。楽器等は面白いのがある良かった。	男性	10代	大阪市	大学生
	4月2日と今回2回目です。今回はアルバの演奏を目当てにきました。	男性	50代	京都府	教員
	ビデオで各国の音楽や、大変貴重なシャーマニズムのビデオがみれるのは素晴らしい。コンピューター・ネットに公開して、誰でもアクセスできるようにしてほしい。あれだけのものは、もったいないから。	男性	20代	埼玉県	大学生
	楽器をもっとたくさんさわりたいかった。	女性	20代	兵庫県	フリーター
	サナブリア姉妹の演奏を聞きました。アルバは華やかないい音で、すばらしかった。2Fでアルバにさわれてとてもうれしかったです。	女性	20代	吹田市	その他
	前回の20周年記念イベント、常設展のツアー（研究者によって説明していただける）に参加しました。常設	女性	20代	吹田市	その他

展は子どもの頃から何度も見ているので、いまひとつおもしろみにかけると思っていました、一つの道具の文様にも意味がある等と、説明していただけると視点が変わり常設展もおもしろいと思えるようになりました。ぜひ定期的に案内ツアーをしていただきたく思います。いつも楽しい特別展をありがとうございます。これからも楽しみにしておりますので、がんばって下さい。				
缶が多すぎる。そこまでこだわる必要はない。こんなに缶ばかりおくのならもっと展示品を多くした方がよい。手でふれることができる展示物は一カ所に集めた方がよいのでは？「手をふれないで下さい」のプレートのある展示物も手でさわっている人が多いですよ。展示物よりも色とりどりの缶の方が目につく。そういう方にばかりお金がかかってい	女性	30代	豊中市	主婦
演奏中、階段がふさがっていて出られない。		10代	島本町	高校生
楽器の並べ方は良かった。2Fは特に、楽器屋さんみたいで楽しかった。1Fはもっともっと暗い感じでもいい。ライブ感覚をもっとイメージしてほしい。いろんな楽器があると思っていたけれど、よく置いてあるものがっかり。アフリカのものとかがあって欲しかった。たたくもの、響くもの。[ドラム缶は] イメージがちょっと。コンサートの時のイスは個人的にすき。[展示コーナーのスピーカーは] 悪いというか、へんな感じ。[展示の解説について] 物足りない。[楽器の] 素材、材質をもっと知りたい。		20代	京都府	会社員
レポートにまとめにくい。	女性	10代	高槻市	高校生
とても今回の展示に興味があるので、又、次回も楽しみにしています。	女性	20代	兵庫県	主婦
質素で野性的な展示は好感のもてるものですが、とり方によっては貧相で洗練されない未開のイメージにつながりかねない面があります。意図の解説をわかりやすいところに示してほしい感じがします。	男性	40代	吹田市	教員
又来ます（スチールドラムの演奏の日）。たのしみにしています。私は座れなかったけど、椅子が可愛くて良い。	女性	20代	兵庫県	大学生
ドラム缶の数が多すぎると思う。コンサート用のいすももっと多い方がいい。	女性	20代	兵庫県	教員
東京でもやってください。	女性	20代	千葉県	会社員
手でふれる展示の区別がつきにくかった。	女性	20代	兵庫県	学生
コンサートの時、座る所が無くてしんどかった。	女性	20代	大阪市	その他
さわってもよい楽器とさわってはいけない楽器があったが、見ている人はごちゃごちゃになりマナーの悪さが目についた。展示の工夫をすればよかったのでは？		40代	吹田市	その他
ベルーのファミリアロドリゲスがきてるので、ということでベルーの友人たちときました。今朝電話で「ロドリゲスさんのミニコンサートはありますか」と確認してきたのですが、実際はアルバでした。とても楽しかったけれど、[友人の] 彼らにとってはふるさとの音楽でよかったのがとてもざんねんだったようです。チラシ等がなかったのででんわがたよりでした。アルバ	女性	30代	吹田市	会社員

	とわかってきたら、もっと楽しめたと思います。〈この方、私の所へいらっしゃいまして、再度、ロドリゲスについてお聞きになりました。電話の対応が男性だったといって本当に残念がっていらっしゃいました。5/6（土）[のファミリア・ロドリゲスのコンサート]についてはご説明させていただきました。野口（案内係）〉				
	「鳴らす……」コーナーは、展示と別の区画で行ってほしかった。うるさくてとても展示を観る事ができない。	男性	20代	兵庫県	会社員
	手でふれたり鳴らせたりできたのがとても良かったです。また、このような展覧会をやって下さい。		20代	奈良県	大学生
	バイオリンやもっと多くのギターをさわらせてほしかった。	男性	20代	奈良県	大学生
	資料として大版の1800円だけでなく、もう少し簡単な楽器と説明（国、用途ぐらい）な安価な資料がほしい。ラテンアメリカの内容は充実していて、いつ来ても時間が足りない。	女性	30代	兵庫県	教員
	展示品の横に小さく「手をふれないでください」とあったが、みな、さわったり鳴らしたりしていた。ふれてほしくないのなら、もっと大きく明記すべきだし、ふれてよいのなら、何も書かなければよいと思う。	女性	20代	兵庫県	主婦
	レストランの食事をもっと安くしてくれるとうれしいです。	男性	30代	寝屋川市	教員
	音楽好きの娘を連れてくればよかったです。	女性	30代	寝屋川市	主婦
	・設問7の"ドラム缶"について ラテンアメリカの多様性について十分に表現できないのでは？（ひとつのイメージでとらえられない）・設問16"手で触れる"について 本当に触れて良いものとわるいものをもっとハッキリメッセージとして表示した方がよいのでは？（見学者にとまどいがあった）・かたいミュージアムのイメージをくずすには、よい企画だと思う。今後も同様の企画を望む。	男性	30代	東京都	会社員
	ふれていい物といけな物の区別はもっとはっきりすべき。「ふれないでください」の札は小さすぎ、目につかない。あれでは、全ての物を自由にさわってもいいと思われても仕方ないと思う。もっとビデオを活用し、マネキンだけでなく実際の演奏の様子をそれぞれのコーナーで映像で見せてほしかった。	男性	20代	京都府	フリーター
	（1）民博の企画はいつも生活感が乏しくて、インパクトが弱い。実際の音楽現場はもっと熱気があるものだ。やはり学者サンの企画だと思う。（2）「～族」という表示をいたるところで見かけたが、「～族」や「部族」が「未開人」というイメージを持たせたべつ称であることに、いいかげんに気づいて欲しい。旧ユーゴ紛争は「民族対立」であり、「ボスニア人」と呼ばれるのに、アフリカ等では「部族抗争」であり、「フツ族」などと呼ばれているのは何故だと思いませんか？ [マネキンの]デザインは良くない。[「鳴らすと、わかる」コーナーは]とても良い。ただしもっと多くの楽器があればよいし、アドバイザーもおいてほしい。[展示場内でのコンサートについて、]「研究発表」としても、「ショウ」としても中途半端で、工夫が足りない。	男性	30代	吹田市	会社員

	レクチャーコンサートをもっと増やして。	女性	20代	京都府	会社員
	リヤマの人形がすごくよかった。	女性	10才未満	大阪市	小中学生
	以前、常設展でも感じたのですが、マネキンが黒く無表情なため、独特の暗い印象をうけ、だいなし、という感じがします。手なども指がなく、とにかくマネキンが異様です。むずかしいかもしれませんが、マネキンをリアルにすれば、イメージがガラリとかわると思います。	女性	20代	堺市	大学生
	トランペットとか吹く楽器もやってみたかった。		10代	三重県	高校生
	・ドラム缶は視覚的に不安定。倒れないという安心感に欠ける。溶接してある所を見せるなど。・ベニヤの床は色がほしい。・2F手すり下の換気孔？ブタの鼻にみえてしかたがない。気になる。・演奏のない時間は、ラテンリズムのBGMを流しては？[ドラム缶について]ラテン民族の（ナチュラル）素朴ないめーじと、ドラム缶の化学物的イメージがマッチしない。	男性	50代	寝屋川	会社員
	アンデスの特色あるイメージにとほしい。現地にいる様な雰囲気してほしい。BGMなどで、ムードアップが必要。ワンフレーズぐらいみんなで参加できる企画など……。ドラム缶のかわりに石のイメージのもの、澄みとおった空気を何かで表現できれば。生活感が表現できていない。マネキンの使い方に工夫！！	女性	50代	大阪市	その他
	「鳴らすとわかる」試奏コーナーは実際自分でひくことができるのでよかった。民族服で特に女の子の衣装がかわいらしかった	女性	30代	堺市	会社員
	よくわかんない。	男性	20代	大阪市	大学生
	CD、本以外の安い土産物を！	男性	10代	堺市	小中学生
	とっても楽しかった。手でふれることができるがっきをもっとふやしてほしい。	女性	10代	兵庫県	学生
	レクチャーコンサート聞けなくて残念です。今日のアルバとギターの演奏とても美しい音色ですばらしいテクニックでたんのうしました。[アルバの演奏で] 汽車の音などが表現できるとは思ってもいなくて、とてもたのしいでした。		60代	大阪市	無職
	すばらし！	女性	20代	京都府	会社員
	OK！！	女性	20代	京都府	会社員
	二人の声が非常にきれいにハモっていて、又自然な歌い方で好感が持てた。歌の曲がもう少し多く聴きたかった。	女性	50代	泉大津市	無職
	1階のドラム缶の色が原色ほく派手と思ったが、マネキンの衣装とマッチしていて、違和感はさほどなかった。多くの楽器を手に触れることができるのは良かった。	女性	20代	岸和田市	公務員
	ラテンアメリカのイメージとして、明るくて陽気！展示場が少し暗い感じがする。	女性	40代	兵庫県	公務員
	リオのカーニバルの衣装は実物大ですか。細身なのでびっくりしました。	女性	40代	兵庫県	会社員
	来てよかったと思います。長野県からはるばる。入門編の中にも新しい発見もありました。あれだけ広く	男性	30代	長野県	その他

多様な中南米の、音楽の世界を一つの建物に閉じこめるのは無理を承知のことと思います。でも、いろいろあって、ビデオとかはもっと見たらもっといろいろ知ることができると思います。またいつか中南米旅行がしたい。伝統・ヨーロッパ・アフリカがありますが、それぞれ多様にまざっていると思います。そのへんも説明を。入ってすぐのサンボーニャ持ってる人、持ってる人から見て右が低音（長い方）が、伝統の持ち方です。あと、マリンバはグアテマラの国民的楽器というけど、いつでもどこでも聞けるわけではありません。				
各楽器のコーナーで試奏できるのはいいが、誰かモデル演奏をしてくれる人が居ればMais bien.	男性	50代	兵庫県	会社員
楽器の弾き方について説明する人がいるのもっと良いと思う。	女性	30代	吹田市	主婦
これからももっとたのしい企画をどんどんやって下さい。ここに来るのをいつも楽しみにしています。より充実した博物館になることを願っています。	男性	20代	大阪市	その他
もっとたくさんの楽器をさわられてひけるようにしてほしい。		20代	京都府	大学生
もっと期待して来た。	女性	20代	京都府	大学生
ドラムかんの展示はなかなかおもしろいと思う。ラテン楽器を試奏できるのは特によいと思う。（特に打楽器類だけでなく、アルパまで試奏できたのはよかったと思う。）	女性	20代		
「鳴らすとわかる！」コーナーは、今いちわからない。人形がよくない。とてもチャチにみえる。展示の仕方がよくない。楽器を調弦したり太鼓も皮がはれてない。楽器がかわいそう。全部客が引けるようになっていると良い。By 研究学生。〔展示コーナーのテレビについて〕数ふやして。〔「鳴らすと、わかる」コーナーについて〕たとえば、ギター類が固定されているのがよくない。弾けないではないか。		20代	京都府	大学生
触って良い所といけな所がはっきりせず触ってしまった。分かり易く明記してほしい。	女性	40代	大阪市	公務員
ベニヤ板だけでは殺風景。遠目でもわかるメイクをした方が良い。	男性	30代	愛知県	会社員
展示方法に工夫がこらされており、大変興味深かったです。	男性	20代	愛知県	会社員
展示方法がとっても印象に残った。実際に手に触れることができたこと、コンサートが良かった。また、このような企画をして下さい。	女性	20代	豊能市	会社員
サナブリア姉妹の演奏中、僕の方を見てウインクしてくれたのがうれしかった。	男性	20代	摂津市	会社員
ふんいき的によかったです。	女性	10代	兵庫県	高校生
ドラム缶からイメージがわからない。	男性	40代	兵庫県	会社員
ラテンアメリカの人達をもっとよんできて、直接話したい。その方がよく分かる、と思う。他にもサンバやボサノヴァなどの音楽もやってほしい。	女性	10代	大阪市	高校生
楽器の実際の音は、専門家の手で各種聴けるようにする方がよいと思います。実際に手にふれてという体験的なことも必要でしょうが、キチンとした奏法で楽器	男性	60代	京都府	その他

は鳴らさないとその楽器の生きた音を知ることができず、興味本位に終わってしまっ残念です。				
すごいキレイな音楽でした。もっと song が入ったり、踊りがあったら楽しかったと思います。		20代	茨木市	その他／宣教師
つり下げられているマネキンがきもち悪い。	女性	40代	奈良県	その他
Very cute & Very Nice.		20代	大阪市	会社員
かわいい。	男性	20代	八尾市	公務員
アンケートの項目が一寸多すぎる。	男性	70才以上	高槻市	無職
展示説明の字をもっと大きく読みやすくしてほしい。	女性	10代	吹田市	大学生
コンピューターでできるのでその音楽をもっとながくしてほしい。	女性	10代	兵庫県	小中学生
ラテンアメリカは昔から行きたかったの、ここに来て行った気分になりました。	男性	30代	兵庫県	会社員
メキシコをとりあげてみると熱い国、太陽がキラキラと輝く。そんな中ではもっと明るい展示照明がよかったのではないと思う。[ドラム缶とベニヤ板の床は]おもしろいおもむき。		50代	箕面市	公務員
ダンボールが気に入りました。ふつうの博物館のイメージと違う、というところも気に入りました。これからも、こんな風にいろいろな新しいところみをして下さったらうれしいです。	女性	20代	兵庫県	その他
ダンボールを使つての展示が気に入りました。	女性	20代	滋賀県	その他
Muchas Gracias, muito obrigado. Thank you very much. You're welcome, Laten America and instrument, musee Listen carefully, don't mention it, not at all, stamp word World War 2!	男性	20代		無職
ドラム缶の色彩をその国にあわせたカラーにした方がいいのでは？	女性	10代	豊中市	大学生
現在の中南米の音楽も聴かせて欲しい。例えばメキシコの流行歌とか……。日本ではNHKの世界の音楽にみられるように伝統音楽や数十年前の音楽が多く、現在の若い人々と音楽の話は出来ず、むしろ老いた人とのみ音楽の話しか出来るのがある意味では残念です。日本の若い人も今では誰も"君の名"は聴かないように、現地でもNHKでとり上げている音楽は聴いていないのが、中南米のみならずイタリアでも同じ状況です。フォルクローレの時代ではない。	男性	40代	箕面市	会社員
ラテンアメリカの自然さを出そうとしてパネルや案内を再生紙のようなザラ紙にしたのか、それとも資源節約のためかどちらかは知りませんが、おりからのエコブームにちゃんと対応した感じがして、好ましく思いました。		30代	箕面市	大学生
コンサートは非常に良かったです。	男性	40代	大阪市	会社員
手でふれる展示物、鳴らす展示物、増やせないでしょうか。楽器は、音を出す物です。どうしても触って、手触りを確かめてみたくなります。	女性	30代	兵庫県	教員
folk music と popular music をあまり区別していないところは好感を持ちました。親しまれている音楽を聞きたい、と思いますから。	男性	30代	高槻市	会社員

	"サナブリア姉妹によるライブ・コンサート"素晴らしい音楽を聴く事が出来、ありがとうございました。ドラム缶の展示は会場の雰囲気にとけ込んでいて大変ユニークでグッドアイデアだと感じました。	女性	60代	広島県	その他
	せっかくのライブなのにPAを使うとよさが半減してしまう。大音量である必要は少ないのだからPA無しでしてほしかった。あと床がベニアのベコベコは大変マズイと思う。広葉樹単板かサンステージ又はレンガ、石材などもっと考えてほしかった。ベニア・コンクリートは安価だが音質的には最悪!!【展示コーナーのスピーカーについて】工夫は良いが、ひずみが多い。	男性	20代	吹田市	会社員
	民博資料の情報等のケンサク・エツランなどパソコンネットを通じて出来ればいいと思います。	男性	30代	奈良県	会社員
	サナブリア姉妹の演奏とっても良かった！夫は眠っていましたが……今日は楽しかったです。[手でふれることのできる展示について] very goodです!!【展示場内でのコンサートについて】とても良い。だってこれ聞きに来たんだよ。	女性	40代	茨木市	会社員
	気軽に来れて演奏が聴けてとても良かった。		40代	茨木市	無職
5/6	場所がもうちょっと広ければ、きっと演奏もしやすかったのでは。	男性	30代	大阪市	公務員
	楽器の名称等の表示は西語、ポ語も併記した方がよいと思う。		20代	東京都	会社員
	もっと楽器個々の名前を書いてほしい。	男性	20代	大阪市	公務員
	ロドリゲスまたうち寄ってや。	男性	20代	北海道	大学生
	音楽テープの販売があっても良いのではないか。ドラム缶による演出が非常に良い。館外へ音楽を流す効果が良かった。	男性	30代	東京都	会社員
	ロドリゲスのアンコールが特に良かった。ランバダがかっこよかった。「乾杯」は日本語が上手でびっくりしました！	女性	20代	吹田市	教員
	ファミリア・ロドリゲスのコンサートすごよかったです。皆がファミリーってところもあったかいし、娘さんたちがキラキラしてたし、お父さんがしぶいし、文句なしでした。ずっとファミリーで続けていってほしいです。ありがとうございました。今日来てよかったぞお！	女性	10代	京都府	大学生
	【とても満足、】でももっと楽器にさわりたあい！	女性	20代	吹田市	公務員
	又、ゆっくりと、勉強してからもういちど来たいと思う。		20代	門真市	会社員
	楽器は鳴らすものであるから、ただ展示して、見るだけではつまらないと思う。今回少しだけ「鳴らすとわかる」コーナーを設けてあったのはとてもよかったと思います。今後もこういう配慮をお願いします。	女性	50代	豊中市	主婦
	開館時間がもう少し長いと社会人としては来やすいのですが。駐車場は大変混雑するので満車の表示をもっとはやく（遠い地点）から出してほしい。		20代	滋賀県	会社員
	駐車場が大変（5/6）ゆっくり見られなかったけれど、コンサートは素敵。もう一度ゆっくり展示を見るために来たい。	女性	50代	滋賀県	主婦

	もっと掘り下げた内容にしてほしかった。	男性	20代	茨木市	会社員
	今回のプログラムをぜんぶこなすには10じ—5じはあまりにみじかすぎます。展示を見るひまがない。とくにめったに來れない遠方の私としては6じくらいまで開館してほしいとも思う。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示は、] おもしろい。[「鳴らすと、わかる」コーナーは、] もっとあったらなあ。[展示場内でのコンサートは、] とても良い。	女性	20代	長崎県	フリーター
	[ドラム缶は] イメージがブラジルにかたよらないでしょうか。	女性	40代	大阪市	会社員
	[ドラム缶のイメージは、] メキシコだけって感じ。[コンサート用ステージは良いが] 観客はきつい。	男性	20代	茨城県	会社員
	ロドリゲスのコンサートがとてもよかった。	男性	20代	大阪市	公務員
	去年から、ブラジル音楽（ラテン音楽）に興味を持ち、CDを時々集めては何時間も聞いています。今回、民族学博物館へひさしぶりに来て、生のラテンコンサートを聞くことができて、とても満足です。	女性	20代	吹田市	フリーター
	[展示コーナーのスピーカーは、] 音の質が悪い。		20代	吹田市	無職
	季刊民族学で予告記事を読んで首を長くしてどんなに楽しい楽器展なるかと、待っておりました。音楽で最も大切なことの一つ、演奏される場所、空間に居ることでの安らぎ、心の休憩所が得られること。ラテンアメリカ音楽のアウトラインが今迄よりもはっきりと見えてきたように思います。例えばアルバの演奏法や調弦のこと、千葉先生のレクチャーによるチリーの音楽などの楽しさ、多様な楽器その歴史、といったようなこと。今後の民博への希望。今回の楽器展で親近感を確かなものにすることが出来たように思います。定期的に解説を伴う民族音楽レコード・コンサートのような企画をお考え頂ければありがたいと思います。山本先生の御健康を祈って。	男性	50代	吹田市	自営業
	ラテンの巾広い楽器の展示がされてよかった。特に、手でふれ音がきけるというのがよい。竹の楽器などは、作れそうな感じを与え身近なものに感じた。素朴な音楽が好きで今回来てよかったと思います。練習風景も良かったです。	女性	40代	高槻市	公務員
	室内だとしかたがないが、空気中のほこりをなるべくなくしてほしい。スチールパンの試奏は個人的に良かった。演奏者がステージ後場内にいて入場者と同じ場所にいるのは良かった。	男性	20代	大阪市	会社員
	コンサートがあったり、実際に触れることのできる展示は画期的で良かった。	男性	20代	埼玉県	会社員
	楽器の演奏レクチャーのようなものが、もう少し何回かあるとよいと思った。今回初めてきて、私はケーナを練習しているのですがケーナのレクチャーコンサートがないので、残念です。他は、なかなか触れる機会のない楽器ばかりでよかったと思っています。	女性	20代	茨木市	会社員
	国別でアルゼンチン北部（フワイ州・サルタ州）の展示がない！「花祭り」の原地ウエウエカの人の演奏を収録したビデオが見たかった。ビデオコーナーでタンゴだけでなく…。	男性	30代	京都府	フリーター

	演奏がすごく良かった。パンフレットの中に地図ものせてくれたら、もっと分かりやすかったと思います。	女性	20代	吹田市	会社員
	コンサートの音楽がとてもリズムカルでよい。聞いているだけでもよい。前回 [レクチャー・コンサート] メキシコの音楽を聞いたが、現地の人たちではなかったの、どこか違う感じがするので、現地の方にやっていただきたい。	女性	10代	大阪市	大学生
	万博公園入口でコンサートの時間案内があればよかったのに。11:00からのが聞けなかったのが残念です。	女性	50代	吹田市	主婦
	もっとコンサートを短時間間隔でやってほしい。キューバ、ブラジル等の音もきかせてほしい。	男性	30代	神奈川県	会社員
	ドラム缶はアフロのイメージを感じる。	男性	40代	高槻市	公務員
	もう少し何かの方法で、他にアピールしてみては？！		20代	大東市	会社員
	中国古代（秦・漢代）の遺跡についてやってほしい。	男性	20代	兵庫県	教員
	ミニ・コンサートがとても良かった。5/3に来てよかったので5/6も又でかけて来てしまった。手でさわって、楽器を鳴らすことやミニコンサートでラテンアメリカがもっと身近に感じるようになった。同じような催しを又やってほしい。	女性		豊中市	主婦
	演奏を多くしてほしいです。	男性	60代	吹田市	会社員
	もっととされる楽器をふやしてほしい。音程などのくわしい説明がなく、どう鳴らしていいのかわからなかった（マリimbaは特に）。でも素人にもわかりやすい説明で、おもしろい企画と思った。コンサートがチラシでは14:00〜と書いてあったのに、14:30〜というのは、どういうことか？！案内不足である！！[ベニヤ板の床について、] 素材である。[マネキンが、] 西洋っぽすぎた（特に顔）。[手でふれることのできる展示について、] どれがいいのかわからなかった。	女性	20代	京都府	会社員
	図録→カラー写真が少ない。コンサートやイベントの案内などは外にも目立つよう貼出して置いて欲しい。時間を調整して入館できたのに…。コンサートのために館内で1時間も2時間もつぶせない。常設とレストランともっと自由に行き来できるようにして欲しい。友の会の年会費等、高すぎる。興味があっても入れない。売店等で店員さんたちとチャットになっているオヤジなどを見ていると、暇なお金持ちしか入れない会かと思ってしまう。設立した時から民博のファンだが、その辺は残念です。	女性	30代	茨木市	会社員、主婦
	試奏コーナーの設置は良いが、種類と、数が少なすぎる。楽器が、高価な物と云うのは分かるが、全種1点ずつでも、試してみたい。	男性	30代	茨木市	会社員
	楽しむことができた。	男性	60代	豊中市	会社員
	ミニ・コンサートにひかれて2回来ました。駐車場から入口までくたびれる。雨降りなら来たくない。元気な人しか来れない。	女性	50代	茨木市	主婦
	ドラム缶のイメージよりは、もう少し粗野な感じ（自然をイメージさせるもの）の方がラテンぽい感じがすると思う。ただ色的にはとてもカラフルなので、ラテンの感じがする。場内が、少しひんやりするので、ラテンののりといった具合でないのがちょっと残念。	女性	30代	河内長野	その他

	鳴らすとわかるが、全く不足で、宣伝コピーと違う。		40代	茨木市	会社員
	音的にはとても明るいはずなのに淋しい感じがした。理由は分からない。	女性	50代	大阪市	主婦
	「鳴らすと、わかる」コーナーのまわりに「さわらないで」と書かれた楽器も並んでいるのですが、ついつられてさわってしまいます。あっ、こんなところと思うところにまでオモチャという人形がおいであって(いくつも重ねたドラム缶の上とか) 楽しめました。	女性	30代	兵庫県	会社員
	もっと楽器にふれたかった。もっとマンドリンの展示、説明を。(某マンドリンクラブ所属)		20代	池田市	大学生
	ファミリア・ロドリゲスの皆さんの演奏が聞けて、とてもラッキーでした。又、世界各地の演奏を聞かせて下さい。	女性	40代	茨木市	公務員
	鳴らせる楽器がもう少し多い方が良いと思います。	男性	20代	石川県	公務員
	日本人とのセッションなどもできればみてみたい。(コンサートにおいて)	男性	20代	吹田市	会社員
	展示商品が多過ぎる。説明文文字小さ過ぎる。展示商品ただならべただけ。勝手に見ろという感じ。それならもっと解かりやすく解説すべき。キャプションも小さ過ぎる。生演奏以外の時はもっと雰囲気作りの為にも、リズム感のある音楽をバックに(館内)に大きな音で流すべき。以上	女性	40代	豊中市	会社員
	ドラム缶のディスプレイがとっても気に入りました。	男性	20代	池田市	大学生
	鳴らすと、わかるコーナーをもっと充実させてください。よかったです。	男性	20代	大阪市	会社員
	試奏コーナーの楽器は沢山あったらよいと思う。展示照明はあたたかい感じで、それはよいと思うが、コーナーによってもうすこし雰囲気が変わると楽しい(ビデオシアターのように)。本日(5/6)はコンサート三昧でよかった。家でも聴こう。	女性	20代	守口市	会社員
	もう少し多彩な展示があると思っていましたが、貧弱。『ラテンアメリカの音楽と楽器』を思いましたが、楽器や音楽や打器の名称に原語(スペイン語など)を入れておいて欲しかった。リストの部分では不十分。『ラテンアメリカの音楽と楽器』の本は値段の割に中が貧弱。	男性	60代	奈良県	教員
	「鳴らすとわかる」コーナーの楽器は限られていて展示されているのを見ていて鳴らしてみたくてもさわれなくて、どんな音がするのかわからなくて残念でした。サナブリア姉妹の演奏とてもすてきでした。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、] ちょっとこりすぎかも……。	女性	20代	兵庫県	大学生
	展示の関係もあるんでしょうが、もっと明るいイメージ(青空ステージとか)が似合いそうなものではないかと感じた。でも、手で触れることのできる楽器等は良かった。	女性	20代	堺市	会社員
	私は大阪外大でスペイン語を学んでいます。ラテンアメリカの文化や歴史に興味があったからなんですが、近くにこのような立派な博物館があり、特にラテンアメリカに関する資料が豊富にあり、大変うれしく思います。これからも、いろいろ企画して下さることを期待しています！頑張ってください！	女性	20代	豊中市	大学生

	コンサートなど会場に来てから知りました。もう少しPRしたら良い。	男性	50代	兵庫県	会社員
	笛も吹ければ良かったのに。	男性	20代	兵庫県	会社員
	民博は生きている。他の施設（日本庭園、国際美術館、民芸館）は死んでいる。せっかく万博公園だからぜひがんばって下さい。	男性	50代	箕面市	会社員
	楽器の音が、もっと聴ければよい。音楽と社会の関係について、わかるような展示ならなおよい。		30代	兵庫県	大学生
	ただ「観るだけ」じゃない展示の工夫がされていて、とても楽しかったです。	女性	20代	兵庫県	会社員
	展示場、演奏共にとても良かった。ラストの「コンドルは飛んでゆく〜よ」を聞いていると本当に自分がペルーの上空をゆうゆうと飛ぶコンドルになった気がした。涙が出そうになるくらい素敵な音ですね。機会があればもう一度来たいと思う。とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございます。	女性	20代	高槻市	会社員
	空気が悪い。		20代	吹田市	大学生
	もっとさわれるものを、ふやして下さい。	女性	20代	摂津市	その他
	毎回いろいろな工夫がされ、面白い内容となっています。もっと世界中のことを、それも生活に関わる身近なものを取り上げて（世界のトイレ事情や歴史など）欲しいです。	女性	20代	大阪市	公務員
	1Fのトイレの表示をわかりやすく。まごつく。		60代	摂津市	無職
	フォルクローレのライブに感激しました。素晴らしい生の音とダンス、リズムを聞かせて見せて頂きありがとうございました。又、期待しております。		20代	箕面市	自営業
	コンサートすばらしかったです。ありがとうございました。アルバをさわってみたかったのうれしかったです。	女性	30代	豊中市	その他
	野外コーナーなどあれば天気の良い日などよいのでは。	女性	30代	京都府	フリーター
	ラテンの雰囲気味が味わえてよかった。今までの展示とちがいの展示のテーマにあった展示方法だと思った。	男性	30代	広島県	会社員
	サナブリア姉妹、ファミリア・ロドリゲスのコンサートが気に入りました。こんなのをいつもやっているのだったら、もっとしょっちゅう民博に来るのに。と思っている。歩く距離が長い、冬の夜は暗い。これをなんとかしてほしい。	男性	50代	茨木市	会社員
	すごく面白かったです。東京でもこんなに楽しい展覧会があつてほしいなと思いました。私が大阪人ならコンサートが変わる度に通いたいです。衣装と楽器を合わせたところがすごく良かったです。そして、写真もスケッチもOKというところに、ここの館のあたたかさを感じました。	女性	20代	東京都	その他／イラストレーター
	ファミリアロドリゲスのコンサート感動しました。会場全体楽しい雰囲気で今までの民族博物館と違うイメージが親しみやすくとても良かった。イラストわかりやすくとても良いアイデア。意欲的取り組みに感動しました。	女性	50代	高槻市	主婦
	民族学博物館というとかたくなしくて古いものばかり展示してあるというイメージがありますが、ライブコ	女性	30代	高槻市	会社員

	ンサートをとり入れることで民族学を音楽を通して身近に感じることができたように思います。ドラム缶やドラム缶型のいすなど演出もなされていてよいと思います。いすがドラム缶なのでびっくりしました。				
5/7	もっと説明してほしい。	女性	50代	豊中市	主婦
	鳴らすとわかるコーナーは楽しいけれど、もう少し楽器の量を増やして欲しい。	女性	20代	大阪市	会社員
	もう一回きたいと思う。	男性	10代	三重県	高校生
	わかりやすい、親しみやすいという点ではとてもうまくいっていると思います。足元のベニヤはすこしふわふわしていて安定がよくなさそうに見えました。触れるというのはよいと思います。とくに、演奏を聞いたあとでアルバにさわれたのはうれしかったです。演奏はとてもすごく良かったです。時間があれば何回でも聞きたかったです。	女性	20代	枚方市	大学生
	音楽がすごく気持ち良かった。お姉さんの歌がすごく上手だった。きれいな人だなあ... と家族で話した。演奏していた楽器にさわってみたかった。PAさん（S、Rさん）とっても上手だったと思う。勉強になった。学校で（音楽史の授業で）ラテンをやっているのも勉強になってよかった。音楽の展覧会には大賛成なので、またやってほしい。ロドリゲス一家に会いたかった。残念。Thanx。	女性	20代	豊中市	学生、その他／専門学校（音響）
	ブラボー	女性	10代	豊中市	会社員
	何も知らず日本庭園 etc に来た人もいるはず。彼らの目に付く様案内があればと思う。	男性	40代	池田市	会社員
	売店でもっといろんな楽器を置いてほしかった。	女性	10代	和歌山県	高校生
	ビデオシアターがとても面白かった。	女性	20代	京都府	大学生
	コンサートがとても良かった。[ベニヤ板の床は、] 歩きやすい。[展示コーナーのテレビは、] リアルで良い。	男性	50代	高槻市	会社員
	ラテンアメリカの地図をパンフレットに入れてくださると、国や地域をより具体的にイメージできたと思います。ラテンアメリカにうとい者にとってはどこに位置するのかわかりにくかったので。コンサート、すばらしかったので、アンコール演奏をぜひ、お願いしたかったです。[展示場内のコンサートは、] とてもとても良かったです。	女性	30代	吹田市	その他／団体職員
	Latain America の地図を入れてほしい（会場に）。解説には、さらに小さい字でもよいのでこまかいせつめいをつけくわえておいて頂ければと思います。各セッション毎にその音楽をながしておいて頂きたかった。コンサートすばらしかったのですが、アンコールができるふんいきでなかったのが残念。	男性	20代	神奈川県	その他／医師
	ラテンアメリカの料理をもっといろいろ試食したい。[展示コーナーのテレビが] 小さい。		30代	京都府	会社員
	人形が動くとおもしろい。	女性	30代	京都府	公務員
	人形の3次元的配置をもっと多くしても良かったのでは？ パソコンをつかった映像選択は大変良かった。	男性	20代	茨木市	大学生
	いろんな楽器がとてもよくわかってよかった。	女性	10代	兵庫県	小中学生

	ファミリアロドリゲス、サナブリア姉妹ともに素晴らしい演奏で何度も来てしまいました。こういう展示だけでない観たり、聴いたり、触れたりできる企画をまたおねがいします。アンケート大嫌いな私が思わず答えたくなるくらいすばらしい企画でよこんでいます。				
	これからも今回の様なミニコンサートを企画して下さい。		20代	池田市	会社員
	よかったと思う。(おもしろかった。)	女性	10代	茨木市	小中学生
	となりのレストランの食事を特展に合わせているのがとてもよい。値段をもう少し安くしてほしい。	男性	20代	豊中市	大学生
	コンサートはとてもすばらしかった。展示品について、もっと詳しく解説してもらいたい。	女性	10代	池田市	大学生
	鳴らすとわかるコーナーをもっと大きくすると思います。簡単な楽譜のようなものやお手本デビオや演奏法の貼り紙などがあると指導者がいなくてもミュージシャン気分で楽しめておもしろいのでは？それにしてもコンサートがすごく良かったです。展らん会自体もすごく良かったです。		20代	大阪市	その他
	楽器たのしくておもしろい。[展示の解説について、]みにくい。	女性	20代	堺市	大学生
	いろんな楽器を鳴らしたかった。	男性	20代	堺市	大学生
	Quero parabenizar pelo evento! Gostaria de dar uma sugestão colocando pessoas latinas vestidos a caráter no alendinentos aos visitantes.	男性	20代	兵庫県	大学生
	楽器に直接触れることができたので良かったです。楽器の使い方を書いてあればもっとよかったと思います。	女性	10代	大阪市	大学生
	もう少し各楽器についての成立背景などの"文字情報"が多くてよかったのではないのでしょうか。	女性	20代	兵庫県	会社員
	展示のデザインが素晴らしい。楽器と思われるものをそれぞれでも展示している姿勢に感動した。実際に手でふれて音を出せるコーナーもとても楽しめた。さすが民博！と思いました。あとレストランのメニューもこっていてすばらしいアイデアだと思います。	女性	20代	兵庫県	会社員
	図録は少し一般の人にとっては硬い感じがするのではないのでしょうか。(世界)各地域の音楽(楽器)の展示をシリーズ化されてはどうでしょうか。	男性	50代	八尾市	教員
	試奏コーナーの楽器を増やして欲しい。	男性	20代	京都府	会社員
	演奏会がよかった。ドラムかんのいすもよい。	女性	40代	吹田市	公務員
	[手でふれることのできる展示について、]「さわるな」が多いのでわからない。[[鳴らすと、わかる]コーナーは、] チューニングがあっている？弾き方の解説が欲しい。皆めっちゃめっちゃ弾いていて雑音！！	男性	30代	吹田市	会社員
	展示ややたら長い自己満足(学者の)解説ばかりが目につく展覧会場が多いこのごろの中、今回のものはとても自分も参加しているという気持ちになれて大変楽しく理解しやすかった。音楽という利点をうまく利用したところもあると思う。が…。人本来の触れてみて、情報を得るといふ学習に近く概念で理解するのではなく身近に理解することができ本来により20周年展示だと思う。[ベニヤ板の床は、]Pタイルより足がつかれな	女性	20代	京都府	会社員, 主婦

	い。[展示コーナーのスピーカーは、] 音もれがしている気がする。				
	試奏コーナーの楽器が少ない。"鳴らすとわかる"と銘うってあるからにはもっと多くの楽器を陳列すべき。あんなに少ないのなら"鳴らすとわかる"などと書かないでほしい。オマケ程度の試奏コーナーにはがっかり。それから演奏法や音階などもかんじんの試奏コーナーには殆どなく、本当にただ"鳴らす"だけ。楽器として鳴らせる様な工夫をもっとしてほしい。ただ並べるだけで音楽好きの人が作った展示場という感じがしない。それにあの内容に一人750円は高い。国立なのだからもっと料金をおさえるべき。これでは地元の友人に「良かったから行ってみて」とはとても言えない。むしろ「高くておそまつなので行かん方がええ」と言いそうである。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示]は良いが、ドラム缶が目立ちすぎ。	女性	20代	吹田市	主婦
	音楽を展示で見せるのは難しいと思いました。バンドネオンの実物が見れたのはよかった。ただ、音の出ない楽器はあまり面白くない。ポスターを見て、行ってみたいと思いましたが、どれだけ紹介できているかと考えると少し誇大広告のような…。もっと現代の南米音楽にスポットをあてて、CDコーナーなど置いたらもっと良かったのでは。婦りの足でレコード屋へ行きたくなるような展示。例えば、バンドネオンの紹介にA. ピアソラのCDをおくといった方法はどうでしょう？	男性	20代	兵庫県	公務員
	明るく楽しい展示になっていると思います。コンサートは楽しく、心洗われる様な音楽でした。希望としては短くても一曲日本の曲を演奏して欲しい。	女性	40代	吹田市	会社員、主婦
	サナブリア姉妹のコンサートがとてもよかった。	女性	10代	堺市	大学生
	もっと売り物を増やしてほしいかった。(ブルーのセーターとか)	女性	30代	池田市	主婦
	来月ジャマイカに行く機会があるのでいい勉強になりました。	女性	20代	兵庫県	会社員
	一度にこんなたくさんの楽器などに出会えてすごいよかった。解説も短くシンプルでわかりやすい。自分で触って音がわかるのもいい。一番満足したのはアルパとギターのサナブリア姉妹の演奏会。ステージから何から開放的で、音楽を聴いていると極楽気分になった。毎日でも聴きたいと思った。彼女たちには日本全国で演奏して頂きたい。鳥取の田舎にも来て下さい。	女性	20代	鳥取県	フリーター
	展示案内のお姉さんが親切に使い方を教えてくれたりして、わかりやすかった。「鳴らすと、わかる」試奏コーナーの太鼓の使い方がわからなくて（どこをたたくのか）説明が欲しかった。ビデオの画面がもう少し大きい方が見やすいと思いました。コンサートはとってもGOODで楽しかったです。私はチラシをブラジル料理のお店で頂きましたが、もっとあちこちで宣伝があると、行きやすいと思いました。今まで知らなくて残念だったと思いました。ずい分、以前からこういうイベントを開催しているんですね。また、遊びに、心のリフレッシュに来たいと思います。	女性	20代	大阪市	フリーター

	もう少し鳴らせる楽器がたくさんあるとおもしろいと思う。	女性	10代	豊能町	高校生
	ドラム缶がきれいすぎる。[コンサート用ステージについて、客座が] せまい。座れない。[「鳴らすと、わかる」コーナーは、] 少し照れる。	女性	20代	兵庫県	会社員
	狭いことが残念。	女性	40代	兵庫県	主婦
	「鳴らす、わかる」のコーナーが、自分で実際に試せたので、弾き方を（演奏方法）考えながら音を出して楽しかった。	女性	20代	豊中市	大学生
	もっと明るいサンパなイメージを求めています。	女性	20代	吹田市	会社員
	サナブリア姉妹が演奏してる時の笑顔がすばらしかった。	女性	10代	川西市	小中学生
	売店のものが高い。サナブリア姉妹のえんそうのときのひょうじょうが、とてもよかった。（こっちまでうれしくなる）	女性	10代	川西市	小中学生
	楽器は鳴らせないと。見てもおもしろくないと思います。	男性	20代	吹田市	会社員
	サナブリア姉妹のコンサートが良かったです。アルバの音がとてもきれい。	女性	20代	茨木市	会社員
	吹奏楽器の試奏がほしかった。会場の感じがとてもいい！次も期待してます。	女性	10代	奈良県	高校生
	アフリカの世界的カラフルなドラムかんの色や配置がわるい。	女性	10代	茨木市	小中学生
	テランアメリカをドラムカンでイメージしたのが面白いけれど意味がありますか。	女性	50代	愛媛県	自営業
	もう少し試奏できる楽器を増やしてほしい。（特にケーナ、サンボーニャ）	男性	20代	大阪市	その他／専門学校生
	コンサートにすごく聞きいってしまった。よかった。	女性	10代	大阪府	大学生
	multimedia corner, video 等分かり易く、data base に access できた。	男性	20代	愛知県	会社員
	総じて工夫が行き届いている。コンサートも大変結構。もっと世界的にポピュラーなスタンダードナンバーもやってくれ。小生自身の好みからいえば、音楽を通じて、ラテン系、南米系、エスニック系、原住インカ系、etc の民族的、歴史的起源を系統的に分かり易く解説するコーナーを設けてほしかった。彼らが非征服民族、少数派、常に開発途上でありながら底抜けの明るさを失わない人たちのエネルギーと明るさを社会的、歴史的、民俗的に音楽をフィーチャーしつつ展示、解説してほしかった。右の条に、単なる理屈に候的御聞流し被下度願上候。		60代	吹田市	公務員
	マネキンのもっている楽器に説明があればよかった。廃材の行方が気にかかります。	女性	20代	茨木市	主婦
	ラテンアメリカの音楽を国別等にわけて、聞いたり、検索し、楽器の楽しさを知ることができました。特にライブでパラグアイのアルバムが聞け、楽しかったです。[ビデオシアターについて、] 古いビデオも多かった。	女性	30代	東京都	会社員
5/25	初めて来て、感動しました。とてもこれほどおもしろい展示なのに東京方面では知られていないのが残念です。民博はリアルでわかりやすく、しかも見物人も参	女性	30代	神奈川県	教員

加ときいてはいましたが、これまでの博物館の常識をはるかに超えて、東京でこういう所がないのがうれしい。私は一応教職者なので、生徒あつめてきたいと思います。展示も体系的なのにわかりやすく、楽しくて、食堂のメニューまで協力して感動しました。コンサートもよかったし、コンピュータの展示もよく、あれでCD-ROMがでたら、うちの VISION 用にも購入したいです。ありがとう！				
もう少しいろんな楽器をならせたらよかった。		10代	京都府	大学生
楽しく過ごせました。	女性	50代	京都府	主婦
とても良かった。	女性	50代	兵庫県	自営業
遠い国からの歌手さんががんばって下さい。ドラムかんの設置は大成功でした。		50代	京都府	主婦
ラテンアメリカのイメージがよく出て、この設備はとても良かったです。		50代	京都府	主婦
サナブリア姉妹の演奏は、とても親しみがもててよかった。みんな、手拍子すればもっともりがあがるのにナ～。		50代	吹田市	主婦
小長谷有紀先生によろしく伝えておいて下さい。こうした催しは一応楽しみなのでこれからも様々な催しを企画して下さい。	男性	20代	吹田市	大学生
演奏曲目を1～2曲スタンダードナンバー（ラテン）入れると良いと思う。	女性	50代	兵庫県	主婦
MUY BIEN.	男性	40代	京都府	公務員
ラテン音楽を久し振りに生で聞きました。時間帯が良かったので、感激しています。	女性	50代	吹田市	主婦
地域ごとの生活の違いを展示に出してほしい。	男性	20代	神奈川県	大学生
二階展示に於ける実物の陳列と演奏可能な展示の存在には感心した。笛の裏面まで見たいと思ったり、隅をまで見渡したいと思ったので、もう少しそのような配慮が欲しかった。	男性	20代	吹田市	大学生
平日でも1日4回の生演奏はご苦労様です。「鳴らすとわかる」コーナーでは実際演奏の方法をもう少し説明していただく工夫が欲しいと思います。パラグアイの姉妹のコンサートはたいへん素晴らしく、ハーブの美しい音に魅せられました。	男性	20代	東京都	大学生
楽しかった。	女性	20代	東大阪市	会社員
Que bien!	男性	10代	豊中市	大学生
親しみやすく、楽しかったです。コンサートも感動しました。他のコンサートもきいてみたかったな～。広々として見易かったです。こんなにもいろんな楽器があるなんてびっくり。たくさん資料を見せて頂きありがとうございました。[売店に] ポストカードとかあればよかったのですが。	女性	20代	箕面市	無職
とても見やすい展示でした。見るだけでなく実際に鳴らすことができ楽しかったです。コンサートもとても良かったです。	女性	20代	奈良県	会社員
有難う！	男性	60代	箕面市	フリーター
コンサート&展示についてとても良かったです。いろんな国の特長をいかして展示されているのが印象深か	女性	20代	茨木市	主婦

	ったです。ステージもどこからでも見えるように工夫されていて見やすくて Good でした！！750円のかちはかなりありました！！				
	試奏の楽器がもっとたくさんあるとよかった。また、代表的フォルクローレの採譜などという企画はむずかしいでしょうか。	男性	30代	東京都	無職
	ライブコンサートの開始時間がチケット等でもわからなく、公演が終わったときに入館してしまった。時間がわかっていれば。また、公演間の休み時間が長く感じられた。	男性	30代	滋賀県	公務員
	ラテンアメリカの楽器があると知ってケーナや他の楽器が手に入るのではと思って来た。中の展示の様子、ダンボールやドラム缶、ペニヤなどの展示が効果的だったと思う。なんかおもしろいなあ、と思った。また他の国々の音楽・楽器についてもこういったしみのある展示のやり方でぜひやってほしい。	女性	20代	京都府	その他／和太鼓奏者
	展示室はそれほど広くないのに大変見ごたえがありました。2Fのカatalog的な展示が1Fでの実際の演奏風景に進み、ビデオで音楽そのものが聞けるという構成がすばらしい。博物館で音楽展を開催することのむずかしさをすべてクリアしておられるように見受けました。コンサートで聞いたアルバに触れて自分で音が出せるというのはすてきな試みですね。(民族音楽を聴きに行ったりした時にいつもさわってみたいと思っていたのです)。楽器が好きなので是非東南アジアやアフリカや中東の音楽と楽器展も開催してほしいと思います。	女性	30代	高槻市	会社員
	[ドラム缶とラテンアメリカが] 関係あり？	男性	20代	福岡県	会社員
	歴史的・経済的社会環境と音楽文化とのかかわりがもうすこしはっきりとわかるような展示であればなお良かった。	男性	20代	豊中市	大学生
5/26	今日の一日をお与え下さって感謝しています。私共夫婦は神戸の長田で被災。大阪へ避難してまいりました。どんなにか、パラグアイの御姉妹の演奏になぐさめ励まされ力付けられました。何卒神戸の罹災者が今日の日を感謝していたかお伝え下さいますように。音楽は一つ、パラグアイそしてラテンアメリカは近い国となりました。このような企画をして下さった皆様に感謝します。ガレキの街からのかれ緑一杯の万博公園で、心いやされ心労がいやされました。最後に震災に対して頂きました御援助にも厚く御礼を申し上げプレゼントして下さいました知人にも感謝を。	女性	60代	大阪市	無職
	神戸で震災にあい大阪に避難していますが知人から招待券をもらい喜んで参りましたが、震災後初めて心温まる又楽しい時が持てた事を感謝しています。今日の事は何時までも思い出として心に残ると思います。有難うございました。	男性	70才以上	大阪市	無職
	姉妹の演奏がとても良かった。手でふれることのできる楽器の数がもっと多い方がよかったです。	男性	20代	京都府	フリーター
	今まで行ったことのある展覧会の中で、展示法など最も rough な感じで疲れずによかったと思う。芸術としての音楽というより、生活の中から生まれた人々の心		20代	東大阪市	大学生

のリズムが壊されることなく会場の中にしっかり含まれていたと思う。				
とても楽しい展示でよかった。心がリラックスできて、充実した時間をすごすことができた。これからも、たくさんの特別展を行って下さい。	女性	20代	泉佐野市	会社員
アルパコンサート。その香りと素朴なパッションを満喫させていただき、楽しい思いをしました。アルパを実際にみて、素敵な音色の楽器に耳がなじんでいましたが、懐かしさに出逢った想いです。よい演奏でした。	女性	60代	奈良県	フリーター
私は券をもらえなかったのら。		10代	奈良県	大学生
手でふれることができた点もよかったし、好きな音楽を選んでビデオで鑑賞できる点もよかった。コーナーごとに音楽がきける点もよかった。楽しい展示会だったと思う。	女性	20代	兵庫県	会社員
ラテンアメリカのイメージがなぜドラム缶になるのかわからない。入ってすぐに思ったが民族衣装がカラフルなのにドラム缶まで色とりどりでドラム缶の色が邪魔しているような感じを受けた。	女性	30代	兵庫県	その他／大学院
サナブリア姉妹の演奏に感動しました。普段あまりふれることの出来ない音楽に出会えてよかったです。	女性	20代	吹田市	大学生
ハーブとギターのミニコンサートがよかった。	男性	40代	柏原市	公務員
入場料がたかい。ここに住みたい。金髪の女性に会った。	女性	10代	東大阪市	高校生
説明文の文字をもっと大きくしてほしい。ドラム缶が目立ちすぎ。		70才以上	大阪府	主婦
コンサートが開けてとても楽しかったです。壊れ易いので無理なのかもしれませんが、ギターとかも弾いてみたかったです。	女性	20代	京都府	
ドラム缶にはびっくりしました。個人的にはあまり好きではありませんが、こうした試みをいろいろしていく事は必要だと思います。黒いマネキンはスマートすぎて各民族のイメージがうかばず、不似合だったと思います。打楽器だけでなく、吹奏楽器をいろいろ試してみたかったと思います。	男性	40代	広島県	教員
ビデオを見させて戴く時立っでは少し疲れます。椅子があればよい。		60代	箕面市	無職
場内でのコンサート（サナブリア姉妹）、マイクを使わない方がアコースティックの良さが出たのでは……。	男性	60代	島本町	無職
楽器に触れることができるというのがこの展覧会の一番の魅力。とてもよかったです。後、コンサートとても感動しました。又聴きたいなー。	女性	20代	茨木市	その他
ちょっと入場料高い。[マネキンが] 可愛い。	女性	10代	大阪市	高校生
もっといろいろな楽器を売ってほしい。	男性	30代	東大阪市	
できればフォルクローレが聴きたかった。	男性	20代	茨木市	会社員
展示してある楽器が実際にたたけたり、マルチメディアのコーナーで映像で見れたりして良かった。	女性	10代	京都府	大学生
もっといろんな楽器をガンガン鳴らしたかった。チューニングについても解説がほしかった。[マネキンを使った展示の] 企画は良いが、マネキン自体が良くない。[コンサート用ステージの高さが] 高い。[ビデオシア	男性	20代	東京都	会社員

	ターの速度が] 遅い。[手で鳴れることの展示について、]、もっと鳴らしやすくしてほしい。				
	娘がUSAに住んでいます。6度ぐらい行きました。メキシコの街にも行きました。皆んなとても明るくて、歩いていても「ハイ」と言葉をかわすのが身近に感じます。	女性	60代	大阪市	主婦
	1. 展示場内でコンサートをする必要があるか？全ての人が「コンドルは飛んでゆ」く訳ではない！2. 映像資料はこれでよいのか？音が悪すぎる。「民族的」なものにこだわりすぎていてラテンアメリカの「現在」が伝わってこない。3. ドラム缶の意味は？使い方が最悪だと思う。ドラム缶とラテンアメリカ？？所詮「学者」たちの考える「軟らかさ」にすぎない。独りよがりだと思う。4. 展示物が「・・のなかま」となっており、それぞれの呼称がわからない。	男性	20代	吹田市	大学生
	入館して受付でドラムカンをみたとき、一瞬ドラム……民族音楽への誘いを……。この展示にかかわられた方々へのアイデア、努力に敬服。かの広いラテンアメリカの民族楽器をよくぞ収集、展示への工夫、解説もわかりやすく、これからの展覧会是这样あるべきと好印象でした。「親しまれる」ことが鑑賞者の心をよりひきつけると思います。「民族」のもつ独特の文化をよりありのまま伝える展覧会をを期待します。ありがとうございました。		50代	徳島県	教員
	コンサートがとてもよかった。願わくば、もう少し、実際に鳴らせる楽器が多ければ……また、このような展示（他の地域の民族楽器）をしてほしい。日本で、ラテン音楽にふれられるスペースのお知らせなどもあれば、もっとうれしい。	女性	20代	兵庫県	会社員
	演奏がとてもよかった。生の音楽がきかれることはとてもよい。	女性	50代	兵庫県	主婦
	コンサート楽しかった（アルバの音がよい）。鳴らすと、わかるコーナーが良かった。常設展が非常に楽しい。もっと早く来ればよかった。	女性	30代	羽曳野市	フリーター
	おもしろかった。ラテンアメリカはとても興味があるのにあまり展示などの機会が少ないように思えます。だから今回の展示はともいってもいろんな意味でよかったです。	女性	10代	大阪市	大学生
	手でふれられることができて写真撮影も可能な所はとても良いと思いました。展示コーナーのテレビの音がもう少し大きくして欲しかったです。各所にちょっとしたメモのような説明があったらと思いました。テレビの中の模様の意味がわからず少し不可解な所がありました。コンサートはとても良かったです。やっぱりきちんと奏でている楽器を見れるのが一番良いと思いました。レクチャーコンサートが平日にうけられればと思いました。	女性	10代	兵庫県	大学生
	一階の展示場が、展示品よりもドラム缶の方が目に入ってきて見づらかった。ドラム缶を使用するというのもおもしろい考えだと思うのだけれども、そこに展示されているものがそれに負けてしまっている様に思えて残念だった。マネキンを使って展示しているのもわかり易くて良かったのだが、あの黒いマネキンはどうも……という気がした。全体的にはメリハリのきいた展示で良かったと思う。	女性	20代	島本町	大学生

	展示の解説がよみやすくよかった。いろんな楽器が おいてあったけど、もっともっとどんな音がするのか 知りたかった。カーニャというふえはすごく長くてど んな音がするのか。展示会や博物館は説明が難しか ったり、ダラダラと長くかいてあったりするけど、そ んなことなくてわかりやすかったし、よくわかってお もしろかった。	女性	10代	枚方市	大学生
	楽しかったです。次はインディアン関係の展覧会をし てくれれば絶対見に来るんやけど。		20代	京都府	フリーター
5/27	遠い。踊りを見たかったです。たのしい。もっとパワ フルさが欲しかった。	女性	20代	奈良県	フリーター
	[展示コーナーのテレビやビデオシアターは] 音が悪い。	男性	20代	箕面市	大学生
	へばい	女性	70才以 上	大阪市	公務員
	[展示コーナーのスピーカーは] 音が悪い。	男性	20代	広島県	大学生
	ドラムカンで狭すぎる	女性	20代	京都府	無職
	とても素敵なコンサートでした。	女性	10代	兵庫県	大学生
	[ベニヤ板の床に] 気付かなかった。展示コーナーのス ピーカーは真下に立った時はとても良い。	女性	20代	東大阪市	会社員, その他／ミ ュージシャ ン
	[展示の解説は] バイリンガルにすべき。	男性	40代	高槻市	会社員
	とても楽しかったです。音楽の紹介であり、衣装文化 の紹介であったように思います。多角的でよいですね。		20代	石川県	大学生
	ラテン音楽が好きで、この特別展も2回目ですが、民 博でこのような展示がひらかれるのを楽しみにしてい ます。今回もアルバの演奏が聞けたし、前にあったフ ァミリア・ロドリゲスも良かったです。また、この様 なもおしがあることを希望します。それと、数年前 にあったペルーの黄金展みたいなのがあったと思うの ですが、どうしてももう一度見たいので出来ればまた やって下さい。	女性	30代	大阪市	会社員
	様々な演奏をたくさん聞ける事は、すごくよかったが、 週末にしかこれない時は、特に展示コーナーのスピー カーやビデオの音がきこえにくかったり、なかなか自 分の見たいテレビの内容が他の人が見ていて見れなか ったりしたのでその点が残念です。私は特にラテン文 化にとても興味があるので、今回の企画展では本当に 楽しませていただきました。これからももっとこのよ うな展覧会を企画して下さい。	女性	20代	和歌山県	大学生
	鳴らせるのがとても良かったが、もっと数を増やせたら 良いのではないかな。	男性	30代	豊中市	会社員
	具体的な音がわかり、とてもよかった。	女性	30代	豊中市	主婦
	コンサート大変すばらしかったです。このような地球 紀行をまたやってほしいと思います。コンサートは現 代音楽ばかりでなく基本的な民謡、アレンジしないも の少しほしいと思いました。	女性	50代	福井県	主婦
	こういった音楽を生できけるのは貴重な経験でとても よかった。	女性	20代	京都府	大学生

私は今ダンスを趣味としています。殊に、ラテン系の音楽で踊るのが好きで、この催しを待ちに待っていました。今迄も他の楽団の演奏も聞きましたが、一番良かったと思います。殊にダンスも見ることが出来て最高でした。楽器の知識も増え、実り有る催しに参加出来てとても嬉しく思います。	女性	60代	箕面市	主婦
又こういう企画を是非お願いします。[「鳴らすと、わかる」コーナーを] もっとたくさん。	女性	40代	泉大津市	会社員
ボリビアの音楽、すばらしかったです。次はアフリカ音楽を聴かせてほしいです。	女性	40代	滋賀県	会社員
興味のあるラテンアメリカなので楽器、衣装等よくわかってとてもよかったです。		30代	箕面市	主婦
今日のコンサートの映像記録をぜひ公開・提供して下さい。特に踊りの部分を参考にしたいです。		40代	滋賀県	教員
ラテン、民族音楽はいつ聞いても明るくて自然に体が動いてしまう。生きている喜びでもある感謝の音楽でもあると思う。生の演奏はとても楽しみでうれしいです。	女性	60代	吹田市	主婦
時間の都合でコンサートしか見・聴けませんでしたので……。すばらしい演奏・歌・踊りでした。一般公演を希望します。CDなど（LDかな）の発売も……。[7曲目] チョリータ・パセーナのバックのたて笛2本のひびきが極上。	男性	40代	東大阪市	教員
今日のLUZ DEL ANDEのコンサートとても良かった。企画して頂いてMUCHAS GRACIAS! [展示の解説は] もっと詳しく。「手でふれる展示について、もっとさわらせて。」	女性	40代	京都府	会社員
大変楽しい展示と演奏会でした。		20代	東京都	フリーター
これからのボリビアの音楽楽しみです（初めて）。	男性	60代	兵庫県	自営業
ボリビアのコンサートはとてもよかったです。又この様な企画をお願いします。ありがとうございました。		40代	箕面市	主婦
ラテンアメリカ等の民族音楽を又やって欲しいと思います。	女性	50代	京都府	主婦
研究公演「ボリビアの音楽と踊り」の催しに参加でき、とてもうれしく思いました。マイクの音量が大き過ぎもう少し配慮がほしいと思いました。	女性	50代	豊中市	主婦
研究公演に参加して大変良かった。アンデスの伝統が現代の音楽にしっかりと根付いていることが実感できた。展示について「鳴らすと、わかる」試奏コーナーや、ラ・ファミリア・ロドリゲス、サブリナ姉妹のコンサートなど、本物に接することのできる工夫のこらした趣向で良かった。ただ、「鳴らすと、わかる」試奏コーナーの楽器の種類が多いと良かった。	男性	20代	豊中市	公務員
展示場内でのコンサートがとてもよかったです。舞台とイスのレイアウトがほど良い距離で楽しめた。芝生の野外劇場での演奏もあればなーと思えました。民博はじまって以来の盛り上がり、たのしかったです。山本先生ごくろーさま。やっぱ音楽はええなー。	女性	30代	茨木市	会社員
山本先生ごくろーさま。今までの展示とちがうかんじでとてもおもしろかったです。今後の課題。小さいボタンをたくさん飾りにぬいつけた上着。もっともっと	女性	30代	吹田市	会社員

ギヤザーの多いスカート。ひるがえったときにみえる白いふりふりスカート（アンダースカート）これらをつくらせてみんなでケーナの演奏会できそう……。企画だおれが目に見えるようだ。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、] めちゃとても良い。ペイント缶のいすも良い。[展示コーナーのスピーカーについて] 気づかなかった。[コンサート用ステージについて、] 今までになかった構成で感激！[展示場内のコンサートについて、] ちばいずみ先生、おたくぼくてよいわ。				
夜でなくお昼のコンサートなので、子供も大人も楽しんで良かったと思います。又色々な催しに足を運びたいと思います。新聞や地域紙などでの広報を望みます。どうもありがとうございました。	女性	20代	池田市	その他／ピアニスト
今回はアフリカ音楽について同様な催しをぜひ企画して下さい。	男性	40代	滋賀県	大学生
講堂での研究公演は演奏者の力強さに圧倒されました。明るい。日本の青年が遠くボリビアでがんばっていることに感激。今後も続けて欲しい。	男性	50代	福井県	
演奏会にはとても満足しました。レクチャーコンサートは出来るだけ参加しましたが、研究公演を含めて大変良かったと思います。	女性	60代	茨木市	主婦
今回の展示会は山本教授が集められたもので半数が私物であるときいているが良く集められたと思う。GWにペルーに行ってきた。現地でフォルクローレを聞いたりが、場内コンサートがアルパとギターだったので少しイメージが違ったが良かった。今度現地マヤの展示会がありますが期待しています（余談ですが、今度大貫東大教授に「マヤ」の話をしてもらうことにしています。東京でですが「マヤ」とか「アンデス」にはいろいろ興味があり、勉強しています）。	男性	30代	東京都	会社員
気軽に立寄れる博物館はとてもよいと思います。今回はそこかしこにビデオコーナーがあり、休めるのが良かったです。	女性	30代	兵庫県	会社員
LIVEが大変良かったです！[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について、] どうしてもN.Y.ストリートイメージが強いので。	女性	20代	京都府	自営業
サナブリア姉妹のコンサートはとても良かったです。	女性	20代	京都府	フリーター
[手でふれることのできる展示について、] 日本には手にふれることのできるのが少ないから特によい。[展示場内のコンサートについて] こういうのがあるのを待っていました。ファミリア・ロドリゲス、サナブリア姉妹、研究公演と三回も来ました。		50代	和泉市	教員
入った時何故ドラム缶がこんなに大量にあるのか不思議に思いました。けど、回っているうちに意味がわかりました。初めから何やらかんやらと説明するのではなく、体とか雰囲気音楽（楽器）展示を感じていく事に非常に好感がもてました。創設20周年の展示らしく十分にラテンアメリカがイメージされていました。		20代	埼玉県	大学生
スチールドラムは本物の演奏をきいたことがあるのでざわわととてもうれしかったです。もっと演奏をふやしてほしいです。	女性	20代	奈良県	教員

	良かった！！	女性	40代	吹田市	主婦
	ちょっと堅すぎる。手拍子を皆んなでとれる様な、明るさが欲しい。又、その様な人が一人居て下さると観客もとけ込んで行けるのではないのでしょうか。踊りもあってよいと思いました。おとなし過ぎる！！	女性	50代	吹田市	主婦
	今回２度目の「ラテンアメリカの音楽と楽器」を見にきました。１度目は父と一緒にりましたが今回２度目は気ままに１人で行きました。１度目はゆっくり見ることができなかったし、本を買うことができなかったのも、又きました。思うぞんぶん見えています。やはり、ラテンの音楽もなかなかいいものです！！		20代	吹田市	フリーター
	コンサートが知っている曲も演奏されよかった。	女性	20代	奈良県	大学生
	楽器はさわって音だしてなんぼのもんやと思うので、今回の展示&演奏は良かった。ビデオ、CDで聴くより、ナマはやっぱいい。[ドラム缶を]運ぶのがたいへんだったろーねって姉が言っていました。	女性	20代	兵庫県	大学生
	笛の音も分かればいいなと思いました。いろんな楽器にさわって、とても楽しい日でした。有意義でした。サナブリアさんたちがとてもきれいな人たちだったので、とてもびっくりしました。しかもとてもきれいな演奏でとてもうれしかったです。[『牛乳列車』で演奏された]列車の音がすごい。びっくりしました。これからもがんばって下さい。また来て下さい。	女性	20代	兵庫県	大学生
	サナブリアさん方の音楽がとても楽しかったです。特に『牛乳列車』の歌が好きです。レコードなどあるとよいです。	女性	20代	兵庫県	大学生
	大変に楽しい展示でした。	女性	20代	京都府	会社員
	BOLIVIAに住んでいたのも、とてもなつかしかった(1ヶ月前に帰って来たので)。	男性	20代	大阪市	フリーター
	音がわからない楽器の音がわかるようにしてほしい。	男性	10代	茨木市	小中学生
	もう少し歴史的なことも加えてほしい。	男性	30代	京都府	教員
	昔、南米に行った思い出がよみがえり良かった。Gracias.	男性	20代	大阪市	会社員
	コンサート450名だけでなくもっと大勢入れてほしい。抽選があったのは残念だ。	女性	30代	長野県	会社員
	ラテンアメリカというので全般にわたってあると思い期待したが、アンデス系ばかりなのでものたりなかった。	女性	20代	吹田市	会社員
	音楽の勉強をしている大学生ですが、日ごろふれることの少ない民族音楽を身近で感じることができ楽しむことができました。又サナブリア姉妹の演奏を聴き、本当に楽しんで、笑顔があふれる姿をみて心から音楽を愛しているなと感じました。	女性	10代	柏原市	大学生
	もっとスピーカーの音を大きくしてもいいんじゃない？手でふれられなくてもいいからこの楽器がどんな音を出すのかわかるようにしてほしい。ビリンパウがききたかった。	女性	20代	大阪市	大学生
	スピーカーを利用しない方がよい。	男性	60代	吹田市	会社員

	「展覧会」と云うイメージが見事に裏切られ(?)大変 たのしく見学出来ました。	男性	30代	守口市	会社員
	よかった。でも、もっとたくさんの人にこういう展示 の存在がわかるように宣伝したらいいと思います。そ の楽器に触われるところが"鳴らすと、わかる"のと おりよかったです!	女性	20代	守口市	会社員
	ラテンアメリカの歴史の流れをまず説明してもらいた かった。ex) インカ帝国やスペイン時代とか時代関係 を表示してくれたらもっとわかりやすかったと思う。	女性	20代	吹田市	会社員
	コンサートがとても気に入った。ラテンアメリカの歴 史を簡単に紹介してもらってればもっと良かったと思 う。	女性	20代	吹田市	会社員
	全体的によかったが、やはり演奏が一番よかったと思 います。	女性	20代	門真市	公務員
	博物館というと(古いものを見る、という良い点も あるが)さわるな、とかいろいろ言われたりするの がさみしかったりする、やはり興味をもった物はさ わってみたいくなるという基本的な欲求をみたしてく れる展示の仕方は新鮮だし、大人でも楽しめると思 う。ラテンアメリカは「危なそうだけど魅力的」とい う毒と蜜の両方をかねそなえた感じで、異国情緒をそ ぞられます。楽しい展示でした。		20代	京都府	会社員
	とても自由なふんい気で良いと思います。楽器の試演 がもっとできるとおもしろいと思う。		20代	大阪市	会社員
	僕はのどが少し弱いので、ベニヤのにおいは少しつら かったです(ねらいは良いと思います)。	男性	30代	守口市	教員
	コンサートが大変良かったが、観客に簡単な楽器をわ たして全員参加させても良かったのではないでしょ うか?ノリも欲しかった。あと楽器をさわられてと ても良かった。	女性	20代	大阪市	大学生
	実際に演奏してくれたのはとてもよかった。	女性	20代	和歌山県	大学生
	大学のレポートにとても役に立ったのでよかったです。	女性	10代	奈良県	大学生
	大学の音楽のレポートに役立たせていただきます。		10代	奈良県	大学生
	ただ展示してあるだけでなく、さわったり鳴らしたり できて展示物がとても身近に思えました。	女性	30代	京都府	会社員
	スピーカーなしで聞きたい。		50代	堺市	会社員
	ラテンアメリカと言う言葉にあわないセットが多いと 思う。楽しいコンサートはとても勉強になりました。演 奏して下さったお二人ありがとうございました。		10代	茨木市	学生
	子供のうるさいのにはまいった。		50代	茨木市	主婦
	率直な印象で失礼ですが、ドラムかんを背景に用いた 発想が理解できない。かんが金属性のために反響が多 くはないか。反響の少ない材質をバックに用い、それ に現地(演奏現場)にふさわしい風景画か、そのデザ イン化されたものを描き、臨場感をもちあげてほしか った(テレビの音響にも影響があるだろう)。実演場の バックがあまりにもお粗末である。会場中心の場所と して、一層の配慮がほしかった。2階の楽器展示場は 良かったと思う。試奏コーナーは思い切った企画でよ かったと思われる。階下[1階]は暗すぎて解説が読 みづらい。失礼ながら実感です。	男性	70才以 上	京都府	無職

	アルパの演奏がとてもよかった。	女性	70才以上	京都府	主婦
	コンサートが良いときいてきました。子供（5才、小2）は楽器にさわられて満足そうでした。それとポラドーレスに興味をもちビデオもよくみていました。博物館や美術館に行くとき子供に触ったらダメばかり注意しないとダメなので親子ともストレスがたまるのですが、今回は触って鳴らせて very good でした。	女性	30代	吹田市	教員
	ラテンアメリカらしくもって陽気な部分を取り入れては如何。但し、夫々の展示、解説の邪魔をしない場所、部分で。[ベニヤ板の床は] 安価でもあるのでとても良い。[展示コーナーのテレビは] 面白い。[手でふれることのできる展示について、] 出来ればもっと多く。[「鳴らすと、わかる」コーナーについて、] 出来ればもっと多く。出来れば指導、説明者の配慮も。	男性	70才以上	茨木市	無職
	世界の楽器に接して、とても勉強になりました。	男性、女性	20代、30代	池田市	会社員
	何気なく入りました。思っていたよりも雰囲気などがやかで退屈しませんでした。	男性	20代	京都府	会社員
	もっとガンガン音楽がかかっているといいと思う。床が振動するくらい。食べ物とかがあっても、においも感じて、余計にその国に行った感じがしていいと思う。	女性	20代	兵庫県	会社員
	食べ物のイベントもしてほしい。ラテンアメリカ人の陽気なところがわかった。ヨーロッパ人に征服され、屈じょくをあげながらヨーロッパの文化をとり入れて自分の文化にしてしまうところの寛容などがあると思う。何でも楽器にして体全体も楽器にするなと思う。	女性	20代	兵庫県	フリーター
	みんなくゼミナールの回数がもう少し多いとうれしい。	女性	20代	京都府	会社員
	インドネシアの楽器を展示して下さい。楽しみにしています！	男性	20代	茨木市	自営業
	エクアドルのオタバロ族の服が事実と少し違う。ラテン世界にふれられるこの企画はすごくうれしいし、今後いろいろな企画してほしい。Desde un Echatriano, A me gusta mucho las cancion de Latino americanos. Tal vez las tienen muchos posibilsqades en Japon. Gracias a todo ustedes.		30代	京都府	
	もっとたくさん楽器をならしてみたい。音がなるしくみを解説してほしい。	女性	20代	奈良県	大学生
	1Fのビデオは色々選べて楽しいが音量が小さく、音楽が聞こえにくかった。全体的に「吹くもの」「たたくもの」「弦もの」とまとめてあったので比較できて非常に良かった。	女性	20代	大阪市	会社員
	全部鳴らせるとうれしかった。説明が少なかった。（台湾のとちゅうたん展に比べて。）そのかわりにそれぞれの楽器の展示近くで演奏している Video がみれたら、もっとああこんな場面でこんな風に使うのかとイメージがふくらんだのになー。なんでマネキンが黒いの？なんで顔がないの？展示コーナーのスピーカーについて見ながらだと音がきこえづらい。人がいっぱいいると「スピーカーの」ま下に居れない。	女性	20代	兵庫県	会社員

	こんどは大中国食物展なんかどうでしょう。さておき、今回は色と形とその多様性はこれからの音楽のあり方がみえてくるようでした。ダイナミックな流れ。ラテンアメリカは文学もそうだけれど、音楽もひと口にまとめられない雑然たるミリオクがある。		20代	京都府	会社員
	面白く見させていただきました。ありがとうございます。	男性	20代	京都府	大学生
	小学校の時から、いつか民博の職員になるのが夢で、とり合えず今日、友の会に入りに来ました。ブラジルに1年住んでいたのですが、見知らぬ楽器も沢山あって、ブラジルのものでも見たことないものもいくつかあってとても面白かったです。南米（中米）の催しをもっとして欲しいです。	女性	20代	大阪市	大学生
	Estoy contento, Me interesa mucho el folklore, Muchas gracias, Adios.	男性	20代	京都府	会社員
	ラテンアメリカの音楽—音の文化—の概観がうまく伝えられている。スチールドラムには感心した。		40代	藤井寺市	教員
	機械をダンボールでかくしているので、ふんいきが出ていた。	男性	10代	藤井寺市	小中学生
	展示コーナーの上から音が聞こえてくるのは慣れていないせいか聞きづらい。画面の方から聞こえる方がよいのではないか。		20代	愛媛県	教員
	白いハンカチをかかげた踊りの展示の前で涙ぐんでしまいました。スティングの歌だったが共に踊るパートナーを失った女たちが抗議のために白いハンカチをかかげて独りで踊る様をうたったものがありましたよね。本当はひとりではなくふたりで踊るものだったんですね。彼女たちの夫や息子は二度と帰って来なかった……。私達にとっては地球の反対側の、昔の出来事です。	女性	30代	大阪府	会社員
	品ぞろえは良いが、説明不足。テーマ別の比較展示がほしい。	男性	30代	大阪市	教員
	めずらしい楽器が見るだけでなく、実際に手で触れ、音を出すことができたのでとても楽しかったです。	女性	20代	京都府	会社員
	全体的にかわいくてよかった。もう少し実際の音がきければもっとよかったと思う。	女性	10代	滋賀県	大学生
	主人も私も楽器を弾くので楽しかった。	女性	40代	箕面市	主婦
	楽器は他の楽器との有機的な組み合わせで理解されるべきもの。2Fの楽器群ごとの展示は、数多く集めてはあるが、そのような有機的な理解には乏しいものであった。	男性	40代	奈良県	その他
	楽器だけに限っているので展示も工夫が必要だし、ややもすると希薄な展示になりやすいし、又、その様に感じられる所もあった。少しまとまりがなかった気がするが、これもラテンの持つ特有さなのだろうかと思う。しかし、大変なこと（収集など）であったと思う。	女性	40代	香川県	その他
	管楽器も吹きたいなと思いました。マウスピースは私達の親しんでいるような西洋のそれとは違い、民族独特の音色や味が表現できるようになっており、文化や習慣の異なる人達がどのように生活に用い、楽しんだか分かるような気がします。さて楽器は今日も人間の	男性	20代	豊中市	公務員

	感情を歌うことができます。展示されてある楽器は身近な材料を使ったものが多く、いかに音楽が生活に密着したものであるかということがよく分かり勉強になりました。またこのような企画を期待します Q1. このドラム缶どうするのですか？〔展示の解説については、〕もう少し詳しく（マニアの為に）。				
	楽器を自分で実際さわって鳴らすことができるというのが非常によかった。楽器は言うまでもなく、音を出して楽しむもの。実際に"音"を聞かなければ楽器のよさは伝わらないと思う。しかし、南米の人は本当に何でも楽器にしてしまうものだと思った。豆を乾燥させただけとか、水道管でケーナを作るとか、こういう楽器（バンデイロの図）なんかは家でも作れそう。そうやって楽器というものがいかに身近なところからできたものであるかということや、音楽が生活と密着しているということがよくわかった。今の日本の音楽教育もこんな楽しい企画ですればもっと音楽（楽器）に親しむことができると思う。	女性	20代	豊中市	公務員
	変わった展示法だと思います。少し雑然としていて見にくいという感はありませんが、それがラテンアメリカっぽさを出していたといえそうなのですが。展示コーナーのスピーカーは少し音がわれていた。展示の解説は多少みにくかった。	男性	20代	京都府	大学生
	楽器というのは自分で作るものなのではないか、と思った。自分が好きな形、やりやすい大きさなど、身のまわりにあるもので作りたいと思う。	女性	20代	奈良県	フリーター
	展示の字が暗くて読みにくかった。	男性	10代	富山県	大学生
	（どうしてドラムカンがラテンアメリカのイメージなのでしょう？）実際に楽器に触れられるのは非常に有意義だと思います。	女性	20代	滋賀県	会社員
	ラテンアメリカの演奏がとてすばらしい。日本では珍しい楽器のリズムにのってすてきな演奏によった1人です。有難うございました。もっときかせてほしいが残念です（5回きました）。	女性	60代	豊中市	主婦
	もう少し全体的に明るくした方がいいと思う。ラテン音楽に触れることができ勉強になり、とてもうれしく思う。	女性	10代	京都府	大学生
	マネキンがとても良かった。指の形がとてもきれいでした。1つほしいくらいです。ベニヤ板の床には気がつかなかった。		30代	吹田市	会社員
	地図と併せて国名を確認したかった。発生年代といった時代の流れを明示して欲しかった。楽器の展示と合わせて演奏方法をビデオで流して欲しかった。もっと現地音をききたかった。	男性	30代	奈良県	会社員
	自由にさわり自分で音を出す楽しさはよくわかるしそういうコーナーをもうけるのは大変いい。でもそれは限られた一部だけで、「これだけだ」という表示がなかったのは失敗ではないか。他の展示楽器など子供がさわり、親もそれなりのマナーがわかっておらず見すごし、いっしょになって、いたみのある展示楽器にふれていた。生徒が休みで無料で展覧会に親しむ機会だからこそ、親も含めマナーを教えるべきである。大学の	女性	20代	寝屋川市	大学生

学生も大ぜい来ていましたが、写真とったり展示楽器をたいたたり、衣装などにさわったりしていた。つまりは、美術館などの基本的なマナーがみんなわかっていない、と考えると注意書きなどしなければならいのではないか。その点がディスプレイに気をとられて忘れてしまった感がある。ちょっと期待が半減してしまった。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示は、]すごい面白いアイデア。[展示の解説について、]地図つけて、どこらへんにすんでる民族とかってかくとわかりやすかったかも。				
ドラム缶のアイデアは良かったと思いますが「アフリカの世界」のところに置かれたドラム缶の色がわかったのではないのでしょうか。もう少しアフリカをイメージした色づかいの方が良かったと思います。中に展示されていた衣しょうの色とはまた違った色の方が良かったと思います。同じような色なので、何が言いたいのか、少しわかりづらいです。コンサートの方はすばらしかった。アンコールをしてほしかった。	女性	20代	兵庫県	大学生
初めて実際に見ておどろいた。もっとたくさん触り演奏してみたかった。	女性	10代	京都府	大学生
太鼓がたたきたかった。民族衣装がきてみたかった。	女性	10代	京都府	大学生
介護者より。エレベーターの場所が大変わかりにくい。(知っていたのでよかったが、知らない人にはたぶんわからないでしょう)。今回は、けいびのおじさんがしんせつだった。	女性	50代	吹田市	無職
ボリビアのfolkloreを観に来ましたが、葉書が必要だったようで、持っていなくて観ることができませんでした。ポスターでは、申し込みが必要とは書いていなかったと思うのですが……。それが少し残念でした。	女性	20代	京都府	大学生
順路表示がもっと明確な方がよい。2Fから見て、1Fに行けばよかったと思っている。土着の伝統的なステージも観たかった。	女性	50代	豊中市	主婦
全ての楽器がどんな音がするのか知れたかった。直接触るのは無理でも、ボタンを押せばその楽器の音がわかるというような設備があればもっとよかった。でもいろんなことを知り、おもしろかった。	女性	20代	東大阪市	フリーター
楽器を手に触れて音を聞くことが出来とても感動しています。普通の展示では楽器であっても"触れないで下さい"と書いてあって本当のよさがわからずこんなものか、で終わってしまうのに本当にうれしかったです。	女性	20代	茨木市	主婦
解説もあった方がよかった。さわったり音を出したりするコーナーがもっとほしい。	男性	40代	奈良県	公務員、 教員
手で触れることができる企画は展示品が身近に感じられて大変良いと思います。	男性	30代	大阪市	会社員
思いがけずコンサートが聴けて良かった。	女性	40代	大阪市	主婦
[ドラム缶は] ベンキの臭いで鼻がむずむずした。[マネキン]は 黒いのがいけない。[ビデオシアター]は 音が小さい。聞こえない。[写真のパネル]は 原地の人の顔が見れてよい。	女性	20代	箕面市	大学生

	きつい言葉を書いてすみません。でも私はとてもラテンの国に興味がありペルーやボリビアにも長く行っていた事がありますが、その魅かれるものというのを今回の展示にはあまり感じられませんでした。テーマもおもしろいし、数々の新しい試みもとてもいいと思うのです。ただ楽器をたくさん並べ、ビデオを流し、民族服を飾るだけでは何か違う気がするのです。その国の文化や独特の雰囲気（や色）を伝える為には、背景となるものがあまり前面に出すぎないほうが私はいいと思います。それでも民博はとても好きなので又、来ます。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示は、] アイデアはおもしろいが衣服の色彩やかさなどがドラム缶のペンキの色に邪魔されてされているのが惜しい。マネキンの黒、身体のかたちなどがやけにめだって気になった。民博のいつもの常設展示では気にならなかったのに。壁展示（2F）のページの壁紙の色も全体的にモタリしていて本当に残念。	女性	30代	奈良県	教員
	なぜラテンアメリカで"ドラム缶"なのか？（質問7について）	女性	40代	豊中市	主婦
	亀の甲羅をまるごと使った弦楽器、打楽器。巨大な豆さやのガラガラ。手造りそのままのギター、バイオリン。珍しい物を見せていただいてありがとうございます。	女性	40代	大阪市	会社員
	展示はとても充実していたと思う。ただ、ビデオによる音楽や歌の紹介でアルゼンチンがタンゴだけ（フォルクローレも入れて欲しかった）だったり、ブラジルもボサノヴァやショーロがなかったのが残念だったです。でも、普段見たり聞いたりできないような歌や踊りが聞けて（見れて）よかったです。売店で売っていたものも、もう少しバラエティーにとんだ品ぞろえがして欲しかった（オリジナルのはがきセット、コインetc.）。	男性	30代	愛知県	会社員
	ラテンアメリカの雰囲気がでていていい。	女性	10代	岸和田市	大学生
	Como yo vivia el Sudamerica, el ritmo sudamericano me hizo bailar mi sangre. La cancion que me gusto mas fue el "Amor Imposible" de Paraguay. Me gusto el ritmo, la armonia y la letra. Las dos hermanas Paraguayas son muy simpaticas. Nunca habra pensado viajar por Paraguay, pero como ellas son tan simpaticas, ahora quisiera viajar por alla. El "pequeno concierto" era buenisimo. Muchisimas gracias!	女性	20代	京都府	大学生
	Bueno! I'd like to see your guys again.	女性	10代	茨木市	大学生
	ギターの中が見ることができてよかった。コンサートがとても良かった。	女性	20代	摂津市	会社員
	コンサート最高です（今、演奏中。）展示は今までの民博のイメージをもうちょっと明るくするもので良かったです。これからも、明るい、わかりやすい、触れられる展示をお願いします。展示形態は見やすく、周りやすかったです。ドラム缶は、入ってすぐの積み上げたものがインパクト強くて、効果あったんじゃないでしょうか。	女性	10代	奈良県	大学生

	ファミリア・ロドリゲスは2回見に来ました。もっともっと5回以上見たかった。その時ちょうど仕事でイヤなことがあって、切ない音色がすごく心にしみて来て、何故か泣けてきそうになりました。(巨大豆がほしい!)今日は、絵をかくためのモチーフを探しにやってきました。万博から25年。実験的にせよ、こういうコンサートをもちこんだ展示は非常にいいと思います。民族学博物館にいくと、いつも閉館までねばってしまいます。個人的にはアフリカのファンなので、アフリカの民族音楽もききたいです。入口前に舞台を作り、太陽の下でぜひ、さまざまな音楽をききたいものです。カフェ風なものも一度考えていただけないでしょうか?万博公園 Fan としてお願い致します。色々な公園にいきましたが、どこよりもこの地元の万博公園が美しく、くつろげる場所です。	女性	20代	豊中市	フリーター
	楽器だけを陳列しているのではなくマネキン人形が演奏する態勢で楽器を持っているので、(おまけにマネキンにちゃんと衣装が着せてある)どの楽器がどのように使われているのかが、とても判りやすくてよかったです。	女性	20代	高槻市	大学生
	てんじされている物に年代がわかればもっとこうかあったと思う。作者とかいつごろつくられたか調べるのはむずかしい。だけどだれがつくってどういうこうぞうになっているか、ゆらいの事ももう少し教えてくれればもっとおもしろかったと思う。ROMA 字でてんじ品をしめせば自分の国の物がすぐわかる工夫も。	女性	30代	京都府	その他／パート
	見たこともない楽器の音色がどんなものかテープでも流したらより実感できると思いますけど……。	女性	50代	京都府	主婦
	ビデオシアターやマルチメディアをやる場合ガキ対策が絶対必要である。1)操作をむずかしくする2)操作がつまらない機械にする3)そもそもガキは入れない、などの方法が考えられる。[ビデオシアターについて]音楽を聴く気がないのに単にキカイをさわりたいだけのガキどもが占領して不愉快い。	男性	20代	奈良県	その他
	11) さわって良い楽器と悪い楽器との区別が不明確。不可の楽器についてはもっとわかるように明記したらどうか(こわれるのではと心配した)。2) 前宣伝が大きくて、期待が大きすぎたのか大満足というところまでにはいかなかった。ビデオでもっと説明と実際の音楽がききたかった。3) お人形が楽器をもっているのは楽しくわかり易かった。相対的に楽しく拝見させていただきましてありがとうございました。4) コロンビアの"イカ族笛と太鼓"は日本の神楽を思い起こさせられて妙な気持でした。5) スチール・ドラムは単に面積の区分だけで音の高低がきめられているのには驚きです。1つの金属円の区分の仕方に気づいたのはすばらしいこと。ドラムはうるさいものときげらいしていましたが、改めて見直しました。感じたこと書きなぐりですみません。	女性	50代	埼玉県	その他
	アルパとギターのコンサートがとてもよかった。	男性	20代	京都府	会社員
	ラテンアメリカの音楽をもっと身近なものにして欲しい。ラテンアメリカ文化の大好きな人間[より]。	女性	40代	愛知県	主婦

	せまいところにつめこみすぎた感じがした。ごちゃごちゃして何が展示で何が違うのかがよく分からなかった。楽器に関する説明も、もっと詳しくしてほしいかった。	男性	20代	大阪市	会社員
	あちこちで音がしていたり、人が展示を見るという1つの順路だけでなく自由に好きなところで見ることができるとても自由な雰囲気がとてもよかった。コンサートも自然に参加することができ、とても楽しかったと思う。		30代	枚方市	会社員
	ギターとハーブのハーモニーが素敵です。情熱的な音と歌に心うかれます。拍手、拍手、拍手。	女性	40代	豊中市	主婦
5/28	他の博物館ですと展示品はガラスのショーウィンドーの中に入っていて手でさわることができません。これに対して、展示物を直接手で触れて、さわって楽器をならせる「ハンズオン (HANDS ON)」形式の展示方法はとても感動しました。これから頑張って続けていき、発展させて下さい。ありがとうございました。P.S. 自然に館内に入って、体感できるのでうれしかったです。(とても身近な感じがしました。) コンサート演奏中の「ならすと、わかる」コーナーについて、演奏時間前に「ならさない様にご協力下さい」と何度かアナウンスしてはいかがでしょうか。また演奏中は、「鳴らすな!!」のはり紙を置いておけば少しは良くなると思います。最後にこの博物館は「ハンズオン」方式のとても身近な博物館ですから、学校(小・中・高校)や教育機関、一般の人々にもっとPRをさかんにすれば、もっと多くの人々が存在を知って、このすばらしい博物館にきてくれると思います。[手でふれることのできる展示について、] 私は生れてこのかた、はじめて見ました。ふれてみました。[「鳴らすと、わかる」コーナーについて、] 私は初めて感動しました。鳴らしました。		20代	八尾市	大学生
	ラテンアメリカならではの情熱が足りない。The concert was wonderful! とても懐かしかった!	女性	20代	兵庫県	フリーター
	すごく工夫している。	女性	10代	兵庫県	高校生
	ドラム缶がラテン・アメリカをイメージしたとは思えない。[ベニヤ板の床は] 手抜きに見える。[マネキン] は] まっ黒なヤツより、やはり表情のある方がよいのでは? でも僕は何かんだ言ったってEXPOは好きだぜ、BABY! ガンパってちょうだいヨ!!	男性	20代	京都府	その他
	自由でたのしい雰囲気はとても良いが、展示が雑然としすぎていて見にくい。図録がとてもよいだけに残念な気がする。	女性	20代	京都府	フリーター
	楽器を鳴らしたりできたのがとてもよかった。いろいろな国についてのことがわかり、勉強になった。またこういう機会があればいいと思います。	女性	10代	豊中市	高校生
	伝統的世界のコーナーが興味をひきました。	女性	20代	吹田市	大学生
	民博友の会の入会を考えている。会費が少し高いので今、迷っている。	男性	40代	高槻市	会社員
	なるべく多くの展示楽器について、その音が聴ける工夫がほしいと思った。	男性	40代	吹田市	会社員

雨の音の楽器が一番気に入った。中の仕組みもよくわかった。外国の楽器をさわったりして楽しめたのは、初めてだった。とてもいんしょうてきであった。楽しかったです！	女性	10才未満	池田市	小中学生
コンサートです。マイクの調子位はさっさとしてあげるべきです。姉妹に失礼と思う。ベストの環境で演奏させてあげて欲しい。主催者の配慮不足。音楽は良かった。	女性	40代	奈良県	主婦
展示の説明文の文字を大きくしていただけると読みやすい。	男性	40代	奈良県	会社員
マネキンだけで表すと動作しているときの様子が想像だけになってしまう。		20代	奈良県	大学生
たくさんの楽器の種類と、その楽器が実際に手でふれられるというのがとても良かった。展示も写真付でその楽器を演奏している様子がよくわかった。演奏もすばらしかった。又やってきてほしいです。	女性	20代	兵庫県	会社員
久々に面白かった。演奏において、どんな理由があるのかは分からないがスピーカーで拡声するのはいただけないと思う。音があらぬ方向から聞こえてくるのはどうも具合がよろしくない。	男性	10代	吹田市	大学生
2階の展示の説明をダンボール＋クラフト紙でしているのがとてもよかった。楽器はやっぱり鳴らしてみても良さがわかるものなので試奏コーナーを思い切って設けているのがよかった。	女性	20代	豊中市	会社員
生の演奏会は非常にインパクトがありよかった。楽器はできるだけ手にとって自分でさわってみないとわからないと思うので、そのような展示方法を増やしてほしい。	女性	20代	茨木市	会社員
またこういう企画をしてほしいです。できればその時はエクアドルのグループ"SISAY"をよんでほしい。コンサートは歌のある曲がよかった。	女性	20代	和歌山県	大学生
とてもステキなガッキーがならんでいて、楽しいです。ナマエンソーもとてもよかったです。	男性	20代	門真市	公務員
特にない。コンサートの回数すくない。何回もしてほしい。	男性	20代	大東市	会社員
衣装がきれいでいいと思った。色々な楽器があつて、外国などにもいっぱいあるんだなあとと思った。	女性	20代	高石市	会社員
弦楽器はやっぱり弦をゆるくしてあるので試奏はちょっと残念でした。もう少し、時代がはっきりわかってそれぞれの楽器の音がよくわかった方がよし。	男性	10代	奈良県	大学生
できればもっと試奏できる楽器があればよかったです。例えばマラカスにしてもなんていっぱいあるんだろう……と思いました。異空間をすごせてとてもよかった。学生で超ピンボーなのでもちょっと入場料を安くしてほしいな……。これからもおもしろい企画を期待しています。	女性	10代	京都府	大学生
とても楽しい展覧会でした。実際にさわれたところがよかったと思います。他の地域（ラテン・アメリカの）の音楽もきいてみたいのでまた企画してください。	女性	20代	兵庫県	大学生
照明が少し暗かった。今、日本にいてラテンアメリカを知る機会がとても少ないので満足している。	女性	20代	吹田市	会社員

	音が雑多で少しやかましいかなと思いました。ラテン音楽は大好きです。有難うございました。	女性	60代	茨木市	主婦
	もう少し「鳴らすとわかる」コーナーでの楽器の配置に工夫があればたくさんの人が手にふれることができたのではと思う。	男性	30代	兵庫県	会社員
	音楽（えんそうかい）とてもよかったです。歌がとても上手だと思いました。ハーブの手のうごきがすごかったです！！Thank you very much!		10代	高槻市	小中学生
	アルバの生演奏はめったに聞けないのでナマ演奏が聞けて大変によかった。迫力があった。アルバは日本人にとってなじみのない楽器であり、聞いてもらえる機会が出来てよかったと思う（アルバ音楽の好きなものより）。	男性	50代	京都府	公務員
	もっと楽器をさわらせてほしかった。おねーさんがきれいでうれしかった。コンサートのみるところがよかった。Thank you very much!	女性	10代	高槻市	小中学生
	もっと楽器をさわれると思った。	女性	20代	高槻市	その他
	楽器をさわれるのがとてもうれしい！	女性	20代	大阪市	フリーター
	「さわらないで下さい」の表示をもっとはっきりしないとわかりづらく、さわりそうになる。	女性	20代	岸和田市	公務員
	触れることができるという展示方法は他の所ではあまりみられないので、参加しているという気になります。物にふれることの大切さを感じました。	女性	20代	大阪狭山市	公務員
	サナブリア姉妹のパラグアイ音楽を鑑賞したが、想像以上にすばらしいものであった。ラテン音楽特有の明るさ、軽快感、リズムカルあふれる美しい音楽に知らず知らずのうちに引き込まれ、気づいた時には終わっていた。もう少し時間が長ければ、あと2、3曲聞きたかった。また、民族音楽があれば、来たい。梅棹さんにもよろしく！	男性	20代	豊中市	大学生
	いつも知的で愉快な催物を、見せて頂き有難うございます。貴館のますますのご発展を心から祈念申し上げます。	男性	50代	摂津市	教員
	なにに出会えるかいつも楽しみにしています。世界は広いと人の生きざまを想像しながら自分の生き方をふり返る良き機会になっています。文明の先端で暮している私達と、のどかにおおらかに生をたたえている多くの人々が地球上にはこんなに多くいるのですね。	女性	50代	摂津市	教員
	ドラムカンとラテンの自然色とはミスマッチ。企画・演出の工夫・意欲は強く感じられるが気負い過ぎ。もっと自然体がよい。[そのほうが]一般の人々の共感が得られよう。	男性	60代	吹田市	会社員
	コンサートのアルバ（ハーブ）の音色が素晴らしかった。	男性	20代	兵庫県	会社員
	会場全体をラテンアメリカの雰囲気（環境）にすればもっとリアルな体験ができる。	男性	20代	愛媛県	大学生
	手でふれるものなどがおもしろかった。	女性	20代	兵庫県	大学生
	戦後のジャズ＝青春時代の私にはラテンもダンスミュージックもタンゴも懐かしいものです。現在のテレビの音楽にはあきたらず楽しんで参りました。姉妹のお嬢さんのハーブとギターで可愛かったし、品も良かった。	女性	60代	兵庫県	主婦

	たが、もう一つ、知っている曲があればよかった。でも、良かったです。				
	他の地域の楽器展もやってほしい。(日本の楽器とか)。	女性	20代	吹田市	教員
	[コンサート用のステージについて、] 階段がつまって移動しにくい。[ビデオシアターは] 邪魔。[展示の解説は] ちょっとくどい。		10代	吹田市	高校生
	ドラム缶やダンボールを思わせる展示のバックなど、意外で飾り気を感じさせずに、資料が目立っているのがよかった。"さわらないで"とかいてあるのに大体の人は触って行って、[展示資料がケースに入っておらず、] まともに出ていたら触らないでという方が無理か、という気もした。小さいドラム缶のイスは好きだった。マネキンも本当にうまく作っていると思った。	女性	10代	箕面市	大学生
	美術館のようにかたくなるしくなく、手にふれることもできるし、写真撮影もできて、とても自由で、たししみやすい感じがしました。	女性	10代	高槻市	大学生
	展示ケースがダンボールでつくってあるのがおもしろかったです。	女性	20代	京都府	公務員
	もっとさわりたい。楽器をもっといろいろ演奏してほしい。歌がすごくよかった。もうすこし動きがほしい。	女性	20代	滋賀県	会社員
	又、いろいろな企画が見たいと思いました。楽しみにしております。	女性	20代	茨木市	会社員
	換気が悪いのか、暑くて気持ちが悪くなった。		60代	京都府	無職
	カラフルなのが多くて目の保ようになった。	女性	10代	京都府	大学生
	展示してある楽器を体験できるコーナーはよかったが、もっと楽器の数が多かったらよかったと思う。		20代	奈良県	公務員
	南米にアフリカの影響があることを初めて知った。		30代	京都府	フリーター
	もっと楽器で遊びたいという気持ちは万民の思い。	男性	20代	兵庫県	大学生
	コンサートについて、音の響きが豊かすぎて、演奏のキレの良さやリズムの面白さがわかりづかったように思います。コンピューターを使ったビデオの利用については、面白く遊べました。ビデオの一本一本が短く回転良く調べられました。反面、全体の雰囲気と細かい意匠との両方が見れたり見れなかったりと、ビデオを撮る時の気苦労がしのばれました。	女性	20代	京都府	フリーター
	もっと広いスペースがあればいいと思う。ゆっくり見れるのではと思います。	女性	40代	豊中市	主婦
	もっと広い場所での展示をしてほしい。少し場所が狭いので、こみあってラテンアメリカのイメージがこわれる。	男性	40代	豊中市	会社員
	何度も来ました。今日で終わり。ボリビア聞いて帰ります。楽器を買えてよかった。たくさん買った。レクチャーコンサートも何度も来ました。ビリンバウなど売ってほしかった。ブラジルまで買いに行くか。楽器を作ろうと思って、いろんな種類のひょうたんを植えました。コンサートの間、うしろのおばちゃんたち、しゃべり通しでやかましかった。	女性	20代	和歌山県	教員
	コンサートが良かった。実際に楽器を手にもふれるのも良かったです。展示の奥の方の照明が少し暗くて見えにくかったのが残念です。		20代	茨木市	会社員

	展示楽器に関してもう少し解説があっても良いのでは。	女性	40代	豊中市	会社員
	色んな色をつけたドラム缶を置いてディスプレイしてる部分はもう少し色をおさえぎみにするか、一色に統一した方が服、楽器が見やすいと思う。	男性	20代	茨木市	会社員
	マイクの音量調節が不慣れ。(声が良くはっていない。途中から楽器のボリュームが上がります)。	男性	50代	豊中市	会社員
	ただの楽器の展示のみでなく、マネキンを使った展示がわかりやすく、イメージが広がって良かったと思います。ドラム缶を使ってラテンのイメージを出そうとしたのは成功していますが、逆に、缶ばかりが目立ちすぎ、実際の展示の文字が読みにくかった面もあります。あと、2Fの展示の文字が大変小さく、かなり近寄らないと読みづらかった。"楽器にさわらないで下さい"の表示は、もう少し目立たせた方が良かったのではないのでしょうか。[コンサート用のステージについて、]高い所にあるので見やすい。	女性	30代	大阪市	会社員
	展示を見ながらコンサート鑑賞ができるというのはとてもいいと思います。ぜひまたこういう企画を。[コンサート用のステージについて、]もっと大きくてもよいと思います。[展示の解説について、]楽器の名前をもっとくわしく。[手でふれることのできる展示について、]みる人のマナーが悪い(ガキ)。	女性	20代	泉佐野市	フリーター
	トラディショナルなものだけでなくもっと、今、街中で(その国の)流行っているうたの中にも民博でしよう介する価値のあるものもあるはずと思う。ずいぶんともかしの民族観から現在の音楽がぬけおちているような気がします。衣装も、こういう展示ではきわものやまずしさしかみえないと思う。手しごとのよいものはよいものとして見せておおらかなところはのびやかに2つにわけて見せる方法はなかったでしょうか。(サンパチームのハートの衣装はお気に入りです)。フォーク(南米のもの)にはドラムカンにはあわないし(ブラジル以外)カリブやブラジルのものにはベニヤにはあわない。アルバの二姉妹には両方ともにあわない。なんでもかんでも両方にあわせるくらいならいつもの(本館)のようなニュートラムな展示の方がよかった	女性	20代	八尾市	その他
	東京からわざわざ来て、本当に良かったです。ポリヴィアの楽器にもいろいろあることがわかりました。又、それ以外の国々にもいろいろな種類の楽器があることにもおどろかされました。又、音楽と生活が一体化していることを改めて感じました。この一年、ポリヴィアに行っていないので、久々にあちらの空気を感じることができました。……タリハのカーニャはやっぱりおおいなあ……山本先生……展覧会大成功!!おめでとうございます。	女性	30代	東京都	公務員
	思ったより面白かったので良かったと思う。	女性	10代	茨木市	大学生
	もっとたくさんの楽器を鳴らせる事ができたらもっと良いと思います。(次回に期待!)	男性	30代	兵庫県	無職
	現地の人を解説などのためつれてきてほしい。	男性	20代	枚方市	大学生
	マネキンが恐かった。ドラム缶を積むだけでなく、上からつるしてあったのはとても良かったと思います。触れる事のできる楽器がもう少し多くてもよかったのか	女性	20代	京都府	教員

	な？と思いました。演奏、とても良かったです。P. A さん、ちょっとね……それがなければもっと良かったです。				
	楽器の展示が多かったが、それよりももっとたくさんの民族衣装や祭りなどが知りたかった。	女性	20代	池田市	大学生
	ただ楽器をおいてあるより、マネキンが実際にポーズをとって演奏できる状態で展示しているのがとてもわかりやすく親切だと思った。演奏会はとても良かった。でももう少し別の楽器の（マリンバとか）生演奏も聞いてみたかった。ドラム缶で統一しているので良かった。	女性	20代	奈良県	大学生
	ラテンアメリカの伝統音楽に加えて、植民地時代にできた音楽の様子などが展示してあるのはとても興味をそそられた。アフリカの民族が、つれてこられて辛い思いをしていることなどは、今のラテン音楽を形成する上では欠かせないものもきちんと展示してあり満足いくものだと思う。もちろんこれが全部とは言わないだろうがラテンアメリカの音楽の一端を見るには充分だと思う。	男性	20代	吹田市	大学生
	従来企画展示には1回以上来たことはなかったが、今回2回来ました。特に生演奏やさわれる展示はよいと思います。今後も親しみやすい企画が続けられますよう期待しています。大変よい企画で満足しています。ありがとうございました。	男性	40代	茨木市	会社員
	各国の音楽から見る民族学はとても入りやすく、直接心に飛込んでくるすばらしさがある。もっと色々な国の音楽を聞きたい。	女性	40代	茨木市	主婦
	臭いが良くない。ベニヤ板？ドラム缶の塗料？	男性	20代	吹田市	会社員
	ベニヤ板のにおいが少し気になった。さわれる展示はとてもよかった。楽しかった。	女性	20代	豊中市	会社員
	ラテンアメリカの音楽という「コンドルが飛んでいく」というイメージが強いが、そればかりではないことをもっと強調すべきだと思います。	男性	40代	茨木市	会社員
	マトラカがかわいらしくて気に入りました。コンサート良かったです。民族音楽は好きなので来て良かったと思いました。	女性	10代	奈良県	大学生
	演奏の曲を増やして欲しい。	女性	20代	東大阪市	大学生
	もっと手でふれることのできる展示、鳴らせる展示があつてよいと思う。もっと楽器の解説（どう鳴らすのか、どういうものからつくられているのか）があつてよいと思う。展示には工夫がみられるが文字がみにくく展示が遠い。	女性	20代	大阪市	主婦
	規模的にも丁度良く、ゆっくり見れる。具体的でよくわかり楽しい。コンサートがとても良く、やはり本場の音楽は本場の人でなければいい。	男性	60代	兵庫県	会社員
	各楽器の音色がわかるようなボタン式拡声機のようなものがあれば良かった。楽器は身近なもので、もっと触れる機会をつくってほしい。	男性	20代	大阪市	会社員
	小さなホールでの演奏、とても素晴らしくて、感動しました。また、楽しい展示会が企画されることを期待しています。	女性	20代	茨木市	会社員

	各地方の楽器、おもしろかったです。形のわりには、おもしろい音が出たり、きれいな音が出たり、素晴らしかったです。次を期待しています。ありがとうございます。	男性	20代	茨木市	会社員
	横笛の試奏をさせてほしかった（2F）。	男性	10代	吹田市	高校生
	ライブ・ステージ。2曲目の曲が気に入りました。	女性	30代	吹田市	フリーター
	笛関係がもうひとつものたりない。デザインがもっと多彩なはずだがそっけないデザインのものが多い。民族性のみで使う人の個性が感じられるものが少ない。	男性	40代	豊中市	会社員
	マネキンが衣装をまとうて楽器を持っているのがとてもよい。雰囲気が出ている。ドラム缶を使っている所がなんでも楽器にしようラテンアメリカっぽくて感心してしまった。	女性	10代	奈良県	大学生
	楽器についてもっと説明があってもよいと思う。	女性	40代	摂津市	その他
	各展示楽器のかたわらでの演奏方法の説明をもっとわかりやすく解説してあると、もっとおもしろかったと思う。鳴らすとおもしろい楽器が、たくさん展示されてるだけだったのが残念です。	女性	20代	摂津市	公務員
	試奏コーナーについて品目の数をもう少し「増や」してもらいたかった。展示にともされる解説文をもう少し字を大きくしてもいい。		20代	和歌山県	会社員
	期間をもう少し長くして下さい。		50代	徳島県	会社員
	もうすこしみせるものをおおくした方がもっとおもしろくなると思います。	男性	10代	静岡県	小中学生
	実際に楽器にふれられて楽しかった。マルチメディアコーナーの席がもっとたくさんあるといいと思う。あるいは、座りこまないようにできる工夫がほしい。	女性	30代	兵庫県	大学生
	色々な楽器にふれることができ、演奏もきけたので、よかった。	女性	10代	和泉市	大学生
	もうちょっとかいせつとのところを明るくするともっとよくなると思う。	男性	10代	静岡県	小中学生
	今回のような展覧会・コンサートをもっとやってほしい。目でみるものより、さわったり聴いたりする催しが良い。	男性	30代	吹田市	公務員
	個人的にフォルクローレ（ボリビア・スタイル）を演奏している者です。はじめての人にもわかりやすく、とてもよく出来た企画だと思います。ただ、とくにボリビアの弦楽器（チャランゴなど）についていえば、展示されているもののほとんどがボリビアへの観光客向けにつくられた粗悪品であると見てとれますし、その他の楽器についても同じように考えられます。また、現在のラテンアメリカの音楽（楽器）と地元の人たちとの関わりについての表現が必ずしもきちんとなされてはいなかったと思います。とはいえ、試行錯誤をくり返しながらかういった企画を重ねていくことが大切なのだと思います。またこうした企画をみられることを楽しみにしています。	男性	20代	千葉県	公務員
	マルチメディアのコーナーに2台しかなかったのが常にこんでおり、試すことができず残念だった。しかし、「鳴らすと……」のコーナーでは、スチールドラムを実際にたたけておもしろく、難をいえば、吹く楽器をとり入れてほしかったと思います。アルバのいい演奏が	女性	20代	和歌山県	教員

	きけて、ラテンアメリカの楽器を今までより身近に かんじることができた。試しに買ってみたケーナ（調律 済みの）を早速練習してみようと思う。				
	昔の服装がよくわかった。よかった（ラテン、ガリフ ナとか）。においくさい。ちっときつい。息ぐるしい。	女性	10代	静岡県	小中学生
	みていてつかれたりしないからすごくいいと思った。少 し空気がわるいのがつらいです。まん中のステージが はく力があつた。	女性	10代	静岡県	小中学生
	コンサートのお姉さん方がとても素敵でした。ありが とう！	女性	20代	茨木市	大学生
	姉妹がとてもかわいく、すてきな音楽がきけてよかつ た。	女性	40代	茨木市	会社員
	あまりにも演奏がいいので、ついねむくなってしまっ た。何曲やったのでしょうか。たくさんの曲をするには、 1つ1つマスターして、うまくいかなければならない のです。すごいなあと思った。	女性	10代	静岡県	小中学生
	ラテンアメリカらしくてとっても良かったです。楽器 がとってもすばらしくて×2倍だった。[写真のパネルに ついて] 人々の生活がよくわかるから、とても良い。 [展示場内のコンサートは] 良いけどあつかった。	女性	10代	静岡県	小中学生
	演奏がとてもよかったです。	男性	20代	奈良県	大学生
	楽器の種類が沢山あるのに驚きました。楽しく拝見さ せて頂きました。展示場がもう少し広いともっとよか ったと思います。歴史的な見方がもう少しあると良い と思いました。以上。P.S.体験コーナー、とても親しみ が持ててすばらしい企画だと思いました。	女性	50代	東京都	教員
	ラテンはこれで2回目。とてもすばしかったのが、ラ イブコンサート。ケーナかアルバのいずれかの生[演 奏] をとっていたので最高。目的から少々ずれるか も知れませんが、もっとラテン的なものを売るコー ナーの充実（前回ももっとあった）を。ラテンはと ても広いので、シリーズで実施するならメキシコ、ペ ルー、ボリビア……と焦点をあてたらいかが？もっ とライブの充実を！	男性	40代	吹田市	会社員
	実際に肌で感じられ、大変満足しています。	女性	20代	堺市	教員
	『コンドルは飛んでいく』など知っている曲を、その 国の楽器で演奏してもらうのはとても楽しかった！		20代	東大阪市	公務員
	演奏がとても良かったです。CDやテープで聞くのと大 違いで、今度は打楽器が入ったのが聞きたいです。	女性	20代	寝屋川市	公務員
	楽器の展覧会といえば、ともすればやかましい音が飛 びかう会場を想像しますが、今回の展示は「不必要な」 音がなく、じっくり落着いて見物できる。スピーカー の指向性を下に向けて上から吊す方法は他の展覧会 でも参考になると思いました。沢山のコーナーが競合 してやかましくなるのをうまく防いであります。楽器は 手で触れて、音を出してみないと理解しにくいもの だけに、「手を触れるな」の表示のない展示は大変良く、 「固苦しさ」を追放してもいい。コンサートのPAの音 量も丁度よい。	男性	50代	枚方市	会社員
	試奏できるというのが良かった。楽しかったです。手 でふれることのできる展示もよかったと思います。見	女性	10代	豊中市	高校生

	ただけではよくわからないし興味もわかないと思うので……。学生でも楽しめました。				
	いつも平日にしか来たことがないので、かつて見たことのない人の多さに吃驚した。南米独特のカラフルな民族衣装と戸外の陽気も手伝って、賑やかですごくカジュアルな感じのする催しだと思う。	女性	20代	大阪市	会社員
	地域や年代による区分をはっきりした方がわかりやすいのでは。	男性	20代	兵庫県	大学生
	トイレがきれいだった。	女性	20代	豊中市	大学生
	アジア（ベトナム、タイ、カンボジア、中国）や中近東（エジプト、イラン、イラク、クウェート、レバノン、モロッコ etc）がとても好きなので、アジア、アフリカの食についての展示をしてもらいたい。	男性	20代	兵庫県	会社員
	楽器に限らず使ってこそ（使い方を究めてこそ）その意義が判るものなのでしょう。他の方面でも、さわれる、さわって見せる展示を望む。	男性	50代	箕面市	会社員
	「ラテンアメリカの音楽と楽器」に来させてもらったのは今日で3回目です。私は大学で音楽を専攻しており、楽器について勉強していこうと今、資料をあつめたり、本を読んだりしている次第です。今回、この催しのおかげで、たくさんを知ることができました。ありがとうございました。これから、ラテンアメリカだけにとどまらず、いろんな地域の音楽と楽器を紹介していただけたらうれしく思います。	女性	20代	奈良県	大学生
	「マネキンを使った」アイデアはよいが使用されているマネキンがよくない。	男性	30代	京都府	会社員
	実際に鳴らせたり、ライブが聴け、展示の内容をより身近に感じることができ、よかった。		20代	高槻市	主婦
	今まで見たことがない楽器ばかりで楽しかった。が"音楽と楽器"となっているので音楽ももう少しわかると思う。楽器ばかりのような気がする。	女性	20代	滋賀県	公務員
	今までの展覧会はきっちりと整理、管理されていて、すぐたいくつする。しかし今回は入った時からおもしろかった。ドラム缶やベニヤ、段ボールなど、簡単なものだが、うまくイメージに合わせたと思う。ちょっとゴチャゴチャしているけど、イメージに合わせた展示でよかった。写真撮影のOK とゆう柔軟性はうれしかった。	男性	20代	京都府	会社員
	文字の展示が白地にでなく、茶紙であり、見えにくいこともあるが、やわらかく、とけこんだ感じ。ステージの人影が作る影が不思議な効果をもっている。実演は短い時間でよいから、何度もあった方がよい。	女性	50代	吹田市	主婦
	ラテンアメリカのイメージがでてこない。もう少し明るく、音楽も流して欲しいと思うが。コンサートは短い時間でも良い。		50代	吹田市	会社員
	アルバ演奏は非常によかった。次回こういった企画をお願いします。アルバ演奏のCDも売店に置いてほしい。	男性	30代	京都府	自営業
	ステージの上の吊している人影は上下に動いている方がよいと思う。逆さ吊りと言うのは良くない。いじめの問題のことも考えて欲しい。	女性	30代	高槻市	会社員

	コンサートは大変良かったと思いますが、色んな楽器による音楽がもう少し聞きたかった。たとえばレゲエも。	女性	60代	茨木市	会社員、フリーター
	もうすこしラテンアメリカのイメージを出してほしかった。民博を通じてもっとPRすべき。		40代	茨木市	会社員
	ドラム缶の色あいがメキシコチックでよかった。でもベニヤの板は工事中みたいで中途はんばな感じがした。ステージ中央の人形のぶら下がったセットはgood。演奏のサナブリア姉妹の人はチャarmingでよかった！	女性	20代	吹田市	会社員
	生演奏がとても良かった。思いがけなかったのもとても楽しく思いました。(講堂のコンサートは最高でした。)ラテンアメリカにはドラム缶のイメージより、自然・緑・水空・海・太陽のイメージの方が欲しかった。	女性	60代	吹田市	主婦
	今回の企画展に関しては、方々で、ポスター等見かけ、広報に力を入れているなどと思った。一方、周りの人間にさそいをかけても、なかなか民博というところ、いかないうちが多い。今回のように、けっこう万人受けする企画の時は、ポスター等にある程度内容もかいてみては。	男性	20代	兵庫県	会社員
	ラテンアメリカの各地域での、展示された楽器を中心とした文化、生活をもっとクローズアップして欲しい。	男性	30代	兵庫県	会社員
	もっと直接、音を出せる楽器が多かったらよかった。ビデオ楽しかった。コンサートの二人の姉妹すごくかわいい。演奏もバツグン！！	女性	20代	京都府	大学生
	[ビデオシアターについて] 1ヶでは不足。	女性	50代	豊中市	主婦
	[マネキンについて] 黒い色が見にくかった。	女性	20代	大阪市	公務員
	[展示コーナーのスピーカーについて] 良いが、音には不満。		30代	奈良県	会社員
	サルサやレゲエ等、現代音楽も加えてほしいです。	女性	30代	茨木市	主婦
	東洋音楽もやってほしい。	女性	30代	門真市	主婦
	[展示の解説について] 良くないのは見にくい。ため。	男性	50代	京都府	教員
	いつも楽しい展示を有難うございます。ここの展示には今までハズレがありませんでした。とても嬉しいことです。あと欲を言えば、企画展に連動した催し(コンサート、バザー、レストランの食事など)がもっと充実してくれるとうれしい。インドのときなどはすごくよかったです。	女性	30代	京都府	その他
	もう少し、開館時間を延ばして、ゆっくり見させてください。		10代	兵庫県	大学生
	とても良かったです。もう終わるのが惜しい。前半のファミリア・ロドリゲスと後半のパラグアイの姉妹のアルバムとギターミニコンサートは(双方とも2回ずつくらいききにきました)極上でした。ラテンの楽器を手でさわってならせるのもとても良かったです。パソコンのコーナーもGood。レクチャーコンサートもとても良い。今日はボリビアの音楽と踊りを見にきましたが、踊りがメチャすてきでした。すばらしい民族衣装とかかわいらしい踊り。男の方はステップに迫力がありました。惜しいのは音楽の方のまん中のドラムの方がいろんな打楽器で特殊な音を出して下さるのが、ドラムのかげになっていて見えにくかった。でも、日本の震災のことを歌った歌など感動しました。これからもすてきな催しをして下さい。期待しています。	女性	30代	京都府	フリーター

	写真や解説はもっと大きく見やすい色で書いて欲しい。とくにケーナは、吹口が大切なので、上の方のケーナは吹き口が見えない。上の方にある作品をもっと目の高さにしてもらえるとすごくいい。中間色の電灯の色に、楽器の色壁の色が似ていて、見にくいので、壁の色と楽器の色は、差別化してもらいたかった。	男性	20代	大阪狭山市	大学生
	説明がもっとほしかった。歴史、分布図。どのようなところで演奏されるか、どのような構成の Banda でつかわれるか。終了の音楽が Arpa でとてもよい。オリジナル Cd or テープなどあったら三重丸でしょう。[展示スピーカーについて] 下下にいかないと……。でも音がまじらないのはよい。	女性	20代	京都府	大学生
	生演奏、試奏コーナーが良かった。	男性	30代	大阪市	会社員
	もっと「ならずと、わかる」の楽器が多ければよかったかも……。まあ、よかったです。	男性	10代	箕面市	大学生
	もっと多くの楽器の音色がきいてみたい。楽器の解説をもう少し詳しくしてほしいかった。ギターのようなやつで、げんのはり方が風変わりであったので、調律がギターとどうちがうのか、とか。	男性	20代	兵庫県	大学生
	これからもわかりやすい企画をお願いします。	男性	30代	茨木市	会社員
	姉妹でのコンサートが生演奏で聴けてとてもよかった。民博とゆうことで、もっと勉強っぽくて、かたいイメージがあったけれど、中へ入ってみると予想をはるかに上まって楽しいひとときを過ごすことができました。ありがとうございます！又、こんな企画して下さい。演奏は本当、感動しました。	女性	20代	茨木市	会社員
	ふつうの展示会は見ただけで体感できないが、今回ののは、直接さわれるので、とても楽しかった。	男性	20代	兵庫県	大学生
	全体的に1階は圧迫感を感じて、息苦しいように思う。もう少し、空間を考えた方がいいように思う。	女性	20代	大阪市	大学生
	ベニヤ板の床・ドラム缶・ありあわせというかんじがして、ぬくもりがかんじられない。コンサートはとてもきれいな歌声であつという間の30分でした。どうもありがとうございます！！	女性	30代	茨木市	主婦
	服がかわいく、今でも十分ふつうの生活でできる。予想以上に展示・催しが心地よくすごせました。音楽もきもちよかった。ディスプレイのしかたがたのしく、かげの人がきにいました。	女性	20代	茨木市	フリーター
	今までに見たことのない楽器だらけで驚きました。人間の知恵というのは、未知だと実感させられました。		20代	豊中市	公務員
	マネキンが少し西洋風。もう少しその民族らしい体格だったらと思った。	女性	40代	京都府	公務員
	[展示の解説について] ながいすぎです。	女性	40代	大阪府以外	主婦
	1. 展示品の一部ではあるが、手を触れて演奏出来ることは大変好ましい(混雑していなかったことが幸いしていたのかも知れないが)。展示品にもよるだろうが手にとって鳴らすことが出来るということで若い人々には興味を深めていた様に見受けた。2. いつの展示会でも思うことだが、図録に予め目を通し見るのが好ましいが、図録を読んで再来場の外はないのだろうか。	男性	70才以上	高槻市	無職

	大変素晴らしい良い企画でした。	女性	50代	豊中市	主婦
	[ドラム缶とベニヤ板の床について] これでよいが、どうしてドラム缶なのかどうしてベニヤ板なのか分からない。	女性	60代	池田市	主婦
	長い展示期間だと思ったが、終わってみるとアツという間。もっと期間を延ばして欲しいくらいだった。民博の特別展で何回も足を運んだのは今回が初めて。何度来ても飽きることがなく、最高の展覧会になったと思う。コンサートや自分で楽器に触れることが出来たのがとても楽しかったし、是非またこのような企画を考えて頂きたい。阪神大震災や、サリンと暗く不安な時機だっただけに何よりの心のなぐさめになりました。ありがとうございました。[展示コーナーのテレビについて] 台数が少なく見る事ができなかった。	女性	30代	吹田市	会社員
	ドラム缶が色あざやかなのはとてもラテンアメリカらしくてよい。もう少し落書きがしてあったりしたら（現地っぽく）より雰囲気がでるのではないと思う。茶紙やダンボール等を使った展示も今回のイメージに合っていてとてもよいと思う。展示、企画する方々が楽しくやっておられる雰囲気が伝わってくる気がしてくるのが、何よりもウキウキ、ルンルンの要素だと思います。[展示コーナーのテレビについて] 少し画面が小さい。[コンサート用ステージについて] 少しそぼくすぎる。	女性	30代	大阪市	その他
	ラテンアメリカに関する展示をお願いします。	男性	40代	高槻市	会社員
	とても楽しい展覧会でした。盛り沢山で1、2回では見きれず数回訪れました。おかげさまでじゅう分楽しめました。		70才以上	吹田市	その他
	・S姉妹の演奏はとても良かったが、曲目紹介はマイクのセッティングと外国人のためとが相まって、ほとんど理解できませんでした。どなたか日本人の方が曲名だけでも言い直していただければ良かった。・演奏中2Fにいたが、演奏終了まで（階段が人で埋まって）1Fに降りられなかった。1列分の通路が確保されていればよかった。・ドラム缶のディスプレイは中米やカリブのイメージは感じるが、アンデスのイメージとは合わないと感じた。さりとてラテンアメリカを象徴する別の物は思いうかばないのですが、阪神大震災の後だけに、このディスプレイが降ってきたらとチョット怖かった（これはつけ足し）・南米の楽器と衣装。よくこれだけ収集されましたね。楽しく拝見させて頂きました。有難うございました。	男性	40代	神奈川県	その他／私大職員
	多種の楽器をよくぞ集められてと感心した。展示場でのコンサートが身近に親近感を持て、又、打楽器を隣のお子さんと楽しませて頂いた。有料でもケーナ（リコーダーの様な）とか、他音階の楽器の指導もして欲しかったです。何時か「ラテンアメリカを」訪ねて1曲捧げて来たいと思っています。		60代	高槻市	主婦
	お金で買えない素晴らしい演奏でした。心が豊かになりました。1月以来の嫌なニュース、震災の気分がぬぐわれました。本当に来て良かったと思います。	女性	70才以上	吹田市	主婦

	ハガキに対して、ペア招待にしてくれれば友人といきやすかったりしたのと思います。(友人と2人ともひにちがバラバラになり、悲しい思いをしたので。) 今回がはじめてなので前回はどだったのかわからないのになまいきですが……。	女性	20代	大阪市	会社員
5 /29	とても小学生の私にわかりやすくせつめいしていたのでよかったと思う。	女性	10代	茨木市	小中学生
	コンサートがとてもよかった。大学の昼からの授業をさぼってしまったけど、充分満足できた。解説の字がもう少し大きい方が読み易い。時間がなくてビデオシアターをみるができなかった。ラテンアメリカだけでなく、インドの音楽と楽器という企画を是非お願いします。	女性	20代	三重県	大学生
	コンサートがとても良かった。ハーブの音がとてもきれ이었다。"熱帯雨林"も良かったし、サナブリア姉妹の演奏もきれいでした。	女性	10代	茨木市	高校生
	[展示コーナーのテレビについて] もう少し台数を！ [ビデオシアターについて] もう少し台数を！	男性	20代	奈良県	大学生
	この場所に2回来て見て2回共に満足した。「国立民族学博物館」という名前から、堅いイメージを抱いていたが、実際には非常に興味深い物が沢山置いてあり、もっといろんな人に見物してもらえるといいのではないだろうか。今回も前回も、十分な時間がなかったので、次は1日かけてゆっくり見物したい。	男性	20代	大阪市	大学生
	僕はオカリナを作っています。今回の展示はオカリナのアイデアを得るのにとっても有意義でした。	男性	20代	箕面市	大学生
	「鳴らすと、わかる」コーナーをもっと充実させて欲しかった。(特に笛だけコーナーがないのは面白くない)他に、楽器演奏の形態の移り変わりの展示や、試聴コーナー (CD屋にあるようなもの)があれば良かったと思う。	男性	10代	京都府	大学生
	・企画がわるい。やり方がわるい。・アルバミュージシャンはとても良かった。・2階はまだまだだけれど1階の展示はかなり悪い。もっと伝えるものを"核"に持ってほしい。(企画する側の意識に) お金のムダづかいはやめるべきだ。「ラテンアメリカの音楽と楽器」……。・でもコンサートは良かった。サナブリア姉妹の給料をあげるべきだ。・もっとしっかり仕事しようよ。"SO WHAT"の企画ならやめた方がいい。なくても生きていけるんだから。でも！！と思うなら心を美しくして心して仕事をして欲しい。[ドラム缶の展示について] まったく良くない。閉鎖的だし何かかんちがいしていると思えない。資源節約すべし。[マネキンについて] すべてのマネキンが黒というところが良くない。各国の衣装の差が目立っていない。[展示コーナーのスピーカーについて] 上から聴こえてくるのはこわい。[展示の解説について] 見にくい。[[鳴らすと、わかる]コーナーについて] もっとさわりたい。	女性	20代	堺市	無職
	様々な地域のこのような展示を今後も続けてください。	男性	30代	兵庫県	会社員
	ビデオにナレーションを入れてほしかった。説明がないとよくわからない。コンサート中に「鳴らすと……」の楽器をさわっておこられたが、注意書をもう少し良く見える所にはって置いてほしい。		20代	高槻市	大学生

	適材適所で割に良かったと思う。コンサートステージの工夫が良い。楽器を直接触れるのはいいが、今はコンサート中でさわれないのが残念！！	女性	10代	京都府	大学生
	手でさわったり、音が出せるというのはいいが、こんながありますよ～という展示だけでルーツなど工夫がほしかった。なぜドラム缶なのか、場所をとるだけでラテンアメリカのパワーというものを取りちがえていると思う。	男性	20代	大阪市	大学生
	館に入りましたら、今からコンサートが始まる場所です。ナントいい時に到着。演奏はサナブリア姉妹（パラグアイ）アルバとギターでした。久し振りにナマの音楽に接し、嬉しうございました（14：00から）主人と二人で参りました。有難うございました。		70才以上	大阪市	主婦
	アンケートには「良い」項目ばかりに印をつけましたが、実際の料金でここまでやってしまうのは凄と思います。ビデオシアターなどは人に専有されてしまって楽しむ機会を逃してしまいましたが……。コンサートなどもあって、盛りだくさんで感激しました。もっとゆっくり見たかったのですが……。また、こういうのやって下さい。	男性	20代	京都府	大学生
	展示の仕方が悪い。ドラム缶やベニヤ等やりたい事はわかるのだがもうすこしやりようがあるのではと思う。今日（5/29）のえんそうはすばらしかった。手でふれて鳴らせるものをもっともっとふやしてなんぼではないかと思うがどうでしょう。僕はトーキングドラムがさわりたかった。	男性	20代	大阪市	自営業
	サナブリア姉妹のコンサートにすごく感動しました。もし、CD かカセットがでていたらその情報がほしいです。サナブリア姉妹に関する情報ならどんなことでも知りたいです。"月刊みんぱく"に分かっている情報をのせて下さい。お願いします。	女性	10代	島本町	高校生
	サナブリア姉妹の演奏、とても良かった。	女性	40代	大阪市	主婦
	〔展示コーナーのスピーカーについて〕指向性は良いが、音質は今一つ。	男性	60代	京都府	無職
	もっと鳴らせるのが多くほしかった。	男性	20代	吹田市	大学生
	生演奏に感動した。	男性	20代	茨木市	その他
	生演奏（姉妹）には感動しました。マルチメディアもとても楽しかったです。〔展示の解説について〕少し暗くて見にくいところがあった。	男性	20代	島本町	学生
	体験コーナーがあったのは、とても良かったと思います。コンサートもすばらしくて、大満足でした。	女性	20代	兵庫県	大学生
	ライブがとても良い。	男性	50代	東京都	会社員
	自由に行き来できて、楽しかった。けれどわがままをいえば、ビデオシアターがもっと臨場感をかもし出すものであればよかったと思います。	女性	30代	東大阪市	無職
	楽器の変遷が判って面白かった。コンサートをきいていると中南米の村々の祭りが想像されて、マラカスをふったり貝殻を沢山つけたソックスをはいたりしておどりたくなった。ついでにおどりをみせて欲しいと思った。	女性	60代	東大阪市	自営業

	民族衣装をつけて踊りがあればもっとよかったのと思う。簡単なフォークダンスなど我々も参加出来れば尚うれしい。コンサート迫力に感激した。良い日によって載ってよかったと思う。		70才以上	東大阪市	主婦
	5/29米館 アルバの演奏が素晴らしかった。Muchas Gracias! ドラム缶のイメージがピンと来ませんが(年齢のせいかな?)	男性	60代	茨木市	無職
	いささか物足りない。もっとテーマにあわせた何かがほしかった。いつもはもっと展示物が多いので見終わると疲れるが、今回は楽だった。がその分物足りない気もする。この後、この大量のドラム缶はどうなるのかと気になる。歌がすごくよかった。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について] ドラム缶と何の関係があるの。[コンサート用のステージについて] 上の人がぐるぐる回るともっと良い。[ビデオシアターについて] 混んでいた。[「鳴らすと、わかる」コーナーについて] もっとあれば良い。	女性	20代	奈良県	無職
	[ドラム缶の展示]、[ベニヤ板の床は] 意欲は買うが中途半端な感じ。[展示コーナーのテレビ]、[展示コーナーのスピーカーは] 色々な楽器の音を聞かせて欲しかった。[手でふれることのできる展示]、[「鳴らすと、わかる」コーナーは] ふれたり、音を出したりしてよいものとそうでないものとの区別をもっと判り易くして下さい。	男性	50代	摂津市	自営業
	展示内容は、まあまあいいが、その割には入館料が高いと思う。民博にはしょっちゅう来る。特展もよく来る。そのたびに館内のイメージが高くなりすぎて暗い感じがする。[「鳴らすと、わかる」コーナーについて] もっとたくさん自分で鳴らさせてほしい。[展示場内のコンサートについて] パーカッションも入れてほしい。	女性	20代	箕面市	大学生
	サナブリア姉妹の演奏がとてもよかった。2回も見ました。Muchas gracias!	女性	20代	吹田市	フリーター
	妙にあかぬけていて「みんなどうした?!」と思ったけれど、感じが良くてみやすかったです。力が入ってますね、山本先生。ラテンアメリカ関係は大アンデス文明展以来ですけど、何かすごく対称的という感じです。あの時は純粋に学術的で、フォルクローレのコンサートはありましたが。([レストランの] ゴハンが実現出来るし) もっとこんな「もよおし」をして欲しいです。人形の後ろとか横とかみえて。普通みえない所までみえて。とても楽しかったです。またみんなく通いをしてしまいそうです。(中学の時から通ってます。)		20代	八尾市	フリーター
	手でふれる"弦楽器"の展示で、もう少し個々の展示物をはなしておくとききやすい(さわりやすい)のでは。「これは・・・という楽器です」なんてこと言ってもらえたらよかったなと。何かすごく素朴にして先端。良いんじゃないですかー。ところで、セミージャなるガラガラ風のものがありゃ、マメ科の植物でしょ。ネ。				
	[ドラム缶の展示について、ラテンアメリカに] 行ったことがないのでわからない。		30代	京都府	その他／団体職員

	今まで知らなかった歴史、黒人の人たちのことを知れてよかった。楽器もいろいろみれて良かった。コンサートも生で演奏されていてよかった。また来たいと思いました。今後の催し物も楽しみです。ありがとうございました。	女性	10代	寝屋川市	大学生
	さわって材質と音色（チューニングはきちんとされているわけではないですが）が確認できる展示はステキです。人形についてはできれば人の顔だちや表情も「ラテンアメリカ」を感じられるようにしていただけたらよかったと思います。ドラム缶については「カリブのスティールドラム」をイメージしたというお話でしたが、その意図はわかりますが、それはラテンアメリカの多様性の一面なので、個人的には「どちらでもない」感想です。確かに「日常生活の中の何でも楽器にする」というひとつの表現の在り方とは思いますが。もう期間終了ということでもとても名残惜しいです。できればあと1カ月くらいアンコール……という気持ちです。全体により企画だったと思います。		30代	兵庫県	公務員
	今日は体調不良でしたが、コンサートなどもありおもしろかったです。演奏を聴きながらおどるコーナーがあったらおもしろかったんじゃないかと、たわけたことを考えてしまいました。		20代	吹田市	大学生
	[展示コーナーのテレビについて] 音が欲しい。		40代	豊中市	主婦
	・トラックボールは使いにくい。・手でさわられる展示の方法はもう少し検討すべきだと思う。破損がこわい。・鳴らせるコーナーについてはもう少しジャンルをふやしてほしい、ただならすだけでなく、「演奏」ができるように対応してほしい。	男性	20代	静岡県	公務員
	もっと手でふれて、鳴らせるとよかったです。	男性	20代	兵庫県	大学生
	[コンサート用ステージについて] 配線コードが見苦しい。	女性	20代	奈良県	その他
	コンサートの最後の曲がとてもよかった。又、聞きたいと思います。	女性	40代	四条畷市	主婦
	ラテン音楽を生で聞くことができてとてもよかった。珍しい楽器を目にすることができありがたい。	男性	30代	堺市	その他
	楽器解説の期間を長くしてほしい。	女性	40代	京都府	教員
	2階部分も、もう少しカラフルにしても良かったかも。参考資料の展示が良かった。	女性	20代	豊中市	大学生
	これからもおもしろい博物館をつくってほしい。		20代	四条畷市	大学生
	ステージ中央の"鳥人"がよい。説明のビデオもよくわかる。	男性	60代	岡山県	無職
	てきどに音が館内に流れていて、よかったと思いました。くつろげました。	女性	20代	豊中市	大学生
	演奏がとても良かったです。もっと聞きたいので、今度は曲数を増やして下さい。カセットテープの値段が少し高いのが残念でした。	女性	10代	高槻市	大学生
	テレビが音声が出てなくて残念でした。	女性	70才以上	吹田市	
	開放的な感じで良かったです。ただ、パネルの文字が少し小さすぎるように思います。	女性	20代	交野市	大学生

	アルマジロはハ虫類なのかホ乳類なのか知りなかった。ふつうはさわれないいろいろな楽器をさわられてとてもよかった。	女性	20代	大阪市	大学生
	NHKの番組を見て、来ました。ドラム缶のセッティングがすてきですし、ふつう、楽器の展示はさわることができないので「さわる」ということはとても良いことだと思います。やはり楽器というのはさわってみないとね。ハーブを作っているの、いろいろな国のハーブに興味をもっています。いろんな種類のアルパが展示されていて勉強になりました。	女性	30代	八尾市	その他／団体職員
	よかったすごく。また来ようと思う。次も、意表をつくような妙案を出して、驚かせて楽しませてください。モノに触れてみることはすごく大切だと思う。柵もガラスもなく、そのままの展示なので身近に感じられる。こういうフトコロの深さに賛成します。気持ちの良い観覧でした。[展示の解説について] 地図がもっと欲しい。地理的説明も。	女性	10代	京都府	大学生
	日頃と全然ちがう世界を体験した気分です。ラテンアメリカの陽気で明るい様子が表れていると思う。	女性	10代	京都府	大学生
5/30	最高や！	女性	20代	寝屋川市	フリーター
	質問(21) 項「この展覧会にあなたはどのくらい満足しましたか」について とても満足に丸を付けなかったのは、私はタンゴファンなので「鳴らすこと」が出来ないバンドネオンとコンセルティーナ各1台とはおそまつだった。「アストリコ」のタンゴの日が2日間あったそうだが、都合で来られず、ラストの今日、入園参加した。サナブリア・エルマナスのハーブとギターの中で、タンゴメドレー5曲は僕にとって最高の贈り物だった。	男性	60代	三重県	会社員
	衣装を見るのも楽しかった。[ベニヤ板の床について] 板がもったいない気もした。フニキはいいけど。[ビデオシアターについて] 少し音が小さい。操作がわかりにくい人もいるのでは？	女性	30代	池田市	その他
	ドラム缶がジャマ！	女性	40代	門真市	その他
	試奏ができて、うれしかったです。	男性	40代	堺市	主婦
	さわっていいのとダメなものが区別をはっきりと。	男性	40代	門真市	その他
	今回のようなテーマ別展示をもっとやって下さい。全体としては見る前に期待していたものよりはややもの足りない気もしますが。	男性	40代	堺市	その他／画家
	サナブリア姉妹（アルパとギターの演奏）パラグアイのボーカルの入った曲が良かった。[ドラム缶でラテンアメリカをイメージした展示について] 面白い。[展示コーナーのテレビについて] もっと小分けだともっといい。[展示コーナーのスピーカーについて] 場所によって良し悪しあり。[ビデオシアターについて] イスがもう2～3あると。[展示の解説について] 位置がちょっと分かりにくい。[写真パネルについて] もっとあっていい。	男性	50代	広島県	自営業
	展示場内のコンサートをもっといろいろしてほしかった。特に打楽器のアンサンブルを生でみたかった。それが見られないからテレビ（ビデオ）で見れたのもよかった。	女性	10代	兵庫県	大学生

もっとはやく来館して、もう一組の演奏家の演奏をきけば良かったと思っています。アルパやギターなど、普段きけるものより、ここでしかきけない演奏をききたかったです。	女性	30代	堺市	その他
お豆の楽器すごい。さやえんどーでつくれるかなー。[展示の解説は] 見にくい。	女性	20代	高槻市	大学生
実際に演奏がきけたり、自分でさわってならすことができてたいへん楽しかった。	男性	20代	兵庫県	大学生
出かけてきてよかったと思った。コンサートも、音響もよく、演奏もよかった。		40代	兵庫県	その他／パート
サナブリア姉妹の演奏がとてもすばらしく聞き入り入ってしまいました。感激でした。	女性	40代	兵庫県	その他
コンサートの姉妹がとても良かった。	女性	40代	兵庫県	主婦
コンサートがとても良かった。	女性	40代	兵庫県	主婦
実際に触れて音を自分で確かめられてとても楽しかったです。子ども（小学生）も連れてきたらよかったと思いました。	女性	40代	高槻市	公務員
とても満足、といかなかったのは、ものたりない感じがのこったから。（そのまんま？）小さいなら小さいなりに、満足のいく展覧会はできると思います。ましてや、これだけ数があったのだから、もう少し説明などの量をふやしてもよかった……？でもこれぐらいで厚かましくなくてよかったなあ、とも思ってるんですが（何のこっちゃ！）ああ、でもとてもうれしいのしい展覧会でした。[マネキンの展示について] 様子がよくわかっていいけど、マネキンがちよっと気持ち悪い。（じゃあどうしろというんだ、といわれてもこまるが。）[展示の解説について] 大げさでなくていい。[「鳴らすと、わかる」コーナーについて] これでなくっちゃね！[展示場内のコンサートについて] このたてものの中でこのコンサートはとてもいいと思う。	女性	20代	京都府	大学生
以前、赤道アフリカの仮面を見ましたが、内容が良く、満足でした。今回の展示もそれ以上に良かったと思います。民博の姿勢にはいつも感心させられます。今後もぜひすばらしい展覧会を開催して欲しいと思います。ありがとうございました。	男性	20代	大阪市	教員
私は近くに住んでいますので良く来るのですが、もっともっとピーアールされて沢山の方々に見、聞いていただきたいと思いました。ライブコンサートも大変楽しませていただきました。ありがとうございました。	女性	50代	豊中市	主婦
コンサートがかなり印象に残りました。初めて、このような展示会に来たのですが、音楽という分野において、ラテンアメリカ系だけでもこれほどの楽器があるのですから、国文化の違いというものを感じつつも、世界共通的なものも感じられました。根本的に世界中の人々が感じる喜び、楽しさなどは変わらないのだと感じました。	女性	10代	高槻市	大学生
ラテンアメリカの人々の音楽と密接した生活がとても良くわかり、楽しめた。手でふれたり、楽器を鳴らしたりできるので、とても展示物の事を身近に学べることができた。コンサートも生で聴けて、肌でラテンアメリカを感じることができ、満足です。	女性	10代	高槻市	大学生

	Muchas Gracias! ブラボー。大満足です。またやって下さい。	女性	10代	箕面市	大学生
	いろんな楽器があつておもしろかった。最後の演奏もよかった。		10代	京都府	大学生
	サナブリア姉妹の演奏がきけてとても満足。2曲目のコーヒールンバと最後のコンドルは飛んで行くは知っていたのでよかった。歌声がきれいで（もちろん顔も）2人のハーモニーがよかった。南アメリカの音楽の多様な面に驚いた。フエにしても太鼓にしてもいろいろな種類があることを知った。		10代	京都府	大学生
	定例化してもらいたい。中南米に限らず民族音楽の特集を続けて下さい。（アフリカ音楽をやってほしい）コンサート会場は屋外でやった方がよい。（こんなに環境が良いのだから。）	男性	30代	広島県	会社員
	常にこの様なコンサートを開いてほしいのです。	男性	60代	東大阪市	自営業
	展示物のわりにひっそりしている	女性	30代	茨木市	主婦
	マネキンが真っ黒であることに何かきつすぎて違和感をもちます。もう少し、茶褐色ぐらゐの色にした方が良かったのではないかと思います。ドラムカンの発想は面白いと思うが、館に入ったとたんにベンキか何かのにおいになやまされます。	女性	50代	京都府	主婦
	時節がら、ドラム缶を使うのはオームの薬品を思い出し良くない。ラテンアメリカのトリニダット島はイギリスがドラムを禁止した時ドラム缶を切つてドラムのかわりに使った。（カリブソ）それ以外ドラムとラテンアメリカが結びつくものは何もない。ドラム缶はむしろガソリン、石油を思い浮かべ現代科学が民族的な良いモノをくゐあらしめていった悪を感じてしまう。ディスプレイは装置が前に出ではダメ。あくまでモノを見せるためのもの。ドラム缶が強すぎる。ラテンアメリカの美しく強い太陽を思い出させる色彩と砂糖きびとコーヒーとやしの木がほしい。又音楽もリズムの宝庫だからギターとアルパよりパーカッションを主にした音楽が聞きたかった。	男性	50代	京都府	その他
	ライブコンサートが良かった。にこやかな演奏でいいこまれるようだった。アルパという楽器にも触れてみたかった。	女性	40代	茨木市	主婦
	リズム感のある楽器がせいぜんと並んでいてかたい	女性	30代	茨木市	主婦
	コンサートでラテンアメリカの曲を聴けてとても良かったです。	女性	30代	茨木市	主婦
	アルパとギターの演奏がとても良かった。歌も披露して下さったが、素晴らしかった。これからこのような企画をいろいろしてほしい。	女性	30代	茨木市	主婦
	ライブコンサートで初めてアルパを見、聞かせてもらって、とってもよかった。凄く演奏が美しく、時間があつと言う間にすぎってしまった様に思う。	女性	30代	茨木市	主婦
	ヨーロッパ系の楽器だと思っていたのが、原点はラテンアメリカだったという事を知った。どこにでもある品で楽器になるというのも発見できた。演奏は最後の曲は知っていたが、もう少し知っている曲があつた方が良かったのでは……。アルパの楽器の音色はきれいで良かった。想像していたより高音で、ラテンの雰囲気を感じました。どうもありがとうございました。		30代	茨木市	主婦

	係りの人のイメージがわるい。女性の方。		50代	兵庫県	主婦
	親しみやすい展示でとてもよかった。演奏は良かったがもう一曲ぐらい歌ってほしかった。最後は日本人向けにEl condor pasaだったが、バラグアイの曲でもよかったのでは？	女性	30代	箕面市	その他
	サナブリア姉妹の演奏、歌共にとても楽しかった。ラテンアメリカの世界にしばし、ひたれました。	女性	30代	茨木市	主婦
	これだけの数の楽器あまり一度に見れることがないと思い、その土地にふれられたようでコンサートは又よい。2度来ました。	女性	60代	茨木市	
	ラテンのあかぬけたふんいきがもう少ししてもよかったのではないかと思います。写真パネルの数がもう少しあるともっと分かりやすかったように思います。地域の特徴の解説がもう少しほしかったと思ったのは私だけかな。みんなくにひさしぶりにおとずれて満喫しています。いつまでも私の大好きな空間であって下さい。応援しています。	女性	20代	滋賀県	フリーター
	派手な色彩なので少し暗く感じるのが結果的に丁度いいかも。ステージ（コンサート）もう少したくさんの楽器を使って演奏してほしい。	女性	60代	兵庫県	主婦
	演奏がすばらしい。	女性	40代	枚方市	主婦
	とてもいいえんそう有りがとうございました。		40代	枚方市	主婦
	音楽感あふれ私達ももっと楽器にふれる事でもっと1日1日がたのしいのではないかな。ストレスがなくなるのにな。音楽音痴にかなしみを。	女性	60代	豊中市	主婦
	他の地域、オセアニア（南太平洋）アフリカ、等の地域もやって下さい。レストランの料理ももう少し、数をふやして内容にあわせてもらえたら。		30代	京都府	教員
	企画スタッフの目的、モチーフ、意図とするところは判らないことはないが、ドラム缶のレイアウトが倉庫→うす暗いイメージ感が強いようである。全般に明るさに欠ける。暗さと、明るさ（ラテン←→太陽）のコントラストがあれば、もっとイメージアップがなされるのではないかと考える。今後の展覧会に一考を求めます。ライブコンサート、最終日とあって、とても良かった。心に残ることです。			吹田市	その他
	ステージ上の「ハンギング」を表したオブジェにはびっくりしました。（少しグロいかも……。）楽器を持ったマネキンに顔（表情）が書いてないことで、見る側の想像力がより自由にかきたてられたと思います。土着の音楽にいろいろな要素が加わって、新しい音楽が生まれるという常に変化に富んだ面白さがよくわかりました。		20代	枚方市	教員
	ありがとう。	女性	10代	京都府	大学生
	バラグアイの可愛いお二人のステキな音楽有りがとうございました。永く心に残ることでしょう。	女性	50代	茨木市	主婦
	コンサートがとても良かった。		10代	京都府	高校生
	何度もきてますが、新しい試み、その意気がとても伝わってくる特展でした。今後の展示も、その内容にあわせておもしろい工夫をとり入れたものを期待します。大変たのしかったです。	女性	20代	茨木市	会社員

	すばらしい企画を有がとうございました。特に、ファミリア・ロドリゲス、そしてサナブリア姉妹の演奏はすばらしく感動的でした。出来ればもう少し安くしてほしい。物価高の時ではありますが……。無理かなー。それと一曲一曲の簡単な解説がほしかった。		60代	摂津市	その他
	面白かった。	女性	20代	豊中市	その他
	おもしろかったです。	女性	20代	高槻市	その他／音楽系講師
	ラテンアメリカの音楽のテンポのあるものをたくさんコンサートでききたかった。展示のし方がとても良い。となりの常設展はつまらない。頭痛がしたが、ここへ来ると気分が良くなった。センスが良い。イベントは、日本もこうあってほしい。	女性	40代	京都府	主婦
	授業で来場したのだが、色々な事を勉強できたので本当に来て良かったと思う。ビデオが大変良かったです。	女性	10代	京都府	大学生
	遠い国というイメージで普段見聞きすることの少ないものを、一度に多く見ることができコンサートで聞くことができうれしく思います。次にはもう少し深いところを探って行きたいと思います（機会があればですが。）サナブリア姉妹の演奏とてもよかったです。	女性	40代	豊中市	主婦
	演奏がとてもすばらしいでした。		70才以上	茨木市	主婦
	演奏者（2人組姉妹）の演奏の態度が大変良く、多くの客を感動させてくれました。大いにほめてあげてください。また売店に、この人のレコードもテープも無かったのが残念だったので、いつかはぜひ発売されるようにして下さい。よろしくおねがいいたします。	男性	30代	箕面市	自営業
	とてもきれいな音でした。知っていたのは「コーヒールンパ」だけでしたが、他の音楽もとてもきれいでした。	女性	10代	京都府	大学生
	楽器はやっぱり音を聞かせてほしいと思う。これはどんな音がするんだろ？と思うものがいっぱいあった。ボタンを押すとその楽器の音が鳴るとかしたらいいと思う。さわれるのと演奏できるのはとても良いと思う。それが目当てで来たので。	女性	20代	兵庫県	会社員
	随分古いものが集められていて参考になった。触れるコーナー、鳴らせるコーナーがとても良かった。（楽器なのでどんな音が出るのか興味があったので。）	女性	50代	兵庫県宝塚市	主婦
	コンサートは¥430では安すぎると思えるほど。CDを出口のところにでも山積みしておけば飛ぶように売れやしまいか。マルチメディアのパソコンコーナーでは周回するさいので、ヘッドホンがあればよい。また台数が少なすぎる。ある程度の時間ひとり占めにするようになるので。『鳴らすと、わかる』コーナーについて] 簡単なメロディーやリズムを提示しておいて、それをひける、たたけるようにできればなおよいでしょうが。	男性	20代	滋賀県	大学生
	この様なライブの催しものは大変良いと思います。音楽は言葉は解らなくても心と心が通じ合う万国共通の言葉であると私は思うのです。どんなに困難でも世界の人々を理解し友達になれるのは国対国ではなくて個人対個人の心の通じあいではないでしょうか。それが	女性	40代	吹田市	主婦

一つ一つ大きくなって真の国際交流になると信じています。私は日本の書道・絵画・和紙人形を通じて日本文化祭としてカンヌ映画祭の会場での展示そしてパーティーに出席し、カンヌ市長の出席のもと大勢の方々とふれあいとてもうれしかったです。特に子供達が感激し「きれいなブッベ（人形）、色がきれい」といっていますと通訳の方の言葉に、又カンヌの人々の「ありがとうすばらしい伝統を、作品を」との言葉に音楽とその国の伝統は世界の人々との心の交流に特に素晴らしいと感じました。音楽で戦争をなくす事は出来ないかも知れませんが、でもこれからも世界の人々と仲良くしていく事はつづけようと思っています。カンツォーネ・シャンソン・ラテン等音楽をやっていますので、もしアーティストの方に和紙のしおりなどプレゼントしますのでよんで下さい。[「鳴らすと、わかる」コーナーの楽器についている、] ひをもっと長くして下さい。				
とてもすばらしい。来てよかった。	男性	70才以上	大阪市	その他
楽器、一つずつの音の再現も聴きたかった。「鳴らすと分かる」コーナーはあくまで、鳴らすだけだったので。	女性	20代	三島郡島本町	会社員
パネルとかといっしょに楽器がおいてあるのがわかりやすくよかったです。演奏もやっていてきれいな音が鳴るんだなと思いました。地方によっていろんな音をだす楽器がありこんなにも種類があるんだとびっくりした。ただ木に穴をあけただけのように見えるのか音が出るのがすごいと思った。	女性	10代	高槻市	大学生
はじめてこういう展示を見て、世界（ラテンアメリカ）の知らなかった民族の様子を知ることができたのでとてもよかった。コンサート、ステキでした。		10代	奈良県	大学生
生演奏はとっても素敵でした！！「コンドルはとんでいく」や「カルナバル」やジブシーキングス（ラテン音楽ではない？かな）の曲なんか郷愁をさそうというか日本人の心性にうたえてくるのはナゼなのでしょう。日本人に関係なくだれでもきくとホロッとするのでしょうか？ふしぎ……。[写真のパネルについて] もっとたくさん見たい。	女性	30代	箕面市	公務員
とてもよかった。		10代	京都府	大学生
鳴らすと、わかるコーナーがたのしかった。	女性	10代	高槻市	大学生
演奏会がとても良かった。		10代	滋賀県	大学生
コンサート会場のイスはバケツ（？）を改造したものみたいで、見た目がすごくユニーク。しかもすわりやすくて尻がいたくならないのでgood。あと、ベニヤの床も木の香りがして気持ちいいと思います。あと……欲をいえばさわれる楽器の数をもう少しふやしてほしいなあと（同じ楽器でも1つだけじゃなく、3つくらい用意してほしいなーとも思ってます）思います。PS. 場内係員のお姉さん方が皆様とっても親切だったのもうれしかったです。写真とって下さってありがとうございました。	女性	20代	大東市	フリーター
音楽と楽器というテーマであつたので、納得できるものではあるが、これらは祭りや儀式とときはなすこと	男性	20代	和泉市	その他／大学院

	のできないもの。ビデオシアターだけではなく展示の方や、その解説でもう少しくわしく語ってほしかった。				
	強いていえば地球の音楽（CDブック）のバラ売りを増やしてほしかったぐらいでしょうか……。	男性	20代	箕面市	フリーター
	生演奏がとてもよかった。	女性	30代	吹田市	主婦
	もっと楽器にさわらせて欲しい。おみやげに楽器をもっと置いて欲しい。楽器を作っているところを見れるとか、自分で作れるとかあれば楽しいんだけどね。		20代	京都府	大学生
	もうすこし楽器であそばせてほしい。笛が吹きたい。奏法を教えてほしい。ひける楽器のチューニング etc. をしておいてほしい。すこしがくふもみたい。	女性	20代	京都府	大学生
	きてよかった。	女性	20代	茨城県	会社員
	楽器演奏の2人のおじょうさん、とてもチャーミング。音楽が大変良い。ベネズエラが好きになった。	男性	70才以上	茨木市	無職
	体調をくずし、やっと最終日に来ることができてうれしい。ファミリアロドリゲスの演奏を聞けず残念。キューバ音楽に興味があったため、今回の展示に出かけました。	女性	30代	兵庫県	主婦
	展示会と云えばガラスごし柵ごしが常識であったが、正に型破りでびっくり。同じ高さ床でじかに触れられ、試奏まで出来ると云うのは驚きであり、館関係者の理解と努力の結果かと思えます。これからもこの様な展示会を企画して下さい。期待しています。		60代	和歌山県	会社員
	とても楽しく見させてもらった。	女性	10代	茨木市	大学生
	学校の課題のためにきた。さわったりたいたりできるので、うれしくなった。わくわくした。ドキドキした。えんそうもたのしかった。	女性	10代	茨木市	大学生
	特に試奏コーナーがよい。出来れば、説明を。コンサートもよい。楽器の説明がふいたり演奏が時々あるとよい。ラテンアメリカの音楽が分かってよい。（いろんな歴史も、いろんな人達のことも楽器もあることが分かってよい） マルチメディアコーナーはよい。[ドラム缶でラテンアメリカのイメージは] よくでている。[展示コーナーのテレビについて] 少しわかりにくい。椅子があると座ってしっかりみえるのに残念。[展示の解説について] 字が小さい。みえにくい。		60代	枚方市	主婦
	時間があまりなかったので一つ一つじっくりと見られなかったが、楽器が沢山並べてあるという印象が強かった。楽器は演奏する人々がいてそれぞれの「思い」で、誰かに、何かを演奏するのではないかと考えているので、楽器の背景にあるものをもっと知りたかった。風景、宗教、生活など、なにか学校の音楽室が大きくなったという感じがしました。"磁場"みたいなものに触れたかった。		20代	池田市	大学生
	9 / 歴史を考えると明るいとは思わないけれど、保存と発展には重みを感じた。	女性	40代	兵庫県	自営業
	演奏会がよかった。2 : 00からの。		10代	滋賀県	大学生
	もっと手にふれて楽器を演奏してラテンアメリカの音楽と一体になりたかった。	女性	10代	京都府	大学生
	コンサートがすごく良かった。知っている曲も知らない曲も楽しめた。	女性	10代	滋賀県	大学生
	演奏がとても上手だった。	女性	10代	滋賀県	大学生

著者略歴

山本紀夫 (やまもと・のりお)

1943年大阪市生まれ。

京都大学農学部農林生物学科卒。同大学院博士課程修了。農学博士（京都大学）、学術博士（東京大学）。国立民族学博物館助手、助教授、教授を経て、2007年より同館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授。専門は、民族学、民族植物学。1968年より約60回にわたりアンデス、アマゾン、ヒマラヤ、チベット、アルプス、アフリカ高地などで主として農耕文化および環境利用に関する民族学的調査に従事。第9回大同生命地域研究奨励賞、第13回松下幸之助花の万博記念奨励賞、第8回秩父宮記念山岳賞、第8回今西錦司賞などを受賞。

主著

- 1992 『インカの末裔たち』 日本放送出版協会
- 2004 『ジャガイモとインカ帝国——文明を生んだ植物』 東京大学出版会
- 2005 『ラテンアメリカ楽器紀行』 山川出版社
- 2006 『雲の上で暮らす——アンデス・ヒマラヤ高地民族の世界』 ナカニシヤ出版
- 2008 『ジャガイモのきた道——文明・飢饉・戦争』 岩波新書
- 2011 『天空の帝国インカ』 PHP 新書
- 2012 『梅棹忠夫——「知の探検家」の思想と生涯』 中公新書
- 2014 『中央アンデス農耕文化論——とくに高地部を中心として——』 国立民族学博物館
- 2016 『トウガラシの世界史』 中公新書
- 2017 『コロンブスの不平等交換——作物・奴隷・疫病の世界史』 角川選書

編著

- 1992 『木の実の文化誌』 朝日選書（松山利夫との共編著）
- 1992～1993 『アメリカ大陸の自然誌 全3巻』 岩波書店（赤澤威・坂口豊・富田幸光との共編著）
- 2000 『ヒマラヤの環境誌——山岳地域の自然とシェルパの世界』 八坂書房（稲村哲也との共編著）
- 2004 『山の世界——自然・文化・暮らし』 岩波書店（梅棹忠夫との共編著）
- 2007 『世界の食文化 中南米』 農山漁村文化協会
- 2008 『アンデス高地』 京都大学学術出版会
- 2009 『ドメスティケーション——その民族生物学的研究』 国立民族学博物館
- 2010 『トウガラシ讃歌』 八坂書房

訳書

- 1997 『トウガラシの文化誌』 晶文社（A. ナージ著 林真理・奥田裕子との共訳）
- 2010 『世界の食用植物文化図鑑』（S. プライアント編 監訳）

Senri Ethnological Reports (最新号)

当館のウェブサイトにてバックナンバーのPDFをダウンロードすることができます。

<https://minpaku.repo.nii.ac.jp/>

- No.144 社会主义制度下的中国饮食文化与日常生活 (2018; 河合洋尚・刘 征宇編; 中国語・日本語・英語)
- No.143 How Do Biomedicines Shape People's Lives, Socialities and Landscapes? (2017; eds. Akinori Hamada, Mikako Toda; 英語)
- No.142 中国における歴史の資源化の現状と課題 (2017; 塚田誠之・河合洋尚編; 日本語・中国語)
- No.141 アーミッシュたちの生き方 ― エイジ・フレンドリー・コミュニティの探求 (2017; 鈴木七美; 日本語)
- No.140 国立民族学博物館収蔵「ホビ製」木彫人形資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」 1 (2017; 伊藤敦規編; 日本語・英語)
- No.139 財団法人日本民族学協会附属民族学博物館 (保谷民博) 旧蔵資料の研究 (2017; 飯田 卓・朝倉敏夫編; 日本語)
- No.138 学校と博物館でつくる国際理解教育のワークショップ (2016; 上羽陽子・中牧弘允・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄編; 日本語)
- No.137 伝統知, 記憶, 情報, イメージの再収集と共有 ― 民族誌資料を用いた協働カタログ制作の課題と展望 (2016; 伊藤敦規編; 日本語・英語)
- No.136 中国地域の文化遺産 ― 人類学の視点から (2016; 河合洋尚・飯田 卓編; 日本語)
- No.135 *Культура народов Сибири и Дальнего Востока в музейных коллекциях России и Японии: методы сбора, учета, хранения и экспозиции* (2016; Ред. Шагланова Ольга А., Сасаки Сиро (シャグラノヴァ O. A.・佐々木史郎編); ロシア語)
- No.134 国立民族学博物館所蔵 鍋沢元蔵ノートの研究 (2016; 中川 裕・遠藤志保編; 日本語)
- No.133 *An Audiovisual Exploration of Philippine Music: The Historical Contribution of Robert Garfias* (2016; ed. Terada Yoshitaka; 英語)
- No.132 環北太平洋地域の先住民文化 (2015; 岸上伸啓編; 日本語)
- No.131 カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題 ― 国立民族学博物館所蔵のイヌイトおよび北西海岸先住民の版画コレクションをととして (2015; 齋藤玲子編; 日本語)

[国立民族学博物館刊行物審査委員会]

吉田憲司 館長
西尾哲夫 副館長
關 雄二 副館長
園田直子 人類基礎理論研究部
韓 敏 超域フィールド科学研究部
林 勲男 人類文明誌研究部（研究出版委員長）
信田敏宏 グローバル現象研究部
岸上伸啓 学術資源研究開発センター

平成30年3月12日発行

国立民族学博物館調査報告 145

著 者 山 本 紀 夫

発 行 人間文化研究機構
国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL. 06(6876)2151(代表)

印 刷 株式会社 遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL. 06(6304)9325(代表)
